本書の構成

第 1 章　概要

この章では、サーバのセットアップと運用の概要について説明しています。

第 2 章　OS インストールの前に

この章では、OS インストールを行う前の注意事項について説明しています。インストールを行う前に、必ずお読みください。

第 3 章　サーバのインストール

この章では、サーバに OS をインストールする方法について説明しています。

第 4 章　OS インストール後の操作

この章では、OS インストール後に行う操作について説明しています。本サーバを運用する前に、必ず行ってください。

第 5 章　高信頼ツール

PRIMERGY では、高信頼ツールを導入することを推奨しています。
この章では、それぞれのインストール方法や、使用方法について説明しています。

第 6 章　クライアントのインストール

この章では、WizardConsole を使用したネットワークアカウントの設定方法や、クライアントへのインストール方法について説明しています。

第 7 章　各種ドライバディスク

この章では、ドライバディスクの作成方法と、ドライバのインストール手順について説明しています。また、LAN ドライバの詳細設定についても説明しています。

付録 A　参考資料

この章では、ServerStart を使用する際に参考となる資料や、OS の変更手順、IDE RAID 管理ツールについて説明しています。

付録 B　OS の手動インストール

この章では、ServerStart を使用せずに、OS インストールタイプの開封、または OS をインストールする方法について説明しています。

本書の表記

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
          ↑   ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。
- 上記のようなコマンド入力について、英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、［CD-ROM ドライブ］で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

  ［CD-ROM ドライブ］:¥setup.exe

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。
なお、本書には、お使いの機種でサポートされていない OS の情報も記載されています。
お使いの機種のサポート OS については、『ハードウェアガイド 第 7 章 技術情報』の「仕様」にてご確認ください。

製品名称	本文中の表記
PRIMERGY BX300 サーバブレード	本サーバ、または BX300
PRIMERGY H450	本サーバ、または H450
PRIMERGY R450	本サーバ、または R450
PRIMERGY RX300	本サーバ、または RX300
PRIMERGY TX200	本サーバ、または TX200
PRIMERGY RX200	本サーバ、または RX200
PRIMERGY TX150	本サーバ、または TX150
PRIMERGY RX100	本サーバ、または RX100
Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard Edition	Windows Server 2003、または Windows 2003
Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition	Windows Server 2003, Enterprise Edition
Microsoft® Windows® 2000 Server	Windows 2000 Server、または Windows 2000
Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server	Windows 2000 Advanced Server
Microsoft® Small Business Server 2000	SBS 2000
Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version4.0 および Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0	Windows NT Server 4.0、または Windows NT
Microsoft® Windows® Preinstallation Environment	Windows PE
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000 Professional
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version4.0	Windows NT Workstation 4.0
Microsoft® Windows® Millennium Edition	Windows Me
Microsoft® Windows® 98 Operating System	Windows 98
Microsoft® Windows® 95 Operating System	Windows 95
Windows 95 および Windows 98、Windows Me	Windows 95/98/Me

■ PRIMERGY BX300 をお使いの場合（ハードウェアガイドの参照先）

PRIMERGY BX300 には 4 冊のハードウェアガイドが添付されています。このため、他の機種とは章構成が異なります。本書で参照させているハードウェアガイドは、BX300 では『ハードウェアガイド サーバブレード編』になります。また、章番号が異なりますので、同一の章タイトルを参照してください。

■ ソフトウェア説明書について

本書で説明する事項以外で、参考となる情報や留意事項は、「ソフトウェア説明書」に記載されています。ServerStart をお使いになる前に、必ずお読みください。
「ソフトウェア説明書」は、"README.TXT" というファイル名で、ServerStart CD-ROM のルートディレクトリに登録されています。テキストエディタなどで開いてお読みください。

■ サーバ添付ソフトウェアに関する最新情報について

ServerStart など、サーバ添付ソフトウェアに関する最新の情報は、富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ（ http://www.fmworld.net/biz/primergy/）に記載されています。

VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。
Microsoft、Windows、MS、Windows NT、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Intel、Pentium、Xeon は、米国インテル社の登録商標および商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2003

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

目次

第 1 章　概要

1.1 サーバセットアップの流れ 14
1.2 ServerStartの特長 15
1.3 高信頼ツールについて 19
1.3.1 サーバ監視ツール 19
1.3.2 運用管理支援ツール 20
1.3.3 システム診断支援ツール 20
1.3.4 遠隔保守支援ツール 21
1.3.5 高信頼ツールの導入について 22

第 2 章　OS インストールの前に

2.1 インストール方法の選択 24
2.2 システム要件 25
2.3 インストール前の留意事項 27
2.3.1 サーバ導入前の準備 27
2.3.2 インストール先パーティションサイズについて 29
2.3.3 RAID を構築するときの留意事項 30
2.3.4 複数 LAN アダプタ搭載時の留意事項 31
2.3.5 Service Pack について 32
2.3.6 ServerStart 使用時の注意事項 32
2.3.7 ServerStart でサポートする拡張カード 35

第 3 章　サーバのインストール

3.1 OSインストールタイプの開封 38
3.1.1 ServerStart を使用して開封する 38
3.2 ガイドモード 44
3.2.1 ガイドモードの起動 44
3.2.2 コンフィグレーションファイルを開く／作成する 47
3.2.3 RAID ウィザード 48
3.2.4 ディスクウィザード 49
3.2.5 OS インストールウィザード 51
3.2.6 アプリケーションウィザード 55
3.2.7 サーバアプリケーションセットアップウィザード 56
3.2.8 クライアント一括導入ウィザード 57
3.2.9 コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する 60
3.2.10 OS のインストール開始 60

3.3 事前設定モード 64
3.3.1 事前設定モードの起動 67
3.3.2 各ウィザードの設定を行う 70
3.3.3 コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する 71
3.3.4 OS のインストール開始 72
3.4 エキスパートモード 76
3.4.1 エキスパートモードの起動 76
3.4.2 RAID システム構成ツール 78
3.4.3 ディスクマネージャ 79
3.4.4 OS インストールウィザード 82
3.4.5 アプリケーションウィザード 83
3.4.6 OS のインストール開始 83
3.5 リモートインストール 87
3.5.1 リモートインストールの概要 87
3.5.2 リモートリソースサーバ／ PXE サーバのシステム要件 89
3.5.3 PXE サーバの準備（PXE サーバ使用時のみ） 90
3.5.4 リモートリソースの準備 96
3.5.5 PXE サーバを使ったリモートインストールの開始 97
3.5.6 リモートリソースサーバを使ったリモートインストールの開始 100
3.6 メンテナンス区画を作成してインストールする（Windows NT Server 4.0） 103
3.6.1 インストールの流れ 103
3.6.2 インストール手順 104
3.7 複数台（2 台目以降）へのインストール 108
3.7.1 インストールの準備 108
3.7.2 ガイドモードでインストールを行う 109
3.7.3 事前設定モードでインストールを行う 110
3.8 再インストール 112
3.8.1 再インストールの前に 112
3.8.2 OS インストールタイプの再インストール 113
3.8.3 ガイドモード／事前設定モードでの再インストール 113
3.8.4 エキスパートモードでの再インストール 114

第 4 章　OS インストール後の操作

4.1 メモリダンプ／ページングファイルの設定 116
4.1.1 メモリダンプを取得するための設定方法（Windows Server 2003 の場合）116
4.1.2 メモリダンプを取得するための設定方法（Windows 2000 Server の場合）120
4.1.3 メモリダンプを取得するための設定方法（Windows NT Server 4.0 の場合） 124
4.2 システム修復ディスクの作成 128
4.2.1 自動システム回復（ASR）セットの作成（Windows Server 2003 の場合）128
4.2.2 システム修復ディスクの作成（Windows 2000 Server の場合） 129
4.2.3 システム修復ディスクの作成（Windows NT Server 4.0 の場合） 129

4.3 保守ツールの作成 131
4.3.1 ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成 134
4.3.2 Global Array Manager ／ Storage Manager ／ FastCheck Monitoring Utility の作成方法 137
4.3.3 ハードウェア構成ツールの作成方法 137
4.4 サーバ運用前の留意事項 138
4.4.1 Windows Update（システムを最新にする） 138
4.4.2 Service Pack の適用 138
4.4.3 Code Red ワーム対策プログラムの適用について 139
4.4.4 Windows 2000 インストール後に存在するその他のデバイスについて . . . 140
4.4.5 CD-ROM からの自動実行機能について 141
4.4.6 エキスパートモードでのドライブ文字割り当てについて 141
4.4.7 OS インストールタイプをお使いの方へ 143
4.4.8 不要なファイルについて 144
4.4.9 バックアップについて 144

第 5 章　高信頼ツール

5.1 RAS支援サービス 146
5.1.1 RAS 支援サービスのインストール方法 146
5.1.2 RAS 支援サービスの使用方法 147
5.1.3 部品寿命情報 148
5.1.4 障害の通知方法の設定 150
5.2 サーバ監視ツール［ServerView］ 152
5.2.1 ServerView のインストール 152
5.3 テープ装置のメンテナンス［Tape Maintenance Checker］ 153
5.4 システム環境の診断機能［FM Advisor］ 154
5.4.1 診断方法 154
5.4.2 定義ファイルの入手方法 155
5.5 トラブルの早期解決［PROBEPRO］ 156
5.5.1 インストール方法 156
5.5.2 動作環境を定義する 157
5.5.3 初回インストール時の初期設定について 157
5.5.4 アンインストール方法 158
5.5.5 シンボルファイルの準備 158
5.6 トラブルの早期解決［DSNAP］ 159
5.7 サーバ同士の時刻合わせツール［Chronoworker/S］ 160
5.7.1 インストール方法 160
5.7.2 運用の手順 161
5.7.3 起動と終了の方法 162
5.7.4 アンインストール方法 162
5.8 REMCSエージェント 163
5.8.1 REMCS エージェントのインストール 163

第 6 章　クライアントのインストール

6.1 クライアントのセットアップ 166
6.1.1 クライアントへのインストールとセットアップ操作の流れ 166
6.1.2 WizardConsole の各機能 167
6.1.3 各 OS 環境における利用可能な機能 168
6.1.4 WizardConsole を利用するための準備 169
6.2 クライアントコンピュータの追加／変更 171
6.2.1 コンピュータの変更、追加 174
6.2.2 コンピュータ情報の取得 174
6.2.3 コンピュータの一括導入 175
6.2.4 コンピュータの削除 175
6.3 ユーザ、グループ、共有資源の追加／変更 176
6.3.1 ユーザの追加／変更 177
6.3.2 グループの追加／変更 177
6.3.3 共有資源フォルダの追加／変更 178
6.3.4 ユーザ、グループ、共有資源の関連付け 179
6.4 リモート OS セットアップ 183
6.4.1 リモート OS セットアップを起動する 183
6.4.2 OS セットアップ情報を設定する（Windows 2000 Professional の場合） . 185
6.4.3 OS セットアップ情報を設定する（Windows NT Workstation 4.0 の場合） 186
6.4.4 OS セットアップ情報の登録名を変更する 187
6.4.5 OS セットアップ情報を確認／変更する 187
6.4.6 CD-ROM イメージを削除する 187
6.5 クライアントセットアップ 188
6.5.1 クライアントセットアップを起動する 189
6.5.2 セットアップ情報（アプリケーション）を追加する 191
6.5.3 セットアップ情報（ファイル）を追加する 194
6.5.4 セットアップ情報（実行コマンド）を追加する 194
6.5.5 セットアップ情報の内容確認／設定変更 195
6.5.6 セットアップ資源をサーバへ登録する 195
6.5.7 セットアップ資源の登録解除 197
6.6 クライアントのデスクトップ環境を設定する 198
6.6.1 「デスクトップ環境設定」画面での操作 200
6.6.2 デスクトップ環境の設定 201
6.7 クライアントブート設定 203
6.7.1 クライアントブート設定を起動する 204
6.7.2 OS セットアップ用 205
6.7.3 ClientWizard 用フロッピーディスクの作成 207
6.7.4 クライアントのインストール方法、起動方法の変更 208
6.8 クライアントへのインストール 209
6.8.1 クライアントに OS がインストールされていない場合 209
6.8.2 クライアントに OS がインストールされている場合 210
6.8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング 213

6.9 変更した情報の登録 214
6.10 WizardConsole使用時の留意事項 215
6.10.1 トラブルシューティング 215
6.10.2 バックアップドメインコントローラ（BDC）に関する留意事項
（Windows NT Server 4.0 の場合）. 217
6.10.3 クライアントコンピュータの追加／変更時の留意事項 218
6.10.4 クライアントセットアップ機能に関する留意事項 218
6.10.5 CSV ファイルフォーマットについて 221
6.11 WizardMenuによるデスクトップメニューの作成 222
6.11.1 動作環境 223
6.11.2 WizardMenu を作成する 223
6.12 WizardConsoleのアンインストール 226

第 7 章　各種ドライバディスク

7.1 ドライバディスクの作成方法 230
7.1.1 ドライバディスクの作成方法 233
7.2 ドライバのインストール 236
7.2.1 LAN ドライバのインストール（Windows Server 2003）. 236
7.2.2 LAN ドライバのインストール（Windows 2000 Server）. 237
7.2.3 LAN ドライバのインストール（Windows NT Server 4.0）. 241
7.2.4 最新のドライバについて 243
7.3 LANドライバの詳細設定 244
7.3.1 Intel® PROSet Ⅱ（Intel® PROSet）. 245
7.3.2 BACS 250

付録 A　参考資料

A.1 システムの修復方法 254
A.1.1 Windows Server 2003 の場合 254
A.1.2 Windows 2000 Server の場合 255
A.1.3 Windows NT Server 4.0 の場合 256
A.2 OSの変更手順 257
A.2.1 Windows Server 2003 の場合 257
A.2.2 Windows 2000 Server の場合 257
A.2.3 Windows NT Server 4.0 の場合 260
A.3 IDE RAID管理ツール 262
A.3.1 FastCheck Monitoring Utility 262
A.3.2 アレイの一貫性チェック（Synchronize）. 268
A.3.3 FastTrak Service 269

A.4 ネットワークパターン別設定方法 270
A.4.1 ServerStart で構築できるネットワークパターン 270
A.4.2 Windows NT ドメインの構成 273
A.4.3 Active Directory の作成（新しいフォレストの構築）..... 274
A.4.4 Active Directory の構成（新しいツリー）..... 277
A.4.5 Active Directory の構成（追加ドメインコントローラ）..... 282
A.4.6 Active Directory の構成（子ドメイン）..... 285
A.4.7 ドメインメンバサーバの構成 289
A.4.8 スタンドアロンサーバの構成 291
A.5 デザインシート 292
RAID ウィザード 292
ディスクウィザード 293
OS ウィザード（Windows 2003 インストールウィザード）..... 294
OS ウィザード（Windows 2000 インストールウィザード）..... 299
OS ウィザード（Windows NT 4.0 インストールウィザード）..... 303
アプリケーションウィザード 307
サーバアプリケーションセットアップウィザード 307
クライアント一括導入ウィザード（クライアントシステム設計）..... 308
クライアント一括導入ウィザード（クライアントセットアップ）..... 310
クライアント一括導入ウィザード（デスクトップ設計）..... 312

付録 B　OS の手動インストール

B.1 OSインストールタイプの手動開封 316
B.1.1 Windows Server 2003 の手動開封 316
B.1.2 Windows 2000 Server の手動開封 317
B.1.3 Windows NT Server 4.0 の手動開封 318
B.2 手動インストール前の確認 321
B.2.1 OS 共通注意事項 321
B.2.2 Windows NT Server 4.0 の場合 326
B.2.3 〔BX300〕Windows Server 2003 インストールタイプを手動で再インストールする場合 327
B.3〔BX300〕手動インストールの開始 328
B.3.1 USB CD-ROM ドライブの使用について 328
B.3.2 Windows Server 2003 のインストール 329
B.3.3 Windows 2000 Server のインストール 331
B.3.4 Linux のインストール 335
B.3.5 IDE RAID 管理ツールのインストール 335
B.4〔H450 ／ R450〕手動インストールの開始 336
B.4.1 Windows Server 2003 のインストール 336
2.4.2 Windows 2000 Server のインストール 338
2.4.3 Windows NT Server 4.0 のインストール 343
B.4.4 Linux のインストール 346

B.5〔RX300〕手動インストールの開始 347
B.5.1 Windows Server 2003 のインストール 347
B.5.2 Windows 2000 Server のインストール 349
B.5.3 Linux のインストール 353
B.6〔TX200〕手動インストールの開始 354
B.6.1 Windows Server 2003 のインストール 354
B.6.2 Windows 2000 Server のインストール 357
B.6.3 Windows NT Server 4.0 のインストール 361
B.6.4 Linux のインストール 364
B.7〔RX200〕手動インストールの開始 365
B.7.1 Windows Server 2003 のインストール 365
B.7.2 Windows 2000 Server のインストール 368
B.7.3 Linux のインストール 372
B.8〔TX150〕手動インストールの開始 373
B.8.1 Windows Server 2003 のインストール 373
B.8.2 Windows 2000 Server のインストール 375
B.8.3 Windows NT Server 4.0 のインストール 380
B.8.4 Linux のインストール 383
B.9〔RX100〕手動インストールの開始 384
B.9.1 Windows Server 2003 のインストール 384
B.9.2 Windows 2000 Server のインストール 386
B.9.3 Linux のインストール 390
B.9.4 IDE RAID 管理ツールのインストール 390
B.10 手動インストール後の処理 391
B.10.1 高信頼ツールのインストール 391
B.10.2 不明デバイス用 Class driver のインストール 391
B.10.3 QFE モジュールの適用について（Windows 2000 Advanced Server）...395
B.10.4 ファイルシステムについて（Windows NT Server 4.0）.....396

第 1 章

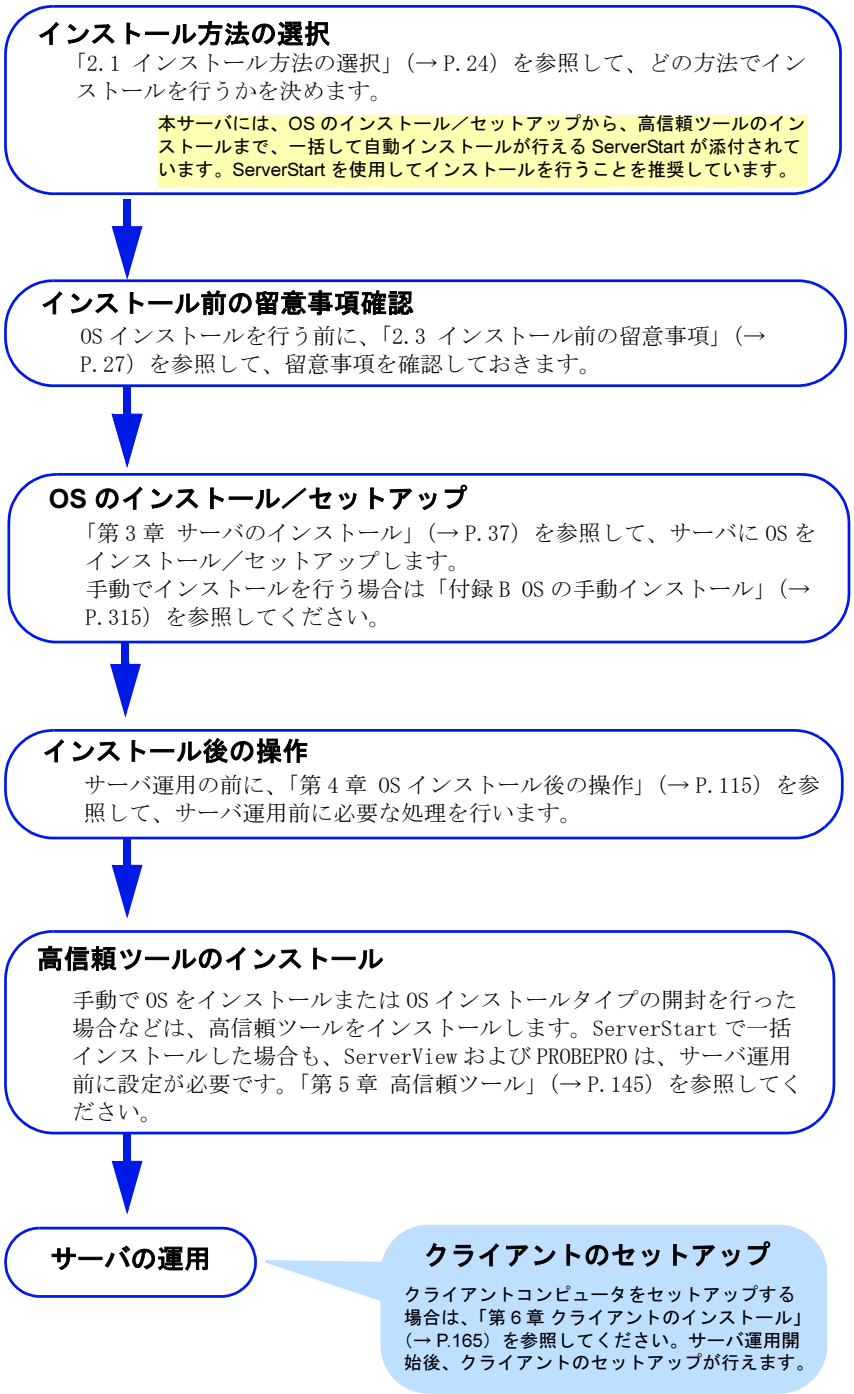
概要

この章では、サーバのセットアップと運用の概要について説明しています。

1.1 サーバセットアップの流れ 14
1.2 ServerStart の特長 15
1.3 高信頼ツールについて 19

1.1　サーバセットアップの流れ

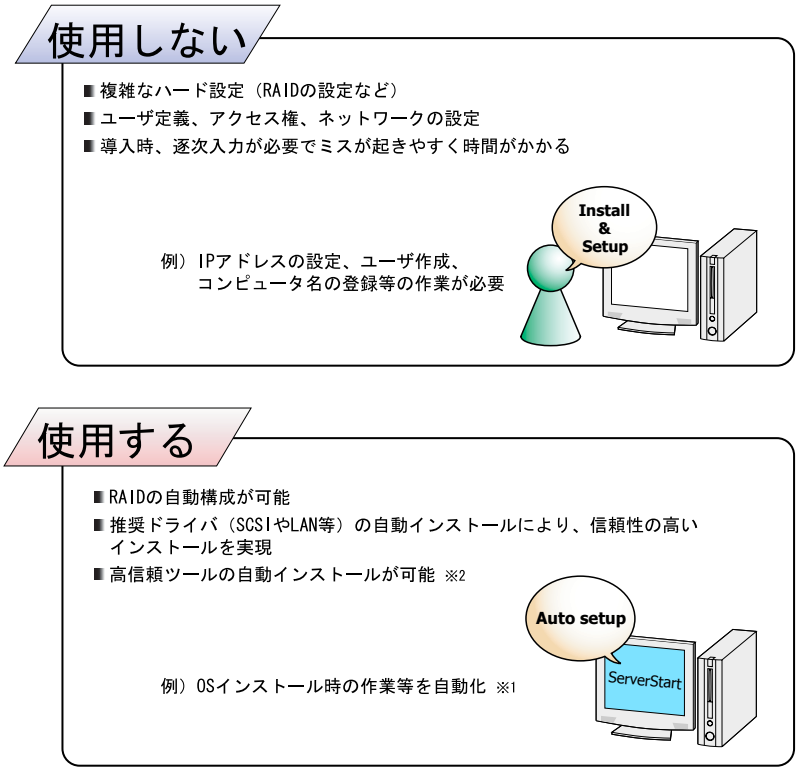
本体の設置が完了したら、サーバに OS のインストールとセットアップを行います。以下の流れでセットアップを行ってください。



1.2　ServerStart の特長

ServerStart は、PRIMERGY の初期導入を支援する簡易セットアップツールです。
サーバ導入作業の簡素化、推奨ドライバの確実なインストールを実現します。

■ ServerStart の導入



※1　一部の入力（使用許諾等）と媒体の入れ替えを除く
※2　高信頼ツールは、サーバの管理において、システムの安定稼動のために総合力を発揮するソフトウェアです

■ コンフィグレーションファイル（SerStartBatch.ini）

コンフィグレーションファイルには、ServerStart で設定したサーバの設定情報、およびクライアントの情報が登録されます。コンフィグレーションファイルの作成には、サーバに添付の ServerStart フロッピーディスクを使用します。1 枚のフロッピーディスクに 1 ファイルのみ登録してください。なお、ServerStart フロッピーディスクはライトプロテクト状態にしないでください。

コンフィグレーションファイルの名前は任意に設定できますが、サーバへインストールする際に使用できる名前は "SerStartBatch.ini" のみです。インストールを実行する場合は、必ず ServerStart フロッピーディスクに "SerStartBatch.ini" のファイル名で保存してご使用ください。ServerStart を起動し、"SerStartBatch.ini" を保存した ServerStart フロッピーディスクをセットして［開始］をクリックすると、サーバのインストールが開始されます。

■ わかりやすいユーザインタフェース

わかりやすいユーザインタフェースにより、必要な情報を簡単に設定できます。

● メイン画面

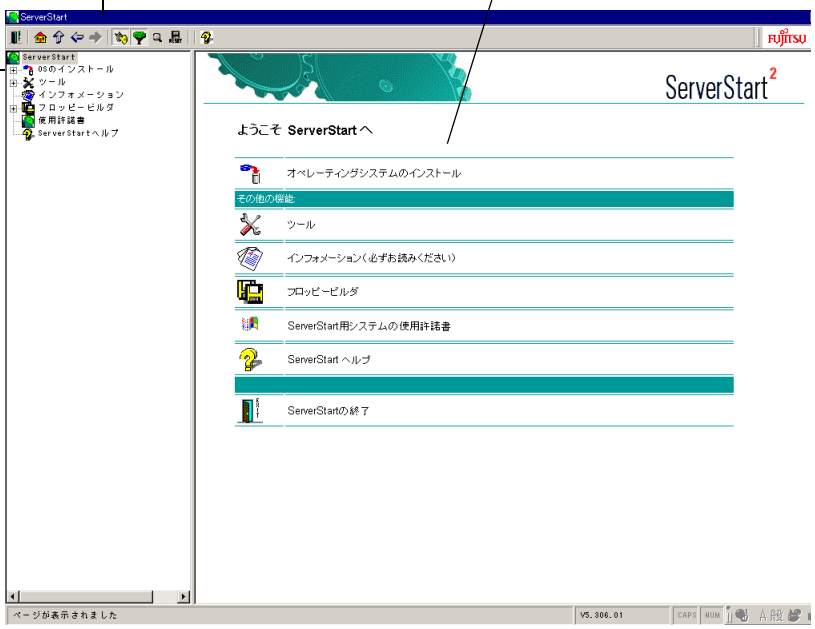
ServerStart を起動すると、次の画面が表示されます。
画面およびツールバーは、各モードにより異なります。

ツールバー
アイコンをクリックして
各機能を選択できます。

ServerStart の各機能が
表示されます。

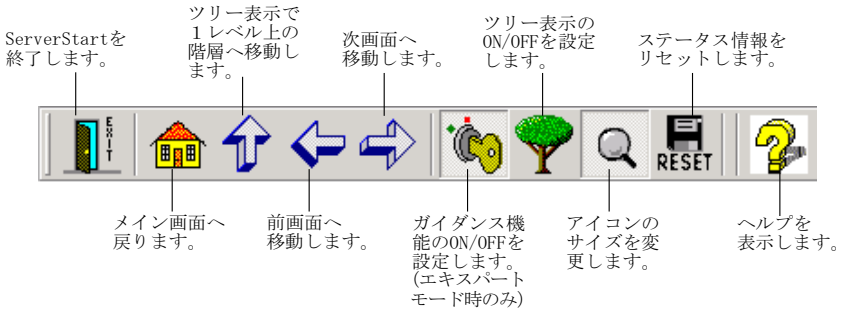
ツリー表示
階層化された各機能が
ツリー表示されます。
ここから、各機能へ
ジャンプできます。

[注意]
各機能ウィザード操作
中は、ツリー操作を行
わないでください。
設定内容が破棄される
場合があります。



● ツールバー

- ガイドモード／エキスパートモードの場合



● ウィザード画面

各ウィザードをクリックすると、ウィザード画面が表示されます。
ウィザード画面の各項目を設定していきます。項目設定後は、次の操作へ移るなど、ウィザード画面の切り替えは、画面下の操作ボタンをクリックします。また、ヘルプボタンをクリックすると、項目設定のヒントとなる説明が表示されます。

■ ネットワークの構築ができます

ServerStart では、サーバの導入時に Windows Server 2003、Windows 2000 Server および Windows NT Server 4.0 のワークグループ、ドメイン等のネットワークモデルでネットワークを構築できます。
構築できるネットワークパターンについて、詳細は「付録 A.4 ネットワークパターン別設定方法」（→ P.270）を参照してください。

■ クライアントのセットアップができます

Windows 2000 ／ Windows NT サーバをプライマリドメインコントローラとしてネットワークを構築する場合、WizardConsole を利用して、クライアントのセットアップおよびアプリケーションのセットアップを簡単に行うことができます。
WizardConsole には、主に以下の機能があります。

- コンピュータの追加／変更
- リモート OS セットアップ
- クライアントセットアップ
- クライアントブート設定
- コンフィグレーションファイルの作成
- 設定したアカウント（グループ／ユーザ／共有資源）の一覧表示

Windows Server 2003 をインストールしたサーバでは、WizardConsole は使用できません。
WizardConsole の操作について、詳細は「第 6 章 クライアントのインストール」（→ P.165）を参照してください。

■ ドライバの自動インストール

自動認識した拡張カードなどに対して、インストール時に推奨ドライバを組み込みます。これにより、誤って古いバージョンのドライバを組み込んだり、サーバ添付以外のドライバを組み込むなどのドライバの入れ間違いを防止し、潜在的なインストールのミスを防ぎます。

■ RAID の自動構成

アレイコントローラカードを使用する場合は、事前に RAID の種類と使用するディスクの本数を指定し、RAID のユーティリティを起動せずにディスクアレイを構成できます。

■ OS インストールタイプの開封

開封とは、OS インストールタイプのプロダクトキーの入力やネットワークの設定を行い、インストールを完了させることです。開封に必要な情報をあらかじめ設定できるので、開封時に設定内容を確認しなくても、あらかじめ設定した内容に従ってスムーズに開封できます。

■ リモートインストール

ServerStart では、OS や ServicePack などインストールに必要なリソースをネットワーク上の別のサーバに格納し、ネットワーク経由で OS をインストールすることができます。サーバに CD-ROM ドライブやフロッピーディスクドライブがない場合に、この方法が便利です。
時間を短縮して大量展開する場合には、SystemcastWizard Professional（オプション）を使用すると便利です。

1.3 高信頼ツールについて

高信頼ツールは、サーバの運用において、システムの安定稼動のために総合力を発揮するソフトウェア群です。通常運用時からトラブル発生時の復旧まで、次の各ツールが役割を分担します。

- サーバ監視ツール
- 運用管理支援ツール
- システム診断支援ツール
- 遠隔保守支援ツール

1.3.1 サーバ監視ツール

サーバ監視ツールは、管理者に代わってハードウェアの状態を監視し、異常発生時には管理者に異常を通知します。

役割	サーバ監視ツール	対象 OS
サーバ異常の早期発見	ServerView	Windows ／ Linux
ディスク異常の早期発見	RAID 管理ツール	
定期交換部品の状況監視	RAS 支援サービス	Windows ／ Linux*1

*1 Linux 版は RX200 のみ対応

■ サーバ異常の早期発見［ServerView］

ServerView は、サーバの大切な資源を保護するために、サーバのハードウェアが正常な状態にあるかどうかを監視するソフトウェアです。ServerView を使用すると、サーバのハードウェアが常時監視下に置かれ、万一トラブルの原因となり得る異常が検出された場合には、管理者にリアルタイムに通知されます。これにより、サーバの管理者は早期に対応してシステムの異常を取り除き、トラブルを未然に防ぐことができます。

■ ディスク異常の早期発見［RAID 管理ツール］

RAID 管理ツールは、ディスクアレイの監視を行うソフトウェアです。RAID 管理ツールは Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server ／ Windows NT Server 4.0 システムのサービスとして動作し、イベントが発生した場合、イベントビューアのアプリケーションログにイベントログを残し、同時にウィンドウがポップアップしてハードディスクの故障、リビルド状況などを表示して知らせます。

■ 定期交換部品の状況監視［RAS 支援サービス］

RAS（Reliability, Availability, Serviceability）支援サービスは、サーバの定期交換部品である電源、ファン、SCSI アレイコントローラカード上のバッテリ、UPS のバッテリの状況を監視し、定期交換部品の交換時期になったときに通知するソフトウェアです。
BX300 では、サポートしていません。

1.3.2　運用管理支援ツール

運用管理支援ツールは、サーバの運用が正常に行われるようにするための、装置の管理を支援します。

役割	運用管理支援ツール	対象 OS
テープ装置の管理	Tape Maintenance Checker	Windows
サーバ同士の時刻合わせ	Chronoworker/S	

■ テープ装置の管理［Tape Maintenance Checker］

テープ装置のクリーニング間隔を監視し、クリーニングが必要な場合に管理者へ通知します。これにより、確実なバックアップを実現します。
BX300 では、サポートしていません。

■ サーバ同士の時刻合わせ［Chronoworker/S］

サーバとサーバ間、サーバとクライアント間の時刻合わせを行います。

1.3.3　システム診断支援ツール

システム診断支援ツールは、通常の運用時や万一のトラブル発生時などのシステム状態の診断を支援します。

役　割	システム診断支援ツール	対象 OS
システムの健康診断	FM Advisor	Windows
トラブルの早期解決	PROBEPRO、DSNAP	

■ システムの健康診断［FM Advisor］

FM Advisor は、お使いのコンピュータの動作環境を調査し、アドバイスするべき情報がないかをチェックするアプリケーションです。また、サーバの動作環境取得ツールとしてもお使いいただくことができ、これらの情報を利用して、問題の解決に役立てることができます。

■ トラブルの早期解決［PROBEPRO ／ DSNAP］

● PROBEPRO

PROBEPRO は、お客様の Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server ／ Windows NT Server 4.0 システムでトラブルが発生した際に、サポート要員がトラブル発生前後のシステム環境の変更点や特異点を客観的に特定し、トラブル解決をより迅速に行うことを目的としたトラブル解決支援プログラムです。
PROBEPRO は、システムのトラブル発生に備えて、システム稼動中にシステム情報（モジュール情報、レジストリ情報、パフォーマンス情報）を収集します。
収集したパフォーマンス情報から、システム全体やプログラム単位のメモリ使用量をグラフ作成することができます。

● DSNAP

DSNAP は、障害調査用資料を一括して採取するコマンドラインユーティリティです。システムファイルの構成情報や主要なレジストリの設定、イベントログをコマンドライン操作で容易に採取できます。

DSNAP は、お客様の Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server ／ Windows NT Server 4.0 システムに問題が発生した際に、サポート要員がお客様のシステム・ソフトウェア構成および設定状況を正確に把握し、調査を円滑に進めるために使用します。メモリダンプと一緒にサポート要員にお渡しください。

1.3.4 遠隔保守支援ツール

遠隔保守支援ツールは、遠隔地からのサーバの保守を支援します。

役割	遠隔保守支援ツール	対象 OS
サポートサービス	REMCS エージェント	Windows

■ サポートサービス［REMCS エージェント］

弊社サポートセンターとの連携サービス（リモート保守サービス）をご利用になる際に使用するソフトウェアです。

REMCS エージェントを使用するには、動作環境として「ServerView」が必要です。

1.3.5　高信頼ツールの導入について

PRIMERGY に添付の高信頼ツールは、ServerStart を使用した場合、OS インストール時、または OS インストールタイプ開封時に「アプリケーションウィザード」で指定することにより、一括してインストールできます。また、OS インストールタイプの場合は、あらかじめプレインストールされているツールもあります。
それぞれの場合について、インストールされる高信頼ツールは、以下のとおりです。

高信頼ツール	ServerStart で一括インストール	OS インストールタイプ	
		ServerStart 開封	手動開封
RAS 支援サービス	○ *2	○ *2	× *2
RAID 管理ツール	○ *1	○ *1	×
FM Advisor *3	△	○	○
ServerView	△	△	×
DSNAP	△	○	○
PROBEPRO *3	△	○	○
Tape Maintenance Checker	× *2	× *2	× *2
Chronoworker/S	×	×	×
REMCS エージェント	×	×	×

○：必ずインストールされます。
△：インストールする場合、選択が必要です。
×：手動でインストールしてください。
*1：RAID コントローラが搭載されていない場合はインストールされません。
*2：BX300 ではサポートしていないため、インストールされません。
*3：BX300 の Windows 2000 インストールタイプの場合は、ServerStart の一括インストールによるインストールを行うと、インストールタイプの開封時より最新のバージョンのツールがインストールされます。開封時のバージョンをインストールする場合は、OS インストール後、各ツールの標準インストーラを使用してインストールを行ってください。
※ Linux では、ServerStart による一括インストールをサポートしていません。

重要

- **高信頼ツールを ServerStart で一括インストールした場合**
  ServerView および PROBEPRO については、インストール後、設定作業が必要です。「第 5 章 高信頼ツール」（→ P.145）を参照してください。

ServerStart を使用した OS インストール時（OS インストールタイプの開封時）に高信頼ツールをインストールしなかった場合や、手動で OS をインストール（OS インストールタイプを開封）した場合などは、各ツールの標準のインストーラを使用してインストールしてください。標準のインストーラを使用したインストール方法については、「第 5 章 高信頼ツール」（→ P.145）を参照してください。

■ ServerView のインストールについて

ServerView を ServerStart の一括インストールでインストールした場合、インストールされるのは ServerView Basic です。ServerView Full をインストールしたい場合は、ServerStart でインストールせずに、手動でインストールを行ってください。
また、運用形態によりインストールするソフトウェアが異なります。ServerView の概要、およびインストールについては、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

第 2 章

OS インストールの前に

この章では、OS インストールを行う前の注意事項について説明しています。インストールを行う前に、必ずお読みください。

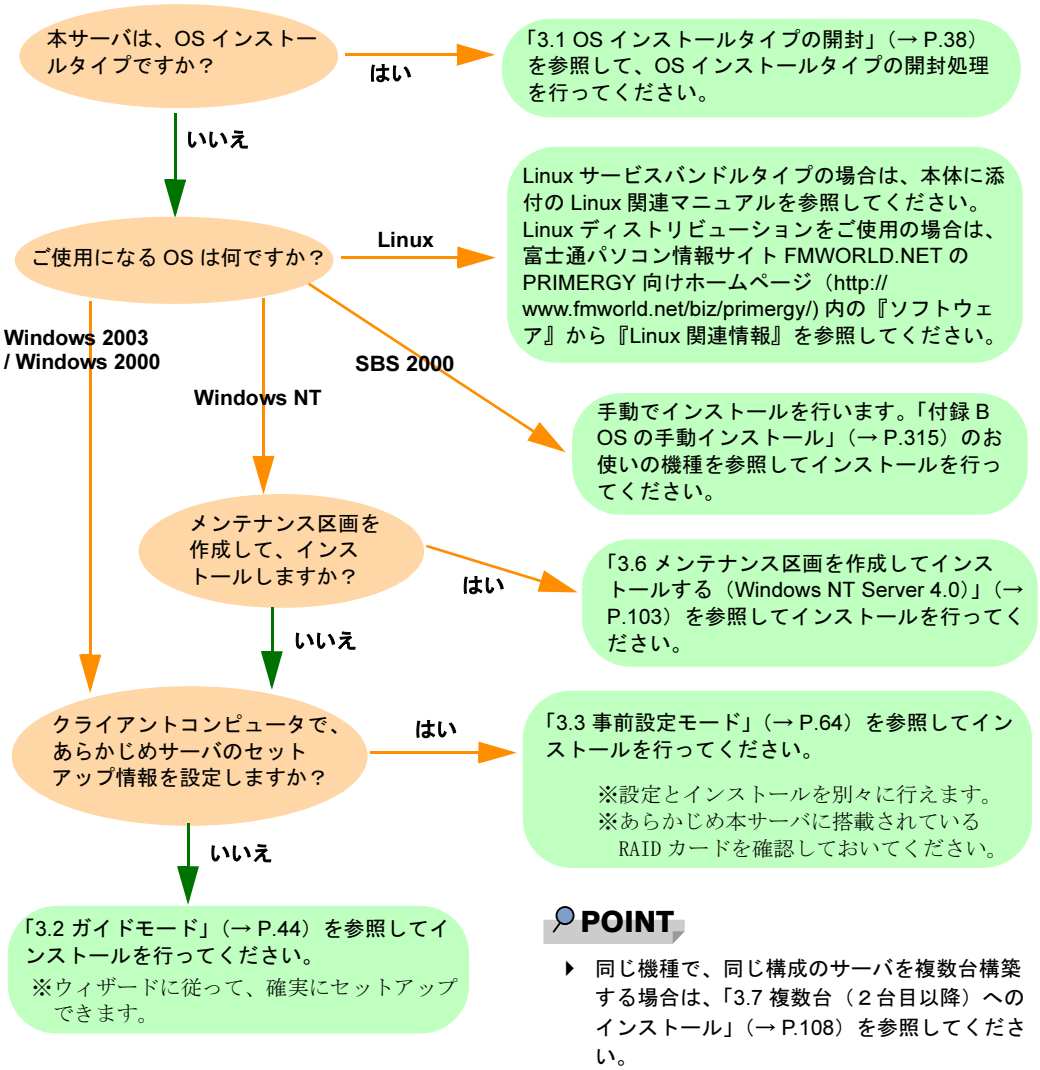
2.1 インストール方法の選択 24
2.2 システム要件 25
2.3 インストール前の留意事項 27

2.1　インストール方法の選択

はじめて OS をインストールする場合、インストールにはいくつかの方法があります。以下を参考に、どの方法でインストールを行うか決定してください。

POINT

- Windows 2003 ／ Windows 2000 のインストールで、サーバに CD-ROM ドライブまたはフロッピーディスクドライブがない場合は、「3.5 リモートインストール」（→ P.87）を参照してインストールしてください。
- すでに構築済みのパーティションを残してインストールを行う場合は、「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）を参照してインストールしてください。



POINT

- 同じ機種で、同じ構成のサーバを複数台構築する場合は、「3.7 複数台（２台目以降）へのインストール」（→ P.108）を参照してください。

2.2　システム要件

操作を始める前に、あらかじめ以下の CD-ROM、およびフロッピーディスクをお手元にご用意ください。

■ 事前設定モードを使用するとき

ハードウェア	□当社 FMV シリーズなど Windows 98/Me、Windows NT Workstation 4.0、Windows XP Windows 2000 Professional が動作するパーソナルコンピュータ本体 （CD-ROM ドライブ必須、10MB 以上の空き容量が必要）
ソフトウェア	□ Microsoft® Internet Explorer 5.5 以上 □ Windows NT Workstation 4.0 の場合は Service Pack 6a

■ サーバをセットアップするとき

ハードウェア	□お買い上げいただいた PRIMERGY 本体 複数の LAN カードを搭載した場合、WizardConsole は利用できません。
ソフトウェア	□使用する OS（Windows Server 2003、Windows 2000 Server、 Windows NT Server 4.0）の CD-ROM □ ServerStart CD-ROM □コンフィグレーションファイル登録用のフロッピーディスク 本サーバに添付の「ServerStart フロッピーディスク」をご使用ください。 □修復ディスクを作成するための未使用のフロッピーディスク… 1 枚 □ Service Pack の CD-ROM Windows 2000 Server で、ServerStart CD-ROM に入っている Service Pack を使用する 場合は不要です。 □アプリケーションのインストール用 CD-ROM サーバアプリケーションをインストールする場合に必要です。 （BrightStor ARCserve Backup、PowerChute など） □拡張カードに添付されているドライバのフロッピーディスク など □ PRIMERGY ドキュメント & ツール CD

■ クライアントをセットアップするとき

重 要

- Windows Server 2003 をインストールしたサーバでは、クライアントをセットアップすることはできません。

ハードウェア	□当社 FMV シリーズなど Windows 95/98/Me、Windows NT Workstation 4.0、Windows 2000 Professional、Windows XP が動作するパーソナルコンピュータ本体（LAN カード搭載） □ハブユニット、ルータ □ LAN ケーブル（必要本数分） ・サーバのインストール後は、LAN などのご使用になる接続形態に合わせてクライアントコンピュータを接続してください。 ・複数の LAN カードを搭載した場合、リモート OS セットアップおよびクライアントセットアップは利用できません。
ソフトウェア	□クライアントセットアップファイル登録用のフロッピーディスク 未使用のフロッピーディスク … 必要枚数 □クライアントにインストールする OS の CD-ROM クライアントに OS をインストールする場合のみ必要。 □ Microsoft® Internet Explorer 3.02 以上 デスクトップ設計で Web メニューを使用する場合。

2.3　インストール前の留意事項

ServerStart を使用してセットアップを開始する前に、以下の事項をよくお読みください。

2.3.1　サーバ導入前の準備

■ 内蔵オプション取り付け時の注意

内蔵オプションや周辺機器を使用する場合は、以下の点に注意してください。これらの注意を守っていただかない場合は、正常にインストールが行われません。

- 『ハードウェアガイド 第 4 章 内蔵オプションの取り付け』を参照し、正しいスロットに拡張カードを取り付けてください。
- OS のインストール先となるハードディスク以外は接続しないでください。
- オプションの SCSI カードを搭載して、外部 SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニットなど）を増設する場合は、OS のインストールおよびセットアップ終了後、サーバの電源を切ってから接続してください。

■ ハードウェアの設定

ServerStart は、ハードウェアセットアップ（BIOS セットアップユーティリティ、SSU ユーティリティ、SCSI Select ユーティリティ、FastBuild ユーティリティ等）には対応していません。『ハードウェアガイド 第 5 章 ハードウェアの設定について』を参照し、ご使用の環境に合わせた設定を行ってください。

重要

- Windows NT Server 4.0 では、ハイパー・スレッディング機能はサポートしていません。Windows NT Server 4.0 をご使用になる場合は、インストールの前に、BIOS セットアップユーティリティで「Hyper-Threading」項目（機種によっては「HyperThreading」、「Hyper-Threading Technology」）を必ず「Disabled」に設定してください。
  BIOS セットアップユーティリティの設定方法など、詳細については『ハードウェアガイド 第 5 章 ハードウェアの設定』を参照してください。

● BX300 の場合（デバイスの優先順位）

BX300 で USB 対応の CD-ROM をお使いの場合は、BIOS セットアップユーティリティの BOOT メニューでデバイスの優先順位を以下のように変更してください。

CD-ROM Drive
Removable Device
+Hard Drive
Broadcom MBA1
Broadcom MBA2

■ LAN ケーブルについて

LAN カードに LAN ケーブルを接続せずに、OS のインストールやアプリケーションの自動インストールを行った場合、セットアップ後、イベントビューアにエラーが記録される場合があります。セットアップを行うときは、必ず LAN ケーブルを接続してください。

■〔BX300〕USB フロッピーディスクドライブ、USB CD-ROM ドライブについて

ServerStart CD-ROM を使用するためには、USB フロッピーディスクドライブ、USB CD-ROM ドライブを、導入するサーバブレードに接続する必要があります。サーバブレードの電源を入れる前に、ディスプレイ／ USB 拡張ケーブルを使用して接続してください。

■ サーバ導入時に搭載するメモリ容量について

Windows NT Server 4.0 の場合、OS インストール時に搭載するメモリ容量は、2GB 以下にしてください。2GB を超えるメモリを搭載した場合は、セットアップ起動時にエラーとなり、セットアップを継続できなくなります。2GB を超えるメモリを搭載する場合は、OS のインストールおよびセットアップ終了後、サーバの電源を切ってからメモリの増設を行ってください。ただし、機種によっては 2GB より少ないメモリ容量に制限されている場合があります。『ハードウェアガイド 第 7 章 技術情報』でご確認ください。

■ クライアントセットアップを行う場合

クライアントセットアップ機能を使用して、クライアントコンピュータにアプリケーションのインストールやファイルのコピーなどを行う場合、サーバに配布する資源の登録用フォルダの設定が必要です。登録用フォルダの設定は、ガイドモードまたは事前設定モードの［クライアント一括導入ウィザード］の「クライアントセットアップ」で行います。エキスパートモードでは設定ができませんので、ご注意ください。

2.3.2 インストール先パーティションサイズについて

- インストール先パーティションの設定可能なサイズは、インストール対象となる OS とフォーマット形式によって、次のようになります。

		Windows 2003	Windows 2000	Windows NT
最小値		2200MB	2048MB	1024MB
最大値		2TB	2TB	4095MB
推奨構成	ファイルシステム	NTFS	NTFS	FAT
	パーティションサイズ	15000MB	15000MB	4000MB

- OS および BOOT パーティションを別々のパーティションに設定する場合は、直接パーティションサイズを指定します。
  （BOOT パーティションとは、起動パーティションです。「ntldr」など、起動に必要な最小の情報が配置されます。OS パーティションとは、OS インストールパーティションです。）
- パーティションサイズは、次の値未満になるように設定してください。
  ・OS および BOOT パーティションを同一パーティションに設定する場合
  Windows 2003 ：2TB
  Windows 2000 ：2TB
  Windows NT ：4000MB
  ・OS および BOOT パーティションを別々のパーティションに設定する場合
  Windows 2003 ：2TB
  Windows 2000 ：2TB
  Windows NT ：設定不可
- 次の値を超えたパーティションにはインストールできません。
  Windows 2003 ：2TB
  Windows 2000 ：2TB
  Windows NT ：4095MB

2.3.3 RAID を構築するときの留意事項

RAID を構築する際は、以下の事項に留意してください。

■ ハード構成

条件	内容
サポートする SCSI アレイコントローラカード枚数	1 枚
SCSI アレイコントローラカードとして使用できる条件	『ハードウェアガイド 第 4 章 内蔵オプションの取り付け』に記述してある所定のスロット位置に搭載されていること
ハードディスクの条件	・本体内蔵のみ ・必ず同形式および同容量のハードディスクを使用すること ・RAID レベルにより設定できる台数は、次のとおりです。 RAID レベル 0：2 ～ 16 台 RAID レベル 1：2 台 RAID レベル 5（推奨）：3 ～ 16 台 RAID レベル 0+1：4 ～ 16 台の偶数（PG-140C/141B/142B/142C/142D） 3 ～ 16 台（PG-144B） ・ホットスペア（スタンバイディスク） なし／あり（1 台まで、RAID レベル 0 を除く）

重 要

- **ハードディスクの設定台数について**
  - **本体の最大搭載数を超えて設定しないでください。本体の最大搭載数は、『ハードウェアガイド 第 7 章 技術情報』を参照してください。**
  - **SCSI アレイコントローラカードの最大搭載数より多い数は設定できません。カードの最大搭載数は、SCSI アレイコントローラカードに添付のマニュアルを参照してください。**
- **ホットスペアを「あり」に設定した場合**
  実際に搭載するハードディスク台数は、上記の設定台数＋ 1 台としてください。

■ アレイ構成

項目	内容
フィジカルパック数	1
システムドライブ数	1
最大システムドライブ容量	1TB
ハードディスクのパック順	ハードディスクに設定された SCSI-ID の小さい順で Channel 0 と Channel 1 を交互にパックします（2 チャンネルの場合）。 ・例（2 チャンネルの場合） パック A-1　Channel 0 SCSI-ID 0 パック A-2　Channel 1 SCSI-ID 0 パック A-3　Channel 0 SCSI-ID 1 パック A-4　Channel 1 SCSI-ID 1 パック A-5　Channel 0 SCSI-ID 2 ホットスペアを指定した場合は、ホットスペアのハードディスクは一番小さいチャンネル番号で SCSI-ID が最小のハードディスクとなります（通常は Channel 0 で SCSI-ID 0 のハードディスク）。

■ 留意事項

● 構築済みの RAID 環境を残してインストールする場合

次のいずれかの方法でインストールしてください。

・ガイドモードまたは事前設定モードで、[RAID ウィザード]（「RAID の構成」画面）で、「構成モード」に「既存のアレイを使用する」を選択してインストールする。

・エキスパートモードでインストールする。

● RAID 構築済みディスクを利用する場合

アレイコントローラカードの交換等で、構築済みのディスクを利用する場合は、アレイコントローラカードを交換する前に、フィジカルパックを削除しておく必要があります。フィジカルパックを削除する方法は、アレイコントローラカードによって異なります。アレイコントローラカードに添付されているマニュアルを参照してください。

● ディスクを取り外す場合

ServerStart で RAID 構築する場合、アレイの初期化はバックグラウンド初期化（BGI）機能を利用します。ディスクを取り外す場合、RAID ユーティリティなどで初期化が完了したかどうかを、各アレイコントローラカードの管理ツールで確認してから作業を行ってください。管理ツールの利用方法は、各管理ツールのヘルプ、またはアレイコントローラカードのマニュアルを参照してください。

● ディスク台数について

- 設定した台数（ホットスペアありの場合は＋ 1 台）より実際に搭載されている台数が少ない場合、ServerStart はエラーとなり、セットアップは中断されます。
- 設定した台数（ホットスペアありの場合は＋ 1 台）より実際に搭載されている台数が多い場合、設定どおりになり、余ったディスクはスタンバイディスクとなります。また、あとからフィジカルパックを追加することもできます。詳しくは、SCSI アレイコントローラカードに添付されているマニュアルを参照してください。

● ブート設定について

あらかじめサーバ本体の BIOS 設定で、OS をインストールするディスクを接続しているアレイコントローラカードからシステムを起動するように設定しておいてください。

2.3.4 複数 LAN アダプタ搭載時の留意事項

ServerStart では、OS インストールウィザードで、システムに搭載された複数の LAN アダプタ（ネットワークアダプタ）をあらかじめ構成することができます。ただし、次の制限事項があります。

● アダプタ番号について

複数の LAN カードおよび通信カード（PG-1631 ／ PG-1651 など）を構成する場合、アダプタ 1 、アダプタ 2 の順でアダプタ番号を選択し、アダプタごとに設定内容を入力します。ただし、アダプタ番号は、搭載されている LAN アダプタのスロット順と必ずしも一致するわけではありません。アダプタ 1 の設定内容が、常にオンボード LAN に設定されるとは限らないため、OS インストール完了後に、どの LAN アダプタに、どの設定内容が反映されたかを必ず確認してください。

● OS インストールタイプの場合

OS インストールタイプでは、ServerStart を使用して開封する際に構成できるアダプタは 1 つだけです。インストール完了後に、残りの LAN アダプタの構成（ドライバのインストール、IP アドレスの設定など）を行ってください。

● DHCP より IP アドレスを取得する場合

Windows NT Server 4.0 で複数の LAN アダプタを構成し、DHCP より IP アドレスを取得するように設定した場合、ポート 1 以外のポートに対しては、DHCP より IP アドレスを取得することができません。この場合、OS インストール完了後、再度 DHCP を選択し直し、サーバを再起動してください。

2.3.5 Service Pack について

ServerStart CD-ROM には、Microsoft® Windows® 2000 Service Pack が格納されています。
Service Pack の種類については、CD-ROM のレーベルに記述されているので確認してください。
「アプリケーションウィザード」で「Service Pack」を選択しなかった場合は、Service Pack は適用されません。この場合、OS インストール後に適切な Service Pack（Option Pack 含む）を適用してください。
適用可能な Service Pack については、ServerStart を起動し、「インフォメーション」→「ServerStart ソフトウェア情報」を参照してください。
Service Pack の適用方法については、「4.4.2 Service Pack の適用」(→ P.138)を参照してください。

2.3.6 ServerStart 使用時の注意事項

■ ServerStart の操作について

ServerStart の操作は、主にマウスを使用します。【Tab】キーおよびカーソルキーで項目の移動などが行えない場合があります。ServerStart ご利用時には、必ずマウスをご用意ください。

■ CD-ROM の取り出しについて

ServerStart 起動中は、ServerStart CD-ROM を取り出さないでください。ServerStart CD-ROM を取り出し、再度セットすると、複数の ServerStart が起動し、それまで入力していた設定内容が失われる可能性があります。

■ ガイドモード／エキスパートモード時の IME について

ServerStart CD-ROM からシステムを起動して、ガイドモードまたはエキスパートモードを使用する場合、日本語を入力することができます。この時、画面右下に IME ツールバーが表示されますが、この IME ツールバーを「タスクバーにドッキング」しないでください。一度 IME ツールバーをタスクバーにドッキングすると、ServerStart 実行中、IME ツールバーが表示されなくなります。

■ モードの移動について

コンフィグレーションファイルを開いてウィザードでインストール項目を入力している際に、ツリー操作などにより別のモードへ移動しないでください（Windows NT 4.0 ガイドモード実行中に Windows 2000 ガイドモードを起動するなど）。
入力中のモードから別のモードに移動する場合は、コンフィグレーションファイルを保存する必要があります。なお、コンフィグレーションファイルを保存せずに［キャンセル］をクリックすると、それまでに設定した内容は破棄されます。

■ インストール中の問題について

Windows NT Server 4.0 のインストール時、GUI セットアップ完了後の再起動でシステムがハングすることがあります。この場合、セットアップは正常に行われていますので、いったん電源を切り、再度電源を入れてセットアップを続行してください。

■ ServerStart の終了について

ガイドモードまたはエキスパートモード実行後、ServerStart を終了すると、システムが再起動されます。フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブからディスクを取り出して［OK］をクリックし、画面の表示が消えたら、システムの電源を切ってください。

■ ServerStart 用システムの使用許諾書について

ServerStart 起動画面からリンクされている「ServerStart 用システムの使用許諾書」は、ServerStart CD-ROM 内に含まれている Windows PE に関する使用許諾書です。ServerStart 起動用の Windows PE は、別途正規にライセンスされた Windows 2003 ／ Windows 2000 または Windows NT をインストールするためだけに使用可能です。

■ システム管理ポート用 IP アドレスの設定について

システム管理ポート用 IP アドレスを設定する場合は、本体に添付のツール「システム構成ユーティリティ」で値を設定し、「アプリケーションウィザード」で「ServerView」をインストールするように設定してください。

■ プリンタのセットアップについて

ServerStart では、プリンタのセットアップには対応していません。セットアップ終了後にインストールを行ってください。

■ ServerStart のアンインストールについて

クライアントコンピュータにインストールした ServerStart をアンインストールする場合は、次の手順に従ってください。

1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
2. ［アプリケーションの追加と削除］をダブルクリックします。

3 「Fujitsu ServerStart」を選択し、［削除］をクリックします。

正常にアンインストールが実行されると、Fujitsu ServerStart が削除されます。
ServerStart のインストールで［ServerStart －リモートインストール］をインストールした場合は、「FjPXEServer」が残るように見えますが、そのまま処理を終了してください。

POINT

- Windows 2000 Professional でアンインストールを行った場合
  「アプリケーションの追加と削除」が応答しなくなる場合があります。この場合、システムをログオフしてください。

2.3.7 ServerStart でサポートする拡張カード

ServerStart がサポートする拡張カードは、PRIMERGY がサポートする PCI に対応したものです。サポートするカード、およびカードの搭載枚数や搭載位置については、『ハードウェアガイド 第 4 章 内蔵オプションの取り付け』を参照してください。
ServerStart でサポートする拡張カードは、以下のとおりです。

■ ドライバ自動インストールに対応する拡張カードとオンボード I/O

ServerStart では、以下の拡張カードのドライバ自動インストールに対応しています。

名称	型名	バス	ドライバ自動インストール
オンボード FDD/IDE	−	−	○
オンボード SCSI	−	PCI	○
オンボード IDE アレイコントローラ	−	PCI	○
IDE アレイコントローラカード	−	PCI	○
オンボード LAN	−	PCI	○
オンボード Video	−	PCI	○
LAN カード	PG-1851	PCI	○
	PG-1861	PCI	○
	PG-1871/1871L	PCI	○
	PG-1881/1881L	PCI	○
	PG-1891/1891L	PCI	○
SCSI アレイコントローラカード	PG-140C/140CL	PCI	○
	PG-142B/142C	PCI	○
	PG-144B/144C	PCI	○
SCSI カード	PG-123	PCI	○
	PG-128	PCI	○
	PG-129	PCI	○
	PG-130L	PCI	○
ファイバーチャネルカード	PG-FC102	PCI	○
	PG-FC103	PCI	○
	PG-FC105	PCI	Windows Server 2003 × Windows 2000 Server ○ Windows NT Server 4.0 ×
ISDN 接続 G3/G4 FAX 通信カード	GP5-161	PCI	×
RS-232C カード	GP5-162	PCI	Windows Server 2003 ○ Windows 2000 Server ○ Windows NT Server 4.0 ×
通信カード ISDN	PG-1651	PCI	×
通信カード V/X	PG-1631	PCI	×
FAX モデムカード	FMV-FX533	PCI	×
リモートサービスボード	PG-RSB101	PCI	×

第 3 章

サーバのインストール

この章では、サーバに OS をインストールする方法について説明しています。

3.1 OS インストールタイプの開封 38
3.2 ガイドモード 44
3.3 事前設定モード 64
3.4 エキスパートモード 76
3.5 リモートインストール 87
3.6 メンテナンス区画を作成してインストールする（Windows NT Server 4.0） 103
3.7 複数台（２台目以降）へのインストール 108
3.8 再インストール 112

3.1 OS インストールタイプの開封

OS インストールタイプの場合は、開封作業が必要です。開封作業は、ServerStart を使用して行います。CD-ROM ドライブが搭載されていないモデルをご使用の場合などは、「付録 B.1 OS インストールタイプの手動開封」（→ P.316）を参照して開封作業を行ってください。

3.1.1 ServerStart を使用して開封する

開封するサーバに ServerStart CD-ROM をセットして開封します。ハードウェア構成を変更する場合は、開封作業完了後に行ってください。

POINT

- あらかじめ事前設定モードで各種設定を行い、コンフィグレーションファイルを作成して開封することもできます。この場合は、事前設定モードでのインストールと同様の操作になります。操作方法については、「3.3 事前設定モード」（→ P.64）を参照してください。

1 **サーバの電源を入れ、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。**

ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

POINT

- 電源を入れたあと、すぐに ServerStart CD-ROM をセットしてください。セットせずにいると、「Please insert a ServerStart CD-ROM.Press[Ctrl]+[Alt]+[Del] to restart」のメッセージが表示されます。ServerStart CD-ROM をセットして【Crtl】+【Alt】+【Delete】キーを押してください。ServerStart を使わずに開封する場合は、「B.1 OS インストールタイプの手動開封」（→ P.316）を参照して開封作業を行ってください。

2 添付の ServerStart フロッピーディスクをセットして、[作成] をクリックします。

OS インストールタイプの開封を行うか、新規インストールを行うかのメッセージが表示されます。

3 [OK] をクリックします。

「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。

4 [ServerStart フロッピーディスクを作成する] をクリックします。

「フロッピーディスクの内容を消去します。よろしいですか？」というメッセージが表示されます。

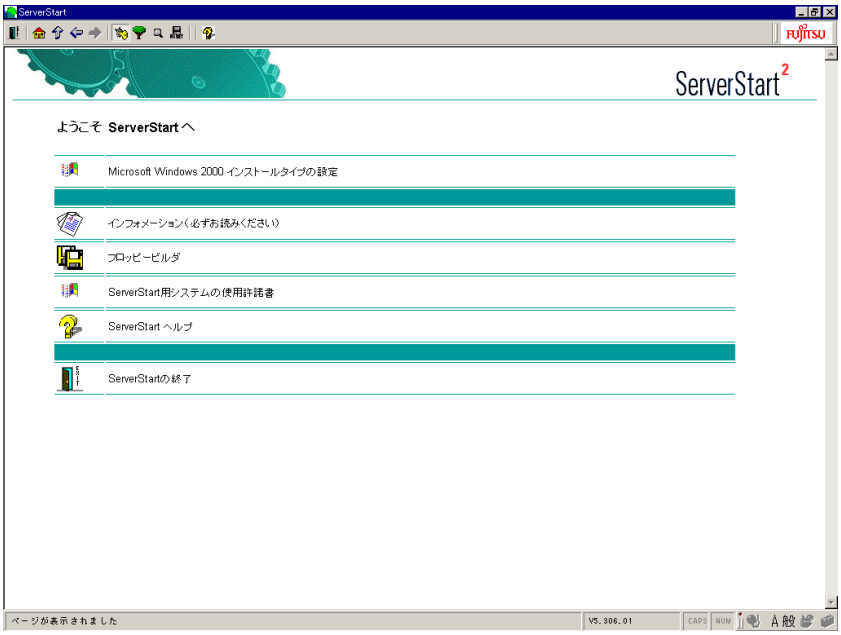
5 [はい] をクリックします。

ServerStart フロッピーディスクの作成が開始されます。作成が完了すると、メッセージが表示されます。

6 [OK] をクリックします。

「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。

以降、Windows 2000 Server の場合を例に説明します。

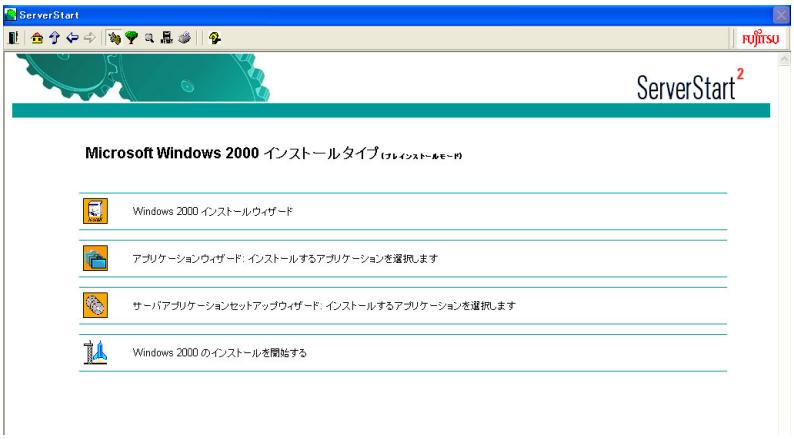


7 ［Microsoft Windows 2000 インストールタイプの設定］をクリックします。

Windows 2003 の場合は、［Microsoft Windows Server 2003 インストールタイプの設定］をクリックしてください。

Windows NT の場合は［Microsoft Windows NT 4.0 インストールタイプの設定］をクリックしてください。

インストールモードが起動します。

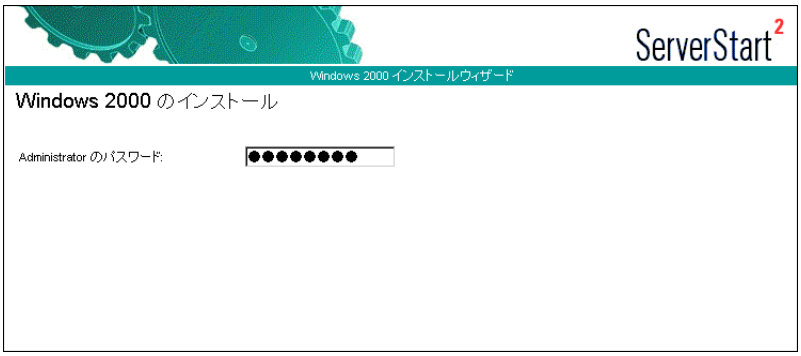


8 ［(OS) インストールウィザード］をクリックし、ウィザードに従って OS インストールタイプの開封情報を入力します。

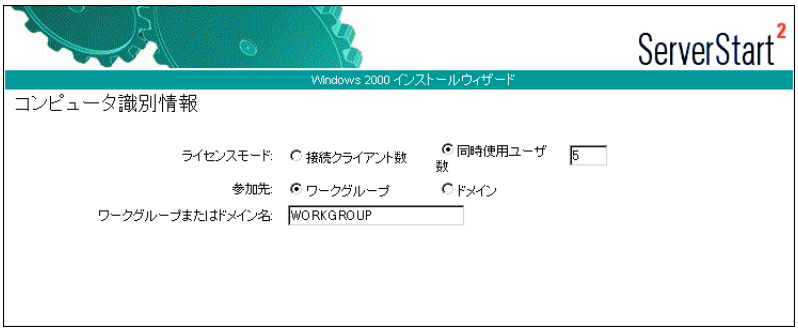
重要

- ウィザード起動中は、ツリーの操作を行わないでください。設定内容が破棄される場合があります。

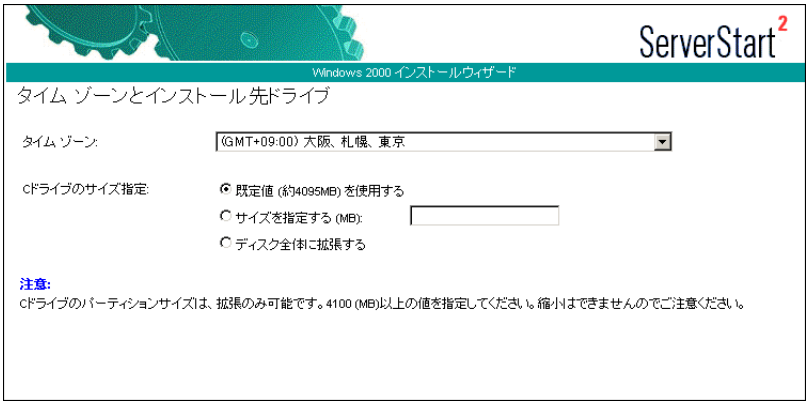
1.「Administrator のパスワード」を入力して、［次へ］をクリックします。



2.「コンピュータ識別情報」画面の各項目を設定し、［次へ］をクリックします。



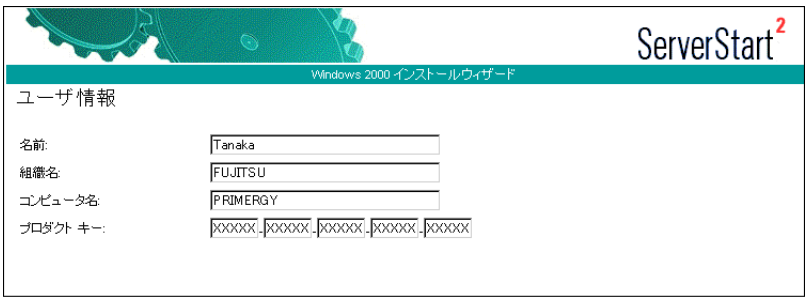
3.「タイムゾーンとインストール先ドライブ」画面の各項目を設定して、［次へ］をクリックします。



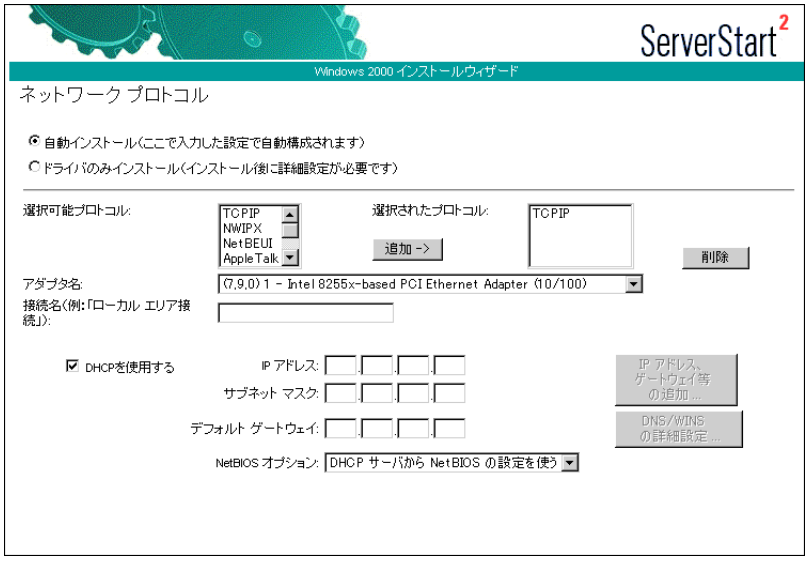
POINT

- C ドライブのサイズを指定できます。サイズを指定する場合は、拡張のみ可能です。4100（MB）以上の値を指定してください。縮小はできませんのでご注意ください。

4.「ユーザ情報」画面の各項目を設定して、［次へ］をクリックします。



5.「ネットワークプロトコル」画面の各項目を設定して、[次へ] をクリックします。



重要

- インストールする OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、「手動でネットワークの設定を行う」をチェックすると、LAN ドライバのインストールや IIS の設定も手動で行う必要があります。

6. 各項目を設定して、[次へ] をクリックします。
   「ActiveDirectory の詳細設定」画面が表示されます。
   各項目を設定します。設定方法については、「付録 A.4 ネットワークパターン別設定方法」(→ P.270) を参照してください。
7. [ウィザード終了] をクリックします。
   OS インストールウィザードが終了します。

9 [アプリケーションウィザード] をクリックします。
クライアントセットアップのための WizardConsole や、高信頼ツールのインストールを設定します。「3.2.6 アプリケーションウィザード」(→ P.55) を参照して設定を行ってください。

重要

- Windows Server 2003 インストールタイプの場合、ここで「ServerView」をインストール対象に設定した場合は、開封作業後に ServerView の設定を行ってください。

10 [(OS) のインストールを開始する] をクリックします。
メンテナンス区画の使用許諾画面が表示されます。

11 [OK] をクリックします。
ライセンス契約の同意画面が表示されます。

12 [同意する] をクリックします。
インストールが開始されます。

重 要

- 設定情報によって、途中アプリケーションの CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。指示に従って CD-ROM をセットして［OK］をクリックしてください。
- インストール中、あらかじめ設定した内容（CD キーなど）に誤りがあると、エラーが表示されます。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。

13 インストール OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、以下の操作を行います。

1. パスワード設定の画面が表示されます。管理者用パスワードを半角 14 文字以内で入力し、［OK］をクリックします。
   パスワードは必ず設定してください。ただし、Windows NT Server 4.0 をバックアップドメインコントローラとしてインストールした場合は、パスワード設定画面は表示されません。
2. 「修復ディスクユーティリティ」画面が表示されます。
   修復ディスクの作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚必要です。
3. フロッピーディスクをセットして［修復ディスクの作成］をクリックします。
   以降、画面の指示に従って操作してください。
4. 修復ディスクの作成が終了すると Internet Explorer のインストールが開始されます。
   インストール作業を続行してください。

14 完了メッセージが表示されます。何かキーを押します。

15 すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。
これで OS インストールタイプの開封は終了です。

16 Windows Server 2003 インストールタイプの場合で、アプリケーションウィザードで ServerView を指定してインストールした場合は、SNMP サービスを設定してください。
設定方法については、『ServerView ユーザーズガイド』の「2.2.1 TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール」を参照してください。
設定の際、「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に、「ServerView」が表示されている場合は、「ServerView」を削除してください。

サーバの運用を開始する前に、「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。

3.2 ガイドモード

ガイドモードでは、ウィザードに従って、ハードウェアの構成やインストール OS の設定などを行い、インストールに必要な情報をコンフィグレーションファイルに保存後、引き続き OS をインストールします。

重 要

- Windows NT Server 4.0 をインストールする場合、ガイドモードではメンテナンス区画を作成してインストールすることはできません。メンテナンス区画を作成してインストールする場合は、「3.6 メンテナンス区画を作成してインストールする（Windows NT Server 4.0）」（→ P.103）を参照してインストールを行ってください。

3.2.1 ガイドモードの起動

ガイドモードを起動します。

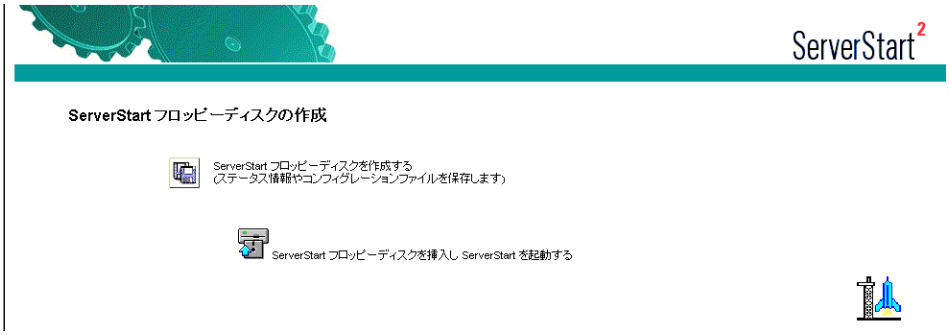
1 サーバの電源を入れて、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。
ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

2 添付の ServerStart フロッピーディスクをセットして、［作成］をクリックします。

POINT

- ServerStart フロッピーディスクは、ライトプロテクトをしない状態でセットしてください。

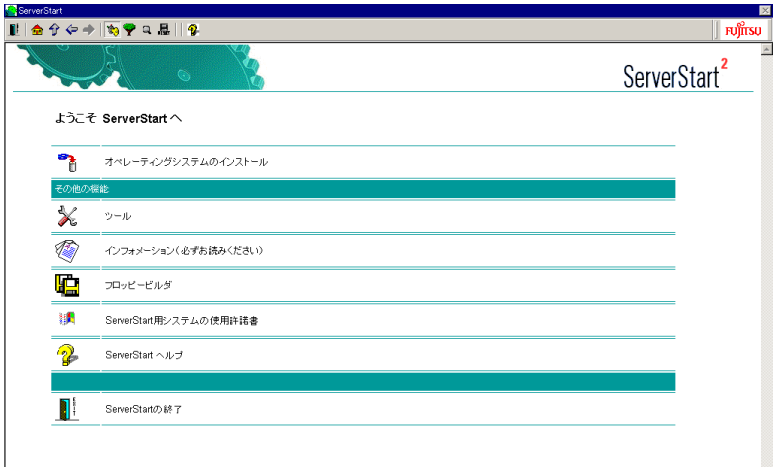
「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。



3 [ServerStart フロッピーディスクを作成する] をクリックします。
「フロッピーディスクの内容を消去します。よろしいですか？」というメッセージが表示されます。

4 [はい] をクリックします。
ServerStart フロッピーディスクの作成が開始されます。作成が完了すると、メッセージが表示されます。

5 [OK] をクリックします。
「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



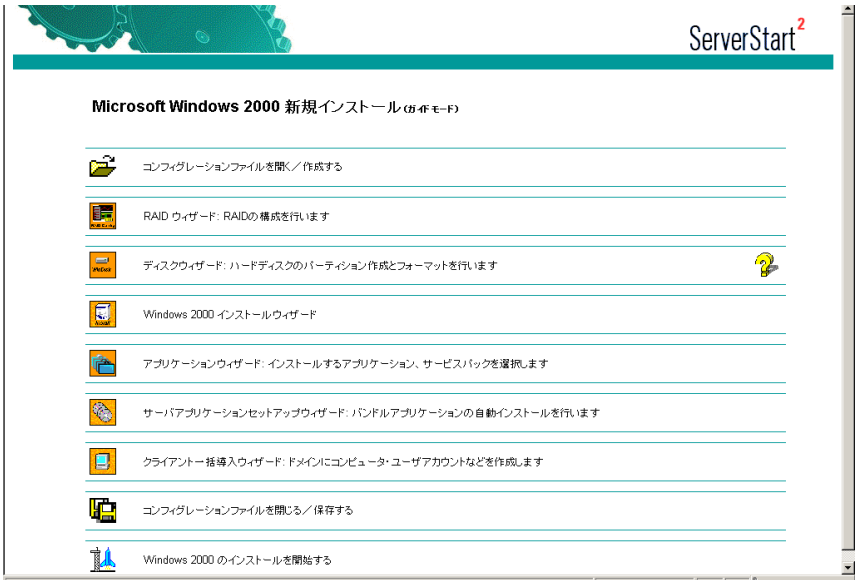
6 [オペレーティングシステムのインストール] をクリックします。
「オペレーティングシステムのインストール」画面が表示されます。
[インストールに関する留意事項] をクリックし、必ず内容を確認してください。ディスクの構成に関する制限事項など、重要な情報が記述されています。

7 [Microsoft Windows Operating System のインストール] をクリックします。
「Microsoft Windows Operating System のインストール」画面が表示されます。

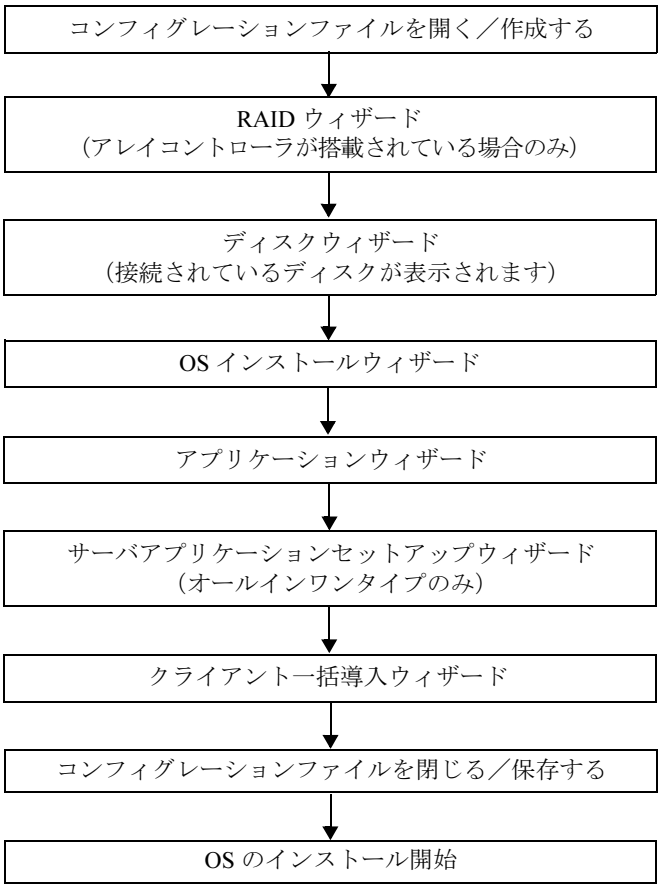
8 インストールする OS をクリックします。

9 ［(OS) のインストール－ガイドモード］をクリックします。

選択した OS のガイドモードが起動します。



以下の流れで、各ウィザードを起動して設定を行ってください。
ウィザードを終了すると、ガイドモード画面に戻ります。



重要

- ウィザード起動中は、ツリーの操作を行わないでください。設定内容が破棄される場合があります。

3.2.2　コンフィグレーションファイルを開く／作成する

コンフィグレーションファイルを開きます。または、新規に作成します。

1　［コンフィグレーションファイルを開く／作成する］をクリックします。

「ServerStart コンフィグレーションファイルを開きます」画面が表示されます。

重要

- 一度コンフィグレーションファイルを開くと、［コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する］をクリックするまで、別のファイルを読み込むことはできません。

2　コンフィグレーションファイルを選択して、［作成］をクリックします。

自動的に次のウィザードが起動します。

●アレイコントローラを搭載している場合、または事前設定モードの場合

［RAID ウィザード］が起動します。「3.2.3 RAID ウィザード」（→ P.48）へ進みます。

●アレイコントローラを搭載していない場合

［ディスクウィザード］が起動します。「3.2.4 ディスクウィザード」（→ P.49）へ進みます。

3.2.3 RAID ウィザード

RAID の構成を行います。ガイドモードでは、アレイコントローラが搭載されている場合のみ、RAID ウィザードが表示されます。

重要

- アレイコントローラカードを変更する場合は、フィジカルパックを削除してから搭載カードを変更してください。フィジカルパックの削除方法は、サーバ本体、または各アレイコントローラカードのマニュアルを参照してください。

1 ［RAID ウィザード］をクリックします。

「RAID の構成」画面が表示されます。

すでに組み込まれているアレイコントローラのみ表示されます。

また、アレイコントローラに接続されているハードディスク数が表示されます。

2 各項目を設定し、［ウィザード終了］をクリックします。

RAID ウィザードが終了します。

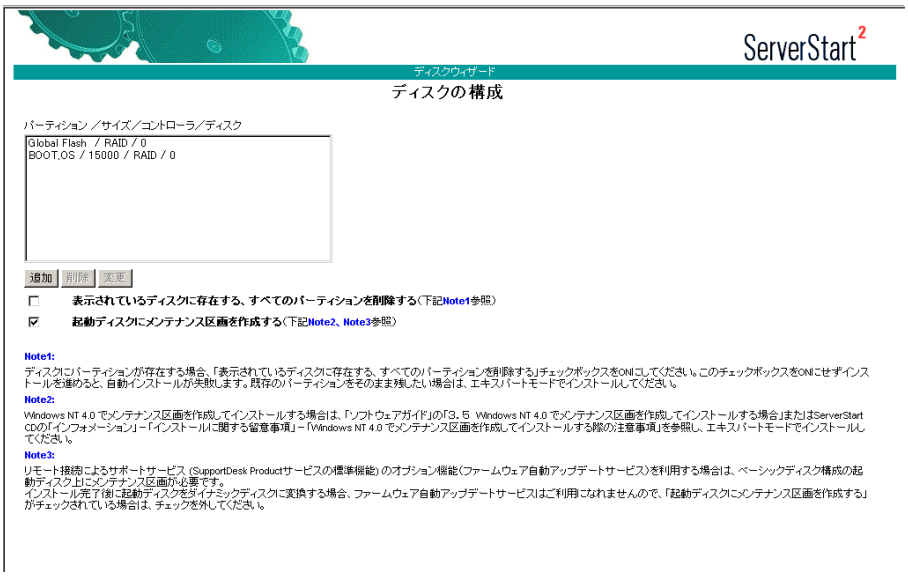
3.2.4　ディスクウィザード

ハードディスクのパーティション作成とフォーマットを行います。

重要

- ディスクウィザード起動時には、デフォルト値が設定されています。必ず［変更］をクリックして、内容を確認してください。また、必要に応じて適切な設定に変更してください。

1　［ディスクウィザード］をクリックします。
「ディスクの構成」画面が表示されます。



POINT

- インストール先ディスクに、すでにパーティションが存在する場合は、「表示されているディスクに存在する、すべてのパーティションを削除する」にチェックを付けてください。
- インストール先ディスク以外のディスクで、すでにアクティブパーティションが存在する場合は、アクティブパーティションが存在するディスクにパーティションを作成後、「表示されているディスクに存在する、すべてのパーティションを削除する」にチェックを付けてください。

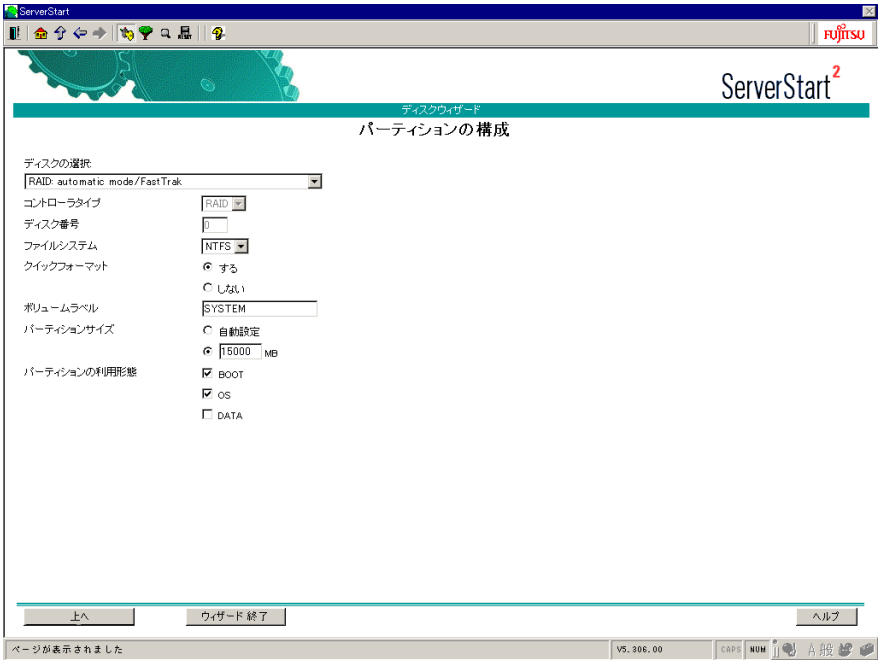
重要

- リモート接続によるサポートサービス（SupportDesk Product サービスの標準機能）のオプション機能（ファームウェア自動アップデートサービス）を利用する場合は、ベーシックディスク構成の起動ディスク上にメンテナンス区画が必要です。「起動ディスクにメンテナンス区画を作成する」がチェックされていることを確認してください。
- BX300 では、メンテナンス区画は作成しません。「起動ディスクにメンテナンス区画を作成する」のチェックは、外しておいてください。
- インストール完了後に起動ディスクをダイナミックディスクに変換する場合、ファームウェア自動アップデートサービスはご利用になれません。「起動ディスクにメンテナンス区画を作成する」のチェックは、外しておいてください。

2 必要に応じて、パーティションを追加／削除／変更します。

●パーティションを追加する

1. ［追加］をクリックします。
   「パーティションの構成」画面が表示されます。



重要

- FAT ファイルシステムのパーティションサイズについて
  「ファイルシステム」に「FAT」を選択し、「パーティションサイズ」を 4095MB 以上または「自動設定」に指定した場合は、パーティションサイズは 4095MB で作成されます。
- インストールする OS が Windows NT Server 4.0 の場合、パーティションサイズのデフォルト値に誤った値（15000MB）が設定されている場合があります。この値を変更せずにインストールした場合は、途中でエラーが発生してインストールに失敗します。必ずインストール先パーティションサイズをインストール可能最大サイズ（4095MB）以下の値に設定してください。
- ボリュームラベルの文字制限について
  ボリュームラベルには次の文字数制限があります。制限以上入力できる場合がありますが、インストールに失敗する可能性がありますので、制限内で入力してください。
  ・FAT 全角 5 文字（半角 11 文字）以内
  ・NTFS 全角／半角 32 文字以内

2. 各項目を設定し、［上へ］をクリックします。
   パーティションリストに新しいパーティションが追加されます。

●パーティションを削除する

1. 削除するパーティションを選択して、［削除］をクリックします。
   パーティションが削除されます。

●パーティションの構成を変更する

1. 変更するパーティションを選択して、[変更]をクリックします。
   「パーティションの構成」画面が表示されます。
2. 各項目を設定し直し、[上へ]をクリックします。
   パーティションが変更されます。

3 設定が終了したら、[ウィザード終了]をクリックします。
ディスクウィザードが終了します。

重要

- 「起動ディスクにメンテナンス区画を作成する」がチェックされていない場合は、確認メッセージが表示されます。リモート接続によるサポートサービス（SupportDesk Product サービスの標準機能）のオプション機能（ファームウェア自動アップデートサービス）を利用する場合は、メンテナンス区画が必要です。メンテナンス区画を作成する場合は[はい]をクリックしてください。BX300 では、メンテナンス区画を作成しません。[いいえ]をクリックしてください。

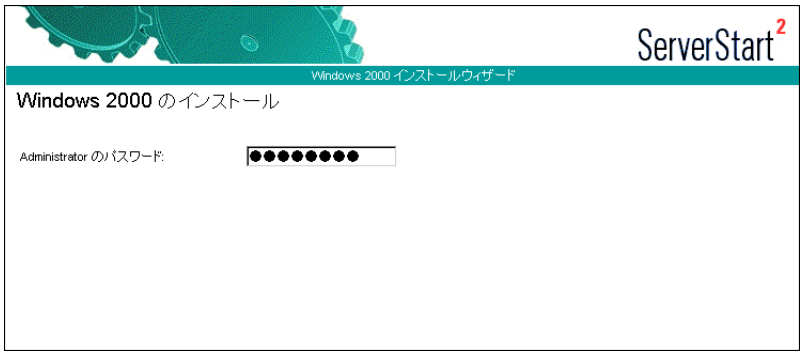
3.2.5 OS インストールウィザード

コンピュータ情報や、ユーザ情報、ネットワークプロトコルなどの設定を行います。
ServerStart では、いくつかのネットワークパターンを構築できます。ドメインコントローラを構成する場合は、「付録 A.4 ネットワークパターン別設定方法」（→ P.270）を参照してください。

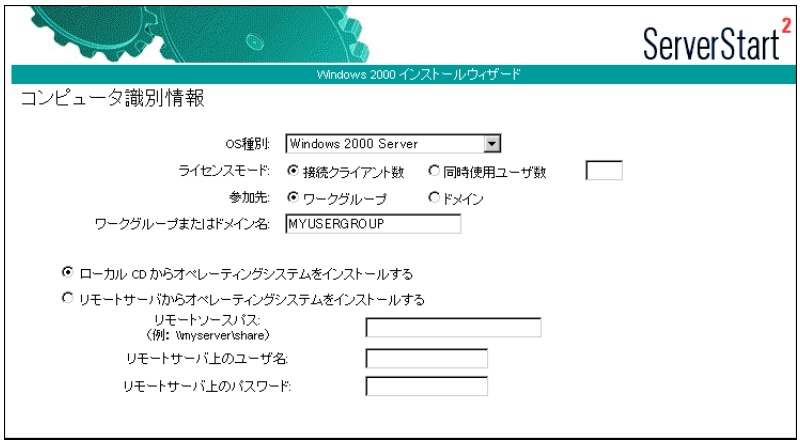
POINT

- インストールする OS により設定画面が異なります。ここでは、Windows 2000 Server を例に説明します。

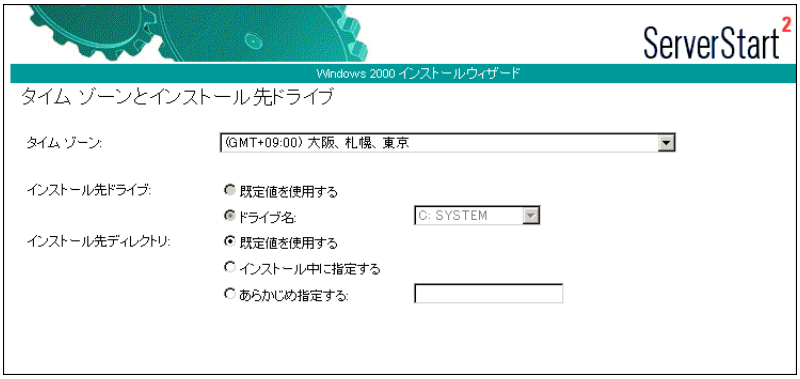
1 [Windows 2000 インストールウィザード]をクリックします。
「Windows 2000 のインストール」画面が表示されます。



2 「Administrator のパスワード」を入力して、［次へ］をクリックします。
「コンピュータ識別情報」画面が表示されます。



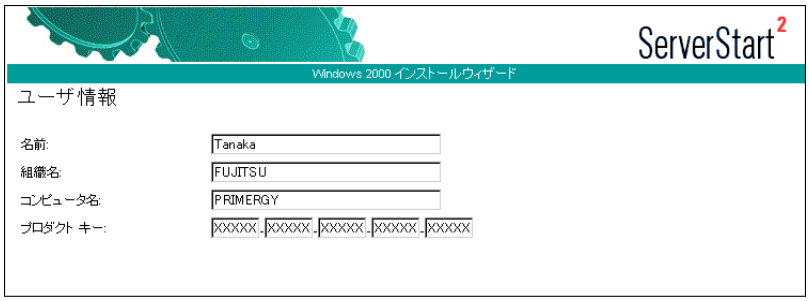
3 各項目を設定して、［次へ］をクリックします。
「タイムゾーンとインストール先ドライブ」画面が表示されます。



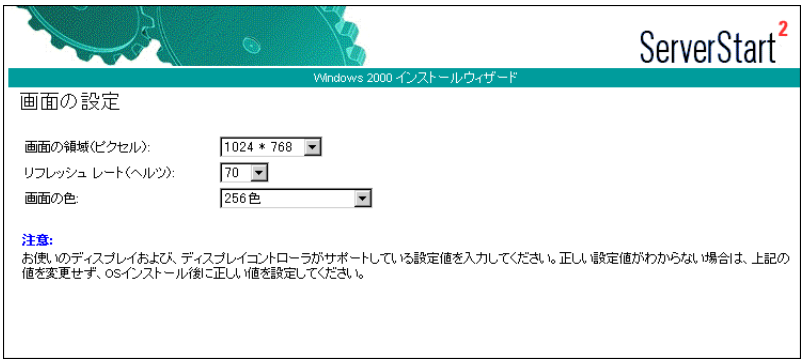
POINT

- インストールする OS が Windows NT Server 4.0 の場合
  ファイルシステムを NTFS にするには、［ファイルシステムを NTFS へ変換する］にチェックを付けます。ディスクウィザードで「ファイルシステム」に「NTFS」を選択した場合は、自動的にチェックが付きます。

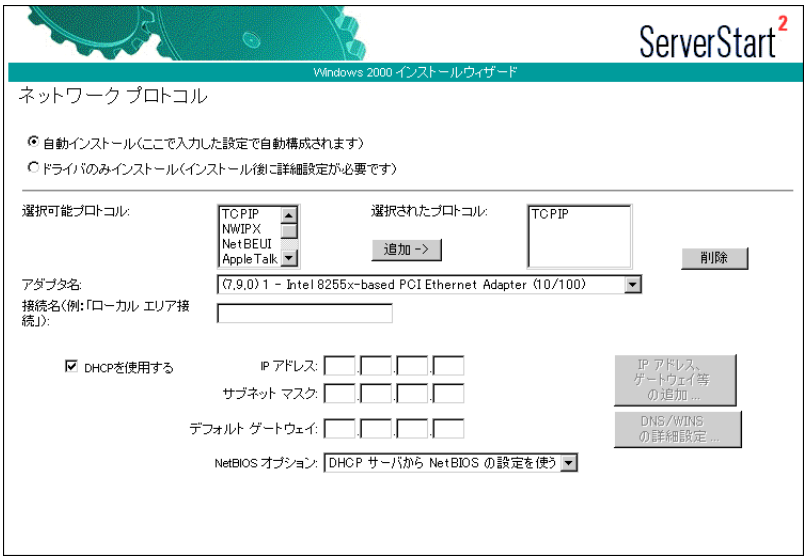
4 各項目を設定して、［次へ］をクリックします。
「ユーザ情報」画面が表示されます。



5 各項目を設定して、［次へ］をクリックします。
「画面の設定」画面が表示されます。



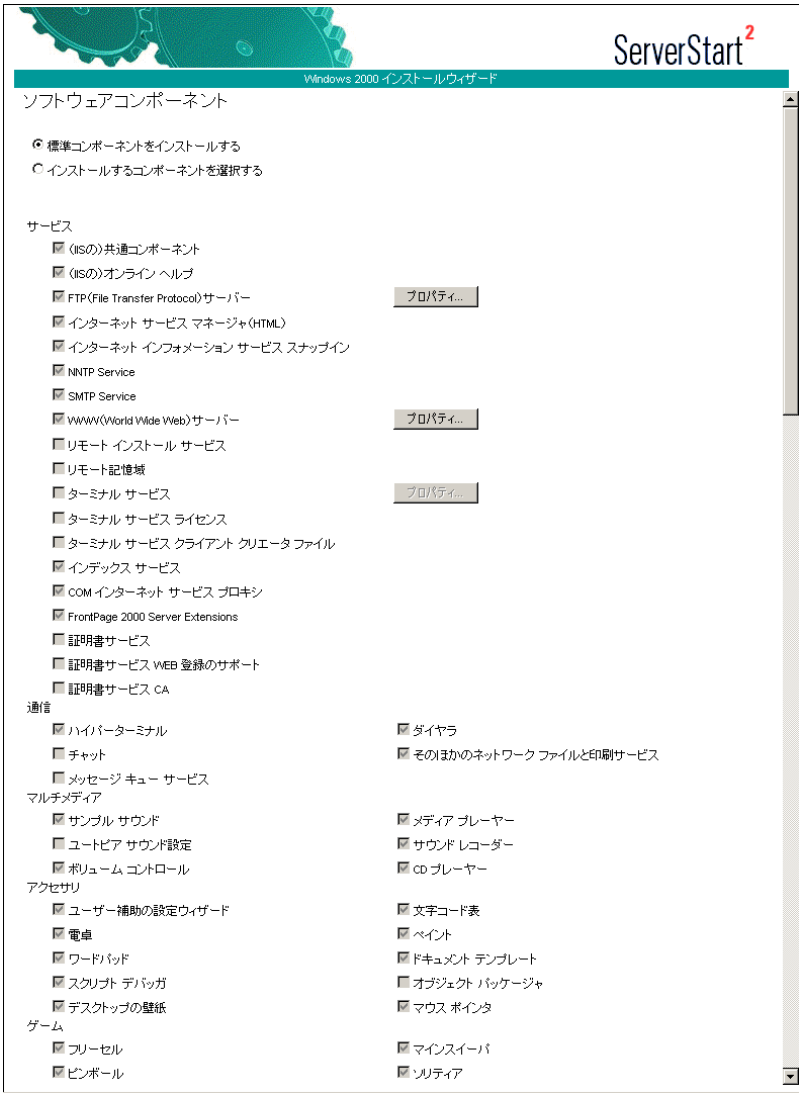
6 各項目を設定して、［次へ］をクリックします。
「ネットワークプロトコル」画面が表示されます。



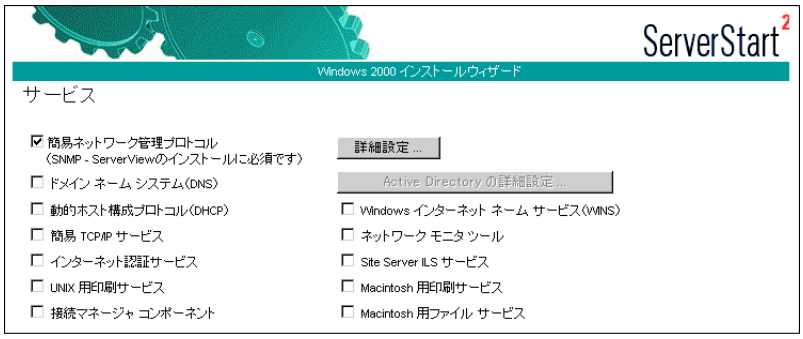
重要

- インストールする OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、「手動でネットワークの設定を行う」をチェックすると、LAN ドライバのインストールや IIS の設定も手動で行う必要があります。

7 各項目を設定して、［次へ］をクリックします。
「ソフトウェアコンポーネント」画面が表示されます。



8 各項目を設定して、［次へ］をクリックします。
「サービス」画面が表示されます。



9 各項目を設定して、［ウィザード終了］をクリックします。
OS インストールウィザードが終了します。

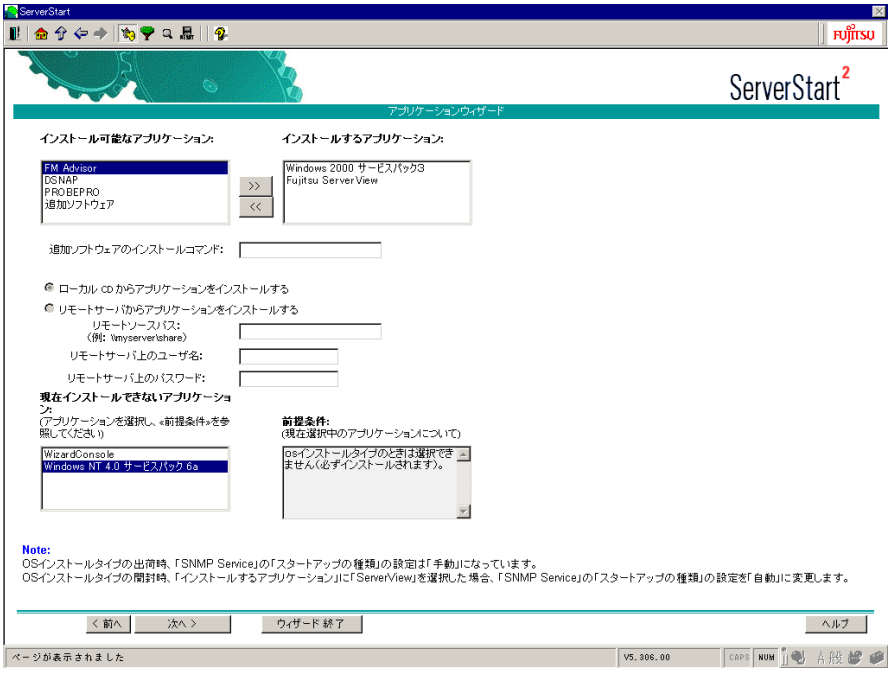
3.2.6 アプリケーションウィザード

クライアントセットアップのための WizardConsole や、高信頼ツールのインストールを設定します。

POINT

- BX300 の Windows 2000 インストールタイプの場合、アプリケーションウィザードを使用して「FM-Advisor」／「PROBEPRO」／「DSNAP」をインストールすると、開封時より最新のバージョンのツールがインストールされます。開封時と同じバージョンのツールを使用する場合は、OS インストール後に、各ツールの標準インストーラを使用してインストールしてください。
標準のインストーラを使用したインストール方法については、「第 5 章 高信頼ツール」（→ P.145）を参照してください。

1 ［アプリケーションウィザード］をクリックします。
アプリケーションウィザードが表示されます。



重 要

- WizardConsole をインストールする場合
  クライアントのインストール／セットアップなどを行う場合は、WizardConsole を「インストールするアプリケーション」に設定してください。WizardConsole をインストールするには、OS インストールウィザードで、以下のように設定してください。
  - Windows NT Server 4.0 の場合、「コンピュータ情報」画面で「コンピュータ種別」を「プライマリドメインコントローラ」に設定してください。
  - Windows 2000 Server の場合、「サービス」画面で、「ドメインネームシステム（DNS）」を選択し、「Active Directory の詳細設定」をクリックして「Active Directory をインストールする」を設定してください。
  - Windows Server 2003 の場合、WizardConsole はインストールできません。
- ServerStart を使用した Service Pack のインストール
  ServerStart では、Windows 2000 Service Pack 3 または Windows NT® 4.0 Service Pack 6a をインストールできます。その他の Service Pack をインストールする場合は、ServerStart で OS のインストールを完了後、手動で Service Pack のインストールを行ってください。

2 「インストール可能なアプリケーション」リストから、インストールするアプリケーションを選択し、[>>] をクリックします。
インストールするアプリケーションをすべて「インストールするアプリケーション」リストに設定してください。

3 [ウィザード終了] をクリックします。
アプリケーションウィザードが終了します。

3.2.7 サーバアプリケーションセットアップウィザード

オールインワンタイプをご購入の場合は、インストールするサーバアプリケーションの設定を行います。

1 [サーバアプリケーションセットアップウィザード] をクリックします。

2 「サーバアプリケーションセットアップ」をクリックします。
「アプリケーション一覧」が表示されます。
サーバアプリケーションセットアップで自動インストール可能なアプリケーションは、オールインワンタイプに添付されているアプリケーションのみです。

3 インストールするサーバアプリケーションを選択し、「アプリケーション」→「アプリケーション設定」の順にクリックします。
「アプリケーション資源の設定」画面が表示されます。

4 各項目を設定し、[次へ] をクリックします。
「アプリケーションのインストールパラメータ設定」画面が表示されます。設定画面は、アプリケーションごとに異なります。

重 要

- ヘルプには、インストールに関する重要な情報を記載しています。必ず参照してください。各アプリケーションの詳細については、アプリケーションに添付のマニュアルを参照してください。

5 各項目を設定したら、［完了］をクリックします。
インストールするサーバアプリケーションごとに設定を行ってください。

6 「アプリケーション」→「終了」の順にクリックします。
「セットアップウィザード」画面に戻ります。

7 ［ウィザード終了］をクリックします。
サーバアプリケーションセットアップウィザードが終了します。

3.2.8 クライアント一括導入ウィザード

プライマリドメインコントローラや Active Directory を導入する場合は、ドメインにコンピュータ、ユーザアカウントなどを作成できます。
Windows Server 2003 の場合は、クライアント一括導入ウィザードは実行できません。

重 要

- クライアント一括導入ウィザードを実行する場合は、［アプリケーションウィザード］で WizardConsole を「インストールするアプリケーション」に設定してください。また、OS インストールウィザードで、ドメインコントローラの設定を行う必要があります。詳細は、「付録 A.4 ネットワークパターン別設定方法」（→ P.270）を参照してください。

POINT

- クライアントの導入設定は、インストール終了後に WizardConsole でも設定できます。WizardConsole の詳細については、「第 6 章 クライアントのインストール」（→ P.165）を参照してください。

1 ［クライアント一括導入ウィザード］をクリックします。
「クライアントシステム設計」アイコンが表示されます。

2 「クライアントシステム設計」をクリックします。
サーバを使用するクライアントの情報や、サーバに設定するグループ、共有フォルダの設定および関連付けを行います。

●クライアントシステム設計の設定方法

1. ［クライアントシステム設計］をクリックします。
「コンピュータの設定」画面が表示されます。あらかじめサーバのコンピュータ名が表示されています。
2. サーバに接続するクライアントコンピュータの情報を設定します。
［追加］（［変更］）をクリックすると、「コンピュータの追加／変更」画面が表示されます。

1. 項目を設定して、[追加]（[変更]）をクリックします。
   続けて追加するコンピュータを設定できます。
2. すべてのコンピュータを設定後、[閉じる] をクリックします。
   コンピュータ情報が登録され、「コンピュータの設定」画面に戻ります。

3. **[次へ] をクリックします。**
   「グループの設定」画面が表示されます。あらかじめ設計しているサーバで予約されているグループ名が表示されます。
4. **サーバを利用するグループを登録します。**
   [追加]（[変更]）をクリックすると、「グループの追加／変更」画面が表示されます。
   1. 項目を設定して、[追加]（[変更]）をクリックします。
      続けて追加するグループを設定できます。
   2. すべてのグループを設定後、[閉じる] をクリックします。
      グループ情報が登録され、「グループの設定」画面に戻ります。

重要

- 設計しているサーバで予約されているグループ名は作成できません。

5. **[次へ] をクリックします。**
   「ユーザの設定」画面が表示されます。設計しているサーバで予約されているユーザ名が表示されます。
6. **サーバを利用するユーザの情報を登録します。**
   [追加]（[変更]）をクリックすると、「ユーザの追加／変更」画面が表示されます。
   1. 項目を設定して、[追加]（[変更]）をクリックします。
      続けて追加するユーザを設定できます。
   2. すべてのユーザを設定後、[閉じる] をクリックします。
      ユーザ情報が登録され、「ユーザの設定」画面に戻ります。

重要

- ここではユーザのパスワードは設定できません。セキュリティのためにも、運用開始時に、必ずパスワードを設定してください。
- 設計しているサーバで予約されているユーザ名は作成できません。

7. **[次へ] をクリックします。**
   「共有資源の設定」画面が表示されます。設計しているサーバで予約されている共有名が表示されます。
8. **ユーザ、グループなどで共有して利用するフォルダ名を登録します。**
   [追加]（[変更]）をクリックすると、「共有資源の追加／変更」画面が表示されます。

重要

- 8.3 形式（xxxxxxxx.xxx）より長いフォルダ名の場合は、MS-DOS のクライアントから共有できない可能性があります。

   1. 項目を設定して、[追加]（[変更]）をクリックします。
      続けて追加する共有資源を設定できます。

2. すべての共有資源を設定後、[閉じる]をクリックします。
   共有資源情報が登録され、「共有資源の設定」画面に戻ります。

9. **[完了]をクリックします。**
   「クライアントシステム設計」画面が表示されます。
10. **関連付けの操作を行います。**
    関連付けの操作については、「6.3.4 ユーザ、グループ、共有資源の関連付け」(→ P.179)を参照してください。

3 [次へ]をクリックします。

「クライアントセットアップ」アイコンが表示されます。

4 「クライアントセットアップ」をクリックします。

クライアントにインストールするアプリケーション、コピーするファイル、およびクライアントで実行するコマンドを設定します。設定項目の詳細については、ヘルプまたは「6.5 クライアントセットアップ」(→ P.188)を参照してください。
また、以下の手順で、サーバにセットアップ資源の格納先を設定してください。

1. **「クライアントセットアップ」画面の「表示」メニューから「動作環境設定」を選択します。**
   「動作環境設定」画面が表示されます。
2. **「共有フォルダ名」に資源の格納先を入力し、「共有名」を入力します。**
3. **「セットアップ資源の登録」で、セットアップ資源をサーバに登録する方法を選択します。**
4. [OK]をクリックします。
   資源の登録先フォルダが設定されます。

重要

- サーバへのセットアップ資源登録先フォルダは、「クライアント一括導入ウィザード」での「クライアントセットアップ」でのみ設定できます。サーバセットアップ後のWizardConsoleでは設定できません。必ずここで設定してください。
- 資源登録先フォルダに、サーバインストール時に存在しないドライブを設定することはできません。存在しないドライブを指定した場合は、資源登録先フォルダは自動的に以下に設定されます。
  ・共有フォルダ名 C:¥Swrsint(アプリケーション区画が存在する場合はD:¥Swrsint)
  ・共有名 SWRSINT
- セットアップ資源の登録には、ハードディスクに十分な空き容量が必要です。
- OSのインストール後、資源格納先フォルダの共有名を変更、削除、アクセス権の変更を行うと、正常に資源の配布および登録ができなくなります。インストール後の変更は行わないでください。

5 [次へ]をクリックします。

「デスクトップ設計」アイコンが表示されます。

6 「デスクトップ設計」をクリックします。

サーバ側で、クライアントのデスクトップ環境を一括管理します。
設定項目の詳細については、ヘルプを参照するか、「6.6 クライアントのデスクトップ環境を設定する」(→ P.198)を参照してください。

7 [ウィザード終了]をクリックします。

クライアント一括導入ウィザードが終了します。

3.2.9 コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する

すべてのウィザードの設定が終了したら、コンフィグレーションファイルを保存します。

1 ［コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する］をクリックします。
「ServerStart コンフィグレーションファイルの保存」画面が表示されます。

2 ［保存］をクリックします。
コンフィグレーションファイルが保存されます。

重 要

- コンフィグレーションファイルの名前は任意に指定できますが、OS インストールが可能な名前は "SerStartBatch.ini" のみです。OS インストールを行う場合は、必ず ServerStart フロッピーディスクに "SerStartBatch.ini" の名前で保存してください。

3.2.10 OS のインストール開始

サーバに OS をインストールします。
インストール中は、インストール操作以外のマウスおよびキーボード操作を行わないでください。インストールに失敗する場合があります。

1 ［(OS) のインストールの開始］をクリックします。
「ServerStart 自動インストールモード」画面が表示されます。

2 ［開始］をクリックします。

POINT

- ［開始］をクリックすると、ディスク内容はすべて消去され、インストールが行われます。インストールを行わない場合は、［中止］をクリックしてください。

10 秒後に自動的にインストールが開始されます。
・RAID を構築した場合は、システムが再起動されます。
・メンテナンス区画で使用する MS-DOS の使用許諾メッセージが表示された場合は［OK］をクリックします。
・Service Pack の CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、Service Pack の CD-ROM をセットし、［OK］をクリックします。
Service Pack を選択していない場合、または ServerStart に添付されている Service Pack を使用する場合は、メッセージは表示されません。
・ServerView の CD-ROM（PRIMERGY ドキュメント & ツール CD）をセットするようメッセージが表示されます。ServerView をインストールしない場合は、メッセージは表示されません。

3 PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD をセットし、［OK］をクリックします。
ファイルのコピーが行われ、終了後、ServerStart CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、ServerStart CD-ROM をセットして［OK］をクリックします。
OS の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

4 OS の CD-ROM をセットし、［OK］をクリックします。
ファイルのコピーが行われ、終了後、ServerStart CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

5 ServerStart CD-ROM をセットして、［OK］をクリックします。
ライセンス契約の画面が表示されます。

6 ［同意する］をクリックします。
ファイルのコピーが開始され、終了後、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出すようメッセージが表示されます。

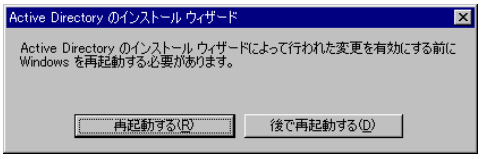
7 CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出し、［OK］をクリックします。

重要

- BX300 で USB CD-ROM ドライブ（FMV-NRW52S）をお使いの場合は、再起動の前に FMV-NRW52S のインタフェースケーブル（USB ケーブル）を抜く必要があります。CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出したら、インタフェースケーブルを抜いて［OK］をクリックしてください。

システムが再起動します。
BX300 で USB CD-ROM ドライブ（FMV-NRW52S）のインタフェースケーブル（USB ケーブル）を抜いた場合は、再起動中に接続してください。
再起動後、インストール処理が続行されます。
自動で OS の GUI セットアップ、LAN ユーティリティのインストール、Service Pack のインストール、Active Directory のインストールが行われます。

8 再起動の確認メッセージが表示されたら、［再起動する］をクリックします。



再起動後、高信頼ツールのインストールが行われます。

9 サーバアプリケーションのインストールが行われます（オールインワンタイプのみ）。

設定したアプリケーションごとに、サーバアプリケーション画面が表示されます。

アプリケーションの CD-ROM をセットし、CD-ROM ドライブを指定して［OK］をクリックしてください。すべてのアプリケーションがインストールされたあと、CD-ROM ドライブから CD-ROM を取り出し、何かキーを押します。

10 RAID ユーティリティのインストールが行われます。

●Windows 2003 ／ Windows 2000 の場合

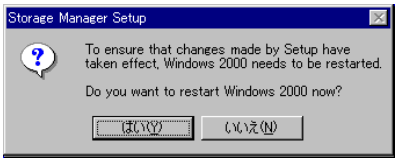
DPT Storage Manager のインストールは自動で行われます。MYLEX Global Array Manager Client については、手動でインストールを行います。インストール後に再起動を促すメッセージが表示されますが、［No, I will restart my computer later.］を選択して、［Finish］をクリックし、再起動しないでください。

●Windows NT の場合

DPT Storage Manager と、MYLEX Global Array Manager Client については、手動でインストールを行います。インストール後に再起動を促すメッセージが表示されますが、再起動しないようにしてください。

・DPT Storage Manager の場合

以下のメッセージが表示されます。［いいえ］をクリックしてください。



・MYLEX Global Array Manager Client の場合

［No, I will restart my computer later.］を選択し、［Finish］をクリックします。

11 インストール OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、以下の操作を行います。

1. パスワード設定の画面が表示されます。管理者用パスワードを半角 14 文字以内で入力し、［OK］をクリックします。

   パスワードは必ず設定してください。ただし、Windows NT Server 4.0 をバックアップドメインコントローラとしてインストールした場合は、パスワード設定画面は表示されません。

2.「修復ディスクユーティリティ」画面が表示されます。
修復ディスクの作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚必要です。
3. フロッピーディスクをセットして、[修復ディスクの作成] をクリックします。
以降、画面の指示に従って操作してください。

POINT

- 万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスクに保存した情報により、再構築できます。

12 インストール完了のメッセージが表示されたら、何かキーを押します。

13 システムを再起動します。

「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択して［OK］をクリックします。
システムが再起動します。

これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。
サーバの運用を開始する前に「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。

3.3　事前設定モード

事前設定モードでは、Windows 98/Me、Windows NT Workstation 4.0、Windows 2000 Professional、Windows XP がインストールされているコンピュータ（CD-ROM ドライブ搭載、空き容量 10MB 以上）で、インストールに必要な情報を設定し、コンフィグレーションファイルに保存します。保存したコンフィグレーションファイルをサーバにセットしてインストールを行います。

重 要

- Windows NT Server 4.0 をインストールする場合、事前設定モードではメンテナンス区画を作成してインストールすることはできません。メンテナンス区画を作成してインストールする場合は、「3.6 メンテナンス区画を作成してインストールする（Windows NT Server 4.0）」（→ P.103）を参照してインストールを行ってください。

■ クライアントコンピュータに ServerStart をインストールする

事前設定を行うクライアントコンピュータに ServerStart がインストールされていない場合は、ServerStart をインストールします。異なるバージョンの ServerStart がインストールされている場合は、インストール済みの ServerStart をアンインストールしてください。アンインストールの方法については、「■ ServerStart のアンインストールについて」（→ P.33）を参照してください。

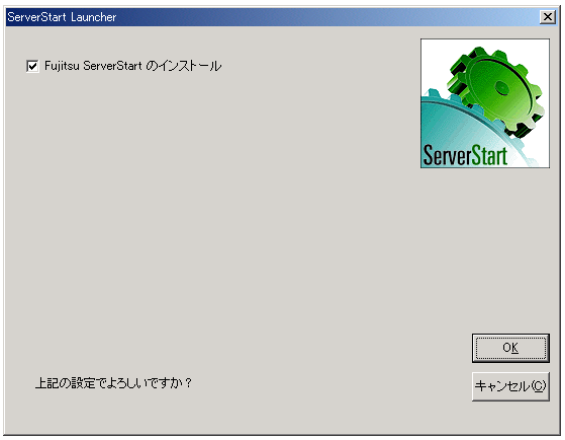
重 要

- 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている状態で事前設定モードを起動すると、フロッピービルダ機能やインストールウィザードが正常に動作しない可能性があります。異なるバージョンの ServerStart は、必ずアンインストールしてください。

1 クライアントコンピュータに ServerStart CD-ROM をセットします。

「ServerStart Launcher」画面が表示されます。

「ServerStart Launcher」画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の "Launcher.exe" を実行してください。



2 チェックボックスが選択されていることを確認して、[OK] をクリックします。
Windows インストーラが起動し、セットアップ画面が表示されます。

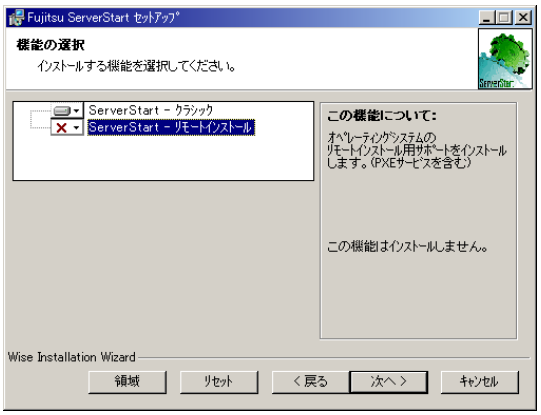
3 [次へ] をクリックします。
「ライセンス契約」画面が表示されます。

4 「ライセンス契約に同意します」を選択して、[次へ] をクリックします。
「インストール先フォルダ」画面が表示されます。

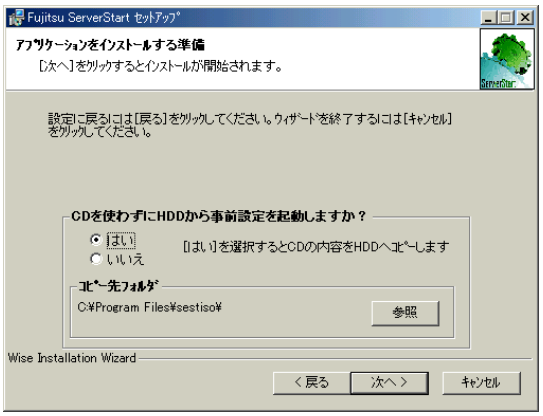
5 インストール先フォルダを指定して、[次へ] をクリックします。インストール先フォルダを変更する場合は、[参照] をクリックして変更します。
Windows 2000 Professional ／ Windows XP の場合のみ、以下の操作を行います。それ以外の場合はインストールが実行されます。

- Windows 2000 Professional の場合は、「機能の選択」画面が表示されます。以下手順 1 から操作してください。
- Windows XP の場合は、「アプリケーションをインストールする準備」画面が表示されます。以下手順 2 から行ってください。

1. 「機能の選択」画面が表示されます。[ServerStart －リモートインストール] を「この機能を使用できないようにします」に設定して、[次へ] をクリックします。



2. 「アプリケーションをインストールする準備」画面が表示されます。CD の内容をコピーするかどうかを指定します。



「CD を使わずに HDD から事前設定を起動しますか？」で「はい」を選択すると、ServerStart CD-ROM がなくてもクライアントコンピュータで事前設定モードが起動できるようになります。
「はい」を選択した場合は、コピー先フォルダを指定してください。CD-ROM の内容をコピーするため、コピー先フォルダには十分な空き容量が必要です。

3. **［次へ］をクリックします。**
   インストールが実行されます。

POINT

- **インストールの前後に再起動のメッセージが表示された場合は、CD-ROM を取り出して、メッセージに従って再起動してください。再起動後、ServerStart CD-ROM をセットして再度インストールを開始してください。**
  再起動中に「このプログラムからの応答がありません。」とメッセージが表示された場合は、［終了］をクリックして再起動を続行してください。

インストールが終了すると、完了画面が表示されます。

6 ［終了］をクリックします。

以上でクライアントコンピュータへの ServerStart のインストールは完了です。

POINT

- Windows 2000 Professional ／ Windows XP 以外で ServerStart をインストールした場合は、CD-ROM の内容はコピーされません。ServerStart の起動時には ServerStart CD-ROM が必要になります。

3.3.1　事前設定モードの起動

事前設定モードを起動します。

1　ServerStart を起動します。

すでに ServerStart を起動している場合は、再起動の必要はありません。起動していない場合は、以下の手順に従って起動してください。

●Windows 2000 Professional ／ Windows XP で、CD の内容をコピーしている場合

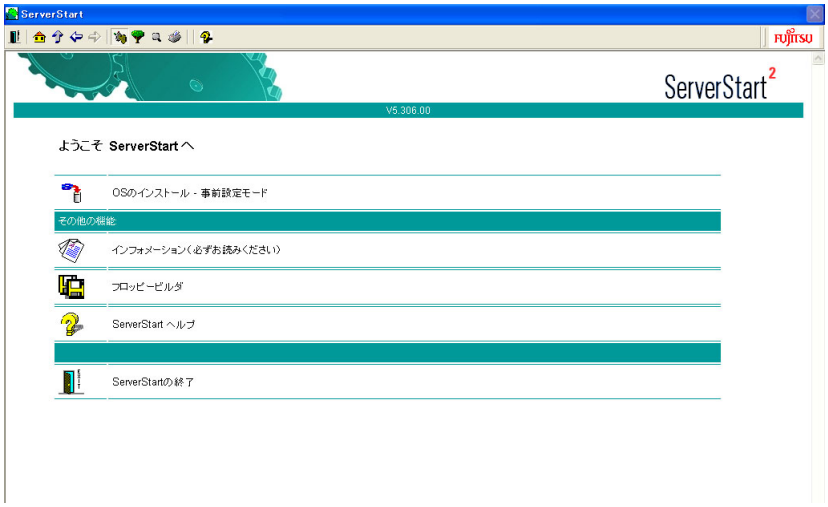
1.「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerStart」→「ServerStart」の順にクリックします。

ServerStart が起動し、「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。

●Windows 2000 Professional ／ Windows XP 以外の場合、および CD の内容をコピーしていない場合

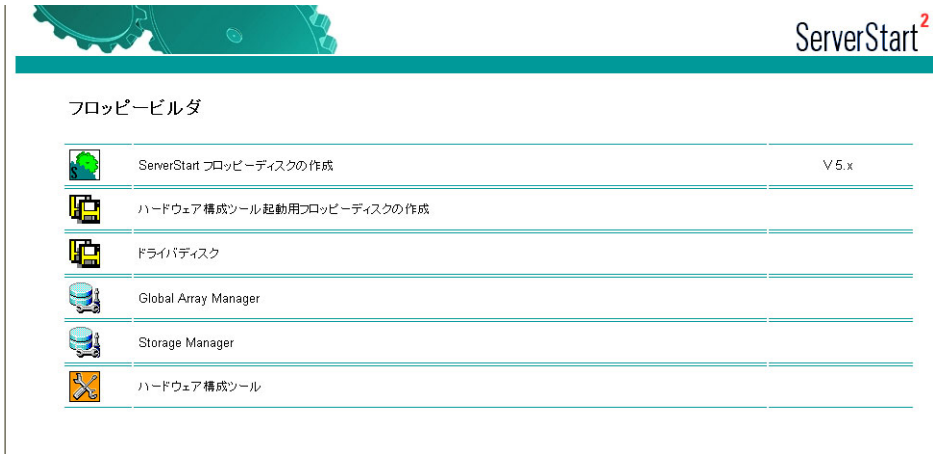
1. クラインアトコンピュータに ServerStart CD-ROM をセットします。

ServerStart が起動し、「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



2　［フロッピービルダ］をクリックします。

「フロッピービルダ」画面が表示されます。



3 ［ServerStart フロッピーディスクの作成］をクリックします。
フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

4 添付の ServerStart フロッピーディスクをセットして、［OK］をクリックします。
「フロッピーの内容を消去します。よろしいですか？」というメッセージが表示されます。

POINT

- ServerStart フロッピーディスクは、ライトプロテクトをしない状態でセットしてください。

5 ［はい］をクリックします。
ServerStart フロッピーディスクの作成が開始されます。作成が完了すると完了メッセージが表示されます。

6 ［OK］をクリックします。

7 ツールバーの［ (HOME)］をクリックします。
メイン画面に戻ります。

8 ［OS のインストール－事前設定モード］をクリックします。
「オペレーティングシステムのインストール」画面が表示されます。

重 要

- インストール開始前に、［インストールに関する留意事項］をクリックし、参照してください。ディスクの構成に関する制限事項など、重要な情報が記述されています。

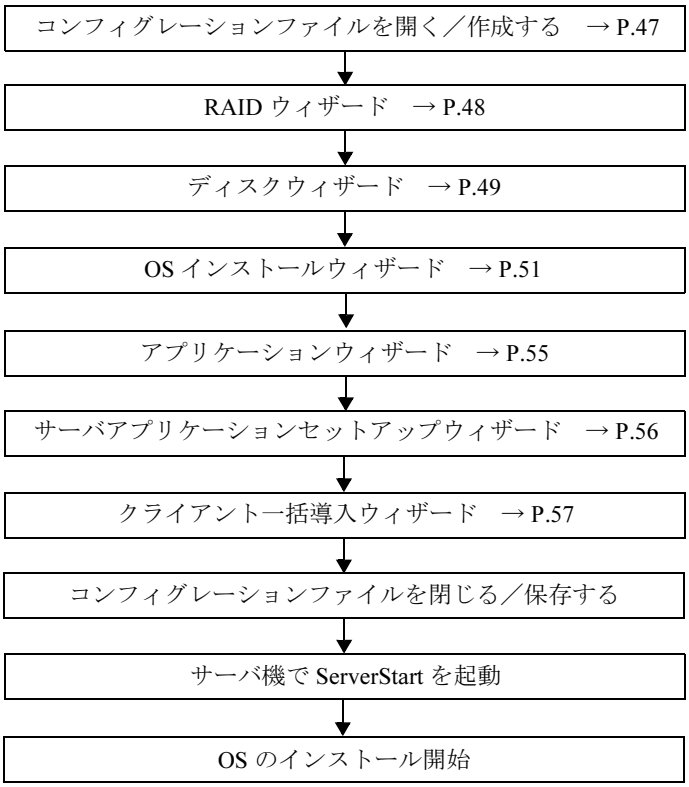
9 ［Microsoft Windows Operating System のインストール－事前設定モード］をクリックします。
「Microsoft Windows Operating System のインストール」画面が表示されます。

10 インストールする OS を選択します。

「事前設定インストール」画面が表示されます。

3.3.2 各ウィザードの設定を行う

以下の流れで、各ウィザードをクリックして設定を行ってください。設定方法については、ガイドモードの各ウィザード（「3.2.2 コンフィグレーションファイルを開く／作成する」（→ P.47）～「3.2.8 クライアント一括導入ウィザード」（→ P.57））を参照してください。
各ウィザードを終了すると、事前設定モード画面に戻ります。

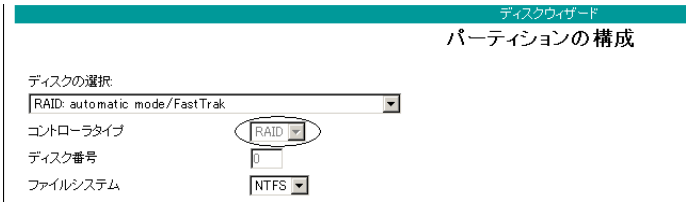


重要

- ウィザード起動中はツリーの操作を行わないでください。設定内容が破棄される場合があります。

POINT

- RAID 環境にインストールする場合
  RAID 環境にインストールを行う場合は、ディスクウィザードの「パーティション構成」画面で、パーティション作成先のコントローラタイプが「SCSI」になっています。そのままの状態でインストールを実行すると、パーティション作成時にエラーとなり、インストールが正しく行われません。RAID 構成のサーバにインストールする場合は、「コントローラタイプ」を「RAID」に設定してください。

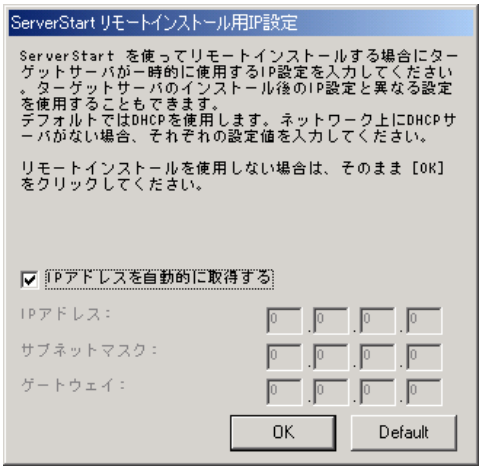


3.3.3　コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する

すべてのウィザードの設定が終了したら、コンフィグレーションファイルを保存します。

1　［コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する］をクリックします。
「ServerStart コンフィグレーションファイルの保存」画面が表示されます。

2　［保存］をクリックします。
「ServerStart リモートインストール用 IP 設定」画面が表示されます。



3　リモートインストールを行う場合は各項目を設定します。

4　［OK］をクリックします。
コンフィグレーションファイルが保存されます。

重要

- コンフィグレーションファイルの名前は任意に指定できますが、OS インストールが可能な名前は "SerStartBatch.ini" のみです。OS インストールを行う場合は、必ず ServerStart フロッピーディスクに "SerStartBatch.ini" の名前で保存してください。

3.3.4 OS のインストール開始

作成したコンフィグレーションファイルを使用して、サーバに OS をインストールします。インストール中は、インストール操作以外のマウスおよびキーボード操作は行わないでください。インストールに失敗する場合があります。

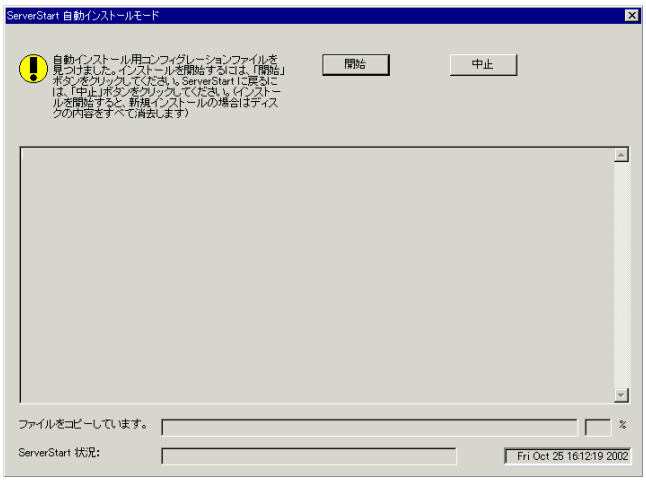
1 **サーバの電源を入れて、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。**
ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

2 **作成したコンフィグレーションファイルが保存されている ServerStart フロッピーディスクをセットして、［OK］をクリックします。**

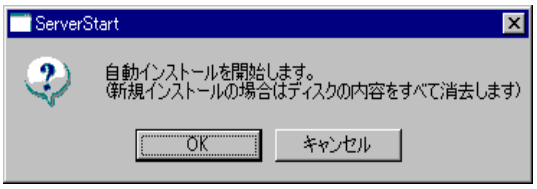
重要

- ServerStart フロッピーディスクは、ライトプロテクト状態にしないでセットしてください。ライトプロテクト状態の場合、インストールに失敗します。

「ServerStart 自動インストールモード」画面が表示されます。



3 **［開始］をクリックします。**
以下のメッセージが表示されます。



4 **［OK］をクリックします。**
インストールが開始されます。
・RAID を構築した場合は、システムが再起動されます。
・メンテナンス区画で使用する MS-DOS の使用許諾メッセージが表示された場合は［OK］をクリックします。

・Service Pack の CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、Service Pack の CD-ROM をセットし、［OK］をクリックします。
Service Pack を選択していない場合、または ServerStart に添付されている Service Pack を使用する場合は、メッセージは表示されません。
・ServerView の CD-ROM（PRIMERGY ドキュメント & ツール CD）をセットするようメッセージが表示されます。ServerView をインストールしない場合は、メッセージは表示されません。

5 PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD をセットして、［OK］をクリックします。

ファイルのコピーが行われ、終了後、ServerStart CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、ServerStart CD-ROM をセットして［OK］をクリックします。
OS の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

6 OS の CD-ROM をセットして、［OK］をクリックします。

ファイルのコピーが行われ、終了後、ServerStart CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

7 ServerStart CD-ROM をセットして、［OK］をクリックします。

ライセンス契約の画面が表示されます。

8 ［同意する］をクリックします。

ファイルのコピーが開始され、終了後、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出すようメッセージが表示されます。

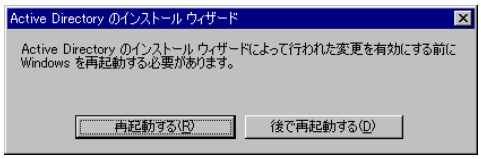
9 CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出し、［OK］をクリックします。

重 要

- BX300 で USB CD-ROM ドライブ（FMV-NRW52S）をお使いの場合は、再起動の前に FMV-NRW52S のインタフェースケーブル（USB ケーブル）を抜く必要があります。CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出したら、インタフェースケーブルを抜いて［OK］をクリックしてください。

システムが再起動します。
BX300 で USB CD-ROM ドライブ（FMV-NRW52S）のインタフェースケーブル（USB ケーブル）を抜いた場合は、再起動中に接続してください。
再起動後、インストール処理が続行されます。
自動で OS の GUI セットアップ、LAN ユーティリティのインストール、Service Pack のインストール、Active Directory のインストールが行われます。

10 再起動の確認メッセージが表示されたら、［再起動する］をクリックします。



再起動後、高信頼ツールのインストールが行われます。

11 サーバアプリケーションのインストールが行われます（オールインワンタイプのみ）。

設定したアプリケーションごとに、サーバアプリケーション画面が表示されます。

アプリケーションの CD-ROM をセットし、CD-ROM ドライブを指定して［OK］をクリックしてください。すべてのアプリケーションがインストールされたあと、CD-ROM ドライブの CD-ROM を取り出し、何かキーを押します。

12 RAID ユーティリティのインストールが行われます。

●Windows 2003 ／ Windows 2000 の場合

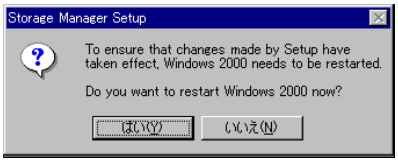
DPT Storage Manager のインストールは自動で行われます。MYLEX Global Array Manager Client については、手動でインストールを行います。インストール後に再起動を促すメッセージが表示されますが、［No, I will restart my computer later.］を選択して、［Finish］をクリックし、再起動しないでください。

●Windows NT の場合

DPT Storage Manager と、MYLEX Global Array Manager Client については、手動でインストールを行います。インストール後に再起動を促すメッセージが表示されますが、再起動しないでください。

・DPT Storage Manager の場合

以下のメッセージが表示されます。［いいえ］をクリックしてください。



・MYLEX Global Array Manager Client の場合

［No, I will restart my computer later.］を選択し、［Finish］をクリックします。

13 インストール OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、以下の操作を行います。

1. **パスワード設定の画面が表示されます。管理者用パスワードを半角 14 文字以内で入力し、［OK］をクリックします。**
   パスワードは必ず設定してください。ただし、Windows NT Server 4.0 をバックアップドメインコントローラとしてインストールした場合は、パスワード設定画面は表示されません。
2. **「修復ディスクユーティリティ」画面が表示されます。**
   修復ディスクの作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚必要です。
3. **フロッピーディスクをセットして、［修復ディスクの作成］をクリックします。**
   以降、画面の指示に従って操作してください。

POINT

- 万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスクに保存した情報により、再構築できます。

14 インストール完了のメッセージが表示されたら、何かキーを押します。

15 システムを再起動します。

「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択して［OK］をクリックします。
システムが再起動します。

これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。
サーバの運用を開始する前に「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。

3.4　エキスパートモード

エキスパートモードでは、ウィザードを使用せず、ディスク構成ツールや RAID 構成ツールなどを起動してハードウェアの構成を行い、インストールを行います。

重 要

- Windows NT をインストールする場合、エキスパートモードではメンテナンス区画を作成してインストールすることはできません。メンテナンス区画を作成してインストールする場合は、「3.6 メンテナンス区画を作成してインストールする（Windows NT Server 4.0）」（→ P.103）を参照してインストールを行ってください。

3.4.1　エキスパートモードの起動

エキスパートモードを起動します。

1 サーバの電源を入れ、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。
ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

2 添付の ServerStart フロッピーディスクをセットして、［作成］をクリックします。
「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。

POINT

- ServerStart フロッピーディスクは、ライトプロテクトをしない状態でセットしてください。

3 ［ServerStart フロッピーディスクを作成する］をクリックします。
「フロッピーディスクの内容を消去します。よろしいですか？」というメッセージが表示されます。

4 ［はい］をクリックします。
ServerStart フロッピーディスクの作成が開始されます。作成が完了すると、メッセージが表示されます。

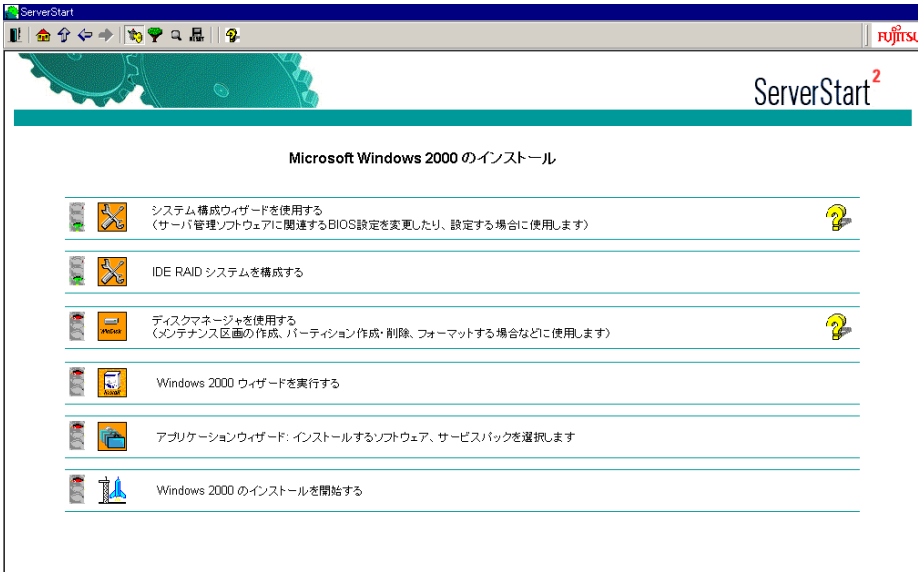
5 ［OK］をクリックします。
「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。

6 ［オペレーティングシステムのインストール］をクリックします。
「オペレーティングシステムのインストール」画面が表示されます。
［インストールに関する留意事項］をクリックし、必ず内容を確認してください。ディスクの構成に関する制限事項など、重要な情報が記述されています。

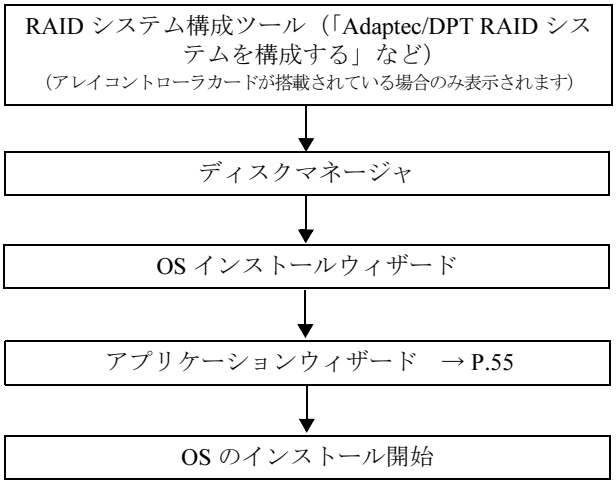
7 ［Microsoft Windows Operating System のインストール］をクリックします。
「Microsoft Windows Operating System のインストール」画面が表示されます。

8 インストールする OS を選択します。

9 ［(OS) のインストールーエキスパートモード］をクリックします。
エキスパートモードが起動します。



以下の流れで、各設定ツールを起動して設定を行ってください。各ツールでの設定終了後、エキスパートモード画面に戻ります。



POINT

- エキスパートモードには、ハードウェア構成を行う際に、構成ツールの起動の順番を制御することができる「ガイダンス機能」があります。ガイダンス機能が有効になっていると、ディスクの構成が完了していないと OS のインストールを開始できないなどの制御ができます。ガイダンス機能の ON ／ OFF は、ServerStart ナビゲーションバーの［自動ガイド］アイコンをクリックして指定します。
- ガイダンス機能が有効になっていると、構成ツールを起動できる場合は、信号アイコンが青色になります。赤色の場合は、構成ツールを起動できません。

重要

- システム構成ウィザードについて
  通常は、システム構成ウィザードの設定内容を変更する必要はありません。設定内容を変更した場合、システムが起動しなくなることがあります。指示がない場合は［システム構成ウィザードを使用する］をクリックして起動しないでください。

3.4.2 RAID システム構成ツール

RAID の構築を行います。

POINT

- 搭載しているアレイコントローラカードによってタイトル名が異なります。ここでは、PG-140C カードを搭載した場合を例に説明します。
- 各項目の詳細については、各 RAID 管理ツールのヘルプを参照してください。
- RAID 構成ツールおよびヘルプは、英語表記です。

1. ［Adaptec/DPT RAID システムを構築する］をクリックします。
   「Adaptec Storage Manager － MIMINT-JVS」が表示されます。
2. RAID 構成を設定します。
   RAID 構成の設定方法は、ヘルプを参照してください。
3. 「FILE」メニューから「Exit Adaptec Storage Manager」を選択して、［OK］をクリックします。
   「Adaptec Storage Manager － MIMINT-JVS」が終了し、再起動の確認画面が表示されます。
4. ［はい］をクリックして再起動します。
   再起動後、再度エキスパートモードを起動してください。

3.4.3 ディスクマネージャ

ディスクマネージャを起動して、メンテナンス区画（Global Flash パーティション）の作成と、パーティションの作成／フォーマットを行います。

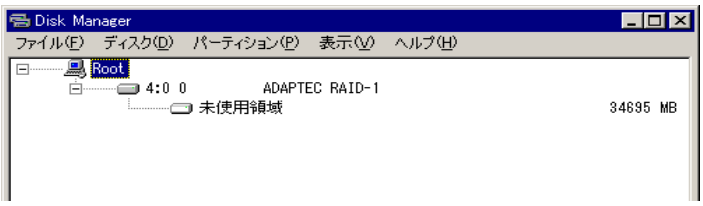
重要

- RAID システム構成ツールで RAID 構築を行っても、ディスクマネージャを起動した時に、以前のパーティション情報が残っている場合があります。この場合、ディスクのすべてのパーティションを削除し、新しくパーティションを作成し直してください。
- すでに Windows Server 2003／Windows 2000 Server を NTFS パーティションにインストールしている環境に、Windows NT Server 4.0 をインストールすることはできません。パーティションをすべて削除してから、インストールしてください。
- Windows NT Server 4.0 を ServerStart を使用してエキスパートモードでインストールする場合は、メンテナンス区画を作成せずに、必ず先頭のパーティションにインストールしてください。この場合、インストール先パーティションを C ドライブとし、FAT でフォーマットしてください。
  NTFS にする場合は、「Windows NT インストールウィザード」の「インストール先ディレクトリとタイムゾーン」画面で［ファイルシステムを NTFS へ変換する］にチェックを付けてください。
- リモート接続によるサポートサービス（SupportDesk Product サービスの標準機能）のオプション機能（ファームウェア自動アップデートサービス）を利用する場合は、ベーシックディスク構成の起動ディスク上にメンテナンス区画が必要です。
  BX300 の場合はメンテナンス区画は必要ありませんので、メンテナンス区画の作成は行わないでください。
- インストール完了後に起動ディスクをダイナミックディスクに変換する場合、ファームウェア自動アップデートサービスはご利用になれません。

■ ディスクマネージャの起動

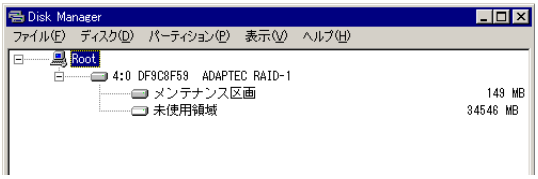
1 ［ディスクマネージャを使用する］をクリックします。
以下のダイアログが表示されます。表示内容はインストールする OS によって異なります。

2 内容を確認後、［OK］をクリックします。
ディスクマネージャが起動します。



● メンテナンス区画を作成する

1 ディスクを選択して「パーティション」メニュー→「作成」→「メンテナンス区画」の順にクリックします。
メンテナンス区画が作成されます。



重要

- メンテナンス区画を作成する場合、起動ディスク（アクティブパーティションを作成するディスク）に存在するすべてのパーティションを削除してください。

● パーティションを作成／フォーマットする

1 パーティションを作成するディスクの「未使用領域」を選択して「パーティション」メニュー→「作成」→「プライマリパーティション」の順にクリックします。
「パーティション作成」画面が表示されます。

2 「パーティションサイズの設定」に作成する値を入力して［作成］をクリックします。
設定可能なパーティションには制限があります。詳細については「2.3.2 インストール先パーティションサイズについて」（→ P.29）を参照して確認してください。
パーティションが作成されます。

3 作成したパーティションを選択して「パーティション」メニュー→「フォーマット」の順にクリックします。
「パーティションのフォーマット」画面が表示されます。

4 各項目を設定して、［OK］をクリックします。
パーティションがフォーマットされます。

重要

- アクティブパーティションは、必ず C ドライブに設定してください。
- 4096MB 以上のパーティションを FAT でフォーマットすることはできません。
- Windows NT Server 4.0 の場合、パーティションを NTFS でフォーマットすることはできません。データパーティションとして NTFS パーティションを作成する場合は、インストール後にディスクアドミニストレータで作成してください。

POINT

- ここで指定されたドライブ文字は、インストール終了後には先頭のパーティションから順に「C、D、E...」と割り当てられ、最後に使用されていないドライブ文字が CD-ROM 装置に割り当てられます。ドライブ文字を変更したい場合は、「4.4.6 エキスパートモードでのドライブ文字割り当てについて」（→ P.141）を参照してインストール後に設定してください。

● パーティションを削除する

1 削除するパーティションを選択して、「パーティション」メニュー→「削除」の順にクリックします。
パーティションが削除されます。

● 構成情報を削除する

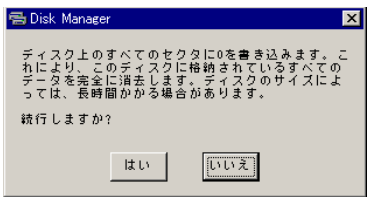
ディスクの構成情報のみを消去する場合は、以下の操作を行います。

1 ディスクを選択して、「ディスク」メニュー→「構成情報のみを消去」の順にクリックします。
構成情報が消去されます。

● ディスク上の全セクタを消去する

ディスク上のすべてのデータを完全に消去する場合は、以下の操作を行います。ディスクのサイズによっては終了するまでに時間がかかる場合があります。

1 ディスクを選択して、「ディスク」メニュー→「ディスク上の全セクタを消去」の順にクリックします。
以下のメッセージが表示されます。



2 続行する場合は、［はい］をクリックします。
ディスク上の全セクタが消去されます。

● MBR（Master Boot Record）を上書きする

すべてのパーティションの設定が終了したら、MBR を上書きする必要があります。

1 ディスクを選択して、「ディスク」メニュー→「MBR 上書き」の順にクリックします。

MBR が上書きされます。

■ ディスクマネージャの終了

すべての操作が終了したら、ディスクマネージャを終了します。

1 「ファイル」メニュー→「終了」の順にクリックします。

ディスクマネージャが終了し、エキスパートモード画面に戻ります。

3.4.4 OS インストールウィザード

コンピュータ情報や、ユーザ情報、ネットワークプロトコルなどの設定を行います。
ServerStart では、いくつかのネットワークパターンを構築できます。ドメインコントローラを構成する場合は、「付録 A.4 ネットワークパターン別設定方法」（→ P.270）を参照してください。

POINT

- インストールする OS により設定画面が異なります。ここでは、Windows 2000 Server を例に説明します。

1 ［Windows 2000 ウィザードを実行する］をクリックします。

コンフィグレーションファイルを指定するメッセージが表示されます。

2 ［いいえ］をクリックします。

「Windows 2000 のインストール」画面が表示されます。

3 「Administrator のパスワード」を入力して、［次へ］をクリックします。

「コンピュータ識別情報」画面が表示されます。

4 各項目を設定して、［次へ］をクリックします。

「タイムゾーンとインストール先ドライブ」画面が表示されます。

POINT

- Windows NT Server 4.0 をインストールする場合
  ファイルシステムを NTFS にする場合は、「ファイルシステムを NTFS へ変換する」にチェックを付けます。

5 各項目を設定して、［次へ］をクリックします。
「ユーザ情報」画面が表示されます。

6 各項目を設定して、［次へ］をクリックします。
「画面の設定」画面が表示されます。

7 各項目を設定して、［次へ］をクリックします。
「ネットワークプロトコル」画面が表示されます。

重要

- インストールする OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、「手動でネットワークの設定を行う」にチェックを付けると、LAN ドライバのインストールや IIS の設定も手動で行う必要があります。

8 各項目を設定して、［次へ］をクリックします。
「ソフトウェアコンポーネント」画面が表示されます。

9 各項目を設定して、［次へ］をクリックします。
「サービス」画面が表示されます。

10 各項目を設定して、［ウィザード終了］をクリックします。
エキスパートモードの画面に戻ります。

3.4.5　アプリケーションウィザード

クライアントセットアップのための WizardConsole や、高信頼ツールのインストールを設定します。
アプリケーションウィザードの詳細については、「3.2.6 アプリケーションウィザード」（→ P.55）を参照してください。

3.4.6　OS のインストール開始

OS をインストールします。

重要

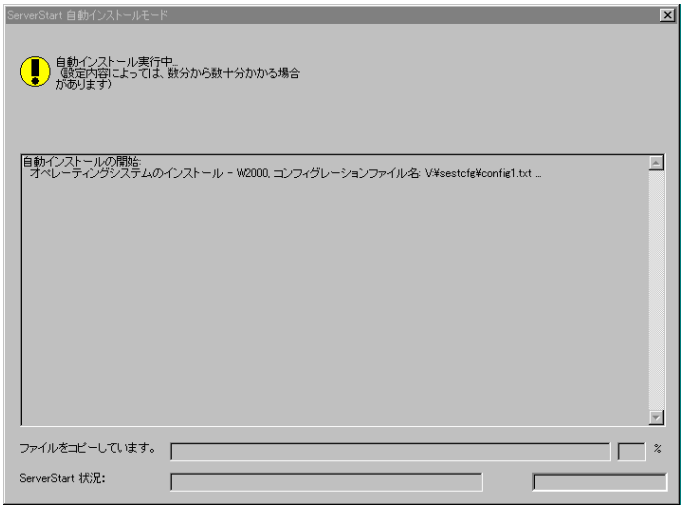
- インストール用のパーティションが空きパーティションでない場合は、確認メッセージが表示されます。問題がない場合は、［OK］をクリックしてインストールを続行してください。
- インストール中、あらかじめ設定した内容（CD キーなど）に誤りがあるとエラー画面が表示されます。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。ただし、ここで修正した内容はコンフィグレーションファイルには反映されません。

1 ［Windows 2000 のインストールを開始する］をクリックします。
現在の設定を保存するかどうかの確認画面が表示されます。

2 ［はい］をクリックします。
以下の画面が表示されます。

3 ファイル名を入力して、［保存］をクリックします。
・メンテナンス区画を作成した場合
MS-DOS の使用許諾メッセージが表示されます。
1. ［OK］をクリックします。
メンテナンス区画が作成され、「メンテナンス区画を作成しました。」というメッセージが表示されます。
2. ［OK］をクリックします。

4 自動的にインストールが開始されます。



・Service Pack の CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、［OK］をクリックします。
Service Pack を選択していない場合、または ServerStart に添付されている Service Pack を使用する場合は、メッセージは表示されません。
・ServerView の CD-ROM（PRIMERGY ドキュメント & ツール CD）をセットするようメッセージが表示されます。ServerView をインストールしない場合は、メッセージは表示されません。

5 PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD をセットして、［OK］をクリックします。

ファイルのコピーが行われ、終了後、ServerStart CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、ServerStart CD-ROM をセットして［OK］をクリックします。OS の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

6 OS の CD-ROM をセットして、［OK］をクリックします。

ファイルのコピーが行われ、終了後、ServerStart CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

7 ServerStart CD-ROM をセットして、［OK］をクリックします。

ライセンス契約の画面が表示されます。

8 ［同意する］をクリックします。

ファイルのコピーが開始され、終了後、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出すようメッセージが表示されます。

9 CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出し、［OK］をクリックします。

重 要

- BX300 で USB CD-ROM ドライブ（FMV-NRW52S）をお使いの場合は、再起動の前に FMV-NRW52S のインタフェースケーブル（USB ケーブル）を抜く必要があります。CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出したら、インタフェースケーブルを抜いて［OK］をクリックしてください。

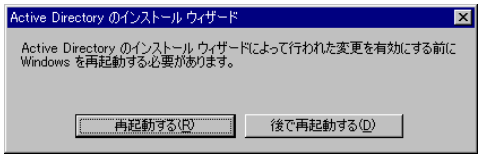
システムが再起動します。

BX300 で USB CD-ROM ドライブ（FMV-NRW52S）のインタフェースケーブル（USB ケーブル）を抜いた場合は、再起動中に接続してください。

再起動後、インストール処理が続行されます。

自動で OS の GUI セットアップ、LAN ユーティリティのインストール、Service Pack のインストール、Active Directory のインストールが行われます。

10 再起動の確認メッセージが表示されたら、［再起動する］をクリックします。



再起動後、高信頼ツールのインストールが行われます。

11 RAID ユーティリティのインストールが行われます。

●Windows 2003 ／ Windows 2000 の場合

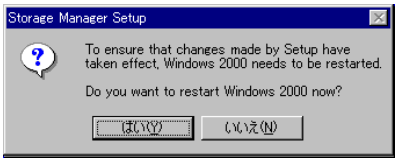
DPT Storage Manager のインストールは自動で行われます。MYLEX Global Array Manager Client については、手動でインストールを行います。インストール後に再起動を促すメッセージが表示されますが、［No, I will restart my computer later.］を選択して、［Finish］をクリックし、再起動しないでください。

●Windows NT の場合

DPT Storage Manager と、MYLEX Global Array Manager Client については、手動でインストールを行います。インストール後に再起動を促すメッセージが表示されますが、再起動しないでください。

・DPT Storage Manager の場合

以下のメッセージが表示されます。［いいえ］をクリックしてください。



・MYLEX Global Array Manager Client の場合

［No, I will restart my computer later.］を選択し、［Finish］をクリックします。

12　インストール OS が Windows NT の場合は、以下の操作を行います。

1. **パスワード設定の画面が表示されます。管理者用パスワードを半角 14 文字以内で入力し、［OK］をクリックします。**
   パスワードは必ず設定してください。ただし、Windows NT Server 4.0 をバックアップドメインコントローラとしてインストールした場合は、パスワード設定画面は表示されません。
2. **「修復ディスクユーティリティ」画面が表示されます。**
   修復ディスクの作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚必要です。
3. **フロッピーディスクをセットして、［修復ディスクの作成］をクリックします。**
   以降、画面の指示に従って操作してください。

POINT

- **万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスクに保存した情報により、再構築できます。**

13　インストール完了のメッセージが表示されたら、何かキーを押します。

14　システムを再起動します。

「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択して［OK］をクリックします。
システムが再起動します。

これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。
サーバの運用を開始する前に「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。

3.5　リモートインストール

ServerStart を使用したインストール方法では、リモートによるインストール方法をサポートしています。

重要

- リモートインストールを行う場合は、オンラインヘルプの「リモートインストールにおける注意事項」を必ず参照して、内容を確認しておいてください。
- PXE サーバを利用した OS インストールタイプの開封は行えません。

3.5.1　リモートインストールの概要

リモートインストールとは、OS や Service Pack などのインストールに必要なリソースを、ネットワーク上の別のサーバに格納し、ネットワークを経由してインストールを行う方法です。リモートリソースサーバが構築されていれば、同じリソースを複数台のサーバにインストールすることができます。複数台のサーバを構築する場合などに便利です。

● ターゲットサーバとリモートリソースサーバ／ PXE サーバ

インストールを行うサーバを「ターゲットサーバ」と呼びます。リモートインストールに必要なリソースを格納するサーバを「リモートリソースサーバ」と呼びます。また、ネットワーク起動（PXE）により、ターゲットサーバを起動する機能を持ったサーバを「PXE サーバ」と呼びます。

■ リモートインストールできる OS 種別

リモートインストールでは、インストールする方法によってインストールできる OS が異なります。

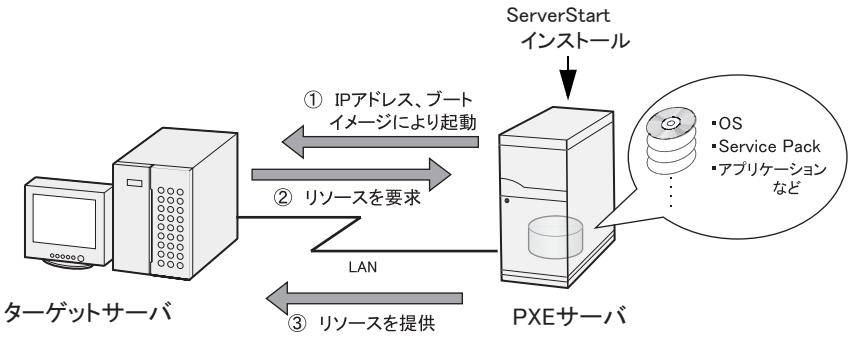
インストール方法	インストール可能 OS
PXE サーバ利用時	Windows Server 2003 Windows 2000 Server
リモートリソースサーバ利用時	Windows Server 2003 Windows 2000 Server Windows NT Server 4.0

■ インストール方法

リモートインストールには、PXE サーバを使ったリモートインストールと、リモートリソースサーバを使ったリモートインストールがあります。

● PXE サーバを使ったリモートインストール

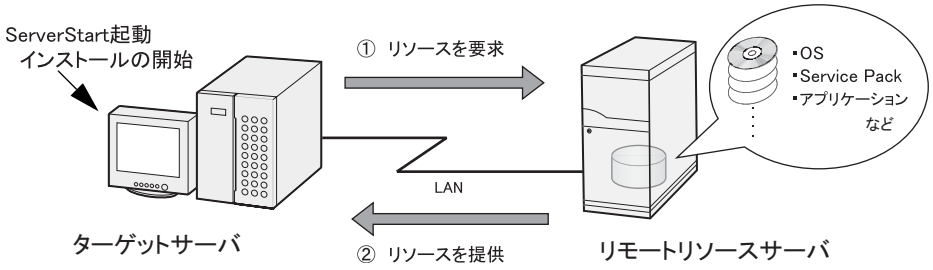
PXE サーバを使ったリモートインストールでは、PXE サーバのネットワーク起動（PXE）によりターゲットサーバを起動して、事前設定モードでインストールを行います。ターゲットサーバに CD-ROM ドライブ、フロッピーディスクドライブがない場合は、この方法でインストールを行います。



PXE サーバを使ったリモートインストールでは、PXE サーバのほかに、リモートリソースを格納する「リモートリソースサーバ」と DHCP サービスを行う「DHCP サーバ」が必要です。サーバが 1 台しかない場合は、PXE サーバにリモートリソースを格納して DHCP サービスをインストールしてください。複数台のサーバがあるときは、DHCP サービスを行うサーバ、リモートリソースを格納するサーバをそれぞれ決定してください。

● リモートリソースサーバを使ったリモートインストール

リモートリソースサーバを使ったリモートインストールでは、ターゲットサーバで ServerStart を起動します。インストール開始までの操作は通常のインストール方法（事前設定モード、ガイドモード、エキスパートモード）と同じです。インストール開始後は、リモートリソースサーバからインストールに必要なリソースが提供されるため、CD-ROM をセットするなどの操作は必要ありません。



3.5.2　リモートリソースサーバ／ PXE サーバのシステム要件

リモートインストールはネットワーク経由でインストールを行うため、導入環境に少なくとも1 台以上の Windows サーバとローカルエリアネットワークが必要です。
また、以下の環境が必要です。

■ リモートリソースサーバ／ PXE サーバの条件

	PXE サーバ	リモートリソースサーバ
動作 OS	Windows 2000 Server SP2 以降	Windows Server 2003 Windows 2000 Server Windows NT Server 4.0
メモリ	256MB 以上	
動作環境	・DHCP サーバ機能（同一ネットワーク上に必要） ・ファイル共有機能（必須）	・ファイル共有機能（必須）

重要

- すでに SystemcastWizard ／ SystemcastWizard Professional、クイックリカバリマネージャ、Microsoft RIS 機能などの PXE 機能を持つソフトウェアがインストールされているサーバを、PXE サーバとして利用することはできません。

■ サーバ空き容量の確認

リモートリソースサーバ／ PXE サーバとなるサーバを決定し、リソース格納に必要な空き容量が十分にあるかどうかを確認します。

● サーバの台数の確認

- サーバが一台のみの場合は、そのサーバをリモートリソースサーバ／ PXE サーバとします。必要な空き容量を確認してください。
- サーバが複数存在する場合
  - ・DHCP サービスを行っているサーバが存在するか、確認します。存在しない場合は、DHCP サービスを行うサーバを決めます。
  - ・リソースが複数ある場合は、複数のリモートリソースサーバに、格納するリソースを分散できます。

● サーバ空き容量の確認

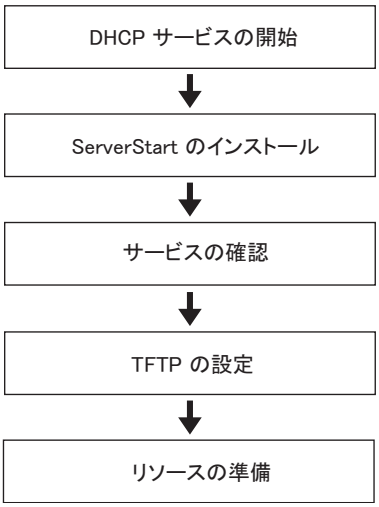
各インストールリソースごとに必要な容量は以下のとおりです。

リソース	必要容量（MB）
ServerStart	約 650
Windows Server 2003	644
Windows 2000 Advanced Server with SP2	486
Windows 2000 Server	472
Windows 2000 Service Pack 3	415
Windows NT Server 4.0	780
Windows NT Server 4.0 SP6a	976

必要なリソースの合計を算出し、十分な空き容量（必要容量以上の容量）が、リモートリソースサーバ／ PXE サーバに存在することを確認します。空き容量が足りない場合は、リモートリソースサーバの台数を増やす必要があります。

3.5.3 PXE サーバの準備（PXE サーバ使用時のみ）

PXE サーバを使用してリモートインストールを行う場合は、PXE サーバに ServerStart をインストールするなどの準備が必要です。
以下の流れで PXE サーバの準備を行ってください。



■ DHCP サービスの開始

同一ネットワーク上に DHCP サービスが動作していることを確認します。
DHCP サービス機能がインストールされていない場合は、以下の方法で DHCP サービスをインストールします（Windows 2000 Server の場合）。

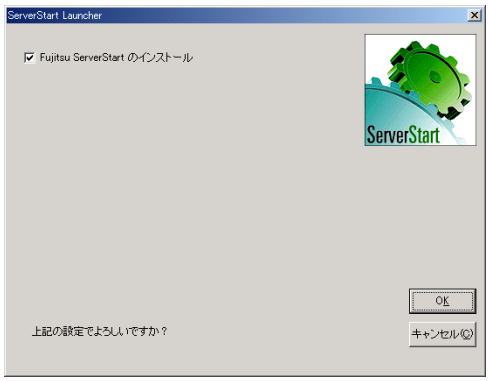
1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
2. ［アプリケーションの追加と削除］アイコンをダブルクリックします。
3. ［Windows コンポーネントの追加と削除］タブをクリックし、［ネットワークサービス］から［動的ホスト構成プロトコル（DHCP）］サービスをクリックします。
   DHCP サービスがインストールされます。
4. DHCP スコープを作成し、IP アドレスを配布できるように設定します。

■ ServerStart のインストール

1 PXE サーバに ServerStart CD-ROM をセットします。

「ServerStart Launcher」画面が表示されます。

「ServerStart Launcher」画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の "Launcher.exe" を実行してください。



2 チェックボックスにチェックが付いていることを確認して、[OK] をクリックします。

Windows インストーラが起動し、セットアップ画面が表示されます。

3 [次へ] をクリックします。

「ライセンス契約」画面が表示されます。

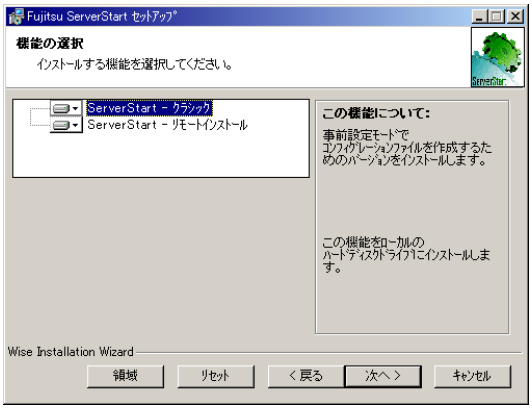
4 「ライセンス契約に同意します」を選択して、[次へ] をクリックします。

「インストール先フォルダ」画面が表示されます。

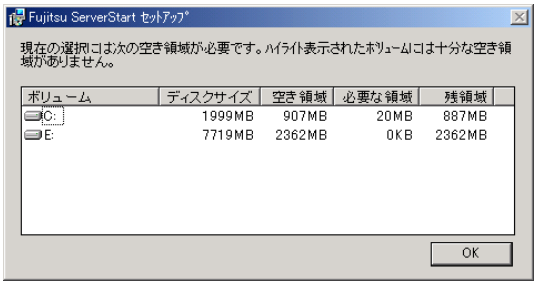
5 インストール先フォルダを選択して、[次へ] をクリックします。

インストール先フォルダを変更する場合は、[参照] をクリックして変更してください。

「機能の選択」画面が表示されます。

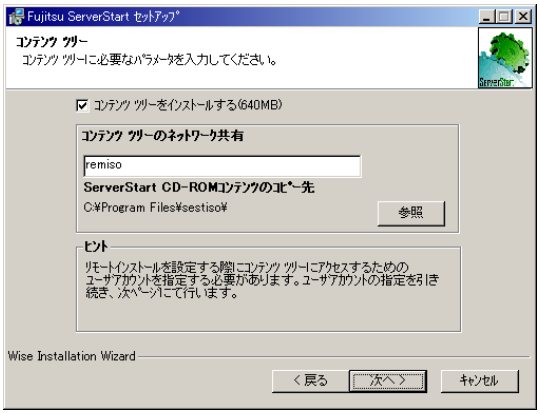


［領域］をクリックすると、以下の画面が表示され、空き容量が確認できます。



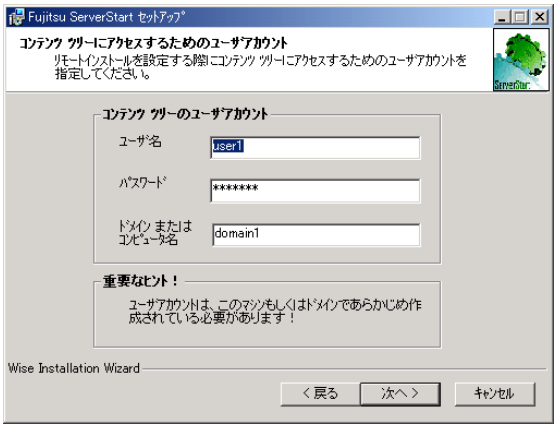
6　［次へ］をクリックします。

「コンテンツツリー」画面が表示されます。



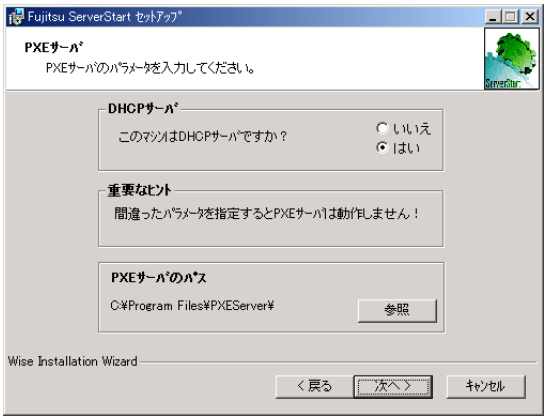
7　ネットワーク起動（PXE）に必要な ServerStart イメージの設定を行い、［次へ］をクリックします。

「コンテンツツリーにアクセスするためのユーザアカウント」画面が表示されます。



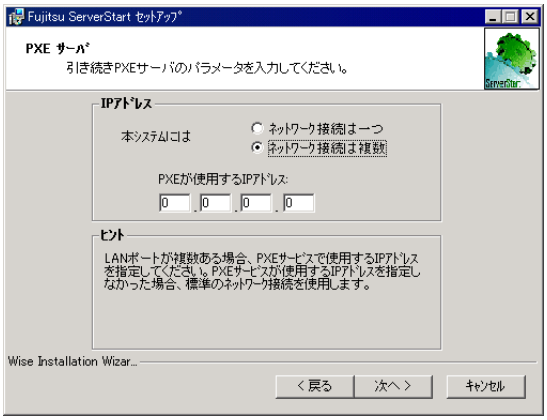
8 コンテンツツリーのユーザアカウントを指定して、[次へ] をクリックします。

「PXE サーバ」画面が表示されます。



9 PXE サーバで DHCP サービスが行われている場合は「はい」を、DHCP サーバと PXE サーバが別々に構築されている場合は「いいえ」を選択して、[次へ] をクリックします。

「PXE サーバ」画面が表示されます。



10 LAN ポートが複数ある場合は、PXE サービスで使用する IP アドレスを指定して [次へ] をクリックします。

「重要なヒント」画面が表示されます。

11 [次へ] をクリックします。

「アプリケーションをインストールする準備」画面が表示されます。

12 [Readme を表示する] をクリックします。

「Readme」画面が表示されます。内容をよくお読みになり、読み終えたら画面右上の [×] をクリックして「Readme」画面を終了します。

13 ［次へ］をクリックします。
イメージファイルのコピーが行われます。
イメージファイルのコピーには、10 ～ 20 分程度かかります。

インストール完了画面が表示されたら、インストールは終了です。

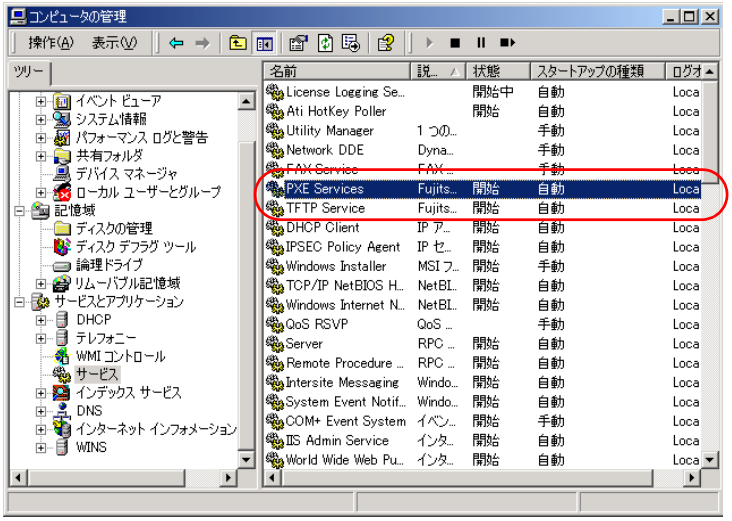
14 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択して［OK］をクリックします。
システムが再起動します。

■ サービスの確認

●［PXE Services］と［TFTP Service］の確認

1 ［マイコンピュータ］アイコンを右クリックして、［管理］をクリックします。

2 ［サービスとアプリケーション］から［サービス］を選択します。
「サービス」の一覧で 「PXE Services」および「TFTP Service」がインストールされ、開始されていることを確認します。

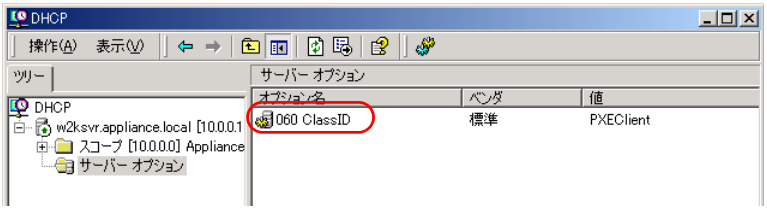


● DHCP サービスの確認

PXE サーバで DHCP サービスを行っている場合のみ、以下の確認を行ってください。

1. PXE サーバで、「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→［DHCP］の順にクリックし、DHCP 管理ツールを起動します。

2. ［サーバオプション］をクリックし、「060 ClassID」のサーバオプションが追加されていることを確認します。



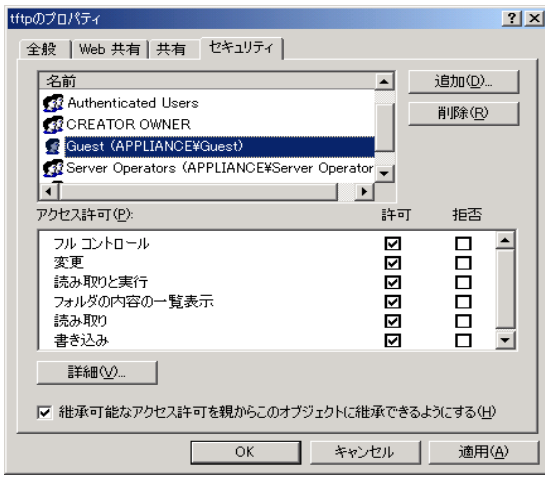
■ TFTP の設定

TFTP は、認証の必要がない FTP サービス機能で、リモートインストールでは TFTP サービスを利用して、起動に必要なブートイメージを配布します。
ネットワーク起動（PXE）経由でイメージを取得するため、TFTP のパスにフルコントロールのアクセス権を設定します。

1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エクスプローラ」の順にクリックし、TFTP パス（デフォルトの場合 C:¥Program Files¥Fujitsu Siemens¥DeploymentService¥tftp）に移動します。

2. TFTP フォルダを右クリックし、［プロパティ］をクリックします。

3. ［セキュリティ］タブをクリックし、Guest アカウントを追加してフルコントロール権限を設定します。



これで PXE サーバの準備は完了です。
続いて「3.5.4 リモートリソースの準備」（→ P.96）を行ってください。

3.5.4　リモートリソースの準備

重 要

- リモートリソースサーバ／ PXE サーバでは、リソースの共有などを行うため、必ず管理者アカウントでログオンしてください。

インストールを開始する前に、あらかじめリモートリソースサーバ（PXE サーバ）に、インストールするリソースを格納しておきます。

1　**インストールに必要なリソースを準備します。**

・インストールする OS の CD-ROM
・インストールする OS の Service Pack CD-ROM
・ServerStart フロッピーディスク
・PRIMERGY ドキュメント & ツール CD （ServerView をインストールする場合）
など

2　**リソースを格納する共有フォルダを作成します。**

共有フォルダは、手順 1 で準備した CD ごとに作成してください。
例）Windows 2000 Server の場合
E:¥W2KSv

3　**リソースの展開**

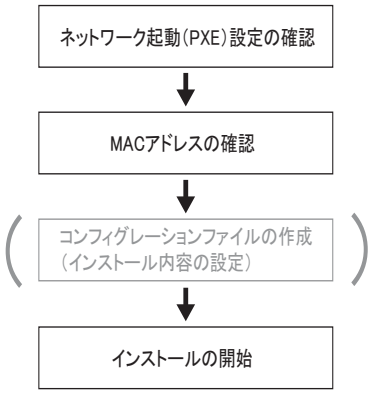
エクスプローラなどで、共有フォルダにリソースとなる CD-ROM の内容をコピーします。

重 要

- Windows NT 4.0 Service Pack 6a をリソースとして準備する場合は、Windows NT 4.0 Service Pack 6a Disc1 および Disc2 は同じフォルダへ上書きコピーしてください。インストール設定時の「アプリケーションウィザード」の「リモートソースパス」には、コピーしたフォルダを指定してください。

3.5.5 PXE サーバを使ったリモートインストールの開始

PXE サーバを使ったリモートインストールは、以下の流れで行います。



■ ネットワーク起動（PXE）設定の確認

PXE サーバによるリモートインストールは、オンボード LAN を経由して行います。ターゲットサーバをネットワーク起動（PXE）を有効な状態に設定しておいてください。
ネットワーク起動について、詳しくはターゲットサーバに添付の『ハードウェアガイド 第 7 章 技術情報』を参照してください。

■ オンボード LAN の MAC アドレス確認

リモートインストールでは、ターゲットサーバを MAC アドレスで識別し、インストールを行います。MAC アドレスは LAN カード固有の情報なので、ターゲットサーバごとに確認する必要があります。確認したオンボード LAN の MAC アドレスは、忘れないように紙などに書き留めておいてください。オンボード LAN の MAC アドレスの確認方法は、サーバの機種によって異なります。詳細は、『ハードウェアガイド 第 7 章 技術情報』を参照してください。

■ コンフィグレーションファイルの作成

あらかじめクライアントコンピュータでコンフィグレーションファイルを作成しておくこともできます。操作方法については、「3.3.1 事前設定モードの起動」（→ P.67）、「3.3.2 各ウィザードの設定を行う」（→ P.70）を参照してください。
PXE サーバ上でコンフィグレーションファイルを作成する場合は、インストールを開始してください。

POINT

- インストール元情報として、ローカル CD-ROM の代わりに準備した共有名を指定します。

■ インストールの開始

1 PXE サーバで ServerStart を起動します。

すでに ServerStart を起動している場合は、再度起動する必要はありません。起動していない場合は、以下の手順で起動してください。

「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerStart」→「ServerStart」の順にクリックします。

「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。

2 [OS のインストール－事前設定モード] をクリックします。

「オペレーティングシステムのインストール」画面が表示されます。

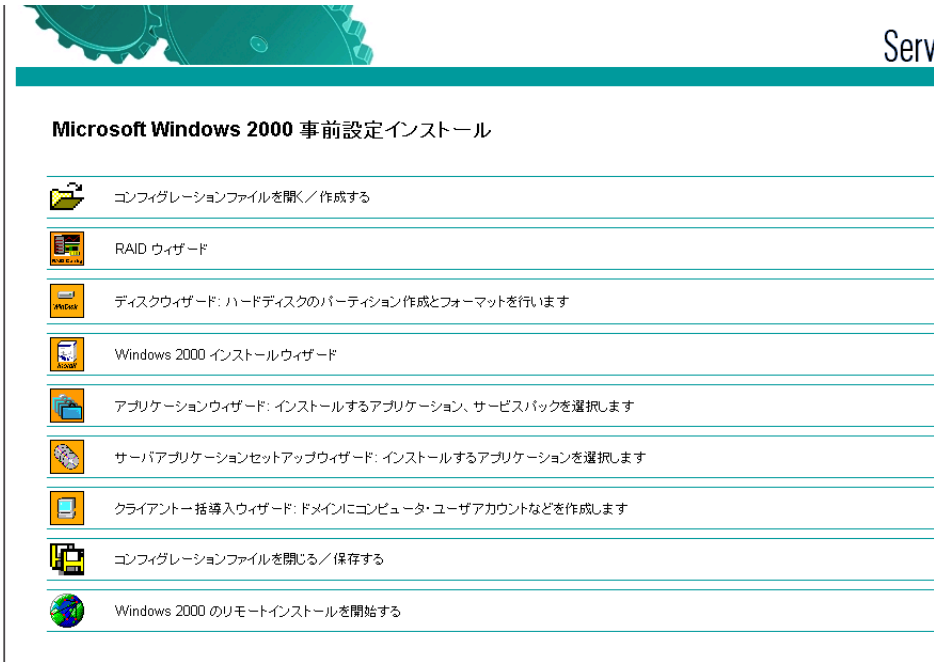
3 [Microsoft Windows Operating System のインストール－事前設定モード] をクリックします。

「Microsoft Windows Operating System のインストール」画面が表示されます。

4 インストールする OS をクリックします。

「事前設定インストール」画面が表示されます。

すでにコンフィグレーションファイルを作成済みの場合は、手順 6 へ進みます。



5 各ウィザードの設定を行い、コンフィグレーションファイルを作成します。

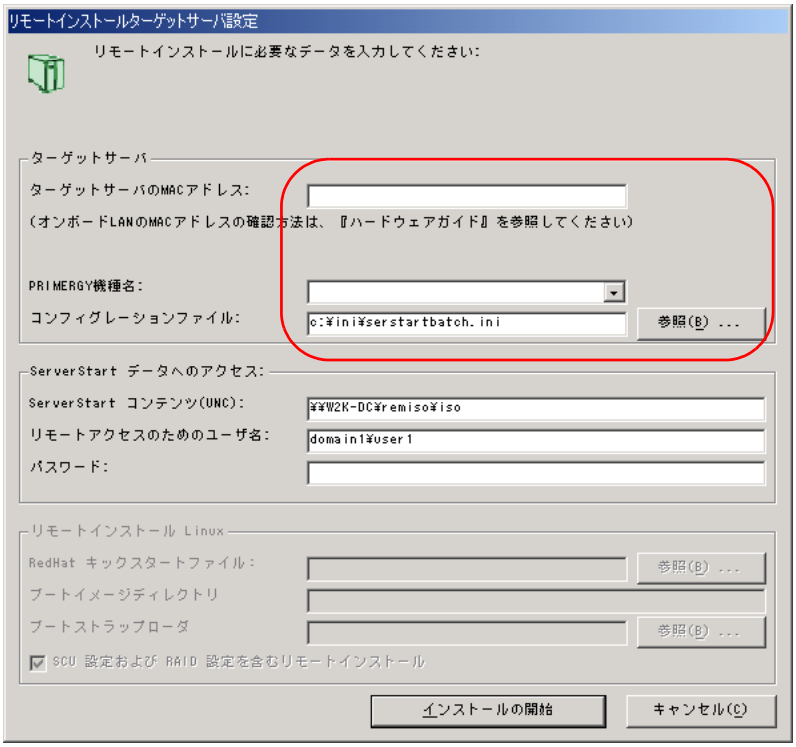
「3.3.2 各ウィザードの設定を行う」（→ P.70）を参照し、各ウィザードを設定後、コンフィグレーションファイルを保存してください。

ウィザード終了後、事前設定モード画面に戻ります。

6 [（OS）のリモートインストールを開始する] をクリックします。

「リモートインストールターゲットサーバ設定」画面が表示されます。

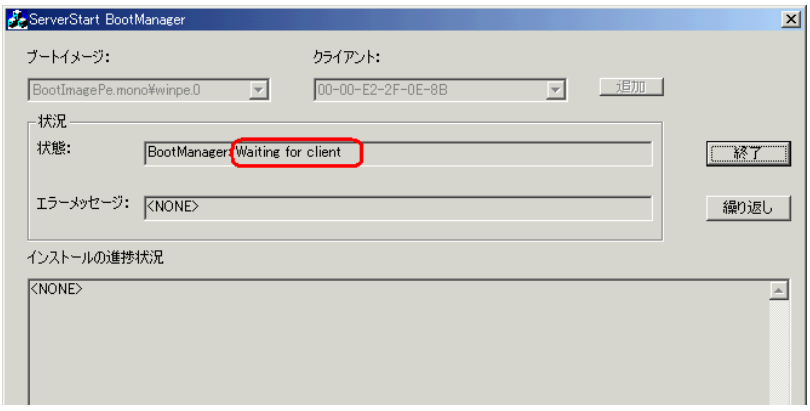
7　リモートインストールの設定を行います。



1. ターゲットサーバの MAC アドレスを入力します。
2. PRIMERGY 機種名を選択します。
   RX200 をご使用の場合、BIOS 設定で「HyperThreading」を無効（Disabled）（出荷状態は有効（Enabled））に変更して、かつ、1CPU で運用する場合は、「PRIMERGY RX200 1CPU non-HyperThreading」を選択してください。それ以外の場合は「PRIMERGY RX200」を選択してください。
3. インストールの設定を保存したコンフィグレーションファイルを指定します。

8　［インストールの開始］をクリックします。

インストールが開始され、ターゲットサーバのディスク内容はすべて消去されます。
「ServerStart Boot Manager」画面が表示されます。
「Waiting for client」の状態であることを確認します。



9 **ターゲットサーバの電源を入れます。**
ネットワーク起動（PXE 起動）され、インストールが開始されます。
リソースのコピーが終了すると「OS の自動インストールのための準備が完了しました。」というメッセージが表示されます。
以降、インストールは自動で行われます。
インストールが完全に終了すると、ターゲットサーバにインストール完了のメッセージが表示されます。

10 **ターゲットサーバで、何かキーを押します。**

11 **ターゲットサーバのシステムを再起動します。**

これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。
サーバの運用を開始する前に「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。

3.5.6 リモートリソースサーバを使ったリモートインストールの開始

リモートリソースサーバを使用したリモートインストールでは、リモートリソースサーバの共有リソースを利用してインストール処理を行います。
インストールを開始する前に、あらかじめ「3.5.4 リモートリソースの準備」（→ P.96）を行っておいてください。

■ リモートフロッピーの設定

リモートフロッピーとは、ServerStart フロッピーディスクを使用する代わりに、コンフィグレーションファイルをネットワーク上に格納して使用するための、ネットワーク上の共有フォルダです。フロッピーディスクドライブがない場合で、ガイドモード／エキスパートモードでインストールする場合は、リモートフロッピーを使用します。

1 **リモートリソースサーバの共有フォルダ内に、新規フォルダを作成します。**
例：C:¥export¥ServerStart¥Floppy

2 **ServerStart フロッピーディスク用タグファイル "ServerStart Floppy Disk" を作成します。コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを入力します。**

```
C:¥>copy nul C:¥export¥ServerStart¥Floppy¥ServerStart Floppy Disk
```

■ リモートリソースの確認

リモートリソースサーバの共有が正しく行われているかを確認します。

1 **リモートリソースサーバ上で、「コマンドプロンプト」を起動し、以下を入力します。**

```
prompt:> net share
```

作成した共有フォルダが正しく表示されることを確認してください。
net コマンドに関しては、Windows のヘルプを参照してください。

■ インストールの開始

インストールは、ターゲットサーバ上で開始します。

● ガイドモード／エキスパートモードの場合

1 サーバの電源を入れて、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。

ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

2 ServerStart フロッピーディスクを作成します。

●サーバに添付の ServerStart フロッピーディスクを使用する場合

1. サーバに添付の ServerStart フロッピーディスクをセットして、［作成］をクリックします。
   「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。
2. ［ServerStart フロッピーディスクを作成する］をクリックします。
   「フロッピーディスクの内容を消去します。よろしいですか？」というメッセージが表示されます。
3. ［はい］をクリックします。
   ServerStart フロッピーディスクの作成が開始されます。作成が終了するとメッセージが表示されます。

●リモートフロッピーを使用する場合

1. ［リモート］をクリックします。
   「ドライブの指定」画面が表示されます。
2. 「リモートパス」、「ユーザ名」、「パスワード」を入力して［OK］をクリックします。
   「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。

3 ［オペレーティングシステムのインストール］をクリックします。

「オペレーティングシステムのインストール」画面が表示されます。
［インストールに関する留意事項］をクリックし、必ず内容を確認してください。ディスクの構成に関する制限事項など、重要な情報が記述されています。

4 ［Microsoft Windows Operating System のインストール］をクリックします。

「Microsoft Windows Operating System のインストール」画面が表示されます。

5 インストールする OS とモードを選択します。

6 各ウィザードを設定し、コンフィグレーションファイルを保存します。

各ウィザードの設定については、「3.2 ガイドモード」（→ P.44）、または「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）を参照してください。
各ウィザードを設定後、コンフィグレーションファイルを保存してください。リモートフロッピーを使用する場合は、コンフィグレーションファイルの保存先にリモートフロッピー用共有フォルダのパスを指定してください。

POINT

- インストール元情報として、ローカル CD-ROM の代わりに、準備した共有フォルダの共有名を指定します。

7 ［OS のインストール開始］をクリックします。
インストールが開始されます。インストールする OS などの CD-ROM が必要な箇所では、自動的にネットワーク経由でリソースサーバからリソースを取得します。
インストールが完全に終了すると、ターゲットサーバにインストール完了のメッセージが表示されます。

8 ターゲットサーバで、何かキーを押します。

9 ターゲットサーバのシステムを再起動します。

これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。
サーバの運用を開始する前に「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。

● 事前設定モードの場合

1 コンフィグレーションファイルを作成します。
作成方法については、「3.3 事前設定モード」（→ P.64）を参照してください。

POINT

- インストール元情報として、ローカル CD-ROM の代わりに、準備した共有フォルダの共有名を指定します。

2 サーバの電源を入れて、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。
ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

3 作成したコンフィグレーションファイルをセットして、［OK］をクリックします。
「ServerStart 自動インストールモード」画面が表示されます。

4 「開始」をクリックします。
インストールが開始されます。インストールする OS などの CD-ROM が必要な箇所では、自動的にネットワーク経由でリソースサーバからリソースを取得します。
インストールが完全に終了すると、ターゲットサーバにインストール完了のメッセージが表示されます。

5 ターゲットサーバで、何かキーを押します。

6 ターゲットサーバのシステムを再起動します。

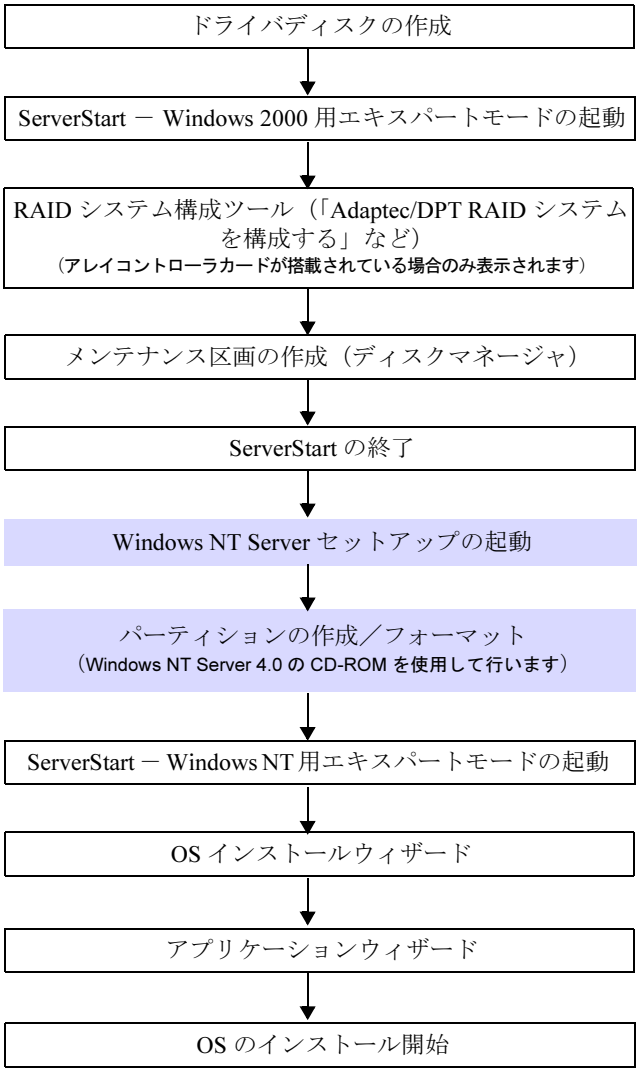
これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。
サーバの運用を開始する前に「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。

3.6　メンテナンス区画を作成してインストールする（Windows NT Server 4.0）

ServerStart を使用して Windows NT Server 4.0 をインストールする場合、メンテナンス区画を作成してインストールする方法について説明します。

3.6.1　インストールの流れ

メンテナンス区画を作成してインストールする場合は、エキスパートモードを使用します。また、メンテナンス区画以外のパーティションの作成およびフォーマットは、手動で行う（下記　　部分）必要があります。以下の流れでインストールを行います。



3.6.2 インストール手順

1 ドライバディスクを作成します。

Windows NT Server 4.0 をインストールするハードディスクユニットが接続されている装置（オンボード SCSI またはアレイコントローラカード）用のドライバディスクを作成してください。ドライバディスクの作成方法については、「7.1.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.233）を参照してください。

2 ServerStart を Windows 2000 エキスパートモードで起動します。

エキスパートモード起動の各画面など、詳細については「3.4.1 エキスパートモードの起動」（→ P.76）を参照してください。

1. **サーバの電源を入れ、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。**
   ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
2. **添付の ServerStart フロッピーディスクをセットして、［作成］をクリックします。**
   「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。
3. **［ServerStart フロッピーディスクを作成する］をクリックします。**
   ServerStart フロッピーディスクの作成が開始されます。作成が完了すると、メッセージが表示されます。
4. **［OK］をクリックします。**
   「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。
5. **［オペレーティングシステムのインストール］をクリックします。**
   「オペレーティングシステムのインストール」画面が表示されます。
   ［インストールに関する留意事項］をクリックし、必ず内容を確認してください。ディスクの構成に関する制限事項など、重要な情報が記述されています。
6. **［Microsoft Windows Operating System のインストール］をクリックします。**
   「Microsoft Windows Operating System のインストール」画面が表示されます。
7. **［Microsoft Windows 2000 のインストール］をクリックします。**
8. **［Windows 2000 のインストールーエキスパートモード］をクリックします。**
   エキスパートモードが起動します。

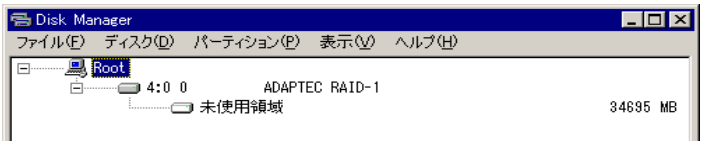
3 RAID の構築を行います。

RAID 構成ツールについて、詳しくは「3.4.2 RAID システム構成ツール」（→ P.78）を参照してください。ここでは、SCSI アレイコントローラカード（PG-140C）を搭載した場合を例に説明します。

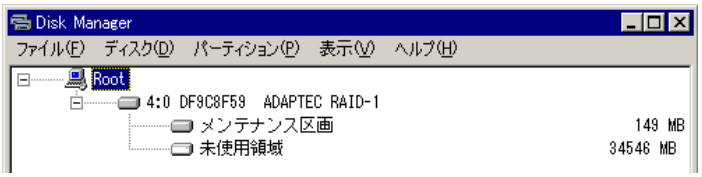
1. **［Adaptec/DPT RAID システムを構築する］をクリックします。**
   「Adaptec Storage Manager - MININT-JVC」が表示されます。
2. **RAID 構成を設定します。**
   RAID 構成の設定方法は、ヘルプを参照してください。
3. **「FILE」メニューから「Exit Adaptec Storage Manager」を選択し、［OK］をクリックします。**
   「Adaptec Storage Manager - MININT-JVC」が終了し、再起動の確認画面が表示されます。
4. **［はい］をクリックして再起動します。**
   再起動後、再度エキスパートモードを起動してください。

4 メンテナンス区画を作成します。

1. ［ディスクマネージャを使用する］をクリックします。
2. 内容を確認し、［OK］をクリックします。
   ディスクマネージャが起動します。



3. ディスクを選択して、「ディスク」メニュー→「構成情報のみを消去」または「ディスク上の全セクタを消去」をクリックします。
4. ディスクを選択して「パーティション」メニュー→「作成」→「メンテナンス区画」の順にクリックします。
   メンテナンス区画が作成されます。



5. 「ディスク」メニュー→「MBR 上書き」の順にクリックします。
6. 「ファイル」メニュー→「終了」の順にクリックします。
   メッセージが表示された場合は、［OK］をクリックします。
   ディスクマネージャが終了し、エキスパートモード画面に戻ります。

5 ServerStart を終了します。

1. ツールバーの［ （EXIT)］をクリックし、指示に従って ServerStart を終了します。
2. サーバを再起動します。
   アレイコントローラカードをご使用の場合は、バックグラウンド初期化処理中に電源を切らないようにご注意ください。詳細については、アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照してください。

6 POST 中に、Windows NT Server 4.0 の Setup Disk1 をフロッピーディスクドライブにセットします。

Windows NT Server セットアップ初期画面が表示されます。

7 手動インストール手順に従って、パーティションの作成およびフォーマットを行います。

「B.8.3 Windows NT Server 4.0 のインストール」（→ P.380）の手順 4 から操作を行います。また、『Windows NT Server ファーストステップガイド 第 2 部 Windows NT のインストール』の「第 5 章 インストールの開始」から「Windows NT パーティション用のファイルシステムを選ぶ」を併せて参照してください。

POINT

- ［IDE CD-ROM(ATAPI 1.2)/PCI IDE Controller］は、RAID もしくは SCSI ドライバをインストールする前にインストールしてください。
- ディスクサイズについては、「2.3.2 インストール先パーティションサイズについて」（→ P.29）を参照してください。また、NTFS でフォーマットした場合は、手順 13 の「重要」を参照してください。

重 要

- Windows NT Server 4.0 をインストールするハードディスクユニットのパーティションを選択する画面で、あらかじめ作成したメンテナンス区画が「EISA ユーティリティ」と表示されます。削除しないでください。

8 パーティションのフォーマットが終了すると、Windows NT をインストールするディレクトリの名前が表示されます。この画面で【F3】キーを押します。
確認画面が表示されます。

9 再度【F3】キーを押し、指示に従ってフロッピーディスクと CD-ROM を取り出し、【Enter】キーを押します。
サーバが再起動します。アレイコントローラカードをご使用の場合は、バックグラウンド初期化処理中に電源を切らないようにご注意ください。詳細については、拡張カードに添付の取扱説明書を参照してください。

10 POST 中に、ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
ServerStart が起動します。

11 「Windows NT のエキスパートモード」を起動します。

1. サーバの電源を入れ、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。
   ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
2. 手順 2 で作成した ServerStart フロッピーディスクをセットして、［作成］をクリックします。
   「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。
3. ［ServerStart フロッピーディスクを挿入し ServerStart を起動する］をクリックします。
4. ［Microsoft Windows Operating System のインストール］をクリックします。
5. ［Microsoft Windows NT のインストール］をクリックします。
6. ［Windows NT のインストールーエキスパート］をクリックします。
   エキスパートモードが起動します。

12 ツールバーの［ （自動ガイド）］アイコンをクリックし、ガイダンス機能を OFF に設定します。

13 ［Windows NT 4.0 ウィザードを実行する］をクリックし、インストール情報を設定します。
詳細は「3.4.4 OS インストールウィザード」（→ P.82）を参照してください。

重 要

- Windows NT をインストールするパーティションのファイルシステムに NTFS を指定していても、この時点では FAT でフォーマットされています。ファイルシステムを NTFS にする場合は、「インストール先ディレクトリとタイムゾーン」画面で、「ファイルシステムを NTFS へ変換する」に必ずチェックを付けてください。

14 ［アプリケーションウィザード］をクリックします。

設定方法については、「3.2.6 アプリケーションウィザード」（→ P.55）を参照してください。

15 ［Windows NT 4.0 のインストールを開始する］をクリックします。

「3.4.6 OS のインストール開始」（→ P.83）を参照し、インストールを行ってください。

3.7　複数台（2 台目以降）へのインストール

ServerStart を使用して、複数台のサーバをインストールする方法について説明します。
同じ機種で同じ構成のサーバを複数台インストールする場合は、1 台目のインストール時に作成したコンフィグレーションファイルを編集して、2 台目以降をインストールすることができます。これにより、設定時間の短縮が図れます。ただし、1 台目のインストールを、ServerStart を使用してガイドモードまたは事前設定モードで行う必要があります。

重 要

- 1 台目のサーバに添付されている ServerStart のバージョンと、2 台目以降のサーバに添付されている ServerStart のバージョンが同じであることを確認してください。バージョンが違う場合、この方法でのインストールはできません。

3.7.1　インストールの準備

■ 必要なソフトウェア

2 台目以降のサーバをインストールするには、次のソフトウェアが必要です。あらかじめお手元にご用意ください。

- インストールする OS の CD-ROM
- Service Pack CD-ROM
- ServerStart CD-ROM
- ServerStart フロッピーディスク
  A：1 台目のインストール時に使用したコンフィグレーションファイルの入った「ServerStart フロッピーディスク」
  B：2 台目以降のサーバに添付されている ServerStart CD-ROM に添付の「ServerStart フロッピーディスク」
  ※「ServerStart フロッピーディスク」が添付されていない場合は、別途サーバの台数分のフロッピーディスクを用意してください。
- PRIMERGY ドキュメント & ツール CD（ServerView のインストール）
- インストールするサーバアプリケーションの CD-ROM（ARCserve Backup、ServerProtect など）

■ インストール前の操作

インストールの前に、次の作業を行ってください。
A をコピー元、B をコピー先として、エクスプローラまたはコマンドプロンプトでディスクコピーを実行してください。

3.7.2 ガイドモードでインストールを行う

ガイドモードでコンフィグレーションファイルを編集してインストールを行います。

1 サーバの電源を入れ、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。
ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

2 事前にディスクコピーした ServerStart フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、［作成］をクリックします。
「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。

3 ［ServerStart フロッピーディスクを挿入し、ServerStart を起動する］をクリックします。
「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。

4 ［オペレーティングシステムのインストール］をクリックします。
「オペレーティングシステムのインストール」画面が表示されます。

5 ［Microsoft Windows Operating System のインストール］をクリックします。
「Microsoft Windows Operating System のインストール」画面が表示されます。

6 インストールする OS をクリックします。

7 ［（OS）のインストールーガイドモード］をクリックします。
ガイドモードが起動します。

8 ［コンフィグレーションファイルを開く／作成する］をクリックします。
「ServerStart コンフィグレーションファイルを開きます」画面が表示されます。

9 A ドライブの "SerStartBatch.ini" を指定して、［開く］をクリックします。
ガイドモードの画面に戻ります。
各ウィザードの設定からインストールの完了までの手順については、「3.2 ガイドモード」（→ P.44）を参照してください。
リモートインストールでインストールを行う場合は、「3.5 リモートインストール」（→ P.87）を参照してください。

各ウィザードの設定項目には、1 台目のインストール時に設定した内容が設定されています。2 台目以降のインストールでは、「OS インストールウィザード」の以下の項目を変更する必要があります。その他の項目については、必要に応じて設定を変更してください。

画面名	設定項目名	備考
ユーザ情報	コンピュータ名	1 台目と 2 台目以降が同じネットワーク上にある場合は、変更が必要です。
	プロダクト ID/CD キー	変更は必須です。
ネットワークプロトコル	IP アドレス	1 台目と 2 台目以降が同じネットワーク上にある場合は、変更が必要です。

変更しないウィザードは、起動する必要はありません。
1 台目のインストール時に設定した内容が各ウィザードに反映されていない場合は、再度フロッピーディスクのディスクコピーからやり直してください。

3.7.3 事前設定モードでインストールを行う

事前設定モードでコンフィグレーションファイルを編集してインストールを行います。
事前設定モードを実行するクライアントコンピュータに ServerStart がインストールされていない場合は、「■ クライアントコンピュータに ServerStart をインストールする」（→ P.64）を参照して、あらかじめ ServerStart をインストールしてください。

重要

- ServerStaret インストール後、ServerStart が起動しますが、必ず本手順に従ってインストールを行ってください。「3.3.1 事前設定モードの起動」（→ P.67）手順を行うと、ServerStart フロッピーディスクの内容が消去され、複数台のインストールには使用できなくなります。

異なるバージョンの ServerStart がインストールされている場合は、インストール済みの ServerStart をアンインストールしてください。アンインストールの方法については、「■ ServerStart のアンインストールについて」（→ P.33）を参照してください。

重要

- 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている状態で事前設定モードを起動すると、インストールウィザードが正常に動作しない可能性があります。異なるバージョンの ServerStart は、必ずアンインストールしてください。

1 ServerStart を起動します。

すでに ServerStart を起動している場合は、再起動の必要はありません。起動していない場合は、以下の手順に従って起動してください。

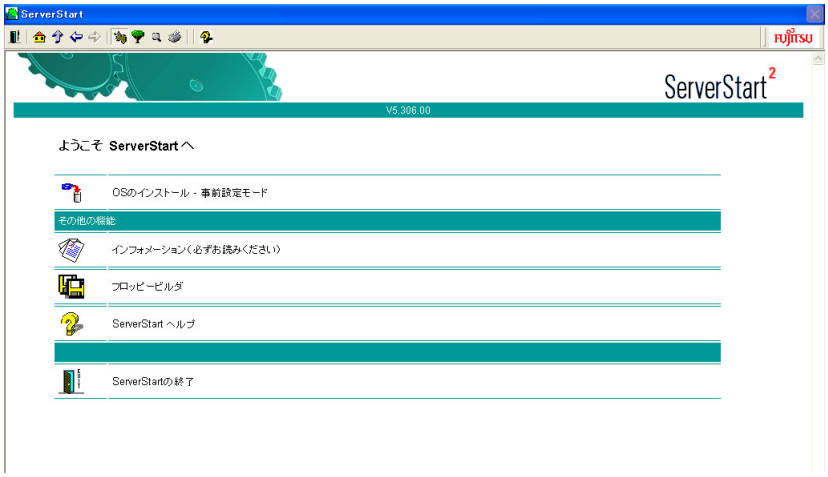
●Windows 2000 Professional ／ Windows XP で、CD の内容をコピーしている場合

1.「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerStart」→「ServerStart」の順にクリックします。

ServerStart が起動し、「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。

●Windows 2000 Professional ／ Windows XP 以外の場合、および CD の内容をコピーしていない場合

1. クライアントコンピュータに ServerStart CD-ROM をセットします。
   ServerStart が起動し、「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



2 **インストールする OS を選択します。**
事前設定モードが起動します。

3 **フロッピーディスクドライブに、事前にディスクコピーした ServerStart フロッピーディスクをセットし、［コンフィグレーションファイルを開く／作成する］をクリックします。**
「ServerStart コンフィグレーションファイルを開きます」画面が表示されます。

4 **A ドライブの "SerStartBatch.ini" を指定して、［開く］をクリックします。**
事前設定モードの画面に戻ります。

各ウィザードの設定からインストールの完了までの手順については、「3.3 事前設定モード」（→ P.64）を参照してください。リモートインストールを行う場合は、「3.5 リモートインストール」（→ P.87）を参照してください。各ウィザードの設定項目には、1 台目のインストール時に設定した内容が表示されています。2 台目以降のインストールでは、［OS インストールウィザード］の、以下の項目を変更する必要があります。その他の項目については、必要に応じて設定を変更してください。変更しないウィザードは、起動する必要はありません。

画面名	設定項目名	備考
ユーザ情報	コンピュータ名	1 台目と 2 台目以降が同じネットワーク上にある場合は、変更が必要です。
	プロダクト ID/CD キー	変更は必須です。
ネットワークプロトコル	IP アドレス	1 台目と 2 台目以降が同じネットワーク上にある場合は、変更が必要です。

1 台目のインストール時に設定した内容が各ウィザードに反映されていない場合は、再度フロッピーディスクのディスクコピーからやり直してください。

3.8 再インストール

ServerStart を使用してサーバを再インストールする方法について説明します。
ServerStart を使用しない場合は、「付録 B OS の手動インストール」（→ P.315）を参照してインストールを行ってください。

3.8.1 再インストールの前に

■ 外部 SCSI オプション装置搭載時の注意事項

SCSI カードまたは SCSI アレイコントローラカードを搭載して、SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニット、DAT など）を増設している場合は、再インストールの前に取り外してください。再度 SCSI オプション装置を増設する場合は、OS のインストールが終了してから接続してください。OS のインストールが終了する前に接続すると、ドライブ文字が正しく割り当てられない場合があります。詳細は『トラブルシューティング』を参照してください。

■ ディスク内容の消去について

再インストールを行うと、それまでのディスク内容はすべて消去されます。ご注意ください。必要なデータやシステム構成などは、あらかじめ保存しておいてください。

■ その他の注意事項について

その他の注意事項については、初回インストールの場合と同じです。あらかじめご確認ください。

■ インストール方法の選択

前回のインストールをどの方法で行ったかによって、再インストールの方法は異なります。以下の表を参照して該当する参照先へお進みください。

前回のインストール	再インストール	参照
OS インストールタイプの開封	ガイドモード	「3.2 ガイドモード」（→ P.44）
	事前設定モード	「3.3 事前設定モード」（→ P.64）
	エキスパートモード	「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）
ガイドモード 事前設定モード	事前設定モード	「3.8.3 ガイドモード／事前設定モードでの再インストール」（→ P.113） リモートインストールを行う場合は「3.5 リモートインストール」（→ P.87）を参照してください。
エキスパートモード	エキスパートモード	「3.8.4 エキスパートモードでの再インストール」（→ P.114） リモートインストールを行う場合は「3.5 リモートインストール」（→ P.87）を参照してください。

3.8.2　OS インストールタイプの再インストール

OS インストールタイプの開封を行った場合、再インストールは、他の方法の初回インストールと同じ手順で行ってください。

重要

- BX300 の Windows Server 2003 インストールタイプを、サーバに添付のインストール CD-ROM を使用して手動でインストールを行う場合は、インストール前とインストール終了後に BIOS セットアップユーティリティなどの設定が必要です。インストールを行う前に「付録 B.2.3 〔BX300〕Windows Server 2003 インストールタイプを手動で再インストールする場合」（→ P.327）を参照してください。

OS のインストール完了後、必ず以下の手順で OEM 情報をインストールしてください。

1. 管理者権限でサーバにログオンします。
2. CD-ROM ドライブに ServerStart CD-ROM をセットします。
   「Server Start」画面が表示されたら、いったん Server Start を終了します。
3. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
4. 次のように入力し、それぞれ【Enter】キーを押します。
   ［CD-ROM ドライブ］：
   oemcopy
5. 以降は、画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。

POINT

- インストールしたサポート情報は、以下の手順で見ることができます。
  1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
  2. ［システム］アイコンをダブルクリックします。
  3. ［全般］タブの［サポート情報］をクリックします。サポート情報が表示されます。

3.8.3　ガイドモード／事前設定モードでの再インストール

前回のインストールをガイドモードまたは事前設定モードで行った場合、再インストールには、前回のインストールで使用した「ServerStart フロッピーディスク」をそのまま使用できます。前回のインストールとすべて同じ設定で再インストールを行う場合は、「ServerStart フロッピーディスク」内のコンフィグレーションファイルを編集する必要はありません。「3.3.4 OS のインストール開始」（→ P.72）を参照してインストールを行ってください。

3.8.4 エキスパートモードでの再インストール

前回のインストールをエキスパートモードで行った場合、再インストールには、前回のインストール時に保存したコンフィグレーションファイルを使用できます。コンフィグレーションファイルは、ServerStart フロッピーディスクに保存されている必要があります。
ただし、コンフィグレーションファイルに保存されている設定項目は、「OS インストールウィザード」と「アプリケーションウィザード」のみです。
設定が保存されていない項目については、初回インストール時と同様に設定が必要です。
「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）を参照し、エキスパートモードでのインストールを行ってください。

POINT

- **以下の項目は設定が保存されていません。それぞれ設定してください。**
  - **・RAID の構築**
  - **・メンテナンス区画の作成**
  - **・パーティションの作成／フォーマット**

設定が保存されている項目については、以下の操作を行い、コンフィグレーションファイルの設定内容を読み込みます。

1 **エキスパートモードを起動します。**

2 **［(OS) ウィザードを実行する］をクリックすると、コンフィグレーションファイルを指定するようメッセージが表示されます。**

3 **コンフィグレーションファイルの入ったフロッピーディスクをセットし、［はい］をクリックします。**
「ServerStart コンフィグレーションファイルを開きます」画面が表示されます。

4 **A ドライブの "SerStartBatch.ini" を指定して［開く］をクリックします。**
設定内容が読み込まれ、OS インストールウィザードに反映されます。

5 **各設定項目に値が反映されているか確認し、ウィザードを終了します。**
アプリケーションウィザードも同様に、各設定項目が正しく反映されているか確認します。
以降の手順は初回インストール時と同様です。

第 4 章

OS インストール後の操作

4

この章では、OS インストール後に行う操作について説明しています。本サーバを運用する前に、必ず行ってください。

4.1 メモリダンプ／ページングファイルの 設定 116
4.2 システム修復ディスクの作成 128
4.3 保守ツールの作成 131
4.4 サーバ運用前の留意事項 138

4.1 メモリダンプ／ページングファイルの設定

サーバの運用を始める前に、メモリダンプを取得するための設定を行ってください。Windows Server 2003、Windows 2000 Server、Windows NT Server 4.0 で、それぞれ設定方法が異なります。

● メモリダンプとは

メモリダンプの設定をしておくと、システムで STOP エラー（致命的なシステムエラー）が発生した場合に、自動的にデバッグ情報が保存されます。保存されたメモリダンプにより、エラー発生時の原因を分析することができます。
特に大容量メモリ搭載時には、メモリダンプファイルの設定に注意が必要です。メモリダンプ取得のための設定は、運用に使用するファイル（OS やアプリケーションなど）をインストールしたあとで行います。

4.1.1 メモリダンプを取得するための設定方法（Windows Server 2003 の場合）

メモリダンプを取得するためには、以下の設定を確認してから、設定を行ってください。

■ ハードディスクの空き容量の確認

メモリダンプを取得するためには、ページングファイルとメモリダンプファイルの作成用に、十分なハードディスク容量が必要です。
取得可能なダンプの種類と必要なハードディスク容量は以下のとおりです。

● 完全メモリ（フル）ダンプ

システムが予期せず停止したときに、システム メモリ全体の内容が記録されます。ファイルは［ファイルのダンプ］ボックスに表示されるディレクトリに格納されます。

	ページングファイル	メモリダンプファイル
必要な容量	搭載物理メモリ＋ 11MB （推奨：搭載物理メモリ× 1.5）	搭載物理メモリと同量

● カーネルメモリダンプ

カーネルメモリ空間のみの情報が記録されます。ファイルは［ファイルのダンプ］ボックスに表示されるディレクトリに格納されます。

	ページングファイル	メモリダンプファイル
必要な容量	搭載物理メモリ容量に依存 ・256MB ～ 1,373MB の場合 搭載物理メモリ× 1.5 ・1,374MB 以上の場合 32 ビットシステム：2GB+16MB 64 ビットシステム:RAMサイズ+128MB	STOP 時のカーネルモードアドレス空間の使用量に依存

● 最小メモリダンプ

問題の識別に役立つ最小限の情報が記録されます。このオプションを指定した場合、システムが予期せず停止するごとに、新しいファイルを作成します。
これらのファイルの履歴は、［最小ダンプ ディレクトリ］に表示されているディレクトリに格納されます。

	ページングファイル	メモリダンプファイル
必要な容量	2MB 以上	64KB または 128KB

■ メモリダンプファイルの設定

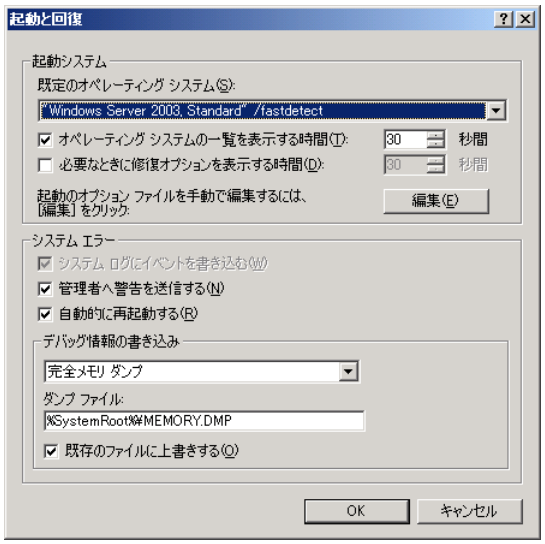
以下の手順に従って、メモリダンプファイルの設定を行います。

1 管理者権限でサーバにログオンします。

2 メモリダンプファイルを格納するドライブの空き容量を確認します。
前述の「■ ハードディスクの空き容量の確認」（→ 116 ページ）で必要な空き容量を確認してください。
ドライブに空き容量がない場合は、『トラブルシューティング』を参照してください。

3 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「システム」の順にクリックします。
「システムのプロパティ」画面が表示されます。

4 ［詳細設定］タブをクリックし、「起動と回復」の［設定］をクリックします。
「起動と回復」画面が表示されます。



5 以下の設定を行います。

1.「デバッグ情報の書き込み」で、メモリダンプファイルの種類を選択します。

・最小メモリダンプ（64KB）
最小限の情報がメモリダンプファイルに記録されます。
致命的なエラーが発生するたびに、「最小ダンプディレクトリ」に指定したディレクトリに新しいファイルを作成します。

・カーネルメモリダンプ
カーネルメモリだけがメモリダンプファイルに記録されます。

・完全メモリダンプ（推奨）
システムメモリのすべての内容がメモリダンプファイルに記録されます。

2.「ダンプファイル」または「最小ダンプディレクトリ」に、メモリダンプファイルを保存するディレクトリをフルパスで指定します。
カーネルメモリダンプ、または完全メモリダンプの場合、「既存のファイルに上書きする」にチェックを付けると、デバッグ情報が毎回指定したファイルに上書きされます。

6 ［OK］をクリックし、「起動／回復」画面を終了します。

7 ［OK］をクリックし、「システムのプロパティ」画面を終了します。

8 システムを再起動します。
システム再起動後、設定が有効になります。

■ ページングファイルの設定

以下の手順に従って、ページングファイルを設定します。

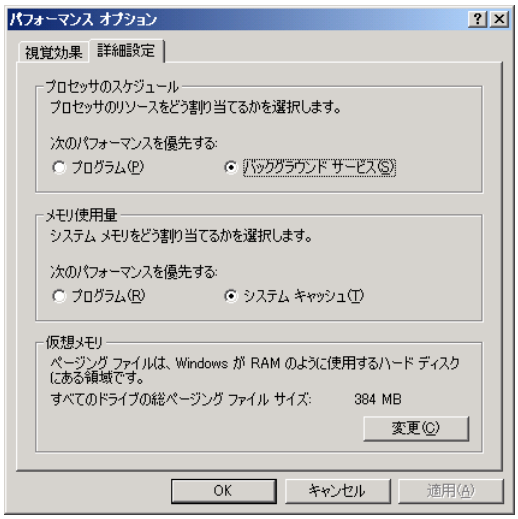
1 管理者権限でサーバにログオンします。

2 システムがインストールされているドライブの空き容量を確認します。
前述の「■ ハードディスクの空き容量の確認」（→ 116 ページ）で必要な空き容量を確認してください。
ドライブに空き容量がない場合は、『トラブルシューティング』を参照してください。

3「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「システム」の順にクリックします。
「システムのプロパティ」画面が表示されます。

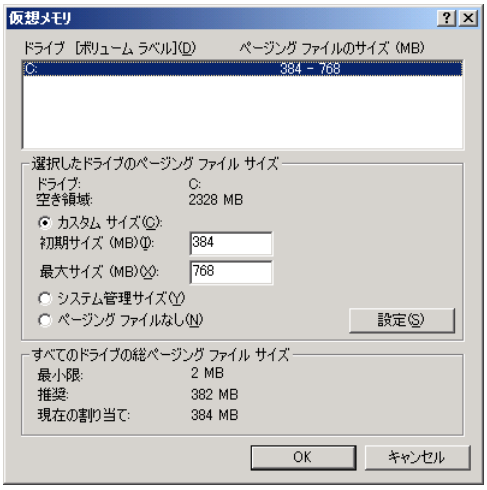
4 ［詳細設定］タブをクリックし、「パフォーマンス」の［設定］をクリックします。
「パフォーマンスオプション」画面が表示されます。

5　［詳細設定］タブをクリックします。



6　「仮想メモリ」の［変更］をクリックします。

「仮想メモリ」画面が表示されます。



7　ページングファイルを作成するドライブを指定します。

「ドライブ」でシステムがインストールされているドライブを選択します。

選択したドライブが「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「ドライブ」に表示されます。

8　「カスタムサイズ」を指定し、「初期サイズ」に値を入力します。

設定したダンプファイルの種類によって値を設定します。

「すべてのドライブの総ページングファイルサイズ」の［推奨］より大きい値を設定してください。

重 要

- ページングファイルサイズを小さい値に設定した場合、性能に影響があります。最良のシステム効率を得るには、「すべてのドライブの総ページングファイルサイズ」に記載されている「推奨」サイズ以上に「初期サイズ」を設定してください。推奨サイズは、システムの搭載メモリ総量の 1.5 倍です。ただし、メモリを大量に消費するプログラムを定期的にしようする場合は、必要に応じてサイズを大きく設定してください。

9 「最大サイズ」に値を入力します。
「初期サイズ」より大きい値を設定します。

10 設定を保存します。
「選択したドライブのページングファイルサイズ」の［設定］をクリックします。
設定が保存され、「ドライブ」の「ページングファイルのサイズ」に設定した値が表示されます。

11 ［OK］をクリックし、「仮想メモリ」画面を終了します。

12 ［OK］をクリックし、「パフォーマンスオプション」画面を終了します。

13 ［OK］をクリックし、「システムのプロパティ」画面を終了します。

14 システムを再起動します。
システム再起動後、設定が有効になります。

4.1.2 メモリダンプを取得するための設定方法（Windows 2000 Server の場合）

メモリダンプを取得するためには、以下の設定を確認してから、設定を行ってください。

■ ハードディスクの空き容量の確認

メモリダンプを取得すると、システムに搭載されているすべての物理メモリの内容がファイルとして作成されます。このため、ダンプファイルを格納する場合は、ハードディスクの空き容量が十分に存在することを確認してください。
取得可能なダンプの種類と必要なハードディスク容量は以下のとおりです。

● 完全メモリ（フル）ダンプ

システムが予期せず停止したときに、システム メモリ全体の内容が記録されます。このオプションを選択した場合、ブート ボリュームには、物理 メモリ 全体の 1.3 倍のページング ファイルを保持するだけの領域が必要です。

・含まれる情報：共通ヘッダ、STOP 時にページアウトされていない仮想アドレスページのすべて
・必要なサイズ：搭載物理メモリ × 1.3

● カーネルメモリダンプ

カーネルメモリ空間のみの情報が記録されます。システムが予期せず停止したときに、情報をログに記録する処理が高速化されます。サーバに搭載されている メモリの容量に応じて、ブートボリュームにはページング ファイル用に 50 ～ 800 MB の利用可能な領域が必要です。

・含まれる情報：共通ヘッダ、サマリダンプヘッダ（完全メモリダンプ）—（ユーザプロセス空間のページ）—（キャッシュ領域ページ）—（未使用プール領域ページ）

・必要なサイズ：STOP 時のカーネルモードアドレス空間の使用量に依存する

● 最小メモリダンプ

問題の識別に役立つ最小限の情報が記録されます。このオプションでは、ブートボリュームに最低 2 MB のページングファイルが必要です。また、システムが予期せず停止するごとに、新しいファイルを作成します。

これらのファイルの履歴は、［最小ダンプ ディレクトリ］に表示されているディレクトリ（通常は C:¥winnt¥minidump）に格納されます。

・含まれる情報：共通ヘッダ、ミニダンプヘッダ、カーネルモジュール・メモリ情報プロセッサ情報・プロセス情報・スレッド情報・スタックページ・アンロードモジュール情報

・必要なサイズ：2MB 以上

■ メモリダンプファイルの設定

以下の手順に従って、メモリダンプファイルの設定を行います。

1 **管理者権限でサーバにログオンします。**

2 **メモリダンプファイルを格納するドライブの空き容量を確認します。**

前述の「■ ハードディスクの空き容量の確認」（→ 120 ページ）で必要な空き容量を確認してください。

ドライブに空き容量がない場合は、『トラブルシューティング』を参照してください。

3 **「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。**

4 **［システム］アイコンをダブルクリックします。**

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

5 ［詳細］タブをクリックし、［起動／回復］をクリックします。
「起動／回復」画面が表示されます。

6 以下の設定を行います。

1. **「デバッグ情報の書き込み」で、メモリダンプファイルの種類を選択します。**
   - 最小メモリダンプ（2MB 以上）
     最小限の情報がメモリダンプファイルに記録されます。
     致命的なエラーが発生するたびに、「最小ダンプディレクトリ」に指定したディレクトリに新しいファイルを作成します。
   - カーネルメモリダンプ
     カーネルメモリだけがメモリダンプファイルに記録されます。
   - 完全メモリダンプ（推奨）
     システムメモリのすべての内容がメモリダンプファイルに記録されます。
2. **「ダンプファイル」または「最小ダンプディレクトリ」に、メモリダンプファイルを保存するディレクトリをフルパスで指定します。**
   カーネルメモリダンプ、または完全メモリダンプの場合、「既存のファイルに上書きする」にチェックを付けると、デバッグ情報が毎回指定したファイルに上書きされます。

7 ［OK］をクリックし、「起動／回復」画面を終了します。

8 ［OK］をクリックし、「システムのプロパティ」画面を終了します。

9 システムを再起動します。
システム再起動後、設定が有効になります。

■ ページングファイルの設定

以下の手順に従って、ページングファイルを設定します。

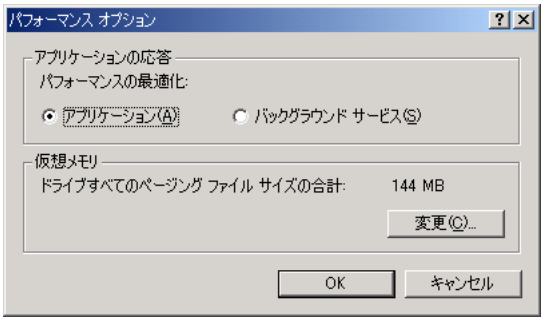
1 管理者権限でサーバにログオンします。

2 システムがインストールされているドライブの空き容量を確認します。
前述の「■ ハードディスクの空き容量の確認」（→ 120 ページ）で必要な空き容量を確認してください。
ドライブに空き容量がない場合は、『トラブルシューティング』を参照してください。

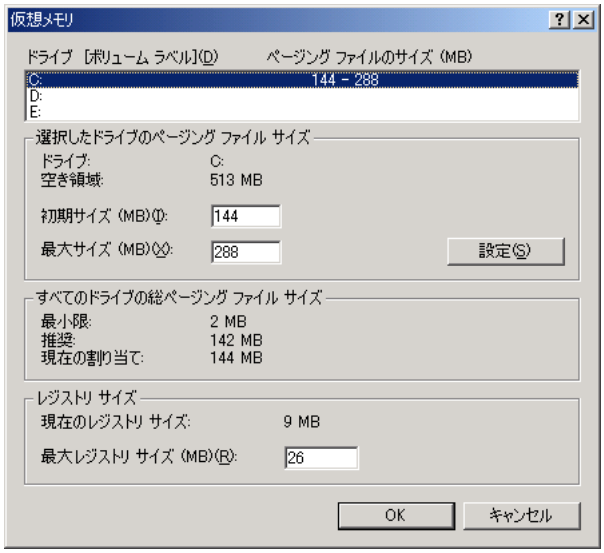
3 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

4 ［システム］アイコンをダブルクリックします。
「システムのプロパティ」画面が表示されます。

5 ［詳細］タブをクリックし、［パフォーマンスオプション］をクリックします。
「パフォーマンスオプション」画面が表示されます。



6 「仮想メモリ」の［変更］をクリックします。
「仮想メモリ」画面が表示されます。



7 ページングファイルを作成するドライブを指定します。
「ドライブ」でシステムがインストールされているドライブを選択します。
選択したドライブが「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「ドライブ」に表示されます。

8 「初期サイズ」を指定します。
設定したダンプファイルの種類によって値を設定します。
「すべてのドライブの総ページングファイルサイズ」の［推奨］より大きい値を設定します。

重 要

- ページングファイルサイズを小さい値に設定した場合、性能に影響があります。ページングファイルサイズは、推奨値以上に設定することをお勧めします。

9 「最大サイズ」を指定します。
「初期サイズ」より大きい値を設定します。

10 設定を保存します。
「選択したドライブのページングファイルサイズ」の［設定］をクリックします。
設定が保存され、「ドライブ」の「ページングファイルのサイズ」に設定した値が表示されます。

11 ［OK］をクリックし、「仮想メモリ」画面を終了します。

12 ［OK］をクリックし、「パフォーマンスオプション」画面を終了します。

13 ［OK］をクリックし、「システムのプロパティ」画面を終了します。

14 システムを再起動します。
システム再起動後、設定が有効になります。

4.1.3 メモリダンプを取得するための設定方法（Windows NT Server 4.0 の場合）

メモリダンプを取得するためには、以下の設定を確認し、設定を行ってください。

■ 最新の Service Pack の確認

Windows NT Server 4.0 インストール時には、必ず最新の Service Pack が適用されているか確認してください。
最新の Service Pack には、メモリダンプに関する修正が含まれています。
Service Pack のバージョンは、以下の操作で確認できます。

1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。

2 「名前」に次のように入力して［OK］をクリックします。

```
winver
```

「Windows のバージョン情報」画面が表示され、Service Pack のバージョン情報が表示されます。

■ ハードディスクの空き容量の確認

メモリダンプを取得するには、ページングファイルとメモリダンプファイルの作成用に、それぞれ以下のディスク空き容量が必要です。

ファイルの種類	必要な空き容量
ページングファイル	システムがインストールされているドライブに「搭載メモリサイズ＋11MB」以上の空き容量。 ページングファイルは、OS インストール時に作成されます。ファイル名は、"PAGEFILE.SYS" となります。
メモリダンプファイル	任意のドライブに「搭載メモリサイズと同量」の空き容量。 メモリダンプファイルは、STOP エラー発生時にのみ作成されます。 STOP エラー発生時に空き容量がなくなっていないように常に確保しておいてください。

■ ページングファイルの設定

以下の手順に従って、ページングファイルの設定を行います。

1 管理者権限でサーバにログオンします。

2 システムがインストールされているドライブの空き容量を確認します。

ページングファイルを作成するには、「搭載メモリサイズ＋ 11MB」以上の空き容量が必要です。

ドライブに空き容量がない場合は、『トラブルシューティング』を参照してください。

3 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

4 ［システム］アイコンをダブルクリックします。

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

5 ［パフォーマンス］タブをクリックします。

6 「仮想メモリ」の［変更］をクリックします。

「仮想メモリ」画面が表示されます。

1. **ページングファイルを作成するドライブを指定します。**
   「ドライブ」でシステムがインストールされているドライブを選択します。
   選択したドライブが「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「ドライブ」に表示されます。
2. **「初期サイズ」を指定します。**
   「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」に、「搭載メモリサイズ」以上を設定します。
3. **「最大サイズ」を指定します。**
   「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「最大サイズ」に、「搭載メモリサイズ＋ 11MB」以上を設定します。
4. **設定を保存します。**
   「選択したドライブのページングファイルサイズ」の［設定］をクリックします。
   設定が保存され、［ドライブ］の［ページングファイルのサイズ］に設定した値が表示されます。

7 ［OK］をクリックし、「仮想メモリ」画面を終了します。

8 ［OK］をクリックし、「システムのプロパティ」画面を終了します。

9 システムを再起動します。

システム再起動後、設定が有効になります。

■ メモリダンプファイルの設定

以下の手順に従って、メモリダンプファイルの設定を行います。

1 管理者権限でサーバにログオンします。

2 メモリダンプファイルを格納するドライブの空き容量を確認します。
メモリダンプファイルを作成するには、「搭載メモリサイズと同量」の空き容量が必要です。
ドライブに空き容量がない場合は、『トラブルシューティング』を参照してください。

3 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

4 ［システム］アイコンをダブルクリックします。
「システムのプロパティ」画面が表示されます。

5 ［起動／シャットダウン］タブをクリックします。

6 「回復」で以下の設定を行います。

1. 「デバッグ情報を次へ書き込む」をチェックします。
   STOP エラー（致命的なシステムエラー）が発生した場合に、メモリダンプが取得されます。
   - 入力フィールドに、メモリダンプファイルを保存するファイル名をフルパスで指定します。
     例）F:¥MEMORY.DMP
   - 「既存のファイルに上書きする」をチェックすると、デバッグ情報が毎回指定したファイルに上書きされます。
2. 「自動的に再起動する」をチェックします。
   エラー発生時のデバッグ情報取得後に、システムが自動的に再起動します。

7 ［OK］をクリックし、「システムのプロパティ」画面を終了します。

8 システムを再起動します。
システム再起動後、設定が有効になります。

4.2　システム修復ディスクの作成

OS インストールタイプの開封を手動で行った場合や、OS を手動でインストールした場合は、システム修復ディスクの作成を行ってください。

万一、システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変更などが損傷を受けた場合は、作成したシステム修復ディスクに保存されている修復情報を使って、これらを再構築できます。修復ディスクの作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚必要です。あらかじめ用意してください。

4.2.1　自動システム回復（ASR）セットの作成（Windows Server 2003 の場合）

Windows Server 2003 セットアップ後、システム回復セットを作成します。作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚と、バックアップファイルを保存するメディアが必要です。

1 **「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「バックアップ」の順にクリックします。**
「バックアップまたは復元ウィザード」画面が表示されます。

2 **［次へ］をクリックします。**
「バックアップまたは復元」画面が表示されます。

3 **［ファイルと設定のバックアップを作成する］を選択して、［次へ］をクリックします。**
「バックアップを作成する項目」画面が表示されます。

4 **［このコンピュータにある情報すべて］を選択して、［次へ］をクリックします。**
「バックアップの種類、バックアップ先と名前」画面が表示されます。

5 **バックアップの保存場所と名前を指定して、［次へ］をクリックします。**
「バックアップまたは復元ウィザードの完了」画面が表示されます。

6 **［完了］をクリックします。**
バックアップが開始されます。

7 **フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されたら、フロッピーディスクをセットして［OK］をクリックします。**
自動システム回復ディスクが作成されます。

8 ディスクの作成が終了すると、メッセージが表示されます。メッセージに従ってフロッピーディスクを取り出し、ラベルを貼ってください。
ラベル例：「Windows 自動システム回復ディスク：Backup.bkf、2003/04/01 12:00 作成用」

9 ［OK］をクリックして、「バックアップユーティリティ」を終了します。

10 ［閉じる］をクリックして、「バックアップの進行状況」画面を終了します。
以上で、自動システム回復セットの作成は完了です。
作成した自動システム回復セットは、安全な場所に保管してください。

4.2.2 システム修復ディスクの作成（Windows 2000 Server の場合）

Windows 2000 Server セットアップ後、システム修復ディスクを作成します。作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚必要です。

1 フロッピーディスクに、「Windows 2000 システム修復ディスク」というラベルを貼り、フロッピーディスクドライブにセットします。

2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「バックアップ」の順にクリックします。
バックアップ画面が表示されます。

3 ［ウィザード］タブをクリックして、［システム修復ディスク］をクリックします。
以降、画面の指示に従って、システム修復ディスクを作成してください。

4.2.3 システム修復ディスクの作成（Windows NT Server 4.0 の場合）

Windows NT Server 4.0 セットアップ後、システム修復ディスクを作成します。作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚必要です。

1 フロッピーディスクに、「Windows NT システム修復ディスク」というラベルを貼り、フロッピーディスクドライブにセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。

3 「名前」に以下のように入力して、［OK］をクリックします。

```
Rdisk
```

4 ［修復情報の更新］をクリックします。
「この操作を続行しますか？」というメッセージが表示されるので、［はい］をクリックして続行します。

5 再度メッセージが表示されるので［はい］をクリックします。

6 ［OK］をクリックします。
修復ディスクの作成が開始されます。
作成が終了したら、［OK］をクリックし、終了してください。

4.3　保守ツールの作成

サーバを保守するためのツールの作成方法について説明します。

ServerStart では、フロッピービルダ機能により、以下のツールが作成できます。

- ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク
- Global Array Manager
- Storage Manager
- FastCheck Monitoring Utility
- ハードウェア構成ツール（Server Management Tools など）

フロッピービルダ機能は、以下の環境で利用できます。

- サーバで ServerStart CD-ROM からシステムを起動した場合
- クライアントコンピュータで ServerStart システムを起動した場合（推奨）

POINT

- クライアントコンピュータに ServerStart がインストールされていない場合は、ServerStart をインストールします。異なるバージョンの ServerStart がインストールされている場合は、インストール済みの ServerStart をアンインストールしてください。アンインストールの方法については、「■ ServerStart のアンインストールについて」（→ P.33）を参照してください。

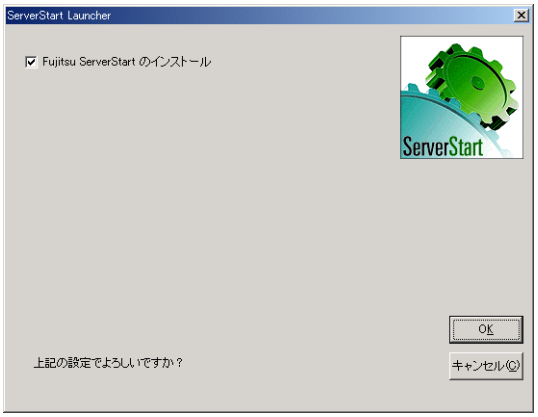
重要

- 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている状態で ServerStart を起動すると、フロッピービルダ機能やインストールウィザードが正常に動作しない可能性があります。異なるバージョンの ServerStart は、必ずアンインストールしてください。

■ クライアントコンピュータに ServerStart をインストールする

1 **クライアントコンピュータに ServerStart CD-ROM をセットします。**

「ServerStart Launcher」画面が表示されます。



「ServerStart Launcher」画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の "Launcher.exe" を実行してください。

2 **チェックボックスが選択されていることを確認して、［OK］をクリックします。**

Windows インストーラが起動し、セットアップ画面が表示されます。

3 **［次へ］をクリックします。**

「ライセンス契約」画面が表示されます。

4 **「ライセンス契約に同意します」を選択して、［次へ］をクリックします。**

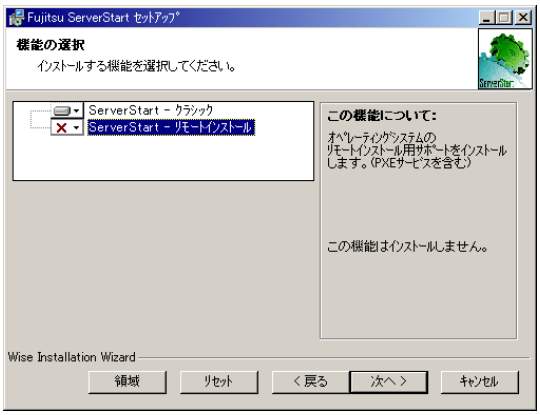
「インストール先フォルダ」画面が表示されます。

5 **インストール先フォルダを指定して、［次へ］をクリックします。インストール先フォルダを変更する場合は、［参照］をクリックして変更します。**

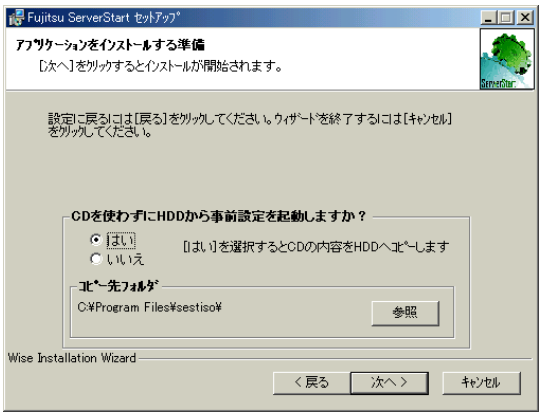
Windows 2000 Professional ／ Windows XP の場合のみ、以下の操作を行います。それ以外の場合はインストールが実行されます。

- Windows 2000 Professional の場合は、「機能の選択」画面が表示されます。以下手順 1 から操作してください。
- Windows XP の場合は、「アプリケーションをインストールする準備」画面が表示されます。以下手順 2 から行ってください。

1. 「機能の選択」画面が表示されます。[ServerStart －リモートインストール］を「この機能を使用できないようにします」に設定して、［次へ］をクリックします。



2. 「アプリケーションをインストールする準備」画面が表示されます。
CD の内容をコピーするかどうかを指定します。



「CD を使わずに HDD から事前設定を起動しますか？」で「はい」を選択すると、ServerStart CD-ROM がなくてもクライアントコンピュータで ServerStart が起動できるようになります。
「はい」を選択した場合は、コピー先フォルダを指定してください。CD-ROM の内容をコピーするため、コピー先フォルダには十分な空き容量が必要です。

3. ［次へ］をクリックします。
インストールが実行されます。

POINT

- インストールの前後に再起動のメッセージが表示された場合は、CD-ROM を取り出して、メッセージに従って再起動してください。再起動後、ServerStart CD-ROM をセットして再度インストールを開始してください。
再起動中に「このプログラムからの応答がありません。」とメッセージが表示された場合は、［終了］をクリックして再起動を続行してください。

インストールが終了すると、完了の画面が表示されます。

6 ［終了］をクリックします。
以上でクライアントコンピュータへの ServerStart のインストールは完了です。

POINT

- Windows 2000 Professional ／ Windows XP 以外で ServerStart をインストールした場合は、CD-ROM の内容はコピーされません。ServerStart の起動時には ServerStart CD-ROM が必要になります。

4.3.1 ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成

各種ツール起動時に必要な起動ディスクを作成します。
クライアントコンピュータで作成する場合は、あらかじめ ServerStart をインストールする必要があります。「■ クライアントコンピュータに ServerStart をインストールする」（→ P.132）を参照してインストールを行ってください。

POINT

- 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている場合は、インストール済みの ServerStart を必ずアンインストールしてください。アンインストールの方法については、「■ ServerStart のアンインストールについて」（→ P.33）を参照してください。
  アンインストール後、ServerStart をインストールしてください。

重 要

- 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている状態で ServerStart を起動すると、フロッピービルダ機能やインストールウィザードが正常に動作しない可能性があります。異なるバージョンの ServerStart は、必ずアンインストールしてください。

1 ServerStart を起動します。

すでに ServerStart を起動している場合は、再起動の必要はありません。起動していない場合は、以下の手順に従って起動してください。

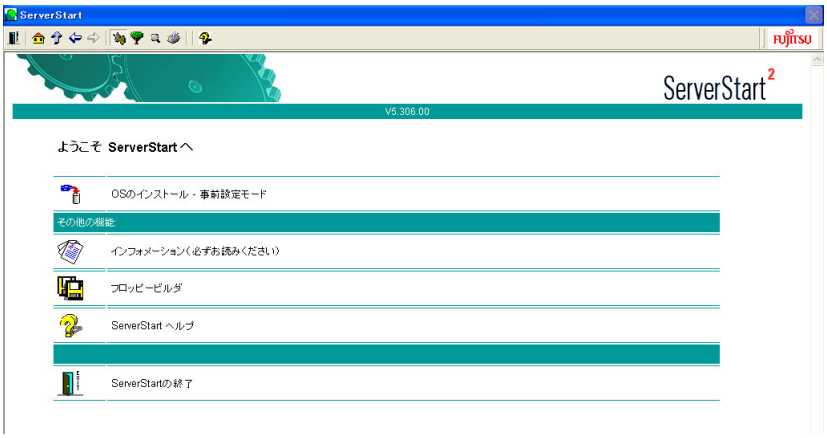
●クライアントコンピュータで作成する場合

・Windows 2000 Professional ／ Windows XP で、CD の内容をコピーしている場合

1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerStart」→「ServerStart」の順にクリックします。
   ServerStart が起動し、「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。

・Windows 2000 Professional ／ Windows XP 以外の場合、および CD の内容をコピーしていない場合

1. クライアントコンピュータに ServerStart CD-ROM をセットします。
   ServerStart が起動し、「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



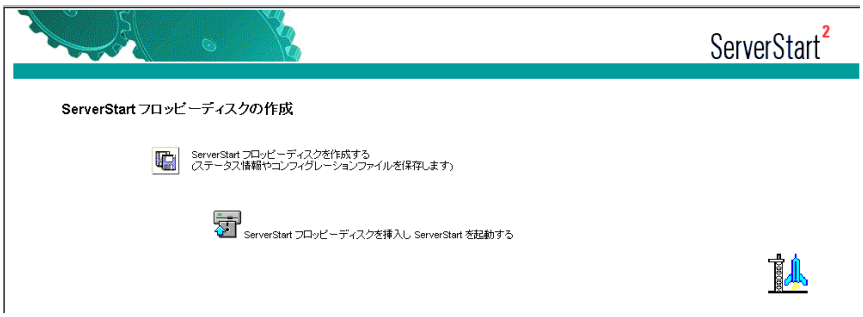
●サーバで作成する場合

1. サーバの電源を入れ、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。
   ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
2. ServerStart に添付の「ServerStart フロッピーディスク」をセットして、[作成] をクリックします。

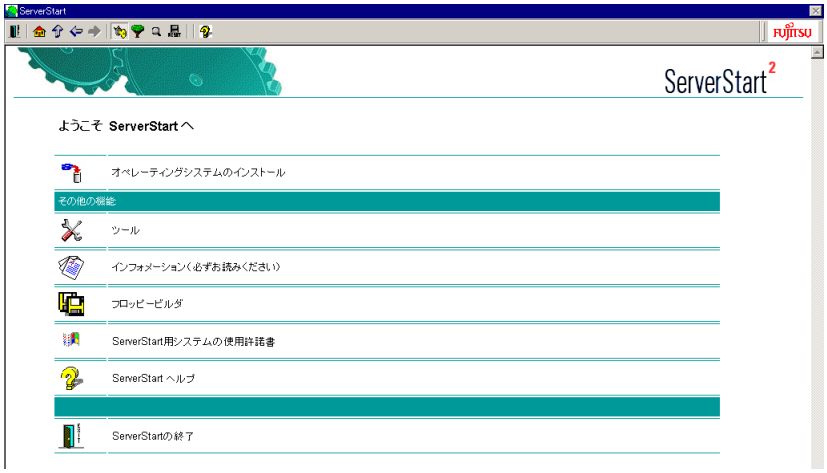
POINT

- ServerStart フロッピーディスクにコンフィグレーションファイルがすでに存在する場合、[作成] をクリックせずに [OK] をクリックしてしまうと、「自動インストールモード」画面が表示されます。必ず [中止] をクリックしてください。「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。
  「自動インストールモード」画面で [開始] をクリックすると、サーバのインストールが開始され、ディスク内容がすべて消去されてしまいますのでご注意ください。

「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。

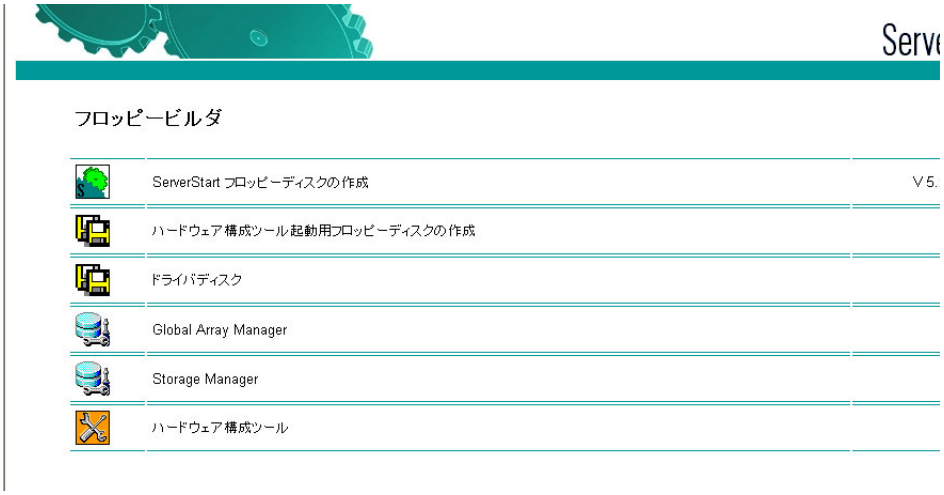


3. 「ServerStart フロッピーディスクを挿入し ServerStart を起動する」をクリックします。
「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



4. ServerStart フロッピーディスクを取り出します。

2 「フロッピービルダ」をクリックします。
「フロッピービルダ」画面が表示されます。



3 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成」をクリックします。
メッセージに従って、本サーバに添付の「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をセットしてください。

4 以降、画面のメッセージに従って、操作を行います。
フロッピーディスクが自動的にフォーマットされ、ファイルのコピーが開始されます。「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」の作成は自動で行われます。フロッピーディスクの作成完了メッセージが表示されたら、［OK］をクリックし、フロッピーディスクを取り出してください。

4.3.2 Global Array Manager ／ Storage Manager ／ FastCheck Monitoring Utility の作成方法

Global Array Manager ／ Storage Manager ／ FastCheck Monitoring Utility のインストール用ファイルは、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスク内に格納されます。ドライバディスクの作成方法は、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。
また、Global Array Manager ／ Storage Manager のインストールに関する詳細は、各 SCSI アレイコントローラカードに添付されている取扱説明書を参照してください。
FastCheck Monitoring Utility のインストールに関する詳細は、「付録 A.3 IDE RAID 管理ツール」（→ P.262）を参照してください。

4.3.3 ハードウェア構成ツールの作成方法

ハードウェア構成ツールを ServerStart CD-ROM から作成する方法について説明します。
あらかじめ、作成するツールの数のフロッピーディスクを用意してください。
ハードウェア構成ツールの種類は、お使いの機種によって異なります。
クライアントコンピュータで作成する場合は、あらかじめ ServerStart をインストールする必要があります。「■ クライアントコンピュータに ServerStart をインストールする」（→ P.132）を参照してインストールを行ってください。

POINT

- 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている場合は、インストール済みの ServerStart を必ずアンインストールしてください。アンインストールの方法については、「■ ServerStart のアンインストールについて」（→ P.33）を参照してください。
  アンインストール後、ServerStart をインストールしてください。

重要

- 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている状態で ServerStart を起動すると、フロッピービルダ機能やインストールウィザードが正常に動作しない可能性があります。異なるバージョンの ServerStart は、必ずアンインストールしてください。

1 ServerStart を起動し、フロッピービルダ画面を表示します。
操作手順については、「4.3.1 ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成」（→ P.134）の手順 1 ～ 2 を参照してください。

2 「ハードウェア構成ツール」をクリックします。

3 作成するツールをクリックします。
メッセージに従って、用意したフロッピーディスクをセットしてください。

4 以降、画面のメッセージに従って、作業を行います。
フロッピーディスクが自動的にフォーマットされ、ファイルのコピーが開始されます。
各ツールの作成は自動で行われます。フロッピーディスクの作成完了メッセージが表示されたら、［OK］をクリックし、フロッピーディスクを取り出してください。

4.4　サーバ運用前の留意事項

サーバの運用を始める前に、以下の設定を行ってください。

各設定については『ファーストステップガイド』を参照してください。

- LAN カードを増設する場合、「7.2 ドライバのインストール」（→ P.236）を参照してドライバをインストールしてください。
- 外部 SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニット、DAT など）を接続する場合、『ハードウェアガイド 第 4 章 内蔵オプションの取り付け』を参照して接続してください。
- インストールした添付アプリケーションの設定については、各アプリケーションの取扱説明書を参照してください。

4.4.1　Windows Update（システムを最新にする）

Windows Update は、Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server システムをお使いの場合に利用できます。
Windows Update を実行すると、ご使用の OS に適用可能な最新の QFE（修正モジュール）を自動的に検索して適用し、システムを最新の状態に更新することができます。ご利用のシステムに潜在する問題を未然に防ぐためにも、定期的に Windows Update を実行してください。
Windows Update の実行には、インターネットに接続可能なネットワーク環境が必要になります。

4.4.2　Service Pack の適用

Windows 2000 Server および Windows NT Server 4.0 の場合は、Service Pack を適用します。

■ Windows 2000 Server の場合

ServerStart CD-ROM には、Microsoft® Windows® 2000 Service Pack 3 が格納されています。
また、OS インストールタイプには、あらかじめ Service Pack 3 がインストールされています。
この Service Pack より新しい Service Pack が提供されている場合は、新しい Service Pack の "README.TXT" を参照してインストールしてください。
ServerStart CD-ROM に格納されている Service Pack を適用する場合は、CD-ROM 内の "w2ksp3.exe" を起動してください。

■ Windows NT Server 4.0 の場合

OS インストールタイプには、添付の Service Pack CD-ROM と同じ Service Pack がインストールされています。
Service Pack のバージョンは、Service Pack CD-ROM のレーベルに記載されていますので、ご確認ください。添付の Service Pack より新しい Service Pack が提供されている場合は、新しい Service Pack の "README.TXT" を参照してインストールしてください。

4.4.3 Code Red ワーム対策プログラムの適用について

Code Red ワームは、Microsoft 社の Internet Information Server（IIS）の脆弱性を利用する、強い感染力を持ったウイルスプログラムです。
Windows NT Server 4.0 または Windows 2000 Server の導入後に、ServerStart CD-ROM に格納されている「Code Red ワーム対策プログラム（CrFix2KJ.exe または CrFixNTJ.exe)」を必ず適用してください。
Windows Server 2003 は、CodeRed ワーム対策プログラムの対応が行われていますので、適用作業は不要です。
なお、Code Red ワームに関する情報、防護策と対処方法については、下記の Web サイトをご覧ください。
http://www.microsoft.com/japan/technet/security/topics/codealrt.asp

■ Windows 2000 Server の場合

IIS 5.0 および Indexing Service がインストールされている場合、「Code Red ワーム対策プログラム」を適用してください。なお、Service Pack 3 が適用されている場合は、Code Red ワームの対応が行われていますので、適用作業は不要です。

● 適用方法

1 **サーバをネットワークから切断します。**
修正モジュール適用中の感染を防ぐために、サーバをネットワークから切断します。LAN に接続されている場合は、LAN ケーブルを抜いてください。

2 **Windows 2000 Service Pack 2 を適用します。**
すでに適用済みの場合は、再適用する必要はありません。なお、特殊な事情などにより、Service Pack 2 の適用が困難な場合は、Service Pack 1 を適用してください。

3 **「Code Red ワーム対策プログラム」を適用します。**

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   「ServerStart」画面が表示されたら、いったん ServerStart を終了します。
2. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
   「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
3. 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
   [CD-ROM ドライブ] :¥DRIVERS¥UTILS¥QFE¥W2K¥CrFix2kJ.exe

修正モジュールが適用され、システムが自動的に再起動します。

● 適用後の確認方法

サーバに以下のレジストリキーが作成されていれば、「Code Red ワーム対策プログラム」は正しくインストールされています。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Updates¥Windows 2000¥SP3¥Q300972

■ Windows NT Server 4.0 の場合

IIS 4.0 および Index Server 2.0 がインストールされている場合、「Code Red ワーム対策プログラム」を適用してください。なお、セキュリティロールアップパッケージが適用されている場合は、Code Red ワームの対応が行われていますので、適用作業は不要です。

● 適用方法

1 サーバをネットワークから切断します。

修正モジュール適用中の感染を防ぐために、サーバをネットワークから切断します。LAN に接続されている場合は、LAN ケーブルを抜いてください。

2 Windows NT 4.0 Service Pack 6a を適用します。

Service Pack 適用後、再起動を要求されますので、再起動してください。なお、すでに適用済みの場合は、再適用する必要はありません。

3 「Code Red ワーム対策プログラム」を適用します。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   「ServerStart」画面が表示されたら、いったん ServerStart を終了します。
2. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
   「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
3. 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
   [CD-ROM ドライブ]:¥DRIVERS¥UTILS¥QFE¥NT4¥CrFixNTJ.exe

修正モジュールが適用され、システムが自動的に再起動します。

● 適用後の確認方法

サーバに以下のレジストリキーが作成されていれば、「Code Red ワーム対策プログラム」は正しくインストールされています。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows NT¥CurrentVersion¥Hotfix¥Q300972

4.4.4 Windows 2000 インストール後に存在するその他のデバイスについて

Windows 2000 Server のインストールが完了したあとに、デバイスマネージャを表示すると、「その他のデバイス」として、デバイスが正しく認識されない場合があります。
この場合、次の手順で確認して正しく構成する必要があります。

■ 確認／構成方法

1 管理者権限でサーバにログオンします。

2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

3 [システム] アイコンをダブルクリックします。

4 ［ハードウェア］タブをクリックし、［デバイスマネージャ］をクリックします。

5 「その他のデバイス」が存在するか確認します。
「その他のデバイス」が存在する場合は、以下の操作を行います。
1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
2. 「エクスプローラ」を起動し、CD-ROM の次のフォルダ内の INF ファイル（拡張子 *.inf）を、OS インストールフォルダ（例 C:¥Winnt）配下の inf フォルダ内にコピーします。
   ・Adaptec Management SCSI Processor Device の場合
   ¥Drivers¥SCSI¥Dpt¥W2k

6 「その他のデバイス」を選択し、右クリックします。
プロパティが表示されます。

7 ［全般］タブの［ドライバの再インストール…］をクリックして、デバイスドライバのアップグレードウィザードを実行します。

4.4.5 CD-ROM からの自動実行機能について

サーバインストール後に、CD-ROM からの自動実行機能の設定を変更するには、以下の操作を行ってください。

1 レジストリを編集できる状態にし、以下のレジストリキーの AutoRun の値を以下のように変更します。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥CDRom
自動実行を設定する場合は Autorun の値を「1」に、自動実行しない場合は「0」にします。

2 システムを再起動します。
システム再起動後、設定が有効になります。

4.4.6 エキスパートモードでのドライブ文字割り当てについて

エキスパートモードでは、パーティションに対して任意のドライブ文字を指定することができません。エキスパートモードのディスクマネージャで指定したドライブ文字は、インストール終了後には先頭のパーティションから順に「C、D、E...」と割り当てられ、最後に使用されていないドライブ文字が CD-ROM 装置に割り当てられます。
ドライブ文字を変更したい場合、インストール終了後に次の手順で変更してください。

■ Windows Server 2003 の場合

1. 「スタート」ボタン→「管理ツール」→「コンピュータの管理」の順にクリックします。
2. ［ディスクの管理］をクリックします。
3. 対象となるパーティションを右クリックし、「ドライブ文字とパスの変更」をクリックします。
   「ドライブ文字とパスの変更」画面が表示されます。
4. ［変更］をクリックします。
   「ドライブ文字またはパスの変更」画面が表示されます。
5. ドライブ文字を変更します。

■ Windows 2000 Server の場合

1. デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「管理」を選択します。
2. ［ディスクの管理］をクリックします。
3. 対象となるパーティションを右クリックし、「ドライブ文字とパスの変更」を選択します。
   「ドライブ文字とパスの変更」画面が表示されます。
4. ［変更］をクリックします。
   「ドライブ文字またはパスの変更」画面が表示されます。
5. ドライブ文字を変更します。

■ Windows NT Server 4.0 の場合

1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「ディスクアドミニストレータ」の順にクリックします。
2. 対象となるパーティションを右クリックし、「ドライブ文字の割り当て」を選択します。
   「ドライブ文字の割り当て」画面が表示されます。
3. ドライブ文字を変更します。

重 要

- システムおよびブートドライブのドライブ文字は変更できません。

4.4.7 OS インストールタイプをお使いの方へ

■ インストール環境

OS インストールタイプでの OS のインストール環境は以下のとおりです。

項目	Windows 2003	Windows 2000	Windows NT
インストールドライブ	C ドライブ	C ドライブ	C ドライブ
ドライブの容量	4GB（C ドライブ）＊1	4GB（C ドライブ）＊1	4GB（C ドライブ）
ファイルシステム	NTFS	NTFS	NTFS
ディレクトリ名	WINDOWS	WINNT	WINNT
ディスプレイの設定（解像度／色数）	800 × 600 ピクセル／High Color（16 ビット）＊2	800 × 600 ピクセル／High Color（16 ビット）＊2	800 × 600 ピクセル／High Color（16 ビット）
メンテナンス区画	150MB ＊3	150MB ＊3	150MB ＊3

＊1：開封時に容量の変更が可能です。
＊2：Windows 2003 ／ Windows 2000 の場合、ディスプレイの設定のリフレッシュレートは 60Hz になります。ただし、接続されたディスプレイによって設定が異なります。
＊3：BX300 の場合は、メンテナンス区画はありません。

■ アレイカード搭載モデルをお使いの場合

OS インストールタイプのアレイコントローラカードが搭載されているモデルは、手動で開封処理を行ってもアレイコントローラカードの管理ソフトウェアはインストールされません。拡張カードに添付の取扱説明書を参照して、管理ソフトウェアをインストールしてください。なお、ServerStart を使用して開封処理を行った場合はインストールされます。

■ 複数の LAN アダプタを搭載した場合

複数の LAN アダプタを搭載した OS インストールタイプを開封する際、ServerStart では 1 つの LAN アダプタに対してのみネットワークプロトコルを設定することができます。他の LAN アダプタについては、開封作業終了後、手動でネットワークの設定を行ってください。また、オプション LAN カードを搭載している場合は、ドライバが自動インストールされないことがあります。フロッピービルダを使って、搭載しているオプション LAN カード用のドライバディスクを作成し、手動でドライバをインストールしてください。詳細は、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）および「7.2 ドライバのインストール」（→ P.236）を参照してください。

■ インストールに失敗したとき

ServerStart を使用してインストールを行っている途中に失敗があった場合は、再インストールを行う必要があります。インストール時に使用していたコンフィグレーションファイルは再インストールには利用できません。一度フロッピーディスクを初期化して最初からやり直してください。

4.4.8 不要なファイルについて

OS のインストールが完了したあとに Runonce および Runonce2 というフォルダが、それぞれ次のドライブに残る場合があります。これらのフォルダは、システムをご利用になる上で必要ありませんので削除してください。

Runonce フォルダ　：OS をインストールしたドライブ
Runonce2 フォルダ：C ドライブ

4.4.9 バックアップについて

本サーバは、信頼性の高い部品やハードディスクを使用しておりますが、万一の故障に備え、データの定期的なバックアップを必ず実施してください。

■ バックアップの必要性

サーバのデータがバックアップされていれば、ハードウェアの故障や操作ミスなどにより、ハードディスクユニット内のデータが破壊された場合でも、バックアップデータからシステムを復旧させることができます。システムを安心して運用していただくためにも、定期的なバックアップを実施してください。

■ バックアップデバイスとソフトウェア、および運用

バックアップの運用方法は、ご使用になる OS やアプリケーション、システム運用方法によって異なります。そのため、担当営業員にご相談の上で、次のものを準備してバックアップを実施してください。

・バックアップデバイス（DDS4 ドライブなど）
・バックアップソフトウェア
（OS 標準提供のバックアップ用ソフトウェア、BrightStor ARCserve Backup など）
・バックアップの運用方法（スケジュールなど）
バックアップデバイス、およびソフトウェアは弊社純正品をご使用ください。バックアップ媒体（テープなど）の保管にあたっては、保管条件をお守りください。

POINT

・BX300 の場合、バックアップデバイスを直接接続することはできません。バックアップサーバへの接続をお勧めします。詳細については、『ハードウェアガイド　サーバブレード編』を参照してください。

第 5 章

高信頼ツール

PRIMERGY では、高信頼ツールを導入することを推奨しています。
この章では、それぞれのインストール方法や、使用方法について説明しています。

5.1 RAS 支援サービス 146
5.2 サーバ監視ツール［ServerView］ 152
5.3 テープ装置のメンテナンス ［Tape Maintenance Checker］153
5.4 システム環境の診断機能［FM Advisor］ 154
5.5 トラブルの早期解決［PROBEPRO］ 156
5.6 トラブルの早期解決［DSNAP］ 159
5.7 サーバ同士の時刻合わせツール［Chronoworker/S］ 160
5.8 REMCS エージェント 163

5.1　RAS 支援サービス

RAS（Reliability, Availability, Serviceability）支援サービスは、本サーバの定期交換部品である電源／ファン／ UPS のバッテリの状況を監視し、定期交換部品の交換時期になったときに通知するソフトウェアです。定期交換部品の故障による、本サーバの運用停止状態を回避できます。
以下の定期交換部品を監視します。

- 電源ユニット
- システムファン
- CPU ファン
- SCSI アレイコントローラ（オプション）上のバッテリ
- 高性能無停電電源装置（オプション）のバッテリ

重 要

- BX300 では RAS 支援サービスはサポートしていません。
- LINUX での RAS 支援サービスについては、ServerStart CD-ROM の以下のディレクトリに格納されている "RASAssist_for_Linux 説明書 .pdf" を参照してください。
  ［CD-ROM ドライブ］:¥PROGRAMS¥Japanese¥RASAssist¥

5.1.1　RAS 支援サービスのインストール方法

RAS 支援サービスは、OS 導入時に ServerStart を使用してセットアップした場合、OS や他の高信頼ツールと同時に一括インストールされます。
ServerStart を使用せずに OS をインストールした場合は、RAS 支援サービスを手動でインストールする必要があります。次の手順でインストールしてください。

1. 管理者権限でサーバにログオンします。
2. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   「ServerStart」画面が表示されたら、いったん終了します。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に、以下のように入力し、［OK］をクリックします。
   ［CD-ROM ドライブ］:¥Programs¥Japanese¥Elis¥Setup.bat
5. インストール終了後、CD-ROM を取り出して、システムを再起動します。

重 要

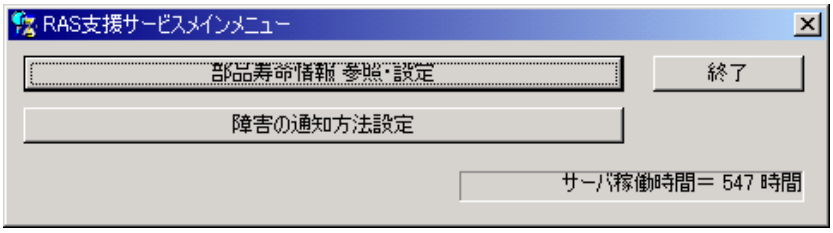
- RAS 支援サービスを使用する上での注意事項
  ・RAS 支援サービスは、アンインストールしないでください。
  ・RAS 支援サービスのサービス（F5EP50）は停止しないでください。

5.1.2　RAS 支援サービスの使用方法

RAS 支援サービスを起動します。

1 **管理者権限でサーバにログオンします。**

2 **「スタート」ボタン→「RAS 支援サービス」の順にクリックします。**
メニュー画面が表示されます。



メニュー	説明
部品寿命情報 参照・設定	・SCSI アレイコントローラカード上のバッテリ／ UPS のバッテリの交換予定日、搭載日を表示します。 ・バッテリの交換を行った際に、搭載日を今日の日付にリセットします。 ・電源／ FAN の稼働時間、定期交換時期を表示します。 ・電源／ FAN の交換を行った際に、稼働時間を 0 時間にリセットします。 ・本サーバの稼働時間を表示します。 ・本サーバの稼働時間の手入力が可能です。
障害の通知方法設定	定期交換部品の交換時期を知らせるメッセージを、画面に表示するかどうかを設定します。

3 **終了する場合は、［終了］をクリックします。**

5.1.3 部品寿命情報

「部品寿命情報 参照・設定」メニューで、本サーバの定期交換部品の状態、交換推奨時期を確認します。本サーバの運用開始前、および本サーバの定期交換部品の交換を行った場合、最新の情報に変更しておいてください。

1 ［部品寿命情報 参照・設定］をクリックします。

「部品寿命情報 参照・設定」画面が表示されます。

項目	説明
寿命部品名	定期交換部品の種類を表示します。
搭載日	RAID カード（SCSI アレイコントローラカード）のバッテリ、UPS のバッテリの搭載日を表示します。 各バッテリを交換した場合、交換した日付を入力します。 すでにお手持ちの UPS を本サーバに搭載した場合は、UPS を購入した日を搭載日として入力してください。
交換予定日	定期交換部品の交換推奨日時を表示します。
稼働時間	CPU FAN ／筐体 FAN ／電源ユニットの稼働時間を表示します。 単位は、時間（hour）です。 CPU FAN ／筐体 FAN ／電源ユニットを定期交換した場合、稼働時間に 0 を入力します。 ただし、1 台が交換周期を経過する前に故障して交換しても、本項目は変更しません。また、電源ユニット増設時にも本項目は変更しません。
寿命時間	CPU FAN ／筐体 FAN ／電源ユニットの定期交換時間を表示します。 単位は、時間（hour）です。
サーバ稼動時間	稼動時間を表示します。
搭載日を今日にする	ボタンをクリックすると、［搭載日］のカーソル位置の日付が今日の日付になります。 運用開始時や、UPS のバッテリをすべて交換した場合にクリックすると、入力の手間が省けて便利です。

重 要

- RAS 支援サービスのインストールは、本サーバの運用開始前に行ってください。
- RAS 支援サービスのインストール直後、搭載日には初期値として、RAS 支援サービスのインストール日が表示されます。したがって、UPS のバッテリを搭載して長期間が経過したあとに、RAS 支援サービスをインストールした場合は、手動で搭載日を修正してください。修正しない場合は交換推奨時期の誤差が大きくなります。

POINT

- 寿命について
  ・UPS のバッテリは、サーバの電源が切れている状態でも寿命を消費します。
  ・電源、FAN の寿命は、サーバの電源が入っている時間に依存します。
- 定期交換部品の交換周期について
  本サーバの定期交換部品の交換周期を以下に示します。交換の際の参考にしてください。
  なお、下記の値は本サーバ本体の設置環境温度（10 ～ 35 ℃）で使用している場合のものです。10 ℃の温度上昇で寿命期間はほぼ 1/2 に低下します。

定期交換部品	交換周期	備考
電源	約 26,000 時間	8 時間運用の場合、約 9 年間 24 時間運用の場合、約 3 年間
FAN	約 26,000 時間	8 時間運用の場合、約 9 年間 24 時間運用の場合、約 3 年間
SCSI アレイコントローラカードに登録されているバッテリ	約 2 年間 *	8 時間運用の場合も 24 時間運用の場合も約 2 年間
UPS のバッテリ	約 2 年間	8 時間運用の場合も 24 時間運用の場合も約 2 年間

*）SCSI アレイコントローラカード（PG-144B/144C）搭載時、約 1 年半になります。なお、他の SCSI アレイコントローラカード（PG-142C）も搭載している場合は、そのカードも約 1 年半になります。

サーバ稼動時間の再設定
システム運用時、万一システムクラッシュなどで OS の再インストールが必要になった場合、稼動時間の再設定が必要となります。ただし、リモートサービスボード（PG-RSB101）搭載時は、再設定の必要はありません。
計算方法は、以下のとおりです。

稼動時間 = 使用月数 × 30 × 24 ×稼働率／月 ×稼働率／日

・1 日 8 時間、1 か月に 20 日稼動しているシステムが 4 か月使用時にシステムクラッシュした場合

稼動時間 = 使用月数（4） × 30 × 24 ×稼動率／月（20/30） ×稼働率／日（8/24）
=640 時間

2 各情報の確認、および設定が終了したら、［OK］をクリックします。
設定を変更した場合は、変更を保存するかどうかの確認のメッセージが表示されます。

3 ［OK］をクリックして、終了します。

重 要

- 定期交換部品の交換周期について
  定期交換部品の交換周期は周囲温度で変動します。
  定期交換部品の交換周期は、サーバ本体の使用温度を年間平均温度 25 ℃と想定しています。したがって、年間平均温度が 25 ℃を超えた環境で使用すると交換時期が早くなる場合があります。
  一般的に温度が 10 ℃上がると（年間平均温度 35 ℃）、定期交換部品の交換周期は約半分に短縮されます。
  他のサーバで使用されていた UPS を本サーバに搭載した場合、使用期間分の寿命を消費しています。累積使用期間が交換周期に達した場合は、バッテリを交換してください。
- 他のサーバで使用していた SCSI アレイコントローラカード、UPS を本サーバに搭載した場合、使用期間分の寿命を消費しています。累積使用期間が交換周期に達した場合は、バッテリを交換してください。

5.1.4 障害の通知方法の設定

定期交換部品が交換時期になったときに、交換時期を通知するメッセージを画面に表示するかどうかを設定します。

1 ［障害の通知方法設定］をクリックします。
「障害の通知方法設定」画面が表示されます。

2 「画面への表示」を選択し、［OK］をクリックします。
部品の交換周期を過ぎた場合に、メッセージが画面に表示されます（初期設定値）。
チェックしない場合は、部品の交換周期を過ぎても、メッセージが画面に表示されません。

■ 定期交換部品交換時期のメッセージ

メッセージが表示されたら、表示された定期交換部品を交換してください。

● 表示されるメッセージと表示先

メッセージ	表示先	対処
寿命を超えている部品があります。	ディスプレイ	寿命部品の交換時期です。 担当保守員に連絡してください。
寿命部品 CPU FAN の使用時期がしきい値を超えました。	システムイベントログ	CPU FAN（プロセッサのファン）の交換時期です。 担当保守員に連絡してください。
寿命部品 CPU FAN を交換してください。	ディスプレイ	
寿命部品 FAN（ハウジングファン）の使用時間がしきい値を超えました。	システムイベントログ	筐体 FAN（冷却ファン）の交換時期です。 担当保守員に連絡してください。
寿命部品 FAN（ハウジングファン）を交換してください。	ディスプレイ	
寿命部品 PSU（電源供給装置）の使用時間がしきい値を超えました。	システムイベントログ	電源ユニットの交換時期です。 担当保守員に連絡してください。
寿命部品 PSU（電源供給装置）を交換してください。	ディスプレイ	
寿命部品 UPS BBU の使用時間がしきい値を超えました。	システムイベントログ	UPS のバッテリの交換時期です。 担当保守員に連絡してください。
寿命部品 UPS BBU を交換してください。	ディスプレイ	
寿命部品 RAID 電池（RAID Card#nn）の使用時間がしきい値を超えました。	システムイベントログ	SCSI アレイコントローラカードのバッテリの交換時期です。 担当保守員に連絡してください。 nn:SCSI アレイコントローラカードのスロット番号
寿命部品 RAID 電池を交換してください。	ディスプレイ	

■ 異常時にシステムイベントログに表示されるメッセージ

異常時に、システムイベントログに表示されるエラーメッセージです。

メッセージ	内容と対処
F5EP50 でエラーが発生しました。	担当保守員に連絡してください。

■ システムイベントログに表示される通知メッセージ

RAS 支援サービスのインストール時、および運用開始後にシステムイベントログに表示される通知メッセージです。

メッセージ	内容と対処
F5EP50 をインストールしました。	RAS 支援サービスが正常にインストールされました。
F5EP50 の実行を開始しました。	RAS 支援サービスが正常に起動しました。
F5EP50 を実行を停止しました。	RAS 支援サービスが正常に停止しました。

5.2　サーバ監視ツール［ServerView］

ServerView は、ネットワーク上の各サーバのハードウェアの状態を常時監視するとともに、管理者がすべてのサーバの状態を一目で確認できるコンソールを提供します。また、万一異常が発生した場合には、早期対応が図れるように、管理者にリアルタイムに通知します。

5.2.1　ServerView のインストール

ServerView は、OS 導入時に ServerStart を使用してセットアップした場合、OS や他の高信頼ツールと同時に一括インストールすることができます。ただし、ServerStart でインストールされるのは、ServerView Basic のみです。ServerView Full および ServerView Console をインストールする場合には、OS 導入後に、『ServerView ユーザーズガイド 第 2 章 インストール』を参照して、インストールを行ってください。
なお、Linux の場合は、ServerStart によるインストールをサポートしていません。
Linux での ServerView のインストールについては、『 ServerView ユーザーズガイド』を参照して行ってください。

重 要

- ServerView をインストールする前に、必ず RAS 支援サービスおよび SNMP サービスをインストールしておいてください。ただし、BX300 では RAS 支援サービスをサポートしていません。SNMP サービスのみインストールしておいてください。

5.3 テープ装置のメンテナンス [Tape Maintenance Checker]

Tape Maintenance Checker を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

重要

- インストールする前に
  - ・メンテナンス対象のテープ装置がサーバに搭載されていることを確認してから行ってください。
  - ・すべてのプログラム（ウィルスワクチンプログラムなど）を終了してください。

1. 管理者権限でサーバにログオンします。
2. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   「ServerStart」画面が表示されたら、いったん終了します。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
   「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
4. 「名前」に以下のように入力し、［OK］をクリックします。
   ［CD-ROM ドライブ］:¥PROGRAMS¥Japanese¥TMCHECK¥Setup.exe
5. インストーラが起動します。
   以降、画面のメッセージに従って、インストールを行ってください。
6. インストール終了後、CD-ROM を取り出して、システムを再起動します。

5.4 システム環境の診断機能［FM Advisor］

FM Advisor を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

1. 管理者権限でサーバにログオンします。
2. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   「ServerStart」画面が表示されたら、いったん終了します。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
   「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
4. 「名前」に以下のように入力し、［OK］をクリックします。
   ［CD-ROM ドライブ］:¥PROGRAMS¥Japanese¥FMADV¥SETUP.EXE

   POINT

   - BX300 の Windows 2000 インストールタイプ開封時と同じバージョンのツールをインストールする場合は以下を入力します。
     ［CD-ROM ドライブ］:¥PROGRAMS¥Japanese¥W2K¥FMADV¥SETUP.EXE
5. インストーラが起動します。
   以降、画面のメッセージに従って、インストールを行ってください。
6. インストール終了後、システムを再起動します。

5.4.1 診断方法

FM Advisor を実行すると自動的に調査が開始され、調査結果が表示されます。

1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「FM Advisor」の順にクリックします。
   FM Advisor が起動します。
2. ［OK］をクリックします。
   自動的に定義ファイルが読み込まれ、調査が実行されます。
   調査の状況はウィンドウのグラフに表示され、進行状況をチェックすることができます。なお、ファイルの検索をキャンセルしたい場合は、［キャンセル］をクリックしてください。ファイルの検索をキャンセルしても、次のシステム情報の取得が行われます。
3. ファイルの検索が終了すると、自動的にシステム情報の取得を実行します。
   調査結果が表示されます。［OK］をクリックして詳細情報を確認します。

POINT

- システム情報の表示について
  「表示」メニューの「システム情報の表示」で表示する環境情報において、［コンピュータ］タブ内の ［機種情報］の内容が正しく表示されない場合があります。
  この場合は、サーバ監視ツール「ServerView」および『ハードウェアガイド 第 7 章 技術情報』などで機種名を確認してください。

5.4.2 定義ファイルの入手方法

最新の定義ファイルは富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ （http://www.fmworld.net/biz/primergy/）内の『ソフトウェア』にて提供しています。コンピュータを正確に診断するには、定義ファイルは非常に重要な役割を担います。最新の定義ファイルをご利用ください。

FM Advisor の最新バージョンの定義ファイルは、Windows 95/98 用、Windows 2000/NT 用の 2 種類があります。各 OS に対応した定義ファイルをご利用ください。異なった定義ファイルを使用した場合、FM Advisor は正確にコンピュータを診断できません。

5.5 トラブルの早期解決［PROBEPRO］

標準のインストーラを使用して PROBEPRO をインストールする方法と PROBEPRO の動作環境の定義について説明します。ServerStart から PROBEPRO をインストールした場合には、PROBEPRO の動作環境の定義（→ P.157）のみ行ってください。

5.5.1 インストール方法

PROBEPRO を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

1. 管理者権限でサーバにログオンします。
2. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   「ServerStart」画面が表示されたら、いったん終了します。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
   「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
4. 「名前」に以下のように入力し、［OK］をクリックします。
   ［CD-ROM ドライブ］:¥PROGRAMS¥Japanese¥PROBEPRO¥SETUP.EXE

   POINT

   - BX300 の Windows 2000 インストールタイプ開封時と同じバージョンのツールをインストールする場合は以下に格納されています。
     ［CD-ROM ドライブ］:¥PROGRAMS¥Japanese¥W2K¥PROBEPRO¥SETUP.EXE

   インストーラが起動します。
5. 画面のメッセージに従ってインストールします。
   PROBEPRO のインストールが終了すると、動作環境の定義を行うかどうかを確認するメッセージが表示されます。
6. ［はい］をクリックします。
   定義ウィザードが起動し、ウィザードの初期画面が表示されます。

POINT

- PROBEPRO を再インストールする場合は、PROBEPRO をアンインストール（→ P.158）してから再インストールを行ってください。

5.5.2　動作環境を定義する

PROBEPRO をご使用になるには、PROBEPRO の動作環境を定義する必要があります。動作環境の定義は、標準のインストーラでのインストール時、または定義ウィザードにより行えます。ServerStart で PROBEPRO をインストールした場合は、インストール時には動作環境が定義できないので、インストール後に定義ウィザードを起動して動作環境を定義してください。

定義ウィザードを起動して動作環境を定義するには、次の操作を行います。

1. **管理者権限でサーバにログオンします。**
2. **「スタート」ボタン→「プログラム」→「PROBEPRO V2.0L30」→「PROBEPRO 定義ウィザード」の順にクリックします。**
   定義ウィザードが起動し、ウィザードの初期画面が表示されます。
3. **［次へ］をクリックします。**
   PROBEPRO で収集できる情報の種類が表示されます。
4. **収集したい情報を選択します。**
5. **［次へ］をクリックして設定していきます。**
   シンボルパス名の設定画面が表示された場合は、「5.5.5 シンボルファイルの準備」（→ P.158）を参照して、シンボルファイルを準備してください。
6. **「定義内容の設定確認」画面が表示されたら、［はい］をクリックします。**

5.5.3　初回インストール時の初期設定について

■ システム情報の収集契機

機能	収集契機
モジュール情報の収集	システム起動時、24 時間インターバル
レジストリ情報の収集	システム起動時、24 時間インターバル
パフォーマンス情報の収集	30 分インターバル

■ 出力先ディレクトリ

PROBEPRO が収集したシステム情報は以下のディレクトリに出力されます。

C:¥Program Files¥FUJITSU¥PROBEPRO¥Data

5.5.4 アンインストール方法

PROBEPRO をアンインストールするには、次の操作を行います。

1 管理者権限でサーバにログオンします。

2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「PROBEPRO V2.0L30」→「PROBEPRO アンインストール」の順にクリックします。
アンインストーラが起動します。

3 画面のメッセージに従ってアンインストールを行います。

5.5.5 シンボルファイルの準備

シンボルパス名の設定画面が表示された場合、次のように操作して、シンボルファイルを準備します。なお、Windows 2003 の場合は、シンボルファイルは必要ありません。

1 シンボルファイルを入手します。

●Windows 2000 の場合

次のいずれかの方法で入手できます。

・Windows 2000 Customer Support and Diagnostics Tools CD-ROM

・Microsoft Web サイト

次の URL からダウンロードできます。

http://www.microsoft.com/windows2000/downloads/tools/symbols/default.asp

インストールの方法については、次の URL を参照してください。

http://www.microsoft.com/JAPAN/support/kb/articles/J054/0/84.htm

なお、上記 URL などは変更されることもあります。あらかじめご了承ください。

●Windows NT の場合

次のいずれかの方法で入手できます。

・Windows NT インストール用 CD-ROM

Service Pack を適用していない場合にご用意ください。通常「¥SUPPORT¥DEBUG」配下に収められています。

・Service Pack の CD-ROM

Service Pack を適用している場合にご用意ください。変更モジュールに対応するシンボルファイルが同時提供されていますので、該当する SP のシンボルで上書きしてください。

2 システムレベルに対応するシンボルファイルを任意のディレクトリにコピーします。

ディレクトリ名の最後は、必ず「¥Symbols」としてください。

5.6 トラブルの早期解決［DSNAP］

DSNAP は、サーバ環境情報などの障害調査用資料を一括取得するためのツールです。
DSNAP をインストールする方法について説明します。

ServerStart CD-ROM の "¥PROGRAMS¥Japanese¥DSNAP" フォルダに、以下のファイルが格納されています。

POINT

- BX300 の Windows 2000 インストールタイプ開封時と同じバージョンのツールをインストールする場合は以下に格納されています。
  [CD-ROM ドライブ]:¥PROGRAMS¥Japanese¥W2K¥DSNAP¥SETUP.EXE

- DSNAP.EXE
- README.TXT

サーバのハードディスク内にコピーしてください。使用方法については、"README.TXT" を参照してください。

5.7　サーバ同士の時刻合わせツール [Chronoworker/S]

Chronoworker/S は、NTP（Network Time Protocol）および SNTP（Simple Network Time Protocol）のネットワークを利用したコンピュータ同士の時刻合わせを行うアプリケーションです。サーバとサーバ間、サーバとクライアント間の時刻合わせが行えます。
Chronoworker/S の使用方法については、インストール後のオンラインマニュアル（[ヘルプ]）を参照してください。

5.7.1　インストール方法

重 要

- BX300 で Chronoworker/S を使用する場合は、BIOS セットアップユーティリティで「Sync RTC with Mgmt. Blade」を必ず「Disabled」にして使用してください。BIOS セットアップユーティリティの使用方法は、『ハードウェアガイド サーバブレード編 第 4 章 ハードウェアの設定について』を参照してください。

Chronoworker/S をインストールするには、次の操作を行います。

1. 管理者権限でサーバにログオンします。
2. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   「ServerStart」画面が表示されたら、いったん終了します。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
   ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。
4. 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
   [CD-ROM ドライブ]:¥PROGRAMS¥Japanese¥crnwrk¥Setup¥Setup.exe
5. インストーラが起動します。
   以降、画面のメッセージに従って、インストールを行ってください。

5.7.2　運用の手順

Chronoworker/S を運用するには、「スタートアップモード」による疎通確認を行ってから、「サービスモード」でシステムを運用します。

■「スタートアップモード」による疎通確認

最初に「スタート」ボタンから「Chronoworker」を起動すると、Chronoworker/S は「スタートアップモード」が選択されています。Chronoworker/S の導入当初は、Chronoworker/S を「スタートアップモード」で数回起動させ、タイムサーバの登録や時刻合わせパラメータの調整を行います。

疎通確認に際して、次のパラメータの設定や変更が必要です。

- タイムサーバの登録（必須）
  時刻を取得するタイムサーバの登録を行います。
- SNTP サーバとして動作（必要に応じて）
  他のサーバやクライアントに時刻を供給する場合に指定します。
- 時刻合わせパラメータ（必要に応じて）
  タイムサーバとの繰り返し時刻合わせ間隔や、タイムサーバからの応答待ち監視時間、タイムサーバ時刻と内部時計との誤差の修正範囲を指定します。デフォルト値は LAN 接続の最適値が設定されています。外部公開サーバと交信を行う場合は変更が必要です。
- LAN 接続／ダイアルアップ接続（必要に応じて）
  タイムサーバとの接続形態を指定します。ダイアルアップ接続の場合や、Socks5 Proxy サーバ経由の場合に変更が必要です。

■「サービスモード」でのシステム運用

「スタートアップモード」でパラメータの調整後、Chronoworker/S の動作モードを「サービスモード」に切り替え、通常のシステムの運用を行います。「サービスモード」では、Windows NT ／ Windows 2000 のサービス（ChronoNTService）が時刻合わせを行います。

時刻合わせのサービス（ChronoNTService）を停止する場合、および動作パラメータの再変更を行う場合は、管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンし、「スタート」ボタンから Chronoworker/S を起動します。

5.7.3 起動と終了の方法

■ 起動方法

1. 管理者権限でサーバにログオンします。
2. 「スタート」ボタン→「Chronoworker」の順にクリックします。
3. タイムサーバの名前、またはアドレスを登録後、［スタート］をクリックします。

POINT

- タイムサーバ名について
  あらかじめ登録されているタイムサーバ名は、インターネット上に公開されている公開 NTP サーバのものです。ファイアウォール等で使用できない場合は、使用可能なタイムサーバをネットワーク管理者にご確認ください。

■ 終了方法

● サービスモードで運転中の場合

1. 管理者権限でサーバにログオンします。
2. 「スタート」ボタン→「Chronoworker」の順にクリックします。
3. ［ストップ］をクリックします。

● スタートアップモードで運転中の場合

1. 管理者権限でサーバにログオンします。
2. タスクトレイの［Chronoworker］アイコンを右クリックしてメニューを表示させ、「終了」を選択します。

5.7.4 アンインストール方法

Chronoworker/S をアンインストールするには、次の操作を行います。

1. Chronoworker/S を終了します。
2. 「コントロールパネル」の［アプリケーションの追加と削除］で、Chronoworker/S をアンインストールします。

5.8 REMCS エージェント

REMCS エージェントは、弊社サポートセンターとの連携サービス（リモート保守サービス）をご利用になる際に使用するソフトウェアです。

5.8.1 REMCS エージェントのインストール

インストールの前に、REMCS センタとの接続形態を決めておく必要があります。
REMCS エージェントの概要およびインストールについては、『REMCS エージェント 運用ガイド』を参照してください。

REMCS エージェントを使用するには、「ServerView」がインストールされている必要があります。必要な環境については、『REMCS エージェント 運用ガイド 1.3 必要なシステム』でご確認ください。

第 6 章

クライアントのインストール

この章では、WizardConsole を使用したネットワークアカウントの設定方法や、クライアントへのインストール方法について説明しています。

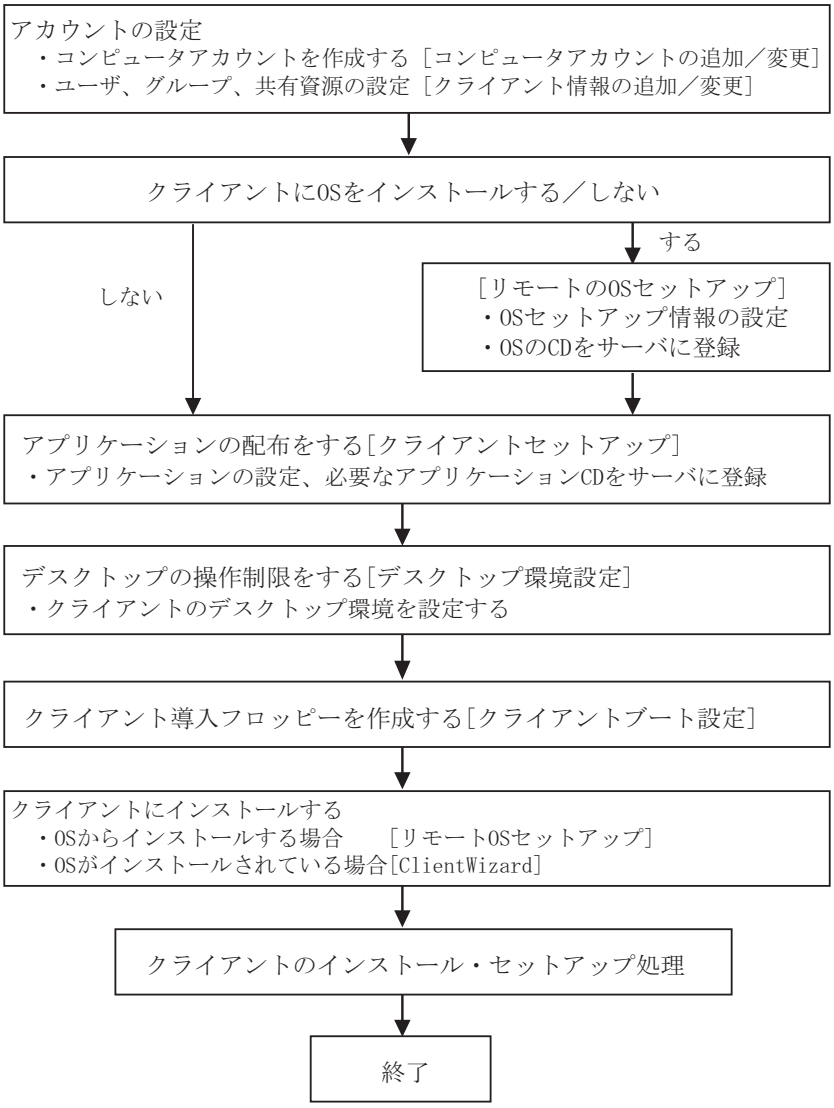
6.1 クライアントのセットアップ 166
6.2 クライアントコンピュータの追加／変更 171
6.3 ユーザ、グループ、共有資源の 追加／変更 176
6.4 リモート OS セットアップ 183
6.5 クライアントセットアップ 188
6.6 クライアントのデスクトップ環境を設定する 198
6.7 クライアントブート設定 203
6.8 クライアントへのインストール 209
6.9 変更した情報の登録 214
6.10 WizardConsole 使用時の留意事項 215
6.11 WizardMenu によるデスクトップメニューの作成 222
6.12 WizardConsole のアンインストール 226

6.1 クライアントのセットアップ

ここでは、WizardConsole を使ったクライアントセットアップの概要を説明します。

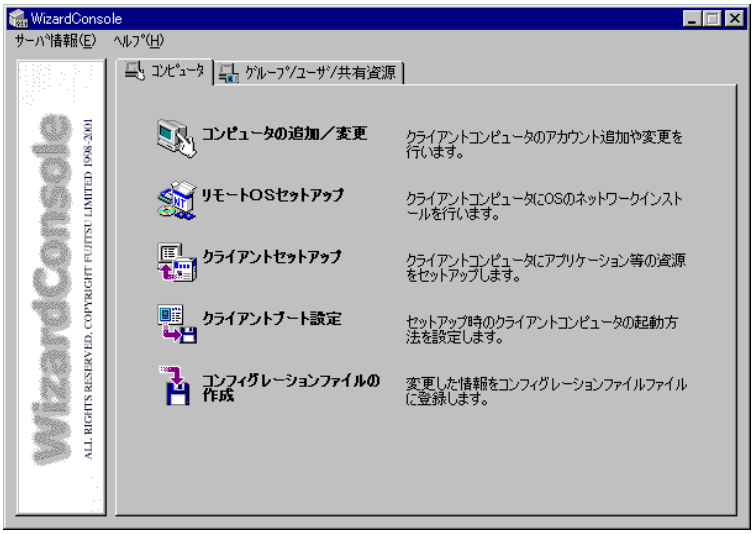
6.1.1 クライアントへのインストールとセットアップ操作の流れ

クライアントへのインストール、セットアップは、以下の流れで行います。



6.1.2　WizardConsole の各機能

1 「スタート」ボタン→「ServerStart」→「WizardConsole」の順にクリックします。
WizardConsole が起動します。



■［コンピュータ］タブ

● コンピュータの追加／変更

ネットワーク環境を構築するためのコンピュータアカウントを登録します。
OS 種別が同じクライアントコンピュータを、一括して大量に登録することもできます。

● リモート OS セットアップ

OS をインストールしていないクライアントコンピュータに、OS のインストールを行う機能です。OS のインストールだけでなく、セットアップ、アプリケーションのインストールまでを行うことができます。

● クライアントセットアップ

クライアントに同一アプリケーションや、同一ファイルのインストールを行うための設定です。ここで設定したアプリケーションなどは、クライアントがサーバにログオンすると自動的にインストールされます。それぞれのクライアントへインストールする作業が軽減できます。

● クライアントブート設定

クライアントをセットアップするときに使用するクライアント起動用フロッピーディスクを作成します。

● コンフィグレーションファイルの作成

WizardConsole で追加、変更した設定情報を、フロッピーディスクまたはハードディスクに保存します。

■ [グループ／ユーザ／共有資源] タブ

● クライアント情報の追加／変更

ユーザの追加、グループの追加、共有資源の設定など、ネットワークに必要なアカウントを作成したり、変更する機能です。設定したアカウントは一覧で表示され、関連付けも簡単です。

● デスクトップ環境設定

クライアントのデスクトップの表示状態を設定できます。たとえば、業務に必要な機能のみを表示させたり、スタートメニューなどを設定することができます。

6.1.3　各 OS 環境における利用可能な機能

■ 各機能と使用可能な OS 種別

クライアントの個別セットアップには、リモート OS セットアップ、クライアントセットアップ、デスクトップ環境設定機能がありますが、ご使用になる OS とネットワーク環境によっては使用できない機能があります。各機能における使用可能 OS とネットワークの関係は以下のとおりです。

OS	ネットワークタイプ	WizardConsole の機能		
		リモート OS セットアップ	クライアントセットアップ	デスクトップ環境設定
Windows NT Server 4.0	プライマリドメインコントローラ	×	×	×
	バックアップドメインコントローラ	×	×	×
	メンバサーバ	×	×	○
Windows 2000 Server	ドメインコントローラ	×	×	×
	メンバサーバ	×	×	○
Windows NT Workstation 4.0	ドメインメンバ	○	○	○
Windows 2000 Professional	ドメインメンバ	○	○	○
Windows XP	ドメインメンバ	×	○	○
Windows 98	ドメインメンバ	×	○	○
Windows 95	ドメインメンバ	×	○	○
Windows Me	ドメインメンバ	×	○	×

6.1.4　WizardConsole を利用するための準備

■ クライアント側の準備

● ハードウェアのセットアップ

本体ハードウェアマニュアルをよく読み、コンピュータを正しく設置してください。
LAN カードを搭載し、サーバと接続できる状態にしておきます。
接続方法など、詳しくはご使用の各装置に添付のマニュアルを参照してください。
クライアントコンピュータに複数の LAN カードが搭載されていた場合、サーバに正常に接続できない場合があります。LAN カードの搭載は 1 つのみにしてください。

● ソフトウェアの準備

MS-DOS

リモート OS セットアップを使用する場合には、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクが必要になります。MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクは、以下の方法により作成してください。

－FD バックアップコマンドを使用する

クライアントコンピュータに添付のドライバーズ CD-ROM から FD バックアップコマンドを使用して作成できます。

FD バックアップコマンドの使用方法に関しては、クライアントコンピュータに添付のマニュアルを参照してください。

－Windows 95 / 98 から作成する

1. A ドライブに初期化可能なフロッピーディスクをセットします。
2. マイコンピュータから A：ドライブを選択します。
3. 右クリックし、フォーマットを選択します。
4. フォーマットの種類に「起動専用（C）」を選択し、［開始（S）］をクリックします。

使用可能な MS-DOS のバージョンは、以下のとおりです。

・MS-DOS V6.2
・MS-DOS V7.0（Windows 95）
・MS-DOS V7.1（Windows 98）

重要

▸ **ソフトウェアのライセンス**
どの方法による作成でも、必ず使用するクライアント台数分のライセンスが必要となります。ご契約の内容を確認して作成してください。

MS-DOS® LAN マネージャ

以下の MS-DOS® LAN マネージャのファイルが必要です。

Protman.dos ／ Protman.exe ／ Netbind.com

次の方法で入手してください。

・Windows NT Server 4.0 の CD-ROM
¥CLIENTS¥MSCLIENT¥NETSETUP
・Microsoft の Web サイトからダウンロードする。
ftp://ftp.microsoft.com/bussys/clients/msclient/disk3-1.exe

重 要

- Web サイトからダウンロードした場合は、ファイルが圧縮されています。次の手順でファイルを展開してください。
  1. "disk3-1.exe" を実行します。
  2. Expand コマンドでファイルを展開します。
     例）c:¥temp に disk3-1.exe を展開した場合
     Expand c:¥temp¥protman.do_ /r【Enter】
     Expand c:¥temp¥protman.ex_ /r【Enter】

■ ネットワーク環境の設定

WizardConsole をご使用いただくには、以下のネットワーク設定が必要です。

● TCP/IP プロトコルの設定

WizardConsole をインストールするコンピュータには、TCP/IP プロトコルが必要です。
あらかじめ TCP/IP プロトコルのインストールおよび設定を行ってください。
また、WizardConsole をインストールしたコンピュータには、固定の IP アドレスを設定するようにしてください。詳しい IP アドレスの設定方法は各 OS のマニュアルを参照してください。

● 複数セグメントを含んだネットワークでの留意点

ルータと複数のセグメントを含んだ TCP/IP ネットワークで、WizardConsole をご利用になる場合、以下の注意が必要です。

- コンピュータの追加／変更
  コンピュータの追加／変更で、クライアントコンピュータの設定を行う際、各セグメントに所属するクライアントコンピュータごとに、適切なデフォルトゲートウェイを指定してください。デフォルトゲートウェイを指定しない場合、クライアントセットアップが正常に利用できなくなります。
  例）セグメント 1 のゲートウェイアドレスが 192.168.1.1、セグメント 2 のゲートウェイアドレスが 192.168.2.1 の場合
  セグメント 1 に含まれるクライアントコンピュータアカウントのデフォルトゲートウェイアドレスは 192.168.1.1 に、セグメント 2 に含まれるクライアントコンピュータアカウントのデフォルトゲートウェイアドレスは 192.168.2.1 を指定する必要があります。

- クライアントセットアップ
  ドメインコントローラが存在しないセグメントに含まれるクライアントコンピュータがドメインに参加するためには、WINS を使用するか、LMHOSTS ファイルにドメインコントローラの IP アドレスを記述してください。
  WINS または、LMHOSTS の設定方法は、ネットワーク管理者にご相談ください。

● クライアントコンピュータの設定

インストールモデルなどで、すでに OS がインストール済みのコンピュータに対してクライアントセットアップを行う場合は、あらかじめ「TCP/IP プロトコル」、「Microsoft ネットワーククライアントサービス」（Windows 95/98/Me の場合）を設定しておく必要があります。各 OS のマニュアルを参照して、インストールおよび設定を行ってください。

6.2　クライアントコンピュータの追加／変更

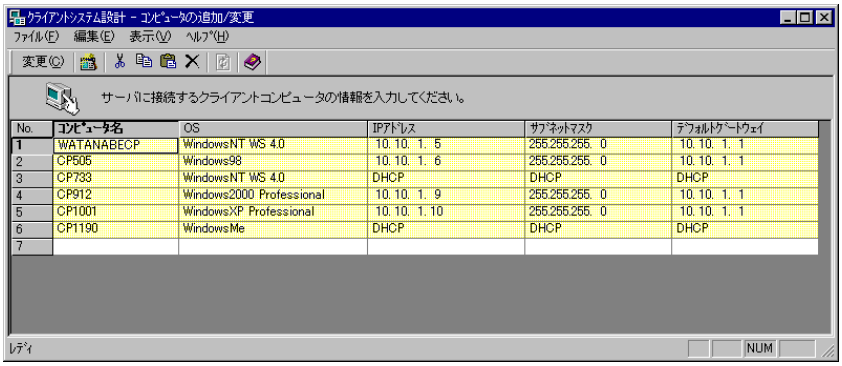
WizardConsole で管理するクライアントコンピュータを登録します。

コンピュータの登録方法には、次の 3 つの方法があります。

- 登録済みのコンピュータ情報を変更する場合、または個別の情報を持つクライアントコンピュータを追加する場合は、「6.2.1 コンピュータの変更、追加」（→ P.174）を行ってください。
- WizardConsole をインストールする前に、すでにコンピュータを登録している場合は、「6.2.2 コンピュータ情報の取得」（→ P.174）を行ってください。
- OS 種別が同じクライアントコンピュータを大量に一括登録する場合は、「6.2.3 コンピュータの一括導入」（→ P.175）を行ってください。

1　**「WizardConsole」画面で［コンピュータ］タブを選択し、［コンピュータの追加／変更］をクリックします。**

「クライアントシステム設計－コンピュータの追加／変更」画面が表示されます。



重要

- 背景が黄色で表示されているアカウントは、すでに登録済みであることを表します。
- 登録済みのアカウントを変更する場合は［変更］をクリックし、表示された画面で修正を行ってください。変更内容は即時に反映されますので、情報を変更する場合は十分注意してください。

■「クライアントシステム設計　コンピュータの追加／変更」画面のツールバー

■「クライアントシステム設計－コンピュータの追加／変更」画面の説明

項目	説明
コンピュータ名	WizardConsole で管理しているコンピュータ名が表示されます。
OS	OS の種類が表示されます。
IP アドレス	設定されている IP アドレスが表示されます。
サブネットマスク	設定されているサブネットマスクが表示されます。
デフォルトゲートウェイ	設定されているデフォルトゲートウェイが表示されます。

■「クライアントシステム設計－コンピュータの追加／変更」画面のメニュー

項目	説明
「ファイル」メニュー	
コンピュータの取込み	コンピュータ情報を取り込みます。
CSV ファイル	あらかじめ複数のコンピュータの情報を CSV 形式で記述してファイルを作成しておき、まとめてコンピュータを登録できます。 CSV ファイルの記述方法については、「6.10.5 CSV ファイルフォーマットについて」（→ P.221）を参照してください。
コンピュータ情報の取得	ネットワーク上でドメインメンバとして動作中のコンピュータ情報を取得します。ツールバーまたはメニューの「適用」が有効な場合は選択できません。
CSV ファイル出力	登録されているコンピュータ情報を CSV 形式のファイルに書き出します。
導入ウィザード	同じ OS 種別のコンピュータを大量に一括して登録します。
アプリケーションの終了	クライアントシステム設計を終了します。
「編集」メニュー	
切り取り	選択したコンピュータ情報を切り取り、クリップボードに保存します。
コピー	選択したコンピュータ情報を、クリップボードに保存します。
貼り付け	クリップボードに保存された内容を、貼り付けます。
削除	削除するコンピュータを選択し、登録済みのコンピュータを削除します。
適用	入力した情報を登録します。

重要

- Windows NT の「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」の「サーバマネージャ」、または Windows 2000 の「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「管理ツール」の「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用してコンピュータを追加、変更した場合は、2048 件以上の情報を正常に反映できないことがあります。
- クライアントコンピュータの追加を行った場合、追加したクライアントにアプリケーションやファイルをインストールするには、「クライアントセットアップ」画面から次のいずれかを行ってください。
  - ・セットアップ資源がまだ取り込まれていない場合は、「セットアップ資源の取り込み」画面からセットアップ資源の取り込みを行ってください。
  - ・セットアップ資源がすでに取り込まれている場合は、「登録済みセットアップ一覧」からセットアップ資源を選択して、「クライアント一覧」の追加したクライアントを選択状態にしてください。

6.2.1 コンピュータの変更、追加

登録済みのコンピュータの情報を変更したり、新規にコンピュータを追加します。

1 **変更するコンピュータの欄をクリックし、［変更］をクリックします。**
新規にコンピュータを追加する場合は、最終行（空行）をクリックして［追加］をクリックします。
コンピュータは 2048 件まで登録できます。
「コンピュータの変更」画面が表示されます（追加時も同様の画面が表示されます）。

［再作成］は、変更画面で OS に Windows NT Workstation 4.0、Windows NT Server 4.0（BDC）、または Windows 2000 Professional、Windows XP を指定した場合に表示されます。

2 **コンピュータの情報を設定します。**
各項目の詳細説明については、［ヘルプ］をクリックして参照してください。

3 ［OK］をクリックします。
コンピュータ情報が変更、または追加されます。

6.2.2 コンピュータ情報の取得

WizardConsole をインストールする前にクライアントコンピュータを登録している場合、登録されているクライアントコンピュータの情報を、WizardConsole に取り込みます。

1 **「ファイル」メニューから「コンピュータの取込み」→「コンピュータ情報の取得」の順に選択します。**
「コンピュータ一覧」画面が表示されます。すでにクライアントシステム設計に登録されているコンピュータは、グレー表示されます。

2 **登録するコンピュータを選択します。**
すべてのコンピュータを登録する場合は［全て選択］をクリックします。

3 ［登録］をクリックします。
選択したコンピュータの情報が取り込まれ、一覧に追加されます。

重要

- ［コンピュータ情報の取得］で取り込まれたサブネットマスク、デフォルトゲートウェイは、起動しているマシンから取得されます。必要に応じて値を変更してください。
- DHCP 起動のコンピュータの場合、割り当てられた IP アドレスが表示されますので、登録後、IP アドレスを DHCP に変更してください。
- IP アドレスが「不明」と表示される場合は、以下の問題が考えられます。
  1. 取得されたコンピュータに TCP/IP プロトコルがインストールされていない。
  2. DNS に登録されているホスト名と実際のコンピュータ名が異なっている。

  1. の場合、このコンピュータを選択しないか、TCP/IP プロトコルをインストールしてください。
  2. の場合、正しい値に変更してください。

6.2.3　コンピュータの一括導入

OS 種別が同じクライアントの場合は、一括で大量のクライアントコンピュータを登録できます。一括導入は、ウィザードに従って設定を行います。
コンピュータ名、IP アドレスは任意の文字列に連番で取得されます。導入後、必要に応じて変更してください。

重要

- 一括導入ウィザードでコンピュータを作成する場合、次の制限があります。
  IP アドレス設定を選択した場合は、開始アドレス xx.xx.xx.nn の 255 －（nn － 1）台まで（例：開始アドレスが 10.10.1.11 の場合、255 －（11 － 1）＝ 245 台まで）作成できます。DHCP アドレスを選択した場合は、最大 2048 台まで作成できます。登録中にクライアント登録数が 2048 台になった時点で作成を終了します。

1　**「ファイル」メニューから「導入ウィザード」を選択します。**
一括導入ウィザードが表示されます。
ウィザードに従って操作を行ってください。
確認画面で［完了］をクリックすると、指定した台数分のクライアントコンピュータが追加されます。この状態ではまだ登録は行われていません（背景が白色）。設定を変更する場合は、必要に応じて設定を変更後［適用］をクリックしてください。
コンピュータが登録されます（背景が黄色）。

6.2.4　コンピュータの削除

必要のないコンピュータを、登録から削除します。

1　**削除するコンピュータを選択します。複数のコンピュータを選択できます。**

2　**「編集」メニューから「削除」を選択します。**
選択したコンピュータが一覧から削除されます。

6.3 ユーザ、グループ、共有資源の追加／変更

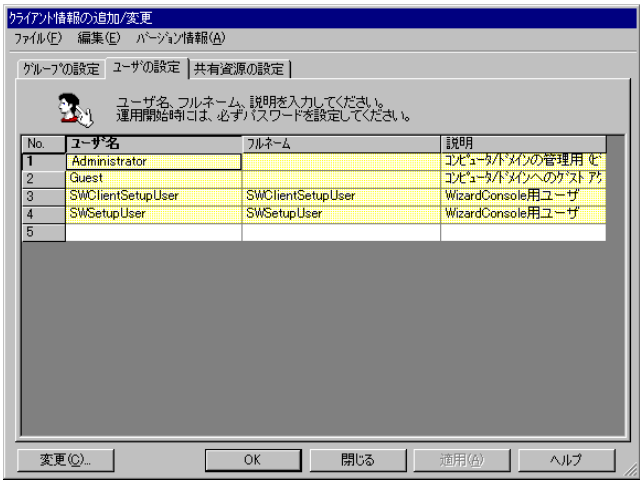
ユーザ、グループ、共有資源の設定を行います。

重 要

- 背景が黄色で表示されているアカウントは、すでに登録済みであることを表します。
  登録済みのアカウントを変更する場合は［変更］をクリックし、修正してください。変更内容は即時に反映されますので、情報を変更する場合は十分注意してください。
- 背景が白色で表示されているアカウントは、［適用］または［OK］をクリックすると登録されます。

1 「WizardConsole」画面で［グループ／ユーザ／共有資源］タブを選択し、［クライアント情報の追加／変更］をクリックします。

「クライアント情報の追加／変更」画面が表示され、［ユーザの設定］タブ画面が表示されます。各タブをクリックすると［グループの設定］タブ画面、［共有資源の設定］タブ画面に切り替わります。



2 各タブをクリックして設定します。

POINT

- あらかじめ登録するユーザの情報、グループ情報、共有資源情報を、それぞれ CSV 形式で記述してファイルを作成しておくと、「ファイル」メニューから「CSV ファイル取込み」を選択して、まとめて登録できます。
  また、登録したユーザの情報は、「ファイル」メニュー から「CSV ファイル出力」を選択して、CSV 形式のファイルに書き出せます。
  CSV ファイルの記述方法については、「6.10.5 CSV ファイルフォーマットについて」（→ P.221）を参照してください。

6.3.1　ユーザの追加／変更

［ユーザの設定］タブが表示されていることを確認してください。

1　**ユーザの情報を設定します。**
新規にユーザを追加する場合は、入力する欄をクリックし、直接入力するか［追加］をクリックします。2048 件まで設定できます。
「ユーザの追加」画面が表示されます。

2　**追加するユーザの情報を設定し、［追加］をクリックします。**
ユーザが追加されます。追加するユーザの情報を続けて設定できます。

3　**すべてのユーザの追加が終わったら、［閉じる］をクリックします。**
「クライアント情報の追加／変更」画面に戻ります。

POINT

- ユーザ情報の変更
  変更するユーザを選択して［変更］をクリックするか、変更するユーザをダブルクリックします。「ユーザの変更」画面が表示されます。設定を変更し［OK］をクリックします。
- ユーザの削除
  削除するユーザを右クリックし［削除］を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。

重要

- Windows NT の「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」の「ユーザーマネージャ」、または Windows 2000 の「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「管理ツール」の「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用してユーザを追加、変更した場合、2048 件以上の情報を正常に反映できない場合があります。

6.3.2　グループの追加／変更

1　**［グループの設定］タブをクリックします。**
［グループの設定］タブ画面が表示されます。

2 グループの情報を設定します。
新規にグループを追加する場合は［追加］をクリックします。2048 件まで設定できます。
「グループの追加」画面が表示されます。

3 追加するグループの情報を設定し、［追加］をクリックします。
グループが追加されます。追加するグループを続けて設定できます。

4 すべてのグループの追加が終わったら、［閉じる］をクリックします。
「クライアント情報の追加／変更」画面に戻ります。

POINT

- グループ情報の変更
  変更するグループを選択して［変更］をクリックするか、変更するグループをダブルクリックします。「グループの変更」画面が表示されます。設定を変更し［OK］をクリックします。
- グループの削除
  削除するグループを右クリックし、［削除］を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。

重要

- Windows NT の「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」の「ドメインユーザーマネージャ」、または Windows 2000 の「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「管理ツール」の「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用してグループを追加、変更した場合は、2048 件以上の情報を、正常に反映できないことがあります。

6.3.3 共有資源フォルダの追加／変更

1 ［共有資源の設定］タブをクリックします。
［共有資源の設定］タブ画面が表示されます。

2 共有資源の情報を設定します。
新規にグループを追加する場合は、入力する欄をクリックし、直接入力するか［追加］をクリックします。2048 件まで設定できます。
「共有資源の追加」画面が表示されます。

3 追加する共有資源の情報を設定し、［追加］をクリックします。
共有資源が追加されます。続けて追加する共有資源を設定できます。

4 すべての共有資源の追加が終わったら［閉じる］をクリックします。
「クライアント情報の追加／変更」画面に戻ります。

POINT

- 共有資源情報を変更する
  変更する共有資源を選択して［変更］をクリックするか、変更する共有資源をダブルクリックします。「共有資源の変更」画面が表示されます。設定を変更し［OK］をクリックします。
- 共有資源を削除する
  削除する共有資源を右クリックし、［削除］を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。

重要

- 共有資源の "SVWIZARD" とユーザ名の "SWClientSetupUser" は、WizardConsole でクライアントコンピュータの登録に使用するために作成されます。
  登録中は、この共有資源を削除したり、アクセス権の変更、ユーザのパスワード変更などを行わないでください。
  インターネット等の他のネットワークに接続しているサーバでは、セキュリティ確保のため、ClientWizard ですべてのクライアントに登録が終了したら削除してください。
- デスクトップ設計をお使いになる場合は、共有資源を削除しないでください。
- 32 件以上の共有資源を登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには 32 件までしか登録できません。
- Windows NT の「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」の「ドメインユーザーマネージャ」、または Windows 2000 の「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「管理ツール」の「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用して共有資源を追加、変更した場合は、2048 件以上の情報を正常に反映できないことがあります。

続いてユーザ、グループ、共有資源の関連付けの操作を行います。

6.3.4 ユーザ、グループ、共有資源の関連付け

1 「クライアント情報の追加／変更」画面で［OK］をクリックします。
「追加変更」画面が閉じて、「クライアントシステム設計」画面が表示されます。
ユーザのグループ構成、およびユーザ／グループ単位で使用できる共有資源の関連付けを行います。

■ ユーザの所属グループの設定

ユーザをグループに関連付けます。

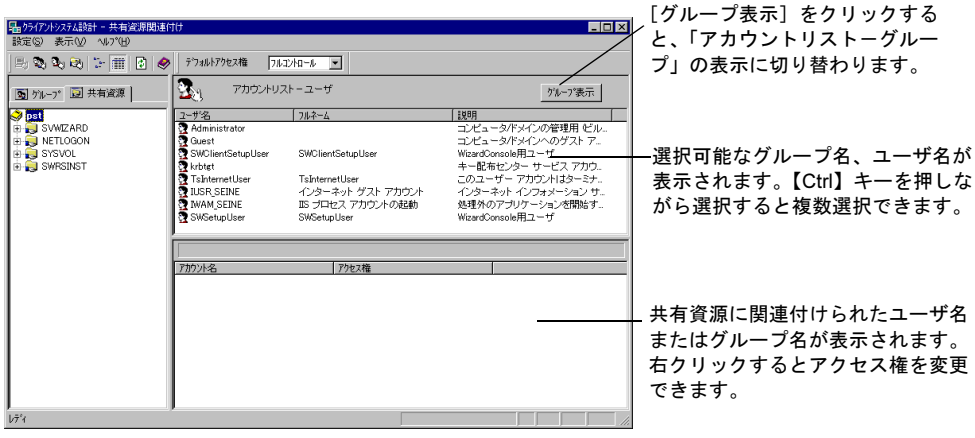
POINT

- OU 設定時、ビルトイングループとして Active Directory にあらかじめ登録されているグループは、Bold 表示されます。

1 設定したいユーザを選択し、「アカウントリスト — ユーザ」から、左側の［グループ］タブ内の目的のグループ、または右下側の「グループ xx に関連付けられたアカウント」のリスト内にドラッグ & ドロップします（xx は選択されているグループ名）。

■ 共有資源の設定（ユーザ／グループ単位）

グループ、ユーザを共有資源に関連付けます。



1 設定したいユーザまたはグループを選択し、「アカウントリスト」から左側の［共有資源］タブ内の目的の共有資源、または右下側の「共有資源 xx に関連付けられたアカウント」のリスト内にドラッグ & ドロップします（xx は選択されている共有資源名）。

選択状態の共有資源に関連付けられたユーザ、またはグループのアクセス権を変更する場合は、以降の操作を行ってください。

2 「関連付け一覧」からアクセス権を変更したいアカウントをダブルクリックするか、右クリックします。

ダブルクリックした場合は、「アクセス権の変更」画面が表示されます。
右クリックした場合は、ポップアップメニューが表示されます。

3 変更したいアクセス権を選択し、［OK］をクリックします。

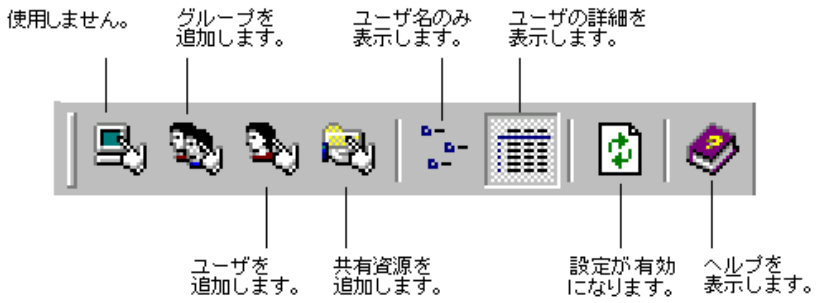
POINT

- ツールバーのアクセス権を変更すると、デフォルトのアクセス権を変更できます。
- アカウントの関連付けをキー操作で行うこともできます。
  1. 「アカウントリスト」の目的のアカウントをクリックし、【Ctrl】＋【C】キーを押します。
  2. 左側の［グループ］または［共有資源］タブ内の目的のアカウントをクリックします。
  3. 【Ctrl】＋【V】キーを押します。
- ユーザ、またはグループの関連付けを確認したい場合は、アカウントを選択し右クリックのポップアップメニューから「関連付け確認」を選択します。「関連付け確認」画面が表示されます。

重要

- クライアントシステム設計での設定を反映するには、［適用］をクリックするか、「設定」メニューの「適用」を選択してください。

■「クライアントシステム設計」画面のツールバー



■「クライアントシステム設計」画面のメニュー

項目	説明
「設定」メニュー	
追加／変更	追加／変更には以下のサブメニューがあります。 コンピュータ：使用しません。 グループ：グループ情報を追加、または変更します。 ユーザ：ユーザ情報を追加、または変更します。 共有資源：共有資源情報を追加、または変更します。
デフォルトアクセス権	表示されたサブメニューからアクセス権を選択します。 フルコントロール：すべての操作が行えます。 変更のみ：変更のみ行えます。 読込みのみ：読み込みのみ行えます。 アクセス権なし：アクセスすることはできません。
適用	クライアントシステム設計で設定した内容を保存します。
終了	クライアントシステム設計で設定した内容を保存するかを確認するメッセージが表示されます。［OK］をクリックすると、設定内容を保存してクライアントシステム設計を終了します。
「表示」メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示、非表示を切り替えます。
デフォルトアクセス権	ツールバー上のデフォルトアクセス権の表示、非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
関連付け画面切替え	グループと共有資源の画面を切り替えます。 グループ：関連付けのツリーをグループに切り替えます。 共有資源：関連付けのツリーを共有資源に切り替えます。
アカウントリスト切替え	［共有資源］タブ選択中に、アカウントリストの表示をユーザとグループに切り替えます。 ユーザ一覧：アカウントリストにユーザのリストを表示します。 グループ一覧：アカウントリストにグループのリストを表示します。
関連付け一覧表示切替え	画面右下の関連付けられたアカウントの表示方法を切り替えます。 小さいアイコン：関連付けられたアカウントを小さいアイコンで表示します。 詳細：関連付けられたアカウントの詳細情報を表示します。
「ヘルプ」メニュー	
トピックの検索	リモート OS セットアップのヘルプが表示されます。ヘルプには、各画面の説明が書かれています。
クライアントシステム設計のバージョン情報	バージョン情報が表示されます。

6.4　リモート OS セットアップ

クライアントに OS をインストール、セットアップするための設定を行います。

インストールする OS の CD-ROM が必要です。あらかじめお手元にご用意ください。
Windows NT Workstation 4.0 の場合は、クライアントのドライバーズ CD-ROM も併せてご用意ください。

POINT

- リモート OS セットアップでインストールできる機種
  Windows NT Workstation 4.0 の場合
  以下の 3 つの条件を満たす FMV シリーズで利用できます。これらの条件を満たす機種の名称が「機種名」に一覧表示されます。
  ・Windows NT Workstation 4.0 のインストールタイプモデル
  ・ドライバーズ CD-ROM ／リカバリ CD-ROM が添付されている
  ・MS-DOS 上で動作する NDIS の LAN ドライバが添付されている
  また、99 年冬モデル以降（99 年 10 月以降に出荷されたモデル）の機種名は［CD 読込］を押したあと、ドライバーズ CD-ROM を入れると表示されます。
  Windows 2000 Professional の場合
  Windows 2000 Professional に対応する機種で利用できます。対応機種について、詳しくは富士通パソコン情報サイト FM WORLD（http://www.fmworld.net）をご覧ください。

6.4.1　リモート OS セットアップを起動する

1 「WizardConsole」画面で［コンピュータ］タブを選択し、［リモート OS セットアップ］をクリックします。
「リモート OS セットアップ」画面が表示されます。

■「リモート OS セットアップ」画面のツールバー

■「リモート OS セットアップ」画面の説明

項目		説明
OS セットアップ登録一覧		登録したクライアントへの OS セットアップ情報の一覧が表示されます。最大、64 個まで登録できます。
	登録名	入力したセットアップ情報の登録名が表示されます。
	OS	セットアップする OS の種別が表示されます。
	説明	セットアップ情報の説明が表示されます。

■「リモート OS セットアップ」画面のメニュー

項目	説明
「セットアップ情報の設定」メニュー	
新規作成	クライアントへの OS セットアップ情報を新規に作成します。
登録名の変更	クライアントへの OS セットアップ情報の登録名、説明を変更します。
削除	クライアントへの OS セットアップ情報を削除します。
プロパティ	セットアップ情報の内容を確認、変更します。
CD イメージの登録／削除	リモート OS セットアップで利用する OS の CD-ROM イメージを削除、または再登録します。
クライアントブート設定起動	クライアントブート設定を起動します。 →「6.7.2 OS セットアップ用」(P.205)
終了	リモート OS セットアップが終了します。
「表示」メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示／非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示／非表示を切り替えます。
「ヘルプ」メニュー	
トピックの検索	リモート OS セットアップのヘルプが表示されます。ヘルプには、各画面の説明が書かれています。
リモート OS セットアップのバージョン情報	バージョン情報が表示されます。

6.4.2 OS セットアップ情報を設定する（Windows 2000 Professional の場合）

クライアント側に OS をインストールする際の情報を設定します。

1 「セットアップ情報の設定」メニューから「新規作成」を選択します。
「新規登録－リモート OS セットアップ」画面が表示されます。

2 登録名、説明などを入力して［OK］をクリックします。
Windows 2000 Professional の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。
ただし、すでに Windows 2000 Professional の CD-ROM がコピーされている場合は表示されません。
「ハードディスクの設定」画面が表示されますので、手順 4 へ進んでください。

3 Windows 2000 Professional の CD-ROM をセットして、［OK］をクリックします。
ファイルのコピーが開始されます。
「ハードディスクの設定」画面が表示されます。

POINT

- Windows 2000 Professional のインストールには、1GB の容量が必要ですが、リモート OS セットアップの場合は、ワークエリアが必要になりますので最低 2GB 必要です。

4 OS をインストールするパーティションを設定して、［次へ］をクリックします。
「ユーザ情報の設定」画面が表示されます。

5 ユーザ情報を設定して［次へ］をクリックします。
「メンバシップの設定」画面が表示されます。

6 ワークグループ、またはドメインを設定してユーザ情報を設定して、［次へ］をクリックします。

POINT

- ドメインに参加する場合は、コンピュータをドメインに参加させる権限のあるアカウントの名前とパスワードが必要です。パスワードは暗号化して保存されます。

7 ネットワークの設定を行います。
［追加］をクリックすると、「コンポーネントの選択」画面が表示されます。
追加したいコンポーネントを選択し［OK］をクリックします。「ネットワークの設定」画面に戻ります。

8 ［次へ］をクリックします。
「機能の設定」画面が表示されます。詳細設定が必要なサービスを使用する場合は［詳細］をクリックして、各項目を設定してください。

9 ［次へ］をクリックします。
「ドライバの追加」画面が表示されます。

10 Plug&Play に対応した機器のドライバをインストールする場合は、追加するドライバを指定して、［追加］をクリックします。

11 ［完了］をクリックします。
OS セットアップ情報が設定され、「リモート OS セットアップ」画面に戻ります。
続いてクライアントにインストールするアプリケーション、コピーするファイル、実行コマンドを設定する場合は、「クライアントセットアップ」を行ってください。

6.4.3 OS セットアップ情報を設定する（Windows NT Workstation 4.0 の場合）

クライアント側に OS をインストールする際の情報を設定します。

1 「セットアップ情報の設定」メニューから「新規作成」を選択します。
「新規登録－リモート OS セットアップ」画面が表示されます。

2 各項目を設定して、［OK］をクリックします。
ドライバース CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

3 ドライバーズ CD-ROM をセットして、［OK］をクリックします。
サーバにドライバーズ CD-ROM の情報がコピーされます。コピーが終了すると Windows NT Workstation 4.0 の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。ただし、すでに Windows NT Workstation 4.0 の CD-ROM がコピーされている場合は表示されません。
「ユーザ情報の設定」画面が表示されますので、手順 5 へ進んでください。

4 Windows NT Workstation 4.0 の CD-ROM をセットして、[OK] をクリックします。
ファイルのコピーが開始されます。
終了すると「ユーザ情報の設定」画面が表示されます。

5 ユーザ情報を設定して、［次へ］をクリックします。
「ネットワークの設定」画面が表示されます。

6 プロトコルを指定します。
［詳細］をクリックすると、「ネットワークの詳細」画面が表示されますので、必要な項目を設定し、［OK］をクリックします。

7 ［次へ］をクリックします。
「サービスの設定」画面が表示されます。詳細設定が必要なサービスを使用する場合は［詳細］をクリックして、各項目を設定してください。

8 設定するサービスを選択して、［完了］をクリックします。
OS セットアップ情報が設定され、「リモート OS セットアップ」画面に戻ります。
続いてクライアントにインストールするアプリケーション、コピーするファイル、実行コマンドを設定する場合は、「クライアントセットアップ」を行ってください。

6.4.4 OS セットアップ情報の登録名を変更する

OS セットアップ情報の登録名と説明を変更します。

1. 「セットアップ情報の設定」メニューから「登録名の変更」を選択します。
   「リモート OS セットアップ」画面が表示されます。
2. 登録名、説明を変更して［OK］をクリックします。
   OS セットアップ情報が変更されます。

6.4.5 OS セットアップ情報を確認／変更する

設定した OS セットアップ情報の内容を確認、または変更します。

1. OS セットアップ登録一覧から操作を行う OS セットアップ情報を選択します。
2. 「セットアップ情報の設定」メニューから「プロパティ」を選択します。
   「OS セットアップ情報のプロパティ」画面が表示されます。
3. 各設定のタブを選択し、内容を確認して必要に応じて設定を変更してください。
4. ［OK］をクリックします。

POINT

- 削除する場合は、「セットアップ情報の設定」メニューから「削除」を選択します。
  削除を確認するメッセージが表示されますので［はい］をクリックします。
  OS セットアップ情報が削除されます。

6.4.6 CD-ROM イメージを削除する

リモート OS セットアップで利用する Windows NT Workstation 4.0 ／ Windows 2000 Professional の CD-ROM イメージが不要になった場合、CD-ROM イメージを削除して、サーバのハードディスクの空き容量を増やすことができます。

1. 「セットアップ情報の設定」メニューから「CD イメージ登録／削除」を選択します。
   「CD イメージ登録／削除」画面が表示されます。
2. 削除する CD-ROM イメージの［削除］をクリックします。
   ファイルの削除が開始されます。

POINT

- 再登録する場合は、再登録する CD-ROM イメージの［読込み］をクリックします。
  ファイルのコピーが開始されます。

6.5 クライアントセットアップ

クライアントセットアップでは、クライアント側にインストールするアプリケーション、コピーするファイル、実行するコマンドを指定します。

■ セットアップする内容

● アプリケーション

アプリケーションソフト（複数のファイルで構成され、setup コマンドなどのインストーラが使われるもの）をクライアント側にインストールするように指定します。インストールが自動化されておらず、インストール時に設定操作が必要なアプリケーションソフトを指定するには、事前に Rational Visual Test® などを使ってスクリプトを作成しておく必要があります。標準的なアプリケーションについては、あらかじめスクリプトが用意されています。

● ファイル

クライアント側にコピーするファイルを指定します。ディレクトリを指定すると複数のファイルを一度にコピーするように設定できます。

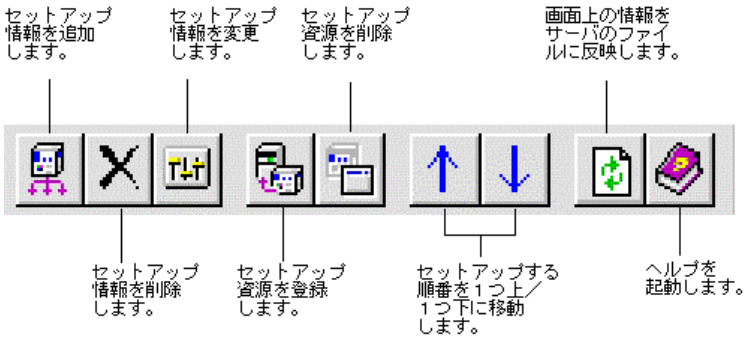
● 実行コマンド

クライアント側で最初のログオン時に実行するコマンドを指定します。ファイルのコピーは行われず、コマンドの実行のみが行われます。例えば、インストールしたアプリケーションソフトの環境設定を自動化するバッチファイルなどを指定できます。

6.5.1　クライアントセットアップを起動する

1　「WizardConsole」画面で［コンピュータ］タブを選択し、［クライアントセットアップ］をクリックします。
「クライアントセットアップ」画面が表示されます。

■「クライアントセットアップ」画面のツールバー



■「クライアントセットアップ」画面の説明

項目		説明
セットアップ情報一覧		セットアップ情報が設定されている資源の一覧が表示されます。登録済み資源と合わせて、64 個まで追加できます。複数選択はできません。
	資源識別名	セットアップ情報が設定されている資源識別名が表示されます。資源識別名とは、セットアップ資源を識別するためにユーザが指定する名前です。 標準対応製品についてはスクリプトが用意されており、資源識別名の先頭に @ が付いています。
	説明	セットアップ情報が設定されている資源の説明が表示されます。
	種類	セットアップ情報が設定されている資源の種類が表示されます。資源の種類には「アプリケーション」、「ファイル」、「実行コマンド」の３種類あります。
登録済みセットアップ資源一覧		登録済みのセットアップ資源の一覧が表示されます。登録済み資源とは、クライアントにセットアップする資源をサーバ上のディスクに登録した資源です。 表示される情報は「セットアップ情報一覧」と同じです。クライアントへのインストールは、この一覧の上から順番に行われます。 「セットアップ情報一覧」からセットアップ情報を選択し、資源の登録を行うと、資源がサーバのディスクに登録され、「セットアップ情報一覧」に表示されていた情報が「登録済みセットアップ資源一覧」に移動します。複数選択はできません。
クライアント一覧		セットアップ情報一覧または登録済みセットアップ資源一覧で選択している情報（資源）のセットアップ対象のクライアントを選択します。 初期状態は、すべてのクライアントが選択されています。複数のクライアントを選択できます。 なお、バックアップドメインコントローラはセットアップ対象のクライアントとしては表示されません。
	全選択	表示されているすべてのクライアントコンピュータを選択状態にします。
	全解除	表示されているすべてのクライアントコンピュータを非選択状態にします。
	コンピュータ名	WizardConsole の「コンピュータの追加／変更」で設定したクライアントのコンピュータ名が表示されます。
	状態	資源のセットアップ状態が表示されます。以下の状態があります。 　完了：セットアップ済みです。 未完了：セットアップしていません。 エラー：セットアップ情報に異常があり、セットアップに失敗しました。 セットアップ情報が正しいか確認してください。

■「クライアントセットアップ」画面のメニュー

項目	説明
「セットアップ情報の設定」メニュー	
追加	セットアップ情報を追加します。 セットアップ情報は、登録済み資源の情報とあわせて 64 個まで追加できます。64 個を超えて追加しようとすると、メッセージが表示されます。
削除	セットアップ情報一覧で選択されているセットアップ情報を削除します。
設定変更	「セットアップ情報一覧」で選択されているセットアップ資源の情報を変更します。登録済み資源のセットアップ情報は変更できません。登録済み資源のセットアップ情報を変更したい場合は、セットアップ資源の削除をしてから、セットアップ情報の変更をします。
設定確認	セットアップ情報の設定内容を表示します。
終了	設定した情報を保存し、「クライアントセットアップ」画面を終了します。

「セットアップ資源の操作」メニュー	
資源の登録	「セットアップ情報一覧」で選択されているセットアップ資源をサーバのディスクに登録します。登録先のフォルダは WizardConsole のインストール時に指定したデータフォルダです。 「セットアップ情報一覧」から、セットアップ情報を選択し、［資源の登録］を選択すると、「資源の登録」画面が表示されます。詳細登録したセットアップ情報は「登録済みセットアップ資源一覧」に移動します。
資源の削除	「登録済みセットアップ資源一覧」で選択しているセットアップ資源をサーバのディスクから削除します。資源の削除確認が表示されます。 削除されたセットアップ資源は「セットアップ情報一覧」に移動し、「クライアント一覧」の「状態」が「未完了」に戻ります。
資源の全登録	「セットアップ情報一覧」に表示されているすべてのセットアップ資源をサーバのディスクに登録します。登録されたセットアップ情報は「登録済みセットアップ資源一覧」の最後に、そのままの順番で移動します。
資源の全削除	「登録済みセットアップ一覧」に表示されているすべてのセットアップ資源をサーバのディスクから削除します。
インストール順番上へ／インストール順番下へ	「登録済みセットアップ資源一覧」で選択されているセットアップ資源のインストール順番を１つ上、または下に移動します。表示順番を上に移動すると、クライアントでのセットアップ順番が早くなります。
「表示」メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示／非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示／非表示を切り替えます。
最新に更新	画面上の情報をサーバ上のファイルに反映します。サーバでセットアップ情報および登録済み資源の操作中は、「クライアントセットアップ」画面の情報と、クライアントから参照できる情報が一致しないため、クライアントへのインストールは実行できません。「クライアントセットアップ」画面を終了せずに、インストールを行う場合は、「表示」メニューから「最新に更新」を選択してからインストールを行ってください。サーバ上の情報が更新され、クライアントから最新の情報が参照できるようになります。
動作環境設定	選択できません。グレー表示されます。
「ヘルプ」メニュー	
トピックの検索	クライアントセットアップのヘルプが表示されます。ヘルプには、各画面の説明が書かれています。
バージョン情報	バージョン情報が表示されます。

6.5.2 セットアップ情報（アプリケーション）を追加する

クライアント側にインストールするアプリケーションを指定します。
各画面の項目の詳細については、［ヘルプ］をクリックして参照してください。

1 「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ情報の設定」メニューから「追加」を選択します。

「セットアップ種類の選択」画面が表示されます。

2 「アプリケーション」の「一覧から選択」が選択されていることを確認します。

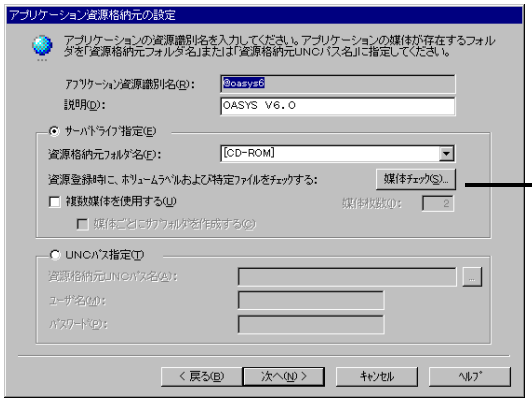
3 「標準対応製品」から、インストールしたいアプリケーションソフトを選択し、［次へ］をクリックします。

「標準対応製品」にインストールしたいアプリケーションが表示されていない場合は、「一覧から選択」のチェックを外して［次へ］をクリックします。

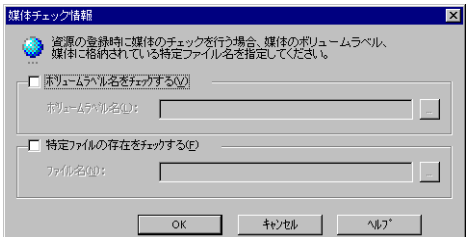
POINT

- 「標準対応製品」にないアプリケーションで、対話型インストールを行うアプリケーションを指定するには、事前にスクリプトの作成が必要になります。スクリプトを作成していない場合は、［キャンセル］をクリックして作業を中断し、Rational Visual Test® などを使ってスクリプトを作成してください。
- 「標準対応製品」のアプリケーションによって、インストールできる OS は異なります。「6.10.4 クライアントセットアップ機能に関する留意事項」（→ P.218）を確認してください。サポートしていない OS にインストールすると、アプリケーションを正しくインストールできない可能性があります。

「アプリケーション資源格納元の設定」画面が表示されます。



「媒体チェック情報」ダイアログが表示されます。



4　**サーバ内のどのドライブへアプリケーションを登録するかを指定し、［次へ］をクリックします。**

「標準対応製品」から選択した場合は、「インストール詳細設定」画面が表示されます。手順 5 へ進みます。

「標準対応製品」から選択しなかった場合は、「インストーラ情報／スクリプト情報の設定」画面が表示されます。手順 7 へ進みます。

5　**選択したアプリケーション用の詳細設定画面が表示されます。**

各項目の内容については、各アプリケーションのマニュアルを参照してください。

6　**各項目を設定して、［次へ］をクリックします。**

セットアップ情報の設定確認画面が表示されます。手順 9 へ進みます。

7　**「インストーラ情報／スクリプト情報の設定」画面が表示されます。**

「従来のインストーラ製品」と「Windows インストーラ製品」では、表示される項目が異なります。

8　**各項目を設定して、［次へ］をクリックします。**

セットアップ情報の設定確認画面が表示されます。

9　**設定内容を確認して、［完了］をクリックします。**

アプリケーションのセットアップ情報が設定され、「クライアントセットアップ」画面に戻ります。

10 **必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。**
初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

6.5.3 セットアップ情報（ファイル）を追加する

クライアント側にコピーするファイルを指定します。

1 **「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ情報の設定」メニューから「追加」を選択します。**
「セットアップ種類の選択」画面が表示されます。

2 **「ファイル」を選択して、［次へ］をクリックします。**
「ファイル情報設定」画面が表示されます。

3 **各項目を設定して、［完了］をクリックします。**
ファイルの情報が設定され、「クライアントセットアップ」画面に戻ります。

4 **必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。**
初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

6.5.4 セットアップ情報（実行コマンド）を追加する

クライアント側で実行するコマンドを指定します。

1 **「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ情報の設定」メニューから「追加」を選択します。**
「セットアップ種類の選択」画面が表示されます。

2 **「実行コマンド」を選択して、［次へ］をクリックします。**
「実行コマンド詳細設定」画面が表示されます。

3 **各項目を設定して、［完了］をクリックします。**
実行するコマンドの情報が設定され、「クライアントセットアップ」画面に戻ります。

4 **必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。**
初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

6.5.5　セットアップ情報の内容確認／設定変更

● 設定内容を確認する

セットアップ情報の設定内容を確認します。

1 「クライアントセットアップ」画面で、設定を確認するセットアップ情報を選択します。

2 「セットアップ情報の設定」メニューから「設定確認」を選択します。
各セットアップ情報の設定確認画面が表示されます。

● 設定内容を変更する

セットアップ情報の設定内容を変更します。

1 「クライアントセットアップ」画面で、設定を変更するセットアップ情報を選択します。

2 「セットアップ情報の設定」メニューから「設定変更」を選択します。
各セットアップ情報の設定画面が表示されます。
操作方法は、追加する場合と同じです。

6.5.6　セットアップ資源をサーバへ登録する

セットアップ情報で設定した資源をサーバのディスクに登録します。登録先のフォルダは［クライアント一括導入ウィザード］の「クライアントセットアップ」で設定した「共有フォルダ」です。

重要

- 各セットアップ資源の登録には、資源の格納先ハードディスクに十分な空き容量が必要です。あらかじめ、十分な空き容量がハードディスクにあるか確認してください。
- 「標準対応製品」のアプリケーションによって、インストールできる OS は異なります。サポートしていない OS にインストールすると、アプリケーションを正しくインストールできない可能性があります。

1 「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ情報一覧」からセットアップ資源をサーバに登録するセットアップ情報を選択します。

2 「セットアップ資源の操作」メニューから「資源の登録」を選択します。
「セットアップ資源の登録」画面が表示されます。

3 内容を確認して、［登録］をクリックします。
セットアップ資源がサーバに登録されます。「クライアントセットアップ」画面の「登録済みセットアップ資源一覧」に資源識別名などが追加されます。クライアントへのインストールは、「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されている順番（上から）で行われます。

■ まとめて登録

セットアップ情報で設定したすべての資源をサーバのディスクに登録します。特定のセットアップ資源の登録を行わないようにスキップすることもできます。

1 「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ資源の操作」メニューから「資源の全登録」を選択します。
1 つめの「セットアップ資源の登録」画面が表示されます。

2 内容を確認して、［登録］をクリックします。登録しない場合は［スキップ］をクリックします。
セットアップ資源がサーバに登録され、次の「セットアップ資源の登録」画面が表示されます。

3 必要に応じて、手順 2 を繰り返します。
すべてのセットアップ資源の登録が完了すると、「クライアントセットアップ」画面の「登録済みセットアップ資源一覧」に登録が完了した資源名が追加されます。

POINT

- セットアップ資源の全登録中に［キャンセル］をクリックすると、セットアップ資源の全登録が中断されます。すでに登録が完了したセットアップ資源は削除されません。

■ クライアントへのインストール順を変更する

クライアントへのインストールは、「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されている順番に行われます。インストール順を変更するには、以下の操作を行います。

1 「登録済みセットアップ資源一覧」で、インストール順を変更するセットアップ資源を選択します。

2 ツールバーの［↑］［↓］をクリックして、任意の位置へ移動します。
または「セットアップ資源の操作」メニューから「インストール順番上へ」「インストール順番下へ」を選択します。
インストール順が変更されます。

6.5.7　セットアップ資源の登録解除

サーバに登録したセットアップ資源を削除します。

1　**「クライアントセットアップ」画面で、「登録済みセットアップ情報一覧」からセットアップ資源を削除するセットアップ情報を選択します。**

2　**「セットアップ資源の操作」メニューから「資源の削除」を選択します。**
すべてのセットアップ資源をサーバから削除する場合は「資源の全削除」を選択します。
確認のメッセージが表示されます。

3　**［はい］をクリックします。**
「登録済みセットアップ資源一覧」で選択されているセットアップ資源がサーバから削除されます。

6.6　クライアントのデスクトップ環境を設定する

デスクトップ環境設定では、サーバ側で、クライアントのデスクトップ環境を一括管理します。

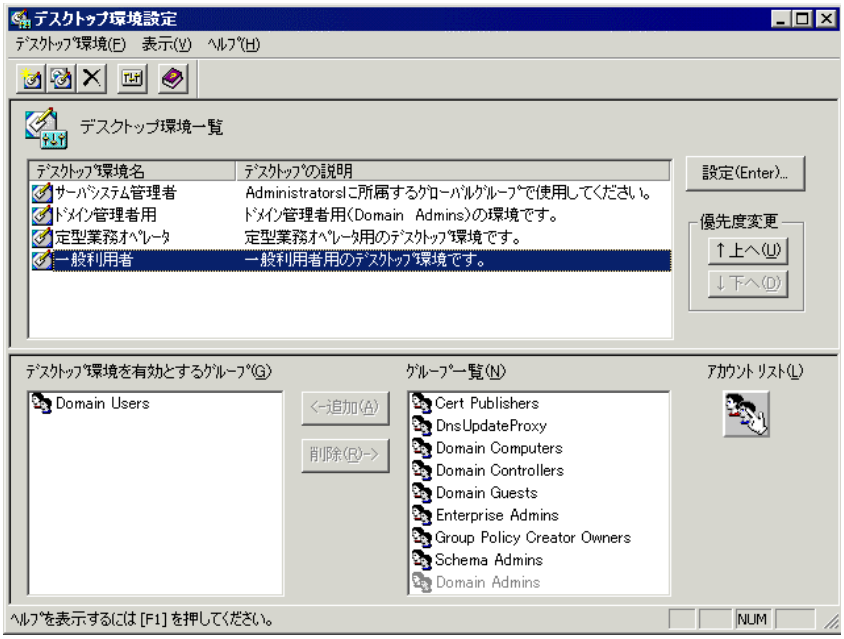
業務に必要な機能のみをクライアントのデスクトップに表示することで、ユーザが業務に集中しやすい環境を作ります。
また、システムに習熟していないユーザによる偶発的な事故を防ぐこともできます。

■ デスクトップ環境設定の準備

重 要

- Windows 2000 Server の場合は、WizardConsole のインストール時に必ず OU を設定してください。OU を設定しなかった場合は、デスクトップ環境設定でクライアント環境制御は行えません。
- デスクトップ環境設定は、Windows Me クライアントのデスクトップ制御をサポートしていません。Windows Me クライアントを使用する場合は、デスクトップ環境設定によるデスクトップ制御を行わないでください。
- サーバ側で設定したポリシー情報の変更は、必ずデスクトップ環境設定を使用してください。デスクトップ環境設定により作成したポリシーをデスクトップ環境設定を使用せずに変更、削除すると、誤動作の原因となります。

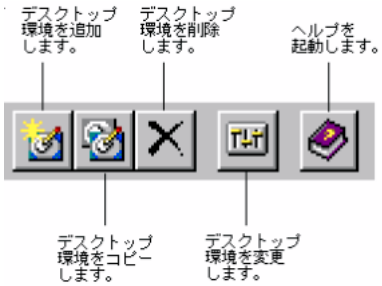
1 「WizardConsole」画面で［グループ / ユーザ / 共有資源］タブを選択し、［デスクトップ環境設定］をクリックします。
「デスクトップ環境設定」画面が表示されます。



項目	説明
デスクトップ環境一覧	設定されているデスクトップ環境の一覧が表示されます。一覧の上にあるほど優先度が高くなります。デスクトップ環境は 15 個まで作成できます。
［設定 ..（Enter)］	選択しているデスクトップ環境の設定を変更します。クリックまたは、【Enter】キーを押すと「デスクトップ環境の設定」画面が表示されます。
優先度変更	選択しているデスクトップ環境の優先度を【Ctrl】+【↑】【↓】キーで変更します。
デスクトップ環境を有効とするグループ	デスクトップ環境一覧で選択されているデスクトップ環境を使用するグループを表示します。
グループ一覧	存在しているグループの一覧が表示されます。この一覧から「デスクトップ環境を有効とするグループ」へ追加することができます。グレー表示になっているグループは他のデスクトップ環境に割り当てられているので、追加することはできません。

■「デスクトップ環境設定」画面のツールバー

「表示」メニューの「ツールバー」表示が有効の場合、以下のアイコンが表示されます。



■「デスクトップ環境設定」画面のメニュー

「デスクトップ環境設定」画面には、次のメニューがあります。

項目	設定
「デスクトップ環境」メニュー	
追加	デスクトップ環境を追加します。クリックするとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。
コピー	デスクトップ環境をコピーします。
削除	デスクトップ環境を削除します。
設定	デスクトップ環境の設定を変更します。クリックするとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。
優先度上へ	デスクトップ環境の優先度を１つ上げます。
優先度下へ	デスクトップ環境の優先度を１つ下げます。
終了	デスクトップ環境設定を終了します。
「表示」メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示、非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
「ヘルプ」メニュー	
トピックの検索	デスクトップ環境設定のヘルプが表示されます。
バージョン情報	バージョン情報が表示されます。

6.6.1 「デスクトップ環境設定」画面での操作

「デスクトップ環境設定」画面での操作について説明します。

■ デスクトップ環境の優先順位を設定する

デスクトップ環境はドメインのグローバルグループ（Windows 2000 ではセキュリティグループ）に対して割り当てを行います。ユーザは複数のグローバルグループに所属できます。そのためユーザが所属するグローバルグループそれぞれに、デスクトップ環境設定が割り当てられている場合、ユーザにはデスクトップ設定が複数割り当てられていることになります。その場合、デスクトップ環境設定の優先順位を決める必要があります。

1 **「デスクトップ環境一覧」から、優先順位を変更したいデスクトップ環境を選択します。**

2 **「デスクトップ環境」メニューから「優先度上へ」／「優先度下へ」を選択します。**
画面上の［↑上へ］／［↓下へ］をクリックしても順位を変更できます。

■ デスクトップ環境設定の追加変更

- 追加
「デスクトップ環境」メニューから「追加」を選択するか、［デスクトップ環境の追加］アイコンをクリックします。デスクトップ環境の設定画面が表示されますので、設定を行ってください。
- コピー
コピーするデスクトップ環境名をクリックし、「デスクトップ環境」メニューから「コピー」を選択するか、［デスクトップ環境のコピー］アイコンをクリックします。
- 削除
削除するデスクトップ環境名をクリックし、「デスクトップ環境」メニューから「削除」を選択するか、［デスクトップ環境の削除］アイコンをクリックします。

■ デスクトップ環境設定を適用するグループの設定

デスクトップ環境を適用するグループを設定します。

- 適用グループを追加する
「グループ一覧」から追加したいグループを選択し［←追加］をクリックするか、グループ名をダブルクリックします。
- 適用グループを解除する
「デスクトップ環境を有効とするグループ」から削除したいグループを選択し［削除→］をクリックするか、グループ名をダブルクリックします。

POINT

- 「グループ一覧」にはグローバルグループ（Windows 2000 ではセキュリティグループ）の一覧が表示されています。グレー表示になっているグループは、他のデスクトップ環境設定に割り当てられているので、追加することはできません。
- ［アカウントリスト］で、グローバルグループが追加できます。

6.6.2 デスクトップ環境の設定

各デスクトップ環境の詳細設定を行います。各項目の詳細説明は、［ヘルプ］をクリックすると表示されます。

1 「デスクトップ環境設定」画面で、次のいずれかの操作をします。

●設定を変更する場合

・デスクトップ環境名を選択し、［設定］をクリックします。

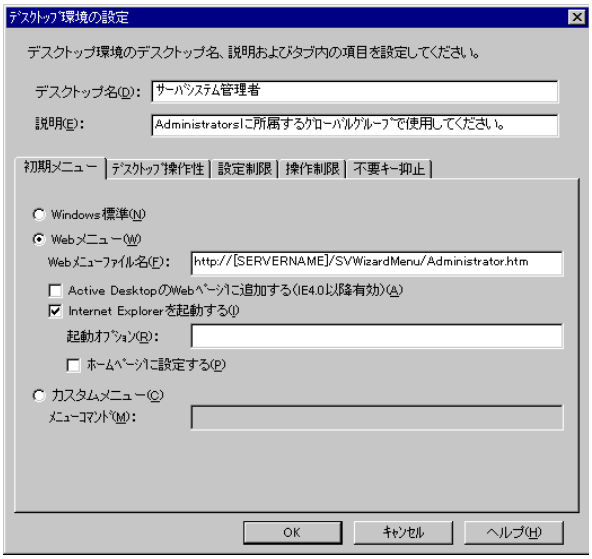
・デスクトップ環境名をダブルクリックします。

●追加する場合

・［デスクトップ環境の追加］アイコンをクリックします。

・「デスクトップ環境」メニューから「追加」を選択します。

「デスクトップ環境の設定」画面が表示されます。



項目	説明
デスクトップ名	変更、追加するデスクトップ環境名を入力します。
説明	デスクトップ環境の使用基準などの説明を入力します。
［初期メニュー］タブ	クライアントのログオン直後に表示される初期メニューの設定を行います。
［デスクトップ操作性］タブ	デスクトップの操作性に関する制限を行います。
［設定制限］タブ	各種設定に関する制限を行います。
［操作制限］タブ	ユーザの操作に関する制限を行います。
［不要キー抑止］タブ	入力操作を無効にするキーの設定を行います。

POINT

- デスクトップ環境設定に関する詳細やトラブルシューティングについては、ヘルプを参照してください。

2 各タブをクリックし、項目を設定します。

POINT

- ［初期メニュー］タブ
  Web メニュー（WizardMenu）は、インターネットエクスプローラ上で、ボタンを選択してアプリケーションを起動する機能です。Web メニューは、WizardMenu 作成ツールを使用して、大きさを変更したり、画像データをボタンに貼り付けるなど、自由な形式で作成できます。WizardMenu 作成ツールを起動するには、WizardConsole インストール終了後に「スタート」ボタン→「プログラム」→「ServerStart」→「WizardMenu 作成ツール」の順にクリックします。
  Web メニュー、WizardMenu 作成ツールについての詳細は、それぞれのヘルプを参照してください。
  IIS が構成されていない状態で WizardConsole をインストールすると、WizardMenu が利用できません。その場合は、以下の操作を行ってください。
  1. サーバ上に IIS（バージョン 3.0 以上）を構成します。
  2. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Microsoft インターネット サーバー（共通）」（Windows 2000 は「管理ツール」）→「インターネット サービス マネージャ」の順にクリックします。
  3. WWW サービスのプロパティを開き、［ディレクトリ］タブから、以下の 3 つのフォルダに対し、エイリアスを追加します。
     ① c:¥WZCNSL¥desktop¥CGI⇒ エイリアス名「ServerWizardMenu¥APPS」
     ② c:¥WZCNSL¥desktop¥Controls⇒ エイリアス名「ServerWizardMenu¥Controls」
     ③ c:¥WZCNSL¥desktop¥inetpub⇒ エイリアス名「ServerWizardMenu」
  4. WWW サービスを再起動します。
  5. デスクトップ環境設定の［初期メニュー］タブで「Web メニュー」を選択します。
- ［デスクトップ操作性］タブ
  「タスクバーを隠す」をチェックすると、「スタート」ボタンからのログオフ操作ができなくなります。この項目を設定する場合には、メニューにログオフの項目を追加するなど、ログオフを行う手段を必ず用意してください。
  ログオフを行うには、"ExitWin.exe" を起動してください。
  "ExitWin.exe" コマンドは、システムフォルダ配下（NT の場合 "C:¥Winnt¥system32"）に格納されています。

3 ［OK］をクリックします。
デスクトップ環境が変更、設定されます。

4 デスクトップ環境設定を終了します。
デスクトップ環境の変更、設定は、デスクトップ環境設定の終了時に適用されます。

6.7　クライアントブート設定

クライアントブート設定では、クライアントコンピュータのセットアップ内容、起動方法を設定します。

クライアントブート設定は、クライアントのセットアップ方法によって、次の 2 種類があります。セットアップ内容に合わせて設定を行ってください。
操作を始める前に、あらかじめ未使用のフロッピーディスクを用意してください。

● OS セットアップ用

クライアントコンピュータのハードディスクを初期化し、新規に OS をインストールする場合に使用します。
クライアントブート設定を行う前に、あらかじめ「リモート OS セットアップ」の設定を行ってください。

● ClientWizard 用

ClientWizard でセットアップを行うためのフロッピーディスクを作成します。ClientWizard は、インストールモデルなど、すでに OS がインストールされているクライアントコンピュータのネットワーク環境（IP アドレスやドメインへの参加など）を設定する機能です。また、クライアントセットアップで設定したアプリケーションなどのセットアップも行います。

重要

- Windows NT Server のドメインのメンバサーバのアカウントは、Windows NT Workstation 4.0 と同等に扱われます。そのため、Windows NT Server 4.0 に対してもクライアント起動用フロッピーディスクの作成はできますが、Windows NT Server 4.0 に対して ClientWizard やクライアントセットアップなどの機能は使用できません。

■ MS-DOS イメージの作成

リモート OS セットアップでは、クライアントを起動するために、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクが必要です。通常は、あらかじめ MS-DOS の起動用のフロッピーディスクを作成して使用しますが、WizardConsole では、初回の起動設定時に、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを使用することで、起動に必要な情報を「MS-DOS イメージ」としてサーバに格納します。2 回目以降は、サーバに格納された MS-DOS イメージを使用して起動設定を行います。

POINT

- MS-DOS イメージ作成中に、ファイルが不足している旨のメッセージが表示される場合があります。その場合は、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成したシステムから、メッセージで要求されたファイルをコピーしてください。

● MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクの作成

MS-DOS イメージを作成するための MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを、あらかじめ以下のいずれかの方法で作成してください。

- FD バックアップコマンドを使用する場合

  クライアントコンピュータに添付のドライバーズ CD-ROM から FD バックアップコマンドを使用して作成します。FD バックアップコマンドの使用方法については、ドライバーズ CD-ROM に添付のマニュアルを参照してください。

- Windows 95 および Windows 98 から作成する場合

  Windows 95 および Windows 98 のシステムから以下の方法で作成できます。

  1. A ドライブに、初期化してもよいフロッピーディスクをセットします。
  2. マイコンピュータの A ドライブを右クリックし、メニューから「初期化」を選択します。
  3. 「フォーマットの種類」は「起動専用（C)」を選択し、［開始］をクリックします。

● MS-DOS イメージの削除

作成した起動用フロッピーディスク、またはネットワークからの起動が正常に行われない場合は、サーバに格納された MS-DOS イメージを削除し、再度 MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成し、起動設定をやり直してください。

MS-DOS イメージを削除するには、クライアントブート設定を起動し、「起動イメージの設定」メニューから「MS-DOS イメージの削除」を選択します。

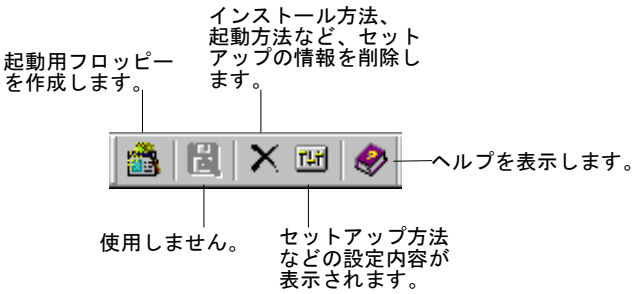
確認のメッセージが表示されるので、削除する場合は［OK］をクリックします。

6.7.1　クライアントブート設定を起動する

1 「WizardConsole」画面で［コンピュータ］タブを選択し、［クライアントブート設定］をクリックします。

「クライアントブート設定」画面が表示されます。

■「クライアントブート設定」画面のツールバー



■「クライアントブート設定」画面の説明

項目	説明
コンピュータ名	WizardConsole で管理しているコンピュータ名が表示されます。
OS	OS の種類が表示されます。
インストール方法	設定されているインストール方法が表示されます。
起動方法	起動方法が表示されます。
パラメータ	パラメータをどこで指定するかが表示されます。
LAN ドライバ	設定されている LAN ドライバが表示されます。

■「クライアントブート設定」画面のメニュー

項目	説明
「起動イメージの設定」メニュー	
FD 作成 Wizard	クライアント起動用フロッピーディスクを作成します。
MS-DOS イメージの削除	起動用フロッピーディスクの MS-DOS イメージを削除します。
削除	インストール方法、起動方法など、セットアップの情報を削除します。起動用フロッピーディスクからの起動がうまくいかない場合は、MS-DOS イメージを削除し、再度 MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成し、起動用フロッピーディスクを作成し直してください。
プロパティ	セットアップ方法などの設定内容が表示されます。

6.7.2　OS セットアップ用

あらかじめリモート OS セットアップ機能を実行し、OS をセットアップするための各設定を行っておいてください。
コンピュータの OS が Windows NT 4.0 Workstation / Server (MEMBER) および Windows 2000 Professional の場合のみ有効です。それ以外の場合にはエラーメッセージが表示されます。

1　**「コンピュータ名」から対象のコンピュータを選択します。**
複数のコンピュータを選択できます。

2　**「起動イメージの設定」メニューから「ブート／セットアップ設定」を選択します。**
セットアップの種類を選択する画面が表示されます。

3 「OS セットアップ用」を選択して、［次へ］をクリックします。
「登録名の指定」画面が表示されます。

4 登録名を指定して、［次へ］をクリックします。
「LAN カード指定」画面が表示されます。

5 利用する LAN カードを指定します。
「その他のドライバ」以外を選択した場合は、手順 9 に進みます。

6 ［次へ］をクリックします。

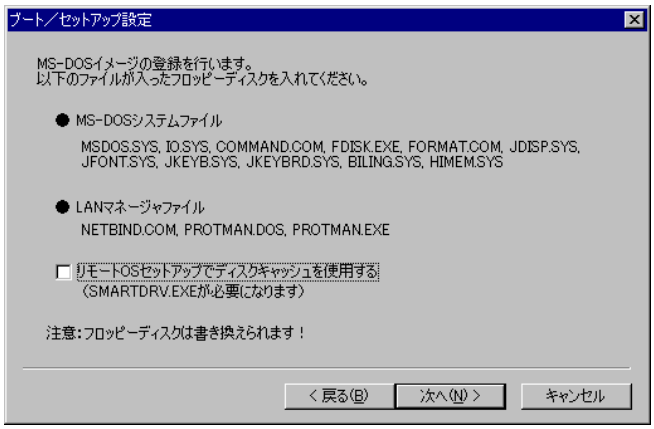
7 「その他のドライバ」を選択した場合は、クライアントで使用する LAN カードのドライバを指定して、［次へ］をクリックします。
［参照］をクリックして、ファイルを選択できます。

POINT

- 利用する LAN カードに「その他のドライバ」を選択した場合は、お使いのシステムによって "Protocol.ini" ファイルの編集が必要です。［詳細］をクリックし、設定してください。ただし、IO ポート /IRQ の設定がそれぞれ 0x300/10 の場合は、編集の必要はありません。
  例）「FMV - 181/2/3/4」を選択した場合、以下の行を編集します。
  ［FMV-18x-NIF］
  Drivername=FJN00I$$
  IOAddress =0x300
  Interrupt =10

8 LAN カードのタイプを指定します。
「NonPNP」を指定した場合は、「IO ポート」と「IRQ」を指定してください。

9 ［次へ］をクリックします。
フロッピーディスクのセットを促す画面が表示されます。
初回設定時は、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成し、セットしてください。



POINT

- 「リモート OS セットアップでディスクキャッシュを使用する」をチェックすると、"SMARTDRV.EXE" が組み込まれ、OS セットアップの処理が早くなります。
- MS-DOS® LAN マネージャファイルは、以下の方法で入手できます。
  - ・Windows NT Server 4.0 の CD-ROM の場合
    ¥CLIENTS¥MSCLIENT¥NETSETUP
  - ・Microsoft の Web サイトからダウンロードする
    ftp://ftp.microsoft.com/bussys/clients/msclient
  - ・Windows 95 および Windows 98 で MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成した場合、MS-DOS イメージ作成中に、ファイルが不足している旨のメッセージが表示される場合があります。その場合は、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成したシステムから、メッセージで要求されたファイルをコピーし、使用してください。

2 回目以降は、初期化済みのフロッピーディスクをセットしてください。

POINT

- 初期化されていないフロッピーディスクの場合は［初期化する］をクリックし、フロッピーディスクを初期化します。ただし、初期化を実行しても不良セクタがある場合は、別のフロッピーディスクを使用してください。

10 **フロッピーディスクをセットして、［次へ］をクリックします。**
作成が開始されます。終了すると、「完了」画面が表示されます。

11 **［完了］をクリックします。**
「クライアントブート設定」画面に戻ります。
作成したフロッピーディスクのラベルには、「コンピュータ名（OS セットアップ）用ディスク」と書いておいてください。

6.7.3　ClientWizard 用フロッピーディスクの作成

1 **「コンピュータ名」から対象のコンピュータを選択します。**
複数のコンピュータを選択できます。

2 **「起動イメージの設定」メニューから「ブート／セットアップ設定」を選択します。**
セットアップの種類を選択する画面が表示されます。

3 **「ClientWizard 用」を選択して、［次へ］をクリックします。**
「クライアント情報ファイルの作成」画面が表示されます。

4 フロッピーディスクをセットして、［次へ］をクリックします。

POINT

- 初期化されていないフロッピーディスクの場合は［初期化する］をクリックし、フロッピーディスクを初期化します。ただし、初期化を実行しても不良セクタがある場合は、別のフロッピーディスクを使用してください。

クライアント情報ファイルが作成され、フロッピーディスクに登録されます。登録が終了すると、「クライアントブート設定」画面に戻ります。
作成したフロッピーディスクのラベルには、「コンピュータ名（ClientWizard 用）」と書いておいてください。

6.7.4 クライアントのインストール方法、起動方法の変更

クライアントの起動設定を行ったあと、クライアントのインストール方法などの情報を変更する場合は、一度登録した情報を削除して、再度「FD 作成 Wizard」を行ってください。

1 変更対象のコンピュータを選択します。

2 「起動イメージの設定」メニューから「削除」を選択します。
確認のメッセージが表示されます。

3 ［OK］をクリックします。
情報が削除されます。再度「FD 作成 Wizard」でクライアント起動設定を行ってください。

6.8　クライアントへのインストール

クライアントのインストール、セットアップを行います。
クライアントに OS がインストールされている場合と、インストールされていない場合とで、操作が異なります。

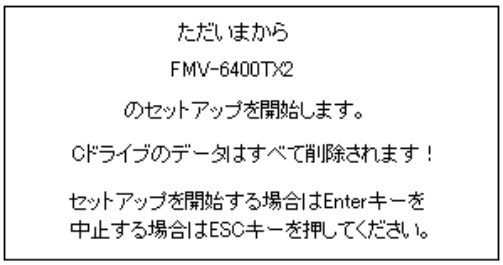
6.8.1　クライアントに OS がインストールされていない場合

リモート OS セットアップで設定した情報を使って、クライアントコンピュータに OS をインストールします。

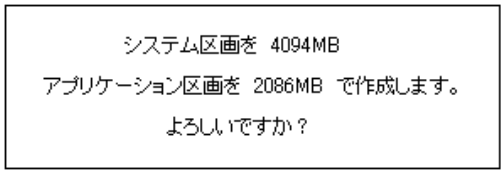
重要

- あらかじめクライアントブート設定の「6.7.2 OS セットアップ用」（→ P.205）を行い、リモート OS セットアップ用フロッピーディスクを作成してください。

1　**クライアント起動用フロッピーディスクをセットして、コンピュータの電源を入れます。**
「OS セットアップ起動」画面が表示されます。



2　**登録名が正しいことを確認して、【Enter】キーを押します。**
「ユーザ情報の設定」画面で指定したパーティションサイズを設定できない場合、パーティションサイズを調整する旨の確認の画面が表示されます。



3　**表示されたパーティションサイズでパーティションを作成する場合は、【Enter】キーを押します。**
C ドライブのフォーマットに続いて、セットアップに必要なファイルがコピーされ、OS のインストールが開始されます。
OS のインストール終了後、必要に応じてクライアントセットアップ機能をインストールしてください。

■ クライアントセットアップ機能のインストール

Windows NT Workstation 4.0 / Windows 2000 Professional のインストール終了後、デスクトップ上にある［クライアントセットアップ機能のインストール］アイコンをダブルクリックします。
クライアントセットアップ機能がインストールされます。
セットアップを正しく行うには管理者権限が必要です。また、クライアントセットアップ機能を有効にするには、インストール終了後、再起動してください。

POINT

- セットアップ中に「ウィンドウステーションがシャットダウン中であるため、初期化に失敗しました。」というメッセージが表示されることがありますが、運用上の支障はありません。
- クライアントにセットアップ資源をインストールするタイミングを設定する場合は、「6.8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング」（→ P.213）を参照してください。

重要

- セットアップする機種によってはインストール中に Internet Explorer や ServicePack の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されることがあります。
  これらの CD-ROM は、ドライバやアプリケーションを正しく動作させるのに必要ですので、メッセージに従って CD-ROM をセットしてください。CD-ROM をセットせずに操作を進めた場合、以降のセットアップが正しく行われない可能性があります。
  その他の注意点に関しては、リモート OS セットアップを開始する前に、クライアントコンピュータに添付のマニュアルでご確認ください。

6.8.2 クライアントに OS がインストールされている場合

インストールモデルなど、すでに OS がインストール済みのクライアントコンピュータのセットアップを行います。クライアントセットアップで設定した内容もセットアップされます。

重要

- クライアントのインストールを行う前に、起動中のアプリケーションをすべて終了しておいてください。Windows NT Workstation 4.0、Windows 2000 Professional または Windows XP を使用している場合は、管理者用アカウントでログオンしてください。
- あらかじめクライアントブート設定の「6.7.3 ClientWizard 用フロッピーディスクの作成」（→ P.207）を行って、ClientWizard 用のフロッピーディスクを作成してください。

1 セットアップを行うクライアントコンピュータに、ClientWizard 用フロッピーディスクをセットします。
フロッピーディスクは、書き込み可能な状態にしておいてください。

2 エクスプローラなどでフロッピーディスクドライブをクリックします。

3 ［CWizard］をダブルクリックします。
ClientWizard が起動します。

4 ［クライアントの登録］をクリックします。
「コンピュータ選択」画面が表示され、接続するサーバ情報が表示されます。

5 セットアップするコンピュータを選択します。
▼ をクリックし、コンピュータ名の一覧からセットアップするコンピュータ名を選択します。

6 ［次へ］をクリックします。
「設定の確認」画面が表示されます。
すでにドメインに参加していて、かつコンピュータ名を変更するときは、「コンピュータ名の変更」画面が表示されます。［OK］をクリックし、画面の指示に従って、コンピュータ名を変更します。

重要

- クライアントが Windows 2000 Professional または Windows XP の場合、ドメイン参加中にコンピュータ名を変更することができません。以下の操作を行ってワークグループに変更し、再度 ClientWizard の起動からやり直してください。
  1. 「システムのプロパティ」画面で［ネットワーク ID］（Windows XP は［コンピュータ名］）タブをクリックします。
  2. ［プロパティ］（Windows XP は［変更］）をクリックします。
  3. 「識別の変更」（Windows XP は「コンピュータ名の変更」）画面の「次のメンバ」で「ワークグループ」を選択します。
  4. ワークグループ名（WORKGROUP など）を入力し、［OK］をクリックします。
  5. 画面の指示に従って、再起動します。

7 ［実行］をクリックします。
セットアップが開始されます。
セットアップが終了した項目にはチェックマークが付きます。

8 LMHOSTS の編集が終了すると、再起動のメッセージが表示される場合があります。その場合は、フロッピーディスクを取り出して、［OK］をクリックします。
再起動され、ログオン画面が表示されます。

9 以降、ご使用の OS により、操作が異なります。

●Windows 95 / 98 / Me の場合

1. ユーザ名はデフォルトで表示されますので、ユーザ名を変更せず、パスワードを入力しないで［OK］をクリックします。
   初めてサーバにログオンする場合、「パスワードの確認」画面が表示されますが、何も入力せずに［OK］をクリックしてください。
2. アプリケーションの登録が終了すると、途中再起動を行っていた場合は、「クライアント導入フロッピーディスクをセットし、準備ができたら OK を押してください。」というメッセージが表示されます。
3. ClientWizard 用フロッピーディスクを再度セットして［OK］をクリックします。
   セットアップが終了すると、システムが再起動されます。
4. ClientWizard 用フロッピーディスクを取り出して［OK］をクリックします。
   再起動後、ログオン画面が表示されます。

●Windows NT Workstation 4.0 / Windows 2000 Professional / Windows XP の場合

1. 管理者用アカウントでログオンしてください。
   以前に別のドメインに参加していた場合、そのドメイン名が表示されますが、「ドメイン」には、▼をクリックしてローカルコンピュータアカウントを指定してください。引き続きセットアップの処理が行われます。
2. アプリケーションの登録が終了すると、途中再起動を行っていた場合は「クライアント導入フロッピーディスクをセットし、準備ができたら OK を押してください。」のメッセージ画面が表示されます。
3. ClientWizard 用フロッピーディスクを再度セットして［OK］をクリックします。
   セットアップが終了すると、システムが再起動されます。
4. ドメイン名変更要求の画面が表示されたら［OK］をクリックします。
   ネットワークパネルが表示されるので、ドメイン名を指定どおり変更して再起動してください。再起動後、ログオン画面が表示されます。

10 実際にログオンするユーザ名、パスワードを入力して［OK］をクリックします。

「パスワードの確認」画面（変更）が表示されます。
ユーザ名とパスワードはサーバの管理者に確認してください。

11 「パスワード」、「パスワード確認」を入力して［OK］をクリックします。

ログオン画面が表示されます。

12 パスワードを入力して［OK］をクリックします。

「OS の起動」画面が表示されます。
クライアントセットアップの設定が行われていた場合は、サーバで設定したセットアップ指示に従い、アプリケーションやファイルがインストールされます。

重要

- クライアントセットアップによるクライアントへの資源の自動インストールは、ClientWizard 起動後の初回ログオン時に一度だけ行われます。ただし、この時にセットアップ指示がない場合は、セットアップ指示が設定されたあとの最初のログオン時に一度だけ行われます。クライアントに資源がセットアップされるタイミングを設定する場合は、「6.8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング」（→ P.213）を参照してください。

POINT

- 一度セットアップしたコンピュータ名は、ClientWizard 用フロッピーディスクから削除されます。
- セットアップ後のクライアントコンピュータにおいて、OS を再インストールし、前回のセットアップ時と同じコンピュータ名でセットアップを行う場合は、WizardConsole で一度コンピュータ名を削除してください。その後、新しくコンピュータを追加し、ClientWizard 用フロッピーディスクを作成し、セットアップを行ってください。
- Windows 95 / 98 でデスクトップ環境設定を使用する場合は、自動的にユーザプロファイルを有効とする環境に設定されます。ユーザプロファイルが有効になると、それぞれのユーザが独自のデスクトップ環境を保持できるようになります。この設定は、「コントロールパネル」の「パスワード」画面の［ユーザ別の設定］タブで確認することができます。
- Active Directory にログオンするクライアントは、ネットワークの DNS サーバの設定を行ってください。正しく設定を行わなかった場合、デスクトップ環境設定で行ったポリシー設定をクライアントに適用できません。
- Active DirectoryにWindows 2000 ProfessionalまたはWindows XPクライアントからAdministratorアカウントでログオンする場合、デフォルトではポリシー設定は適用されません。管理者にもポリシー設定を反映させる場合は、管理者用のアカウントを「クライアント情報の追加／変更」で作成し、そのアカウントが属するグループに対してポリシー設定を行ってください。

6.8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング

セットアップ資源をクライアントにインストールするタイミングを指定します。初期状態は、次にクライアントがログオンしたときにセットアップ資源がインストールされるように設定されています。セットアップを行ったクライアントコンピュータで操作します。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「WizardConsole Client」→「クライアントセットアップ－クライアントセットアップ動作環境」の順にクリックします。

「クライアント動作環境設定」画面が表示されます。

2 クライアントログオン時にセットアップを実行するかしないかを選択して［OK］をクリックします。

「実行する」を選択した場合は、次回クライアントコンピュータのログオン時にセットアップ資源が自動的にインストールされます。

重要

- セットアップ資源のインストールに失敗した場合、「クライアントセットアップ」画面で設定したセットアップ情報が間違っていることが考えられます。セットアップ情報を見直してください。

POINT

- 以下のような場合、セットアップ資源が再インストールされます。再インストールを行いたくない場合は、「クライアントセットアップ」画面のクライアント一覧に表示されるクライアントコンピュータを非選択状態にしてください。
  - ・サーバに同一製品が異なる資源識別名で登録された場合
  - ・サーバに同一製品を再登録した場合
  - ・クライアントの OS を入れ替えたことにより、クライアントセットアップを使用してインストールした資源の情報が削除されてしまった場合

6.9　変更した情報の登録

WizardConsole で追加、変更した設定情報を登録するには、「コンフィグレーションファイルの作成」を行い、フロッピーディスクに保存します。別のサーバ構築時に使用できます。

重 要

- コンフィグレーションファイルに保存される情報は、以下の情報です。
  ・コンピュータアカウント
  ・ユーザアカウント、グループ、共有資源の設定
  ・デスクトップ設計情報
- パスワード、サーバの IP アドレス、添付アプリケーションの設定等、運用中に更新・変更されたサーバの情報は、コンフィグレーションファイルに保存されません。そのため、システムのバックアップには使用できません。
  システムのバックアップは専用のソフトウェアを使用して定期的に行ってください。

1 「WizardConsole」画面で、［コンピュータ］タブを選択し、［コンフィグレーションファイルの作成］をクリックします。
「ファイル名を付けて保存」画面が表示されます。

2 サーバ情報ファイルの保存先を指定し、ファイル名を入力します。

重 要

- ファイル名には、任意の名前を使用できますが、"SerStartBatch.ini" という名前のファイルのみ OS のインストールが可能です。

3 ［保存］をクリックします。
コンフィグレーションファイルが作成され、「WizardConsole」画面に戻ります。

重 要

- WizardConsole で作成したコンフィグレーションファイルは、そのままではインストールできません。必ず ServerStart ガイドモードまたは事前設定モードでコンフィグレーションファイルの内容を確認し、適切に修正してから上書き保存してご使用ください。
- Windows NT、Windows 2000 および WizardConsole で予約されているグループ、ユーザ、共有資源の設定を変更した場合、サーバを再インストールしても設定は更新されません。再インストール後、WizardConsole で設定し直してください。

6.10 WizardConsole 使用時の留意事項

WizardConsole 使用時にエラーなどが発生した場合、以下の事項を参照してください。

6.10.1　トラブルシューティング

■ 画面に表示されるメッセージについて

●「サーバ内の資源情報を参照できませんでした。サーバの情報を最新に更新してから再試行してください。」と表示された場合

サーバ側で「クライアントセットアップ」画面の操作中にクライアント側でログオンすると、「サーバ内の資源情報を参照できませんでした。サーバの情報を最新に更新してから再試行してください。」というメッセージが表示されます。
操作中の「クライアントセットアップ」画面で をクリックするか、「表示」メニューから「最新に更新」を選択したあと、「インストールコマンド」画面の［再試行］をクリックしてください。

● クライアントコンピュータへのインストール中に「セットアップに失敗した資源があります」と表示された場合

サーバのクライアントセットアップを起動し、「クライアント一覧」で対象クライアントコンピュータのセットアップ結果を確認してください。確認時は、「表示」メニューから「最新に更新」を実行してください。
「登録済みセットアップ資源一覧」でセットアップを行った資源を選択し、クライアント一覧のセットアップ状態が「エラー」の場合は、その登録資源についてセットアップ情報を見直し、正しい設定で資源の再登録を行ってください。
ただし、資源の再登録を行った場合はセットアップが完了しているクライアントの状態も未完了となりますので、セットアップが完了しているクライアントについては、対象クライアントの選択を解除してください。

●「デスクトップ環境設定」画面を閉じる時に「システムポリシーファイルの作成中に異常が発生しました。」とエラーメッセージが表示された場合

Windows 2000 のドメインコントローラ上でデスクトップ環境設定を使用する場合、デスクトップ環境設定を起動した管理者ユーザが「Enterprise Admins」グループに属していないと、このメッセージが表示されます。
この場合、ポリシーの変更は失敗しており、設定は保存されていません。管理者ユーザを「Enterprise Admins」グループに追加して再起動し、デスクトップ環境設定をやり直してください。

■ ログオン時に自動的にインターネットエクスプローラが起動する場合

WizardConsole をインストールしたサーバ、または起動用フロッピーディスクでセットアップしたクライアントコンピュータにログオンした直後に、インターネットエクスプローラが起動することがあります。
WizardMenu を使用しない場合は、サーバ側で WizardConsole の「デスクトップ環境設定」を起動し、［初期メニュー］タブで「Windows 標準」を選択します。
また、WizardMenu を使用する場合は、IIS がサーバ上に構成されていない状態のとき、インターネットエクスプローラが起動する際にエラーとなります。WizardMenu を使用するには、以下の操作を行ってください。

1. **サーバ上に IIS（バージョン 3.0 以上）を構成します。**
2. **「スタート」ボタン→「プログラム」→「Microsoft インターネットサーバー（共通）」（Windows 2000 では「管理ツール」）→「インターネットサービスマネージャ」の順にクリックします。**
3. **WWW サービスのプロパティを開き、以下の 3 つのフォルダに対して、［ディレクトリ］タブからエイリアスを追加します。**
   c:¥WZCNSL¥af12¥CGI：エイリアス名「ServerWizardMenu/APPS」
   c:¥WZCNSL¥af12¥Controls：エイリアス名「ServerWizardMenu/Controls」
   c:¥WZCNSL¥af13¥inetpub：エイリアス名「ServerWizardMenu」
4. **WWW サービスを再起動します。**
5. **デスクトップ環境設定の［初期メニュー］タブで「Web メニュー」を選択します。**

■ 電源スイッチを押しても電源が切れない場合

セットアップ中、PCI カードのコンフィグレーションチェックでエラーがあった場合、エラーメッセージを表示後に電源スイッチを押しても電源が切れないことがあります。この場合、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切り、エラー要因を取り除いてください。

■ Intel® PROSet Ⅱがインストールされない場合

Windows 2000 Server インストール後、「コントロールパネル」に、「Intel® PROSet Ⅱ」が登録されていない場合は、以下の手順に従ってインストールしてください。

1. **ServerStart の CD-ROM 内の以下の EXE を起動します。**
   ¥Tools¥GENERAL¥Intel¥ProSetW2k¥ProSet.exe
2. **「Automatic execution-runs setup immediately」を選択して、［OK］をクリックします。**
   以降、画面の指示に従ってインストールを行ってください。

■ リモート OS セットアップ中に発生する可能性のあるエラーについて

エラーコード	原因と対策
10	パーティションが作成できませんでした。 OS セットアップを実行してパーティションサイズを変更し、フロッピーディスクを作成し直してく ださい。
11	サーバと通信できなかった場合に発生します。以下の原因と対策があります。 原因 1：LAN ケーブルが正しく接続されていません。 対策 1：LAN ケーブルがきちんと接続されているか確認してください。 原因 2：サーバ上で TFTP サービスが実行されていません。 対策 2：コントロールパネルより「サービス」の「Fujitsu SystemcastWizard/ServerStart TFTP Service」が開始されているか確認してください。 原因 3：サーバとクライアントが同じネットワーク上にいません。 対策 3：サーバとクライアントの IP アドレスとサブネットマスクを確認してください。 同じネットワークにいない場合はゲートウェイアドレスを設定してください。 原因 4：指定されたファイルがサーバ上で見つかりません。 対策 4：OS セットアップ実行後にファイルが削除された可能性があります。再度 OS セットアップを実行してドライバーズ CD-ROM をコピーし直してください。
12	情報ファイル "Cwizard.ini" の内容が正しくありません。 OS セットアップを実行して、フロッピーディスクを作成し直してください。
15	ファイルの書き込みができませんでした。 ディスクが利用可能な状態になっていない可能性があります。ディスクを利用可能な状態にしてください。
16	Windows NT のリモートセットアップスクリプト "Unattend.txt" が正しくありません。 ドライバーズ CD-ROM から正しくコピーされなかった可能性があります。
20	クライアントのコンピュータ情報が取得できませんでした。 WizardConsole のクライアントブート設定で、再度 OS セットアップ用フロッピーディスクを作成してください。

6.10.2 バックアップドメインコントローラ（BDC）に関する留意事項（Windows NT Server 4.0 の場合）

バックアップドメインコントローラ（以下、BDC）のサーバに WizardConsole をインストールして使用する場合には、以下の注意が必要です。

■ グループ、ユーザアカウントについて

作成したグループとユーザアカウントはドメイン全体で使用されます。
そのため、プライマリドメインコントローラ（以下、PDC）に WizardConsole をインストールして使用している場合には、BDC で作成したアカウントは、PDC でも管理することができます。

■ コンピュータアカウントについて

作成したコンピュータのアカウントは、WizardConsole がインストールされているサーバごとに管理されます。ある BDC で作成したコンピュータは、PDC や他の BDC では管理できません。同様に、PDC で作成したコンピュータは、他の BDC では管理できません。

■ クライアントセットアップ情報について

WizardConsole がインストールされているコンピュータごとに管理されます。
BDC で資源の読み込みを行っても、読み込みを行った BDC 以外のサーバ（PDC や他の BDC）で使用することはできません。
クライアントコンピュータは、最初に登録したサーバに接続し、資源をコピーします。複数台のコンピュータで管理している場合には、クライアントコンピュータで資源を取り出すサーバ名を変更することもできます。

■ デスクトップ環境設定について

作成したデスクトップ環境設定の情報は、WizardConsole がインストールされているコンピュータごとに管理されます。
複数台のコンピュータで管理している場合には、クライアントコンピュータでデスクトップ環境の情報を取り出すサーバ名を変更できます。

■ リモート OS セットアップについて

WizardConsole がインストールされているコンピュータごとに管理されます。
資源を他のコンピュータで管理することはできません。

■ コンフィグレーションファイルについて

BDC では WizardConsole でコンフィグレーションファイルを作成することはできません。

6.10.3 クライアントコンピュータの追加／変更時の留意事項

「クライアントセットアップ機能」で定義された資源は、ServerStart または WizardConsole で指定したクライアントコンピュータに対してインストールされます。
WizardConsole の「コンピュータの追加／変更」を行ったクライアントについては、デフォルトでセットアップ資源のインストール対象になります。追加／変更したクライアントコンピュータに対してセットアップ資源のインストールを行わない場合は、WizardConsole のクライアントセットアップを起動し、インストール対象から解除してください。

6.10.4 クライアントセットアップ機能に関する留意事項

■ 同時インストールできる台数

「クライアントセットアップ機能」で定義した内容を同時にインストールできるクライアントコンピュータの台数は 15 台です。15 台以上インストールする場合は、一度にインストールするクライアント台数を 15 台単位で行ってください。

■ 標準対応製品をインストールする際の注意事項

● 標準対応製品のインストール可能 OS とインストール条件

標準対応製品によってインストールできる OS は異なります。また、インストール時の条件も各標準対応製品で異なります。適切なインストール対象クライアントを選択してください。

● インストールに必要なハードディスク容量の確認

ハードディスク空き容量が不十分なクライアントへのインストールは、アプリケーションエラーになる場合があります。クライアント環境の違いにより、インストールに必要なハードディスク容量は異なります。あらかじめ十分な空き容量を確認してください。

■ クライアントセットアップ機能でインストールしたアプリケーションの削除

● アプリケーションの削除方法

「クライアントセットアップ機能」でインストールしたアプリケーションをアンインストールする場合は、アプリケーションに添付されているマニュアルを参照してください。

● アンインストールが失敗する場合

クライアントセットアップで登録されたアプリケーションをサーバで削除した場合、アプリケーションのアンインストール時にエラーが発生する場合があります。
エラーが発生した場合は、アプリケーション媒体を使用してアンインストールを行ってください。

■ スクリプトに関する留意事項

● スクリプトを使用してインストールする場合

標準対応製品等でスクリプトを使用してインストール実行中は、マウス・キーボードに触らないでください。スクリプトが停止し、サイレントインストールが失敗する原因となります。

● アプリケーションインストール用のスクリプト作成時の注意事項

クライアントセットアップ機能で使用するアプリケーションインストール用スクリプトは、以下の手順で作成してください。なお、スクリプト作成を簡単にするには、アプリケーションをインストールするコンピュータと同一環境でスクリプト採取することを推奨します。

1. クライアントコンピュータへインストールするアプリケーションのインストールコマンドを起動します。
2. 上記インストールコマンドの初期画面が表示されたら、Windows 上で動作する自動化ツール（注 1）を使用し、インストール操作のイベント採取を開始します。
3. インストール処理が終了したら、自動化ツールのイベント採取を終了します。

4　採取したスクリプトを、配付先のクライアントの環境に合わせて編集し（注2）、必要に応じてコンパイルします。

コンパイルが必要かどうかは使用する自動化ツールのマニュアルを参照してください。

5　インストールする製品の機能上、システムに対して再起動を要求してくる場合は、再起動を実行せずにインストールが終了するようにスクリプトを採取してください。

注 1）

Windows 上で動作する自動化ツールとは、Windows 上で利用者が行った操作をファイルにスクリプト形式で格納し、そのスクリプトを実行して操作を再現するツールです。

例）米国 Rational SoftWare Corporation の Rational Visual Test®

注 2）

採取したスクリプトは、イベント採取したマシンに密着したものになっているため、複数のマシンで共通に使用するためには下記の点をカスタマイズする必要があります。

・不要関数の削除

イベント採取で不要なイベントを採取した場合は、不要な処理や関数を削除します。

・画面待ち合わせ

採取したスクリプトを実行する際、実行マシンの性能により処理速度が異なるため、スクリプト内で時間を指定して処理の待ち合わせを行うと動作が不安定になります。時間指定で待ち合わせている個所は、待ち合わせ時間を長くするか、次に表示される画面で待ち合わせを行うようにカスタマイズします。

・画面の切り分け

インストール時に表示される画面が局面によって異なる場合は、同一グループ内で複数の画面の待ち合わせを行い、どちらの画面が表示されても対処できるようにカスタマイズします。

6.10.5 CSV ファイルフォーマットについて

使用する CSV ファイルの形式は、カンマで区切ったテキストのファイル形式です。ファイルは登録する画面に合わせてそれぞれ作成してください。それぞれ第 1 フィールド以外は空白にすることができます。ただし、入力必須項目は CSV ファイル取り込み後、入力してください。CSV ファイルの作成は、表計算ソフトを使用すると簡単です。

■ コンピュータ用

	第 1 フィールド	第 2 フィールド	第 3 フィールド	第 4 フィールド	第 5 フィールド
入力項目	コンピュータ名	OS 種別	IP アドレス	サブネットマスク	デフォルトゲートウェイ
設定値	（半角 15 文字以内）	1-Windows 95 2-Windows NT 4.0 Workstaion / Server 4.0（MEMBER） 3-Windows 98 4-Windows NT Server 4.0（BDC） 5-Windows 2000 Professional / Server（MEMBER） 6-Windows Me 7-Windows XP	0-DHCP xxx.xxx.xxx.xxx（第 1 オクテットは 1 ～ 223）	0-DHCP xxx.xxx.xxx.xxx	0-DHCP xxx.xxx.xxx.xxx（第 1 オクテットは 1 ～ 223）

例 1）Computer2,3,100.10.10.3,255.255.255.0,100.10.10.1
例 2）Computer4,,0,,

■ グループ用

	第 1 フィールド	第 2 フィールド
入力項目	グループ名	説明
設定値	半角 20 文字以内	半角 64 文字以内

例）PG Group1,PG グループ

■ ユーザ用

	第 1 フィールド	第 2 フィールド	第 3 フィールド
入力項目	ユーザ名	フルネーム	説明
設定値	半角 20 文字以内	半角 64 文字以内	半角 48 文字以内

例）fuji,taro fuji, 富士太郎

■ 共有資源用

	第 1 フィールド	第 2 フィールド	第 3 フィールド
入力項目	共有資源名	ディレクトリ名	説明
設定値	半角 80 文字以内	半角 246 文字以内	半角 48 文字以内

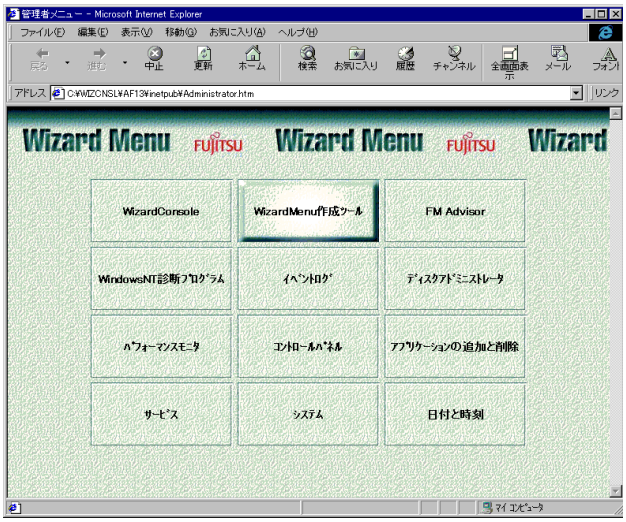
例）tool,c:¥tool, ツール用

6.11 WizardMenu によるデスクトップメニューの作成

WizardMenu は、クライアントコンピュータに表示するアプリケーション起動ツールです。

WizardMenu は、Internet Explorer 上で、ボタンを選択してアプリケーションを起動する機能です。
WizardMenu 作成ツールを使って、WizardMenu のボタンに任意のアプリケーションの起動を割り当てることができます。また、ボタンの大きさを変更したり、画像データをボタンに貼り付けたり、自由な形式でアプリケーション起動ボタンを作成できます。

● メニュー作成例



WizardMenu を作成するには、「WizardMenu 作成ツール」を使用します。
WizardMenu 作成ツールを起動するには、サーバインストール終了後に「スタート」ボタン→「プログラム」→「ServerStart」→「Wizard Menu 作成ツール」の順にクリックします。

6.11.1 動作環境

項目	説明
動作 OS	Windows NT Server 4.0 / Windows 2000 Server
必須ソフトウェア （WWW サーバ）	Microsoft® Internet Information Server 3.0 以降 未インストールの場合、WizardMenu が正しく表示されません。
必須ソフトウェア （WWW クライアント）	Microsoft® Internet Explorer 3.02 以降
選択ソフトウェア	WizardMenu 作成ツールで作成した Web メニューを編集するときに必要です。 ・Microsoft® FrontPage® Express （Microsoft インターネットエクスプローラ 4.0 に添付） ・Microsoft® FrontPage® ・Microsoft® Visual InterDev™

6.11.2 WizardMenu を作成する

WizardMenu 作成ツールで作成した WizardMenu は、HTML ファイルとして指定のディレクトリに格納します。なお、WizardMenu 作成ツールでは、HTML ファイルとしての保存はできますが、再度その HTML ファイルを編集することはできません。
編集する場合は、WizardMenu 作成ツールの「ファイル」メニューの「WizardMenu 形式」（拡張子 .SWM）で保存してから編集操作を行ってください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「ServerStart」→「WizardMenu 作成ツール」の順にクリックします。

2 ［ファイル情報］タブを選択し、HTML ファイルの格納先、ファイル名を指定します。

項目	説明
ファイル名	保存するファイル名を指定します。指定できる文字列長は、保存先と合わせて 259 バイトまでです。
保存先	保存するファイルのディレクトリを指定します。指定できる文字列長は、ファイル名と合わせて 259 バイトまでです。
［参照］	ファイル名を指定する画面が表示されます。ファイル名を指定すると「ファイル名」と「保存先」に情報が表示されます。

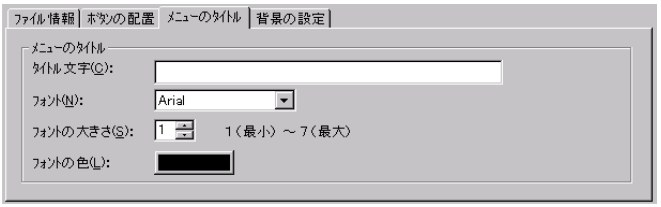
POINT

- ファイル名と保存先に情報を入力するまで、他のタブ情報（ボタンの配置／メニューのタイトル／背景の設定）を表示することはできません。

3 ［ボタンの配置］タブを選択し、表示するボタンの情報を設定します。

項目	内容
ボタンの個数	ボタンの個数を縦×横で指定します。デフォルトでは、縦は 4、横は 3 が設定されています。ボタンの個数（縦と横）は、カーソルが次のフィールドへ移動した時点で反映されます。個数に変更がある場合は、行が追加または削除されるメッセージが表示されます。指定できる範囲は、1 ～ 20 です。
ボタンの大きさ	ボタンの大きさを縦×横で指定します。デフォルトでは、縦は 80、横は 180 が設定されています。指定できる範囲は、縦が 20 ～ 200、横が 20 ～ 600 です。
ボタンの間隔	ボタンとボタンの間隔をドット単位で指定します。デフォルトでは、5 が設定されています。指定できる範囲は、1 ～ 100 です。

4 ［メニューのタイトル］タブを選択し、表示するメニュータイトルのフォントの大きさや色を設定します。



5 ［背景の設定］タブを選択し、表示する背景の情報を設定します。

項目	内容
背景の色	背景の色を指定します。デフォルトは、白です。ボタンを選択すると、色を選択する画面が表示され、色を変更できます。
背景の画像ファイル	背景で表示する画像ファイルを指定します。［参照］を選択すると、ファイル名を指定する画面が表示されます。ファイル名を指定する画面でファイルを選択すると、ファイル名が表示されます。指定できる画像データは、BMP、GIF、JPG です。

6　各ボタンの設定をします。

No.	表題	フォント名	表題の色	ボタンの色	通常の画像	押下の画像	選択の画像	上書き表示	ボタンの形状	二重起動抑止	コマンド	起動先
1		System,0,14	0x000000	0xffffff				✓	✓	✓		Client
2		System,0,14	0x000000	0xffffff				✓	✓	✓		Client
3		System,0,14	0x000000	0xffffff				✓	✓	✓		Client
4		System,0,14	0x000000	0xffffff				✓	✓	✓		Client
5		System,0,14	0x000000	0xffffff				✓	✓	✓		Client
6		System,0,14	0x000000	0xffffff				✓	✓	✓		Client
7		System,0,14	0x000000	0xffffff				✓	✓	✓		Client
8		System,0,14	0x000000	0xffffff				✓	✓	✓		Client
9		System,0,14	0x000000	0xffffff				✓	✓	✓		Client
10		System,0,14	0x000000	0xffffff				✓	✓	✓		Client
11		System,0,14	0x000000	0xffffff				✓	✓	✓		Client
12		System,0,14	0x000000	0xffffff				✓	✓	✓		Client

項目		内容
表題		ボタンに表示する表題を指定します。指定可能な文字列長は、64 文字です。表題は、ボタン上にセンタリングされて表示されます。そのため、ボタンの大きさより長い文字列を指定すると、文字列の両端が欠けたように表示されます。
フォント名		表題のフォント名を指定します。
表題の色		表題の文字の色を指定します。
ボタンの色		ボタンの色を指定します。
通常の画像		ボタンが選択されていないとき表示する画像データを指定します。
押下の画像		ボタンが選択されているとき表示する画像データを指定します。
選択の画像		ボタンにフォーカスが当たっているとき表示する画像データを指定します。
上書き表示		チェックすると表題の文字を画像データの上に表示します。
ボタンの形状		チェックすると立体タイプ、チェックしない場合は平面タイプのボタンを表示します。
二重起動抑止		チェックすると起動するコマンドの二重起動を抑止します。
コマンド		ボタンを押したときに起動するコマンドを指定します。
起動先		
	ClientWeb	Web メニューが表示されているクライアントコンピュータで指定したコマンドを起動します。
	Server	サーバで指定したコマンドを起動します。
起動ホスト名		起動するサーバ名を指定します。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。
タイムアウト		サーバとの通信タイムアウト時間をしています。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。
ユーザ認証		
	指定なし	ユーザ名、パスワードの指定をしません。
	1 回のみ	ボタンを選択した 1 回目のみユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されます。
	必ず指定	ボタンを選択する度に、必ずユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されます。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。

7　「ファイル」メニューから「WizardMenu 形式」→「保存」の順にクリックします。

WizardMenu を WizardMenu 形式（拡張子 .SWM）で保存します。

6.12 WizardConsole のアンインストール

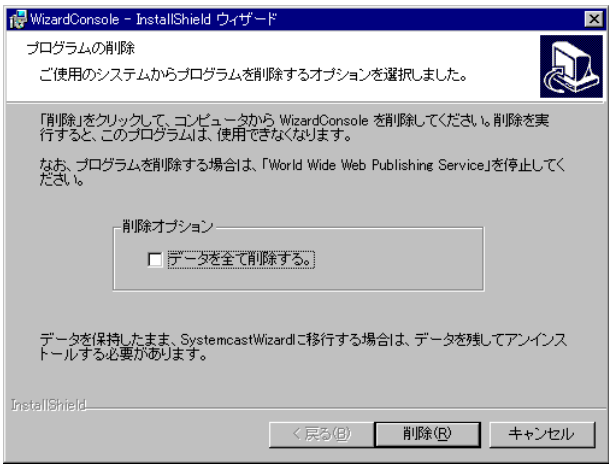
WizardConsole のアンインストール方法について説明します。

WizardConsole 機能を削除する場合は、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で行ってください。

重 要

- WizardConsole のアンインストールを行う前に、起動しているすべてのプログラムを終了させてください。

1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
2. ［アプリケーションの追加と削除］をダブルクリックします。
3. 「WizardConsole」を選択し、［追加と削除］をクリックします。
   次の画面が表示されます。



POINT

- 「データを全て削除する」にチェックを付けた場合は、クライアントセットアップ、リモート OS セットアップなどにより取り込み済みのデータすべてが削除されます。
  チェックを付けない場合は、削除されません。アンインストール後削除する場合は手動でデータフォルダを削除してください。

4. ［削除］をクリックします。
   アンインストールが行われ、完了画面が表示されます。
5. ［完了］をクリックします。
   システムを再起動します。

重要

- アンインストール後は、必ずシステムを再起動してください。

POINT

- アンインストール後、インストール時に自動的に作成されるユーザアカウント（SWClientSetupUser、SWSetupUser）が必要ない場合は、以下の手順に従ってアカウントを削除してください。
  ・＜ Windows NT ドメインコントローラ＞
  「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール（共通）」→「ドメインユーザーマネージャ」の順にクリックし、「SWClientSetupUser」と「SWSetupUser」を削除してください。
  ・＜ Windows 2000 ドメインコントローラ＞
  コントロールパネルを起動し、「管理ツール」から「Active Direrctory ユーザーとコンピュータ」を起動して、作成した OU または User から「SWClientSetupUser」と「SWSetupUser」を削除してください。
- アンインストール後、次のフォルダが残る場合があります。エクスプローラなどを利用して、手動で削除してください。
  C:¥WZCNSL
  C:¥WZCNSL¥desktop フォルダが残っている場合は、「World Wide Web Publishing Service」を停止してからフォルダを削除してください。

第 7 章

各種ドライバディスク

この章では、ドライバディスクの作成方法と、ドライバのインストール手順について説明しています。また、LAN ドライバの詳細設定についても説明しています。

7.1 ドライバディスクの作成方法 230
7.2 ドライバのインストール 236
7.3 LAN ドライバの詳細設定 244

7.1　ドライバディスクの作成方法

サーバの運用中に拡張カードを増設する場合や、サーバを手動でインストールする場合などに必要なドライバディスクの作成方法／インストール方法について説明します。

ドライバディスクは、ServerStart のフロッピービルダ機能を使用して作成します。
→「7.1.1 ドライバディスクの作成方法」（P.233）

■ ドライバディスク作成の準備

ドライバディスク作成用のフロッピーディスクをあらかじめご用意ください。
フロッピービルダ機能は、以下の環境で利用できます。

・サーバで ServerStart CD-ROM からシステムを起動した場合
・クライアントコンピュータで ServerStart システムを起動した場合（推奨）

POINT

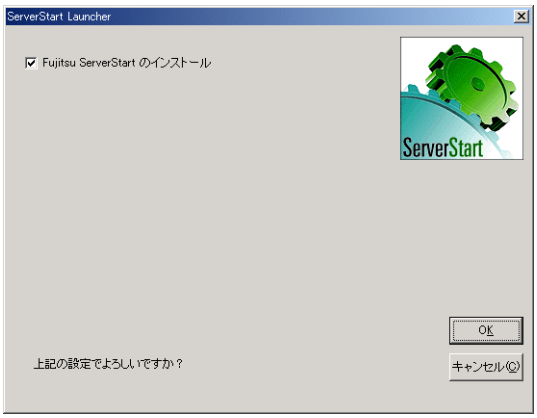
- クライアントコンピュータに ServerStart がインストールされていない場合は、ServerStart をインストールします。異なるバージョンの ServerStart がインストールされている場合は、インストール済みの ServerStart をアンインストールしてください。アンインストールの方法については、「■ ServerStart のアンインストールについて」（→ P.33）を参照してください。

重要

- 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている状態で ServerStart を起動すると、フロッピービルダ機能やインストールウィザードが正常に動作しない可能性があります。異なるバージョンの ServerStart は、必ずアンインストールしてください。

● クラインアントコンピュータに ServerStart をインストールする

1 クライアントコンピュータに ServerStart CD-ROM をセットします。
「ServerStart Launcher」画面が表示されます。



「ServerStart Launcher」画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の "Launcher.exe" を実行してください。

2 チェックボックスが選択されていることを確認して、[OK] をクリックします。
Windows インストーラが起動し、セットアップ画面が表示されます。

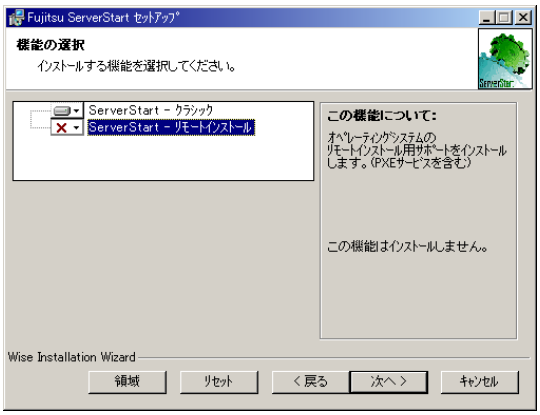
3 [次へ] をクリックします。
「ライセンス契約」画面が表示されます。

4 「ライセンス契約に同意します」を選択して、[次へ] をクリックします。
「インストール先フォルダ」画面が表示されます。

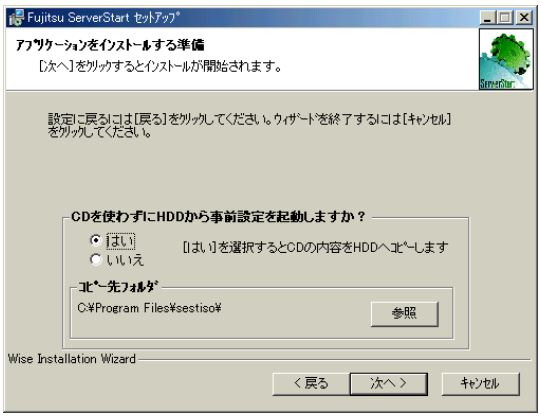
5 インストール先フォルダを指定して、[次へ] をクリックします。インストール先フォルダを変更する場合は、[参照] をクリックして変更します。
Windows 2000 Professional ／ Windows XP の場合のみ、以下の操作を行います。それ以外の場合はインストールが実行されます。

- Windows 2000 Professional の場合は、「機能の選択」画面が表示されます。以下手順 1 から操作してください。
- Windows XP の場合は、「アプリケーションをインストールする準備」画面が表示されます。以下手順 2 から行ってください。

1. 「機能の選択」画面が表示されます。
   [ServerStart －リモートインストール] を「この機能を使用できないようにします」に設定して、[次へ] をクリックします。



2. 「アプリケーションをインストールする準備」画面が表示されます。
   CD の内容をコピーするかどうかを指定します。



「CD を使わずに HDD から事前設定を起動しますか？」で「はい」を選択すると、ServerStart CD-ROM がなくてもクライアントコンピュータで ServerStart が起動できるようになります。
「はい」を選択した場合は、コピー先フォルダも指定してください。CD-ROM の内容をコピーするため、コピー先フォルダには十分な空き容量が必要です。

3. ［次へ］をクリックします。
   インストールが実行されます。

POINT

- インストールの前後に再起動のメッセージが表示された場合は、CD-ROM を取り出して、メッセージに従って再起動してください。再起動後、ServerStart CD-ROM をセットして再度インストールを開始してください。
  再起動中に「このプログラムからの応答がありません。」とメッセージが表示された場合は、［終了］をクリックして再起動を続行してください。

インストールが終了すると、完了画面が表示されます。

6 ［終了］をクリックします。
以上でクライアントコンピュータへの ServerStart のインストールは完了です。

POINT

- Windows 2000 Professional ／ Windows XP 以外で ServerStart をインストールした場合は、CD-ROM の内容はコピーされません。ServerStart の起動時には ServerStart CD-ROM が必要になります。

7.1.1　ドライバディスクの作成方法

POINT

- ドライバディスクは「ServerStart フロッピーディスク」とは別のものをあらかじめご用意ください。
- 作成するドライバごとにフロッピーディスクが必要です。

1 ServerStart を起動します。

すでに ServerStart を起動している場合は、再起動の必要はありません。起動していない場合は、以下の手順に従って起動してください。

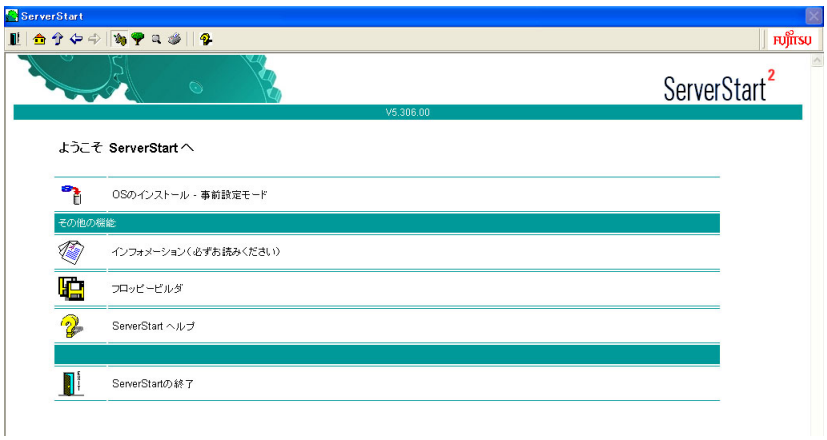
●クライアントコンピュータで作成する場合

・Windows 2000 Professional ／ Windows XP で、CD の内容をコピーしている場合

1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerStart」→「ServerStart」の順にクリックします。
   ServerStart が起動し、「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。

・Windows 2000 Professional ／ Windows XP 以外の場合、および CD の内容をコピーしていない場合

1. クラインアトコンピュータに ServerStart CD-ROM をセットします。
   ServerStart が起動し、「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



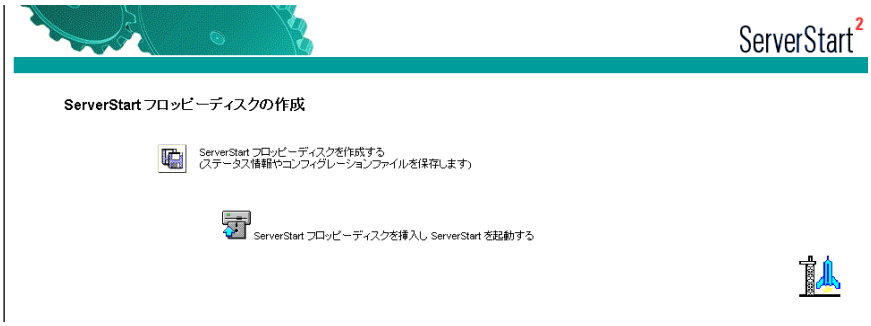
●サーバで作成する場合

1. サーバの電源を入れ、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。
   ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
2. ServerStart に添付の「ServerStart フロッピーディスク」をセットして、「作成」をクリックします。

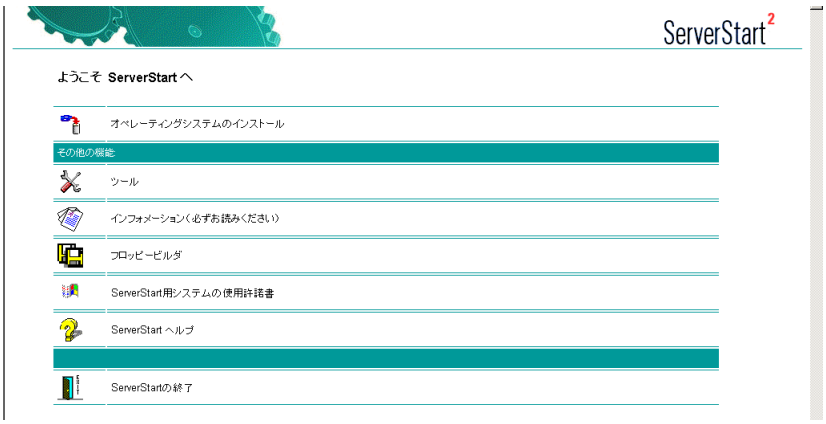
POINT

- ServerStart フロッピーディスクにコンフィグレーションファイルがすでに存在する場合、［作成］をクリックせずに［OK］をクリックしてしまうと、「自動インストールモード」画面が表示されます。必ず［中止］をクリックしてください。「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。
  「自動インストールモード」画面で［開始］をクリックすると、サーバのインストールが開始され、ディスク内容がすべて消去されてしまいますのでご注意ください。

「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。

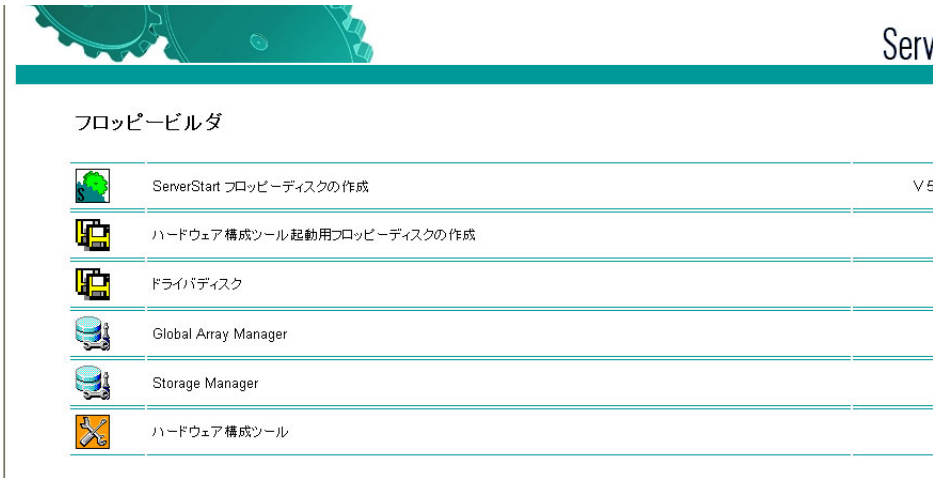


3. 「ServerStart フロッピーディスクを挿入し ServerStart を起動する」をクリックします。
「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



4. ServerStart フロッピーディスクを取り出します。

2 「フロッピービルダ」をクリックします。
「フロッピービルダ」画面が表示されます。



3 「ドライバディスク」をクリックします。
「フロッピービルダ　ドライバディスク」画面が表示されます。

4 作成したいドライバの種類をクリックします。

5 作成したいドライバディスクをクリックします。
メッセージに従って、フロッピーディスクをセットします。

6 以降、画面のメッセージに従って、操作を行います。
自動的にフロッピーディスクがフォーマットされ、ファイルのコピーが開始されます。ドライバディスクの作成は自動で行われます。フロッピーディスクの作成完了メッセージが表示されたら、[OK]をクリックし、フロッピーディスクを取り出してください。

7.2 ドライバのインストール

LAN ドライバのインストール方法について説明します。

7.2.1 LAN ドライバのインストール（Windows Server 2003）

■ LAN ドライバの更新

1 「スタート」ボタン→「管理ツール」→「コンピュータの管理」の順にクリックします。

2 ［デバイスマネージャ］をクリックします。

3 ［ネットワークアダプタ］をクリックします。
搭載されている LAN デバイスが表示されます。
以下の手順 4 ～ 9 を、すべての LAN デバイスに対して行います。

POINT

- LAN デバイス名は以下のように表示されます。

LAN カード	LAN デバイス名
オンボード LAN（1Gbps）*BX300	Broadcom NetXtreme Gigabit Fiber
オンボード LAN（1000BASE-T）*TX200 ／ RX300	Broadcom NetXtreme Gigabit Ehternet
オンボード LAN（1000BASE-T）*TX150 ／ *RX100	Intel (R) PRO/1000 MT Network Connection
オンボード LAN（100BASE-TX）*H450 ／ R450 ／ RX100	Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)
オンボード LAN *RX200	Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection
PG-1851	Intel (R) PRO/100 Server Adapter
PG-1861	Intel (R) PRO/100 S Dual Port Server Adapter
PG-1871 ／ PG-1871L	Intel (R) PRO/100 S Server Adapter
PG-1881 ／ PG-1881L	Intel (R) PRO/1000 XF Server Adapter
PG-1891 ／ PG-1891L	Intel (R) PRO/1000 XT Server Adapter

4 搭載されている LAN デバイスに応じて、それぞれ ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをサーバ本体にセットします。

5 LAN デバイスのアイコンをダブルクリックします。
プロパティが表示されます。

6 ［ドライバ］タブをクリックし、［ドライバの更新］をクリックします。
「ハードウェアの更新ウィザードの開始」画面が表示されます。

7 「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選択し、［次へ］をクリックします。
ドライバのインストールが開始されます。

8 ［完了］をクリックします。

9 ［閉じる］をクリックします。

10 BX300 ／ RX300 ／ TX200 をお使いの場合は、BACS（Broadcom Advanced Control Suite）をインストールします。
インストール方法など、詳細は「7.3.2 BACS」（→ P.250）を参照してください。

POINT

- LAN ドライバインストール後、LAN アダプタ名は以下のようになります。

LAN カード	LAN アダプタ名
オンボード LAN（1Gbps）*BX300	Broadcom NetXtreme Gigabit Fiber
オンボード LAN（1000BASE-T）*TX200 ／ RX300	Broadcom NetXtreme Gigabit Ehternet
オンボード LAN（1000BASE-T）*TX150 ／ RX100	Intel (R) 82540EM Based Network Connection
オンボード LAN（100BASE-TX）*H450 ／ R450 ／ RX100	Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)
オンボード LAN *RX200	Intel(R) 82546EB Based Board Dual Port Network Connection
PG-1851	Intel (R) PRO/100 Server Adapter
PG-1861	Intel (R) PRO/100 S Dual Port Server Adapter
PG-1871 ／ PG-1871L	Intel (R) PRO/100 S Server Adapter
PG-1881 ／ PG-1881L	Intel (R) PRO/1000 XF Server Adapter
PG-1891 ／ PG-1891L	Intel (R) PRO/1000 XT Server Adapter

7.2.2 LAN ドライバのインストール（Windows 2000 Server）

■ LAN ドライバの更新

1 ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをサーバ本体にセットします。

2 デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、表示されたメニューの中から「管理」を選択します。

3 ［デバイスマネージャ］をクリックします。

4 搭載されている LAN のポート数だけ以下の名称が表示されます。
・「その他のデバイス」配下の「イーサネット コントローラ」
これらのネットワークアダプタをダブルクリックして、以下の手順 5 ～ 11 をすべての LAN ポートに対して行います。

5 ［ドライバ］タブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面が表示されます。

6 ［次へ］をクリックします。

7 「ハードウェア デバイス ドライバのインストール」画面で「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、［次へ］をクリックします。

8 「ドライバファイルの特定」画面で、検索場所のオプションに「フロッピーディスクドライブ」を選択し、［次へ］をクリックします。

9 「次のデバイスドライバが検出されました」と表示されたら［次へ］をクリックします。
ドライバのインストールが開始されます。

10 ［完了］をクリックします。

11 ［閉じる］をクリックします。

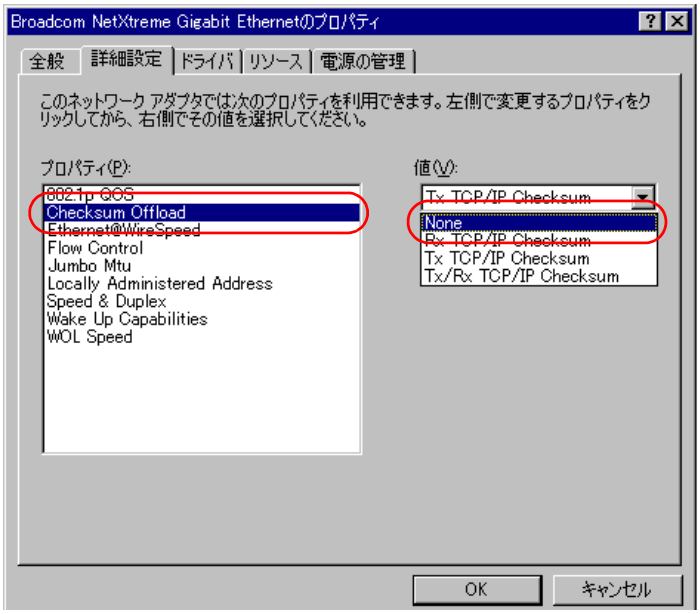
12 BX300 ／ RX300 ／ TX200 をお使いの場合は、BACS（Broadcom Advanced Control Suite）をインストールします。
インストール方法など、詳細は「7.3.2 BACS」（→ P.250）を参照してください。

13 システムを再起動してください。

14 RX300 および TX200 の場合は、オンボード LAN および LAN カード（PG-1881/1881L/1891/1891L）の設定変更を行います。

1. デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、表示されたメニューの中から「管理」を選択します。
2. ［デバイスマネージャ］をクリックします。
3. 「ネットワークアダプタ」配下の［Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet］をダブルクリックします。
［Broadcom NetXtreme Gigabit Ethermet］が複数表示されている場合は、すべての LAN ポートに対して以下の手順 4 ～ 6 を行います。
4. ［詳細設定］タブをクリックします。

5.「プロパティ」から「Checksum Offload」を選択し、値を［None］に設定します。



6.［OK］をクリックします。

7.「ネットワークアダプタ」配下の以下の名称をダブルクリックします。

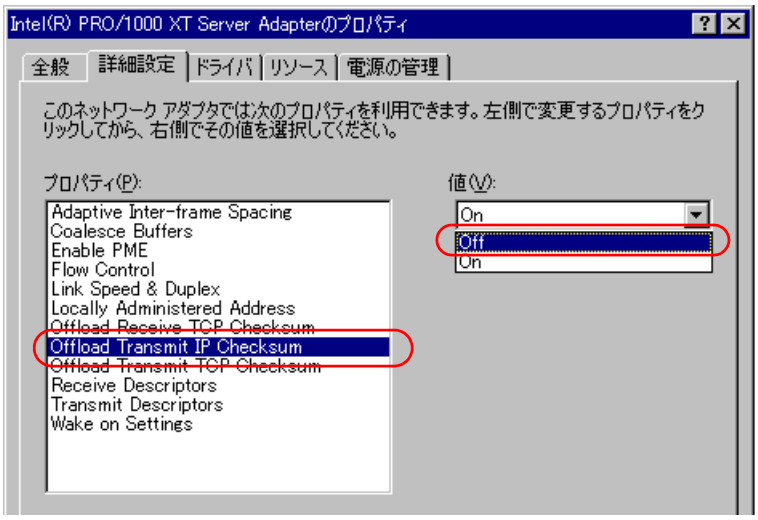
・Intel (R) PRO/1000 XF Server Adapter

・Intel (R) PRO/1000 XT Server Adapter

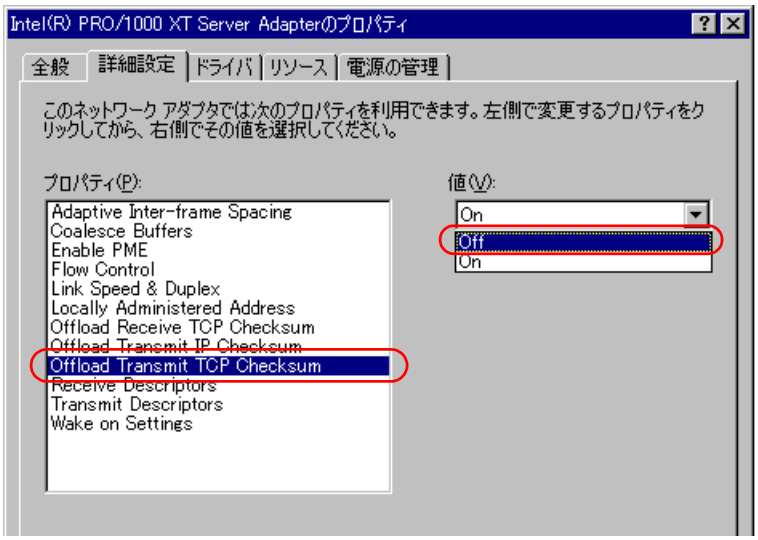
これらの名称が複数表示されている場合は、すべての LAN ポートに対して以下の手順 8 ～ 11 を行います。

8.［詳細設定］タブをクリックします。

9.「プロパティ」から「Offload Transmit IP Cheksum」を選択し、値を［Off］に設定します。



10. 「プロパティ」から「Offload Transmit TCP Cheksum」を選択し、値を［Off］に設定します。



11. ［OK］をクリックします。
以上で、設定変更は終了です。

POINT

- LAN ドライバインストール後、LAN アダプタ名は以下のようになります。

LAN カード	LAN アダプタ名
オンボード LAN（1Gbps）*BX300	Broadcom NetXtreme Gigabit Fiber
オンボード LAN（1000BASE-T）*TX200 ／ RX300	Broadcom NetXtreme Gigabit Ehternet
オンボード LAN（1000BASE-T）*TX150 ／ RX100	Intel (R) 82540EM Based Network Connection
オンボード LAN（100BASE-TX）*H450 ／ R450 ／ RX100	Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)
オンボード LAN *RX200	Intel(R) 82546EB Based Board Dual Port Network Connection
PG-1851	Intel (R) PRO/100 Server Adapter
PG-1861	Intel (R) PRO/100 S Dual Port Server Adapter
PG-1871 ／ PG-1871L	Intel (R) PRO/100 S Server Adapter
PG-1881 ／ PG-1881L	Intel (R) PRO/1000 XF Server Adapter
PG-1891 ／ PG-1891L	Intel (R) PRO/1000 XT Server Adapter

■ LAN カードを増設した場合

LAN カードを新しく増設した場合、システム起動時に、以下の画面が表示される場合があります。それぞれ次のように対処してください。

- 「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が表示される場合
  ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセット後、「LAN ドライバの更新」の手順 6 から操作してください。
- 「ディスクの挿入」画面が表示され、「Intel PRO Adapter CD-ROM or floppy disk」または、「Intel® PRO/1000 Disk Driver」のセットが要求される場合
  ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットして、ドライバのインストールを行ってください。

重要

- 「デジタル署名がみつかりませんでした」というメッセージが表示される場合がありますが、その場合は［はい］をクリックして、処理を続行してください。
- 「ファイルの上書き確認」画面が表示された場合は、通常、上書きは行わないでください（「すべて上書きしない」を選択してください）。

7.2.3 LAN ドライバのインストール（Windows NT Server 4.0）

Windows NT Server 4.0 対応 LAN ドライバ（以降、Windows NT ドライバと呼びます）のインストールには、次の 2 つの方法があります。

・すでに Windows NT Server 4.0 がインストールされている状態で、Windows NT ドライバを追加する方法
→「■ Windows NT ドライバを追加する場合」（P.241）

・Windows NT Server 4.0 のシステムインストールと同時に Windows NT ドライバをインストールする方法
→「■ Windows NT Server 4.0 と同時にインストールする場合」（P.242）

■ Windows NT ドライバを追加する場合

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

2 ［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。
「ネットワークの設定」画面が表示されます。

POINT

- 「Windows NT ネットワークがインストールされていません。今すぐインストールしますか？」のメッセージが表示された場合は以下の手順を行います。
  1. ［はい］をクリックします。
  2. ネットワークへの参加方法を選択し、［次へ］をクリックします。
  3. ［一覧から選択］をクリックし、［ディスク使用］をクリックします。
     「フロッピーディスクの挿入」画面が表示されます。手順 5 へ進みます。

3 ［アダプタ］をクリックし、［追加］をクリックします。
「ネットワークとアダプタの選択」画面が表示されます。

4 ［ディスク使用］をクリックします。
「フロッピーディスクの挿入」画面が表示されます。

5 ServerStart CD-ROM から作成したフロッピーディスク（Disk 1、Disk2 がある場合は Disk1）をセットし、［OK］をクリックします。
「OEM オプションの選択」画面が表示されます。

6 以下を選択し、［OK］をクリックします。
●H450 ／ R450
オンボード LAN ／ PG-1851 ／ PG-1861 ／ PG-1871 の場合
:「Intel(R) PRO/100 Family Adapter」
PG-1881 ／ PG-1891 の場合 :「Intel(R) PRO/1000 Family Adapter」
●TX150
オンボード LAN（1000Base-T 対応）／ PG-1891 の場合
:「Intel(R) PRO/1000 Family Adapter」
オンボード LAN（100Base-TX 対応）／ PG-1851 の場合
:「Intel(R) PRO/100 Family Adapter」
●TX200
オンボード LAN の場合 :「Gigabit Ethernet Controller」
PG-1891 ／ PG-1881 の場合 :「Intel(R) PRO/1000 Family Adapter」
PG-1851 ／ PG-1861 ／ PG-1871 の場合 :「Intel(R) PRO/100 Family Adapter」

POINT

- 「いくつかの Windows NT ファイルをコピーする必要があります」と表示された場合は、Windows NT の CD-ROM をセットし、「[CD-ROM ドライブ]:¥」と入力して［OK］をクリックします。

7 インストール途中、フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されたら、それぞれ ServerStart CD-ROM から作成したフロッピーディスクをセットし、［OK］をクリックします。

8 インストール終了後、システムを再起動してください。

■ Windows NT Server 4.0 と同時にインストールする場合

1 Windows NT Server 4.0 のインストール途中で、「ネットワークアダプタ」画面が表示されます。［一覧から選択］をクリックします。

2 ［ディスク使用］をクリックします。
「フロッピーディスクの挿入」画面が表示されます。

3 ServerStart CD-ROM から作成したフロッピーディスク（Disk 1、Disk2 がある場合は Disk1）をセットし、［OK］をクリックします。
「OEM オプションの選択」画面が表示されます。

4 以下を選択し、［OK］をクリックします。

●H450 ／ R450

オンボード LAN ／ PG-1851 ／ PG-1861 ／ PG-1871 の場合
:「Intel(R) PRO/100 Family Adapter」

PG-1881 ／ PG-1891 の場合 :「Intel(R) PRO/1000 Family Adapter」

●TX150

オンボード LAN（1000Base-T 対応）／ PG-1891 の場合
:「Intel(R) PRO/1000 Family Adapter」

オンボード LAN（100Base-TX 対応）／ PG-1851 の場合
:「Intel(R) PRO/100 Family Adapter」

●TX200

オンボード LAN の場合 :「Gigabit Ethernet Controller」

PG-1891 ／ PG-1881 の場合 :「Intel(R) PRO/1000 Family Adapter」

PG-1851 ／ PG-1861 ／ PG-1871 の場合 :「Intel(R) PRO/100 Family Adapter」

5 インストール途中、フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されたら、それぞれ ServerStart CD-ROM から作成したフロッピーディスクをセットし、［OK］をクリックします。

6 インストール終了後、システムを再起動してください。

重要

- Windows NT Server 4.0 で LAN カードを取り外す時は、カードを取り外す前に、以下の手順でドライバを削除してください。
  1. 「コントロールパネル」から「ネットワーク」をダブルクリックします。
  2. ［アダプタ］タブを表示し、削除するアダプタを選択して［削除］をクリックします。

POINT

- LAN ドライバインストール後、LAN アダプタ名は以下のようになります。

LAN カード	LAN アダプタ名
オンボード LAN（1000BASE-T）*TX200	Broadcom NetXtreme Gigabit Ehternet
オンボード LAN（1000BASE-T）*TX150	Intel (R) 82540EM Based Network Connection
オンボード LAN（100BASE-TX）*H450 ／ R450	Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)
PG-1851	Intel (R) PRO/100 Server Adapter
PG-1861	Intel (R) PRO/100 S Dual Port Server Adapter
PG-1871	Intel (R) PRO/100 S Server Adapter
PG-1881	Intel (R) PRO/1000 XF Server Adapter
PG-1891	Intel (R) PRO/1000 XT Server Adapter

7.2.4 最新のドライバについて

最新のドライバは、富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ（http://www.fmworld.net/biz/primergy/）内の『サポート＆サービス』で提供しています。

7.3 LAN ドライバの詳細設定

LAN ドライバの詳細設定について説明します。
LAN ドライバの詳細設定は、「Intel® PROSet II（Windows Server 2003 の場合「Intel® PROSet」）」または「BACS」を使用します。お使いの機種により、使用するツールが異なります。

■ H450 ／ R450 ／ RX200 ／ TX150 ／ RX100 の場合

LAN ドライバの詳細設定は、「Intel® PROSet II（Windows Server 2003 の場合「Intel® PROSet」）」（→ P.245）を使用します。

■ RX300 ／ TX200 の場合

LAN ドライバの詳細設定は、設定する内容により使用するツールが異なります。

● Intel® PROSet II（→ P.245）を使う場合

以下の場合は、Intel® PROSet II を使用します。

- LAN カードで Teaming(AFT/ALB/SFT）機能を使用する
- LAN カードで VLAN を構成する
- LAN カードで Jumbo フレームを使用する
- その他 LAN カードに関する詳細設定を行う

● BACS（→ P.250）を使う場合

以下の場合は、BACS を使用します。

- オンボード LAN 同士、またはオンボード LAN と LAN カードで Teaming（ロードバランス）機能を使用する
- オンボード LAN で VLAN を構成する
- その他オンボード LAN に関する詳細設定を行う

■ BX300 の場合

LAN ドライバの詳細設定は、「BACS」（→ P.250）を使用して行います。
BACS では、以下の設定が行えます。

- オンボード LAN 同士で Teaming（ロードバランス）機能を使用する
- オンボード LAN で VLAN を構成する
- その他オンボード LAN に関する詳細設定を行う

7.3.1 Intel® PROSet Ⅱ（Intel® PROSet）

POINT

- Windows Server 2003 をお使いの場合
  Windows Server 2003 の場合は、「Intel® PROSet Ⅱ」ではなく、「Intel® PROSet（日本語版）」がインストールされます。文中の「Intel® PROSet Ⅱ」を「Intel® PROSet」に読み替えてください。また、設定などに関する画面説明および操作方法は、日本語に読み替えてご使用ください。
  ・例）
  Adapter Fault Tolernce → アダプタ フォルト トレランス
  Adaptive Load Balancing → アダプティブ ロード バランシング
  Switch Fault Tolerance → スイッチ フォルト トレランス

■ Intel® PROSet II のインストール

通常「Intel® PROSet II」は、ドライバと同時にインストールされますが、Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server で、ServerStart CD-ROM から作成したフロッピーディスクを使用してドライバをインストールした場合は、「Intel® PROSet II」はインストールされません。Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server で、「コントロールパネル」に「Intel® PROSet II」が登録されていない場合は、次の手順に従ってインストールを行ってください。

1 ServerStart CD-ROM 内の以下の EXE を起動します。

●Windows Server 2003 の場合
[CD-ROM ドライブ]:¥Tools¥GENERAL¥Intel¥ProsetW2k3¥Proset.exe

●Windows 2000 Server の場合
[CD-ROM ドライブ]:¥Tools¥GENERAL¥Intel¥ProsetW2k¥Proset.exe

2 「Automatic execution-runs setup immediately」を選択して、[OK] をクリックします。

以降は、指示に従ってインストールを続行してください。

■ Intel® PROSet II のヘルプ参照時の注意

ヘルプを参照するときは、次の点に注意してください。

- インテル社のオンラインサービスからダウンロードできるドライバを、本サーバ上で使用しないでください。
- ヘルプの内容が、本書の内容と異なる場合は、本書の内容を優先してください。

- ヘルプに表示される LAN カードの名称は、以下のカードに対応しています。
  ただし、RX300 ／ TX200 の場合は、オンボード LAN に関する設定は Intel® PROSet II では行わないため、オンボード LAN に対応する名称はありません。

ヘルプ内の LAN カード	対応する LAN カード
PRO/100 adapters	オンボード LAN（100BASE-TX）／ PG-1851 ／ PG-1861 ／ PG-1871(L)
PRO/100 S adapters	PG-1851* ／ PG-1861 ／ PG-1871(L)
82550-based adapters	オンボード LAN（100BASE-TX）／ PG-1851 ／ PG-1861 ／ PG-1871(L)
PRO/1000（Server）adapters	オンボード LAN（1000BASE-T）／ PG-1881(L) ／ PG-1891(L)
PRO/1000 T（Server）adapters	オンボード LAN（1000BASE-T）／ PG-1891(L)
PRO/1000 XT Server adapter	PG-1891(L)
PRO/1000 copper models	オンボード LAN（1000BASE-T）／ PG-1891(L)
82544-based adapters	PG-1881(L) ／ PG-1891(L)

*PG-1851 には、Security offloading（IPSec のハードアシスト）機能はありません。

- オンボード LAN と LAN カードの使用コントローラは以下になります。

LAN カード	使用コントローラ
オンボード LAN（1000BASE-T）*TX150	Intel® 82540EM
オンボード LAN（100BASE-TX）*RX100	Intel® 82550PM
オンボード LAN（1000BASE-T）*H450 ／ R450 ／ RX100	Intel® 82540EM
PG-1851	Intel® 82550PM
PG-1861	Intel® 82550GY
PG-1871 ／ PG-1871L	Intel® 82550GY
PG-1881 ／ PG-1881L	Intel® 82544EI
PG-1891 ／ PG-1891L	Intel® 825544EI

■ オンボード /PG-185x/186x/187x/188x/189x LAN ドライバ V6.2/V6.6 の注意事項

● イベントログについて

PG-1891(L) やオンボード LAN を使用して Teaming を構成すると、システム起動時に、イベントビューアのシステムログに以下のログから始まる同一ソースからのログが複数格納される場合があります。

ソース	iANSMiniport
ID	11
種別	警告
説明	Adapter link down: （アダプタ名） *（アダプタ名）は OS やハード構成によって異なります。

これらのイベントログは、Teaming が正しく動作していても格納されますので無視してください。

● 一部アプリケーションのインストールについて

Intel® PROSet Ⅱがインストールされている場合、一部のアプリケーションのインストール処理に著しく時間がかかることがあります。また、アプリケーションのインストール中に画面の切り替え処理が行われる際には、インストール画面が一度消えるため、インストール処理が中断されたように見えます（数分間待つことによりインストールは続行されます）。インストールに時間がかかるアプリケーションには、以下のものがあります。

・PowerChute® plus
・Acrobat® Reader

これを回避するためには、アプリケーションのインストールを行う前に、以下の処理を行ってください。

1. Intel® PROSet Ⅱが起動されている場合は、終了します。
2. NMSSvc サービス（Intel® NMS サービス）を停止します。

■ Teaming（AFT ／ ALB ／ SFT）機能について

● 留意事項

Teaming 機能を使用する場合は、次の点に注意してください。

- Windows NT Server 4.0 では、Service Pack 6a 以降が必須です。
- Windows 2000 Server では、Service Pack 2 以降が必須です。
- AFT ／ ALB では、1 チームに組み込める LAN のポート数は最大 4 ポートです。SFT1 チームの場合は最大 2 ポートです。
- Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server で、Team を作成すると、システムの「デバイスマネージャ」や「ネットワークとダイアルアップ接続」に仮想アダプタ（Intel® Advanced Network Service Virtual Adapter）が作成されます。この仮想アダプタを、「デバイスマネージャ」や「ネットワークとダイアルアップ接続」から無効化したり、削除したりしないでください。削除する場合は、必ず「Intel® PROSet II」を使用してください。
- Teaming 使用時は、以下の対象プロトコルのみ使用可能です。
  ・AFT ／ SFT の場合：IP、NetBEUI、IPX(NCP)、IPX(NetBIOS)
  ・ALB の場合：IP、IPX(NCP)
- Teaming 使用時は、IPSEC のハードアシスト機能は使用できません。チーム内のすべてのカードが IPSEC のハードアシスト機能を持っていても、使用しないでください。
- Teaming 使用時は、Windows Load Balancing Service（WLBS）や、Network Load Balancing（NLB）を使用することはできません。

● Teaming の設定手順

1 Intel® PROSet II を起動します。ご使用の OS により、操作が異なります。

●Windows Server 2003 の場合

1.「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「Intel(R) PROSet」の順にクリックします。

●Windows 2000 Server ／ Windows NT Server 4.0 の場合

1.「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」画面が表示されます。
2.「Intel(R) PROSet II」を起動します。

2 Team に組み込むカードを選択し、右クリックします。

3 「Add to Team」の「Create New Team」をクリックします。
「Teaming Wizard」が表示されます。

4 作成したい Teaming のタイプを選択します。
AFT 使用時は「Adapter Fault Tolerance」、ALB 使用時は「Adaptive Load Balancing」、SFT 使用時は「Switch Fault Tolerance」を選択します。
他の Teaming のタイプは使用しないでください。

5 Teaming に組み込む LAN カードを選択して、［次へ］をクリックします。

6 ［完了］をクリックします。

7 ［OK］をクリックします。
Teaming の設定が完了すると、以下の仮想アダプタが作成されます。
・Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server の場合
「Intel(R) Advanced Network Services Virtual Adapter」
・Windows NT Server 4.0 の場合
「Intel(R) ***** Team」（例：AFT のときは、「Intel(R) Adapter Fault Tolerance Team」）
上位プロトコルは、本仮想アダプタにバインドされます。
Team を構成する LAN カードにはバインドできません。
IP アドレスは、本仮想アダプタに設定できます。

■ VLAN について

● 留意事項

VLAN を使用する場合は、次の点に注意してください。

- Windows NT Server 4.0 で、Wins クライアント（TCP/IP）がバインドされる VLAN は、システム全体で最大 4 本までにしてください。
  Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server で、NetBIOS over TCP/IP が有効な VLAN は、システム全体で最大 4 本までにしてください。
- Windows NT Server 4.0 では、Service Pack 6a 以降が必須です。
- VLAN 上では、TCP/IP 以外のプロトコルは使用しないでください。
- 1 つの LAN ポートに設定可能な VLAN の数は最大 10 個までです。
- Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server で VLAN を追加したり、削除する場合は、必ず「Intel(R) PROSet II」を使用してください。VLAN を「デバイスマネージャ」や「ネットワークとダイヤルアップ接続」から無効化したり、削除したりしないでください。

● VLAN の設定手順

1 Intel® PROSet II を起動します。ご使用の OS により、操作が異なります。

●Windows Server 2003 の場合

1.「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「Intel(R) PROSet」の順にクリックします。

●Windows 2000 Server ／ Windows NT Server 4.0 の場合

1.「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」画面が表示されます。
2.「Intel(R) PROSet II」を起動します。

2 VLAN を設定する LAN カードを選択し、右クリックします。

3 「ADD VLAN」をクリックします。このとき、次のメッセージが表示される場合がありますが、［はい］をクリックしてください。

> IEEE VLANs（802.1Q）をサポートしているスイッチに接続する必要がありますが、QOS Packet Tagging をイネーブルにしますか？

4 「VLAN ID」と「VLAN Name」を設定して、［OK］をクリックします。
「VLAN ID」は、スイッチ側の設定と一致している必要があります。
「VLAN Name」は、スイッチ側の設定と一致している必要はありません。

5 設定したい VLAN ごとに、手順 3 ～ 5 を繰り返します。

6 ［OK］をクリックします。
VLAN の設定が完了すると、以下の仮想アダプタが作成されます。
・Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server の場合
「Intel(R) Advanced Network Services Virtual Adapter」
・Windows NT Server 4.0 の場合
「Intel(R) Virtual Adapter(VLAN, ID=*)」
上位プロトコルは、本仮想アダプタにバインドされます。
VLAN を構成する LAN カードにはバインドできません。
IP アドレスは、本仮想アダプタに設定します。

■ ローカルアドレスの設定

次の手順に従って、ローカルアドレスを設定してください。

1 Intel® PROSet II を起動します。ご使用の OS により、操作が異なります。
●Windows Server 2003 の場合
1.「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「Intel(R) PROSet」の順にクリックします。
●Windows 2000 Server ／ Windows NT Server 4.0 の場合
1.「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」画面が表示されます。
2.「Intel(R) PROSet II」を起動します。

2 設定する LAN カードを選択し、［Advanced］タブをクリックします。

3 「Locally Administered Address」の値に設定したいローカルアドレスを設定します。

■ Jumbo フレームについて

1000BASE-T ／ 1000BASE-SX では Jumbo フレームが使用できます。Jumbo フレームを使用する際は、Jumbo フレームネットワーク内の機器をすべて Jumbo フレーム対応装置で構成し、Jumbo フレームを有効とする設定をしてください。
次の手順で、Jumbo フレームの設定を行います。

1 「コントロールパネル」から「Intel(R) PROSet II」を起動します。

2 設定するカードを選択し、[Advanced] タブをクリックします。

3 「Jumbo Frames」に、使用する最大フレームサイズを設定します。

■ その他の注意事項

- Windows NT Server 4.0 でアダプタの設定を変更する場合は、終了後システムを必ず再起動してください。
- ハブスイッチまたはルータを経由せず、クロスケーブルを用いて直接他装置と接続する運用はできません。
- Windows NT Server 4.0 をご使用の場合、ネットワークのプロパティで、LAN を複数ポート設定して、バインドおよび TCP/IP の設定を行うと、「rundll32.exe アプリケーションエラー」が発生する場合があります。この場合は、次の手順で TCP/IP を設定してください。
  1. バインド情報の設定後、TCP/IP を設定する前に、システムを再起動します。
  2. 再起動後、TCP/IP を設定します。

7.3.2 BACS

BACS は、複数のアダプタをチーム化して、ロードバランスなどの機能を提供する BASP（Broadcom Advanced Server Program）などからなる統合型 GUI アプリケーションです。BACS の起動は、「コントロールパネル」に登録されている「Broadcom Control Suite」から行ってください。

POINT

- BX300 の場合、BACS のバージョンによって、表示されるメニューの表記が異なります。画面説明および操作方法は、表示されるメニューに読み替えてご使用ください。
  ・例）
  Broadcom Control Suite　→　Broadcom NetXtreme Gigabit
  負荷バランス / 仮想 LAN　→　Load Balance/Virtual Lan
  チームを作成　→　Create Team

■ BACS のインストール

「コントロールパネル」に「Broadcom Control Suite」が登録されていない場合は、以下の手順に従ってインストールを行ってください。

1 ServerStart CD-ROM 内の以下の EXE を起動します。

●TX200 ／ RX300 ／ BX300（Windows Server 2003）の場合
[CD-ROM ドライブ]:¥PROGRAMS¥General¥Broadcom¥MgmtApps¥setup.exe

●BX300（Windows 2000 Server）の場合
[CD-ROM ドライブ]:¥PROGRAMS¥General¥Broadcom¥MgmtApps_BX300¥setup.exe

2 インストーラが起動します。画面の指示に従ってインストールを行います。
インストールの途中で以下のメッセージが表示されたら、［はい］をクリックしてインストールを続行してください。

```
Would you like to install the Broadcom Advanced Server Pro-
gram(BASP) Driver for Windows (OS)?
```

■ ロードバランス／ VLAN 機能について

- Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server でチームを作成すると、システムの「デバイスマネージャ」や「ネットワークとダイアルアップ接続」に仮想アダプタ（BASP Virtual Adapter）が作成されます。この仮想アダプタを、「デバイスマネージャ」や「ネットワークとダイアルアップ接続」から無効化したり、削除したりしないでください。削除する場合は、必ず BACS を使用してください。
- 〔BX300〕
［Load Balance Members］から［Standby Members］への切り替えは、NIC 故障の場合とスイッチブレードとのネットワークのリンクダウン時のみ行われます。

● BASP ドライバのインストール（Windows NT のみ）

Windows NT Server 4.0 でロードバランス／ VLAN 機能を使用する場合は、あらかじめ以下の手順を行って BASP ドライバをインストールしてください。

1 ServerStart CD-ROM から、以下のオンボード LAN ドライバディスクを作成します。
「PRIMERGY TX200/RX300 Onboard LAN Driver for Windows NT/2000/2003 Ver6.6.7」
ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

3 ［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。
「ネットワークの設定」画面が表示されます。

4 ［プロトコル］をクリックし、［追加］をクリックします。
「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されます。

5 ［ディスク使用］をクリックします。
「フロッピーディスクの挿入」画面が表示されます。

6 ServerStart CD-ROM から作成したオンボード LAN ドライバディスクをセットし、以下のように入力して［OK］をクリックします。
A:¥WindowsNT¥BcmServ

7 「Broadcom Advanced Server Program Driver」を選択し、［OK］をクリックします。
BASP ドライバがインストールされます。

8 インストール終了後、システムを再起動してください。

● ロードバランス／ VLAN の設定手順

1 「コントロールパネル」から「Broadcom Control Suite」を起動します。

2 ［負荷バランス / 仮想 LAN］タブを選択します。[Configuration］タブで［チームを作成］をクリックします。

3 「新しいチームの追加」画面で、チームの設定として［Name］と［Team Type］を設定します。

POINT

- ［Team Type］は［Smart Load Balance and Fail Over］以外は選択しないでください。

4 作成したチームに追加したいアダプタを「Available Adapters」から選択し、矢印のボタンをクリックして、「Load Balance Members」（ロードバランス機能を使用したい場合）または「Standby Members」（スタンバイ機能を使用したい場合）に移動します。

POINT

- ［Load Balance Members］に少なくとも 1 つのアダプタを設定してください。

5 VLAN を設定する場合は、［VLAN の追加］をクリックします。
「新しい VLAN を作成」画面が表示されます。

POINT

- VLAN のみを設定する場合は、［VLAN を作成］をクリックして設定を行ってください。

6 「新しい VLAN を作成」画面の「VLAN ID」、「VLAN Name」を設定します。
「VLAN ID」は、スイッチ側の設定と一致している必要があります。
「VLAN Name」は、スイッチ側の設定と一致している必要はありません。

POINT

- すでに使用されている「VLAN ID」や「VLAN Name」は使用できません。異なる設定値を入力してください。

7 チームの設定を完了したら、［OK］または［適用］をクリックして、変更内容を反映します。

付録 A

参考資料

付録 A では、ServerStart を使用する際に参考となる資料や、IDE RAID 管理ツールについて説明しています。

A.1 システムの修復方法 254
A.2 OS の変更手順 257
A.3 IDE RAID 管理ツール 262
A.4 ネットワークパターン別設定方法 270
A.5 デザインシート 292

A.1 システムの修復方法

万一、システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変更などが損傷を受けた場合は、インストール時に作成した修復ディスクに保存されている修復情報を使ってこれらを再構築できます。

POINT

- OS インストール時や、システム構成を変更した場合は、「4.2 システム修復ディスクの作成」（→ P.128）を参照して、修復ディスクを作成してください。

A.1.1 Windows Server 2003 の場合

- 用意するもの
  - Windows Server 2003 の CD-ROM
  - あらかじめ作成した自動システム回復（ASR）フロッピーディスク
  - あらかじめ作成したバックアップメディア
  - ドライバディスク（アレイコントローラカードまたはオンボード SCSI 用）
    使用するドライバについては、「B.8.1 Windows Server 2003 のインストール」（→ P.373）を参照してください。また、ドライバディスクの作成方法については、「7.1.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.233）を参照してください。
  - Windows Server 2003 ファーストステップガイド

1. 「Windows Server 2003 ファーストステップガイド」に従って、Windows Server 2003 のセットアップを開始します。
2. セットアップ開始直後に、【F6】キーを押すようメッセージが表示されたら、【F6】キーを押します。
3. 【F2】キーを押すようメッセージが表示されたら、【F2】キーを押します。
   作成した ASR フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
4. ASR フロッピーディスクをセットし、画面の指示に従って操作します。
5. システムの再起動後にメッセージが表示されたら、【F6】キーを押します。
6. 画面の指示に従って操作し、システムを回復します。

POINT

- 自動システム回復時の注意点
  自動システム回復によって、データファイルは復元されません。

A.1.2 Windows 2000 Server の場合

- 用意するもの
  - Windows 2000 Server の CD-ROM
  - あらかじめ作成した Windows 2000 Server システム修復ディスク
  - Windows 2000 Server ファーストステップガイド

1 「Windows 2000 Server ファーストステップガイド」に従って、Windows 2000 Server のセットアップを開始します。

2 Windows 2000 Server セットアップの「セットアップへようこそ」画面で、【R】キーを押して修復を選択します。

3 セットアップ画面のメッセージに従って、システムを修復します。

POINT

- システム修復時の注意点
  - システムの修正を行うと、情報によっては新規インストール状態に戻ってしまう場合があります。システムの修復後、再設定する必要があります。
  - システムファイル、システム情報の損傷が大きい場合は、Windows 2000 Server の再インストールが必要になる場合があります。そのときは「3.8 再インストール」（→ P.112）を参照して再インストールしてください。
  - ファイルの修復中に、「ファイル XXXXXX.XXX は Windows 2000 のインストール時にコピーされた元のファイルではありません」というメッセージが表示されます。その場合、【Enter】キー、または【A】キーを押してファイルを修復してください。

A.1.3 Windows NT Server 4.0 の場合

- 用意するもの
  - Windows NT Server 4.0 Disc1
  - Windows NT セットアップディスク 3 枚
  - あらかじめ作成した Windows NT システム修復ディスク
  - Windows NT Server ファーストステップガイド

1 「Windows NT Server ファーストステップガイド」に従って、Windows NT のセットアップを開始します。

2 Windows NT Server セットアップの「セットアップへようこそ」画面で、【R】キーを押して修復を選択します。

3 セットアップ画面のメッセージに従って、システムを修復します。

POINT

▶ システム修復時の注意点

・システムの修正を行うと、情報によっては新規インストール状態に戻ってしまう場合があります。システムの修復後、再設定する必要があります。

・システムファイル、システム情報の損傷が大きい場合は、Windows NT Server 4.0 の再インストールが必要になる場合があります。そのときは「3.8 再インストール」（→ P.112）を参照して再インストールしてください。

・ファイルの修復中に、「セットアップが Windows NT のインストール時にコピーしたオリジナルのファイルではありません」というメッセージが表示されます。その場合、【Enter】キー、または【A】キーを押して非オリジナルファイルを修復し、システムの修復が完了したあとに、本体添付のドライバや、Windows NT 4.0 Service Pack などを再インストールしてください。

A.2 OS の変更手順

OS の変更手順について説明します。

BIOS 設定で「Hyper-Threading」を無効（Disabled）にしていて、かつ、1CPU で運用しているサーバで、CPU を増設、または「Hyper-Threading」を有効（Enabled）に変更する場合は、OS をマルチプロセッサカーネルに変更します。
OS が Windows の場合は、OS の設定を変更することで、マルチプロセッサカーネルに変更できます。
Linux サービスバンドルタイプをご購入の場合は、本体に添付の Linux 関連マニュアルを参照してください。
また、HD タイプ／ディスクレスタイプにて Linux ディストリビューションをご使用の場合は、富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ（http://www.fmworld.net/biz/primergy/）内の『ソフトウェア』から 『Linux 関連情報』を参照してください。
ハイパー・スレッディング機能については、『ハードウェアガイド 第 5 章 ハードウェアの設定について』を参照してください。

以下の手順でマルチプロセッサカーネルに変更します。

重要

- 変更前に必ずデータのバックアップ作業を行ってください。
- マルチプロセッサカーネルに変更する場合いくつかのファイルをコピーする必要があります。この場合、適用しているサービスパックと同じものを使用してください。
- Windows NT Server 4.0 の場合、本体に添付されている最新のサービスパックを適用したあと、マルチプロセッサカーネルに変更してください。

A.2.1 Windows Server 2003 の場合

CPU を増設するか、またはまたは「Hyper-Threading」を有効（Enabled）に設定すると、自動的に OS が変更されます。ポップアップメッセージが表示されたら、指示に従って作業を行ってください。

A.2.2 Windows 2000 Server の場合

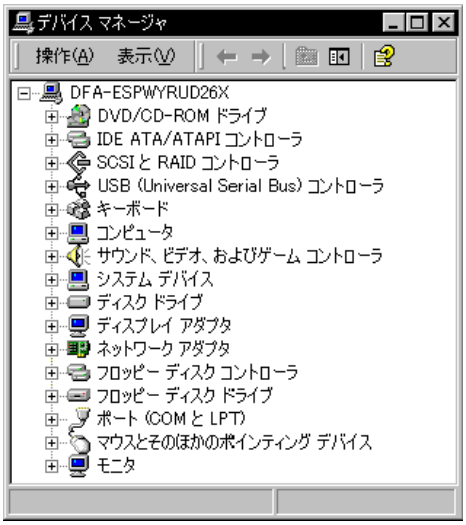
以下の手順で OS の設定を変更したあとに、CPU を増設するか、または「Hyper-Threading」を有効（Enabled）に設定してください。

1 Windows 2000 Server を起動します。

2 デバイスマネージャを起動します。

1.「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

2. ［システム］アイコンをダブルクリックします。
3. ［ハードウェア］タブを選択し、［デバイスマネージャ］にある［デバイスマネージャ (D)...］をクリックします。
   「デバイスマネージャ」が起動します。



3 現在使用しているコンピュータのプロパティを表示します。

1. 「表示」メニューから「デバイス (種類別) 」を選択します。
2. ツリー表示の中から［コンピュータ］アイテムを選択し、先頭に表示されている［+］をクリックして展開します。
3. ［コンピュータ］アイテム配下の［ACPI ユニプロセッサ PC］アイテムをダブルクリックします。
   「ACPI ユニプロセッサ PC のプロパティ」画面が表示されます。

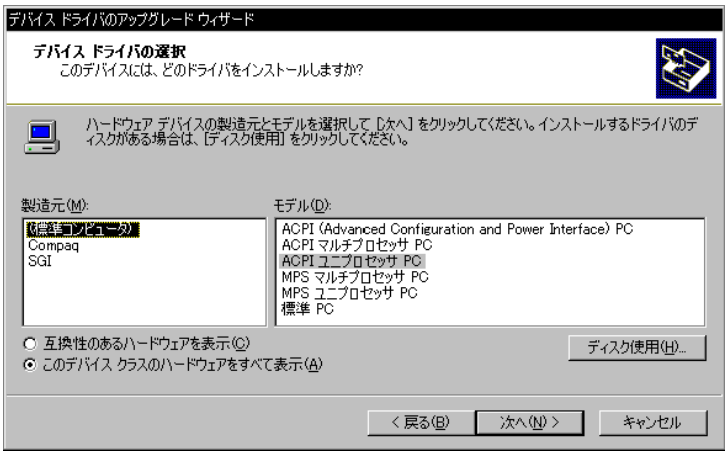
4 デバイスドライバのアップグレードウィザードを起動します。

［ドライバ］タブを選択し、［ドライバの更新 (P)...］をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」が起動します。

5 ドライバの更新を行います。

1. 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面で［次へ］をクリックします。
   「ハードウェアデバイスドライバのインストール」画面が表示されます。
2. 検索方法の選択で、［このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する］を選択し、［次へ］をクリックします。
   「デバイスドライバの選択」画面が表示されます。

3. 「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」を選択し、「製造元」の表から「(標準コンピュータ)」を選択します。
   [モデル (D):] の表にコンピュータの一覧が表示されます。



4. 「ACPI マルチプロセッサ PC」を選択し、[次へ] をクリックします。
   「デバイスドライバのインストールの開始」画面が表示されます。
5. [次へ] をクリックします。

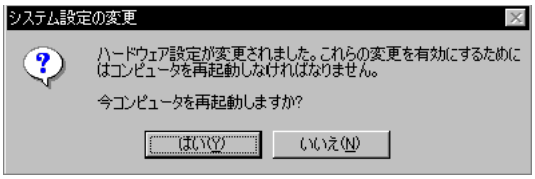
重要

- 間違ったモデルを選択すると正常に動作しません。再インストールが必要になる場合がありますので、変更の際には十分注意してください。

6. ドライバの更新後、[完了] をクリックします。
   「ACPI マルチプロセッサ PC のプロパティ」が表示されます。

6 シャットダウン後、電源を切ります。

1. [閉じる] をクリックします。
   「システム設定の変更」画面が表示されます。
2. [はい] をクリックします。



シャットダウン後、自動的に再起動するので、再起動する前に本体の電源を切ってください。

7 CPU増設オプションを追加するか、または「Hyper-Threading」を有効(Enabled)に変更します。

8 サーバを起動します。

起動後、コントロールパネルのデバイスマネージャで [コンピュータ] アイテム配下のアイテムが [ACPI マルチプロセッサ PC] に入れ替わっていることを確認してください。

A.2.3 Windows NT Server 4.0 の場合

以下の手順で OS の設定を変更したあとで、CPU を増設してください。

POINT

- 以下の説明では、Windows NT Server 4.0 がインストールされているドライブを "C:"、ディレクトリを "¥winnt"、CD-ROM のドライブを "D:" として説明しています。また、Service Pack は、「SP」と略記しています。
  なお、"setup.log" ファイルは、適用している SP によって「隠しファイル」属性が設定されます。「隠しファイル」属性を解除してから操作を行ってください。

1 Windows NT Server 4.0 を起動します。

2 セットアップ用のファイルを退避します。
コマンドプロンプトを起動し、Windows NT Server 4.0 がインストールされているディレクトリ（c:¥winnt）の下のディレクトリ repair にある setup.log ファイルを退避します。

```
C:¥>cd ¥winnt¥repair
C:¥winnt¥repair>copy c:¥winnt¥repair¥setup.log setup.sav
```

3 セットアップ用のファイルを編集します。
setup.log ファイルの [Files.WinNt] セクションの「kernel32.dll」、「ntdll.dll」、「winsrv.dll」、「hal.dll」、「ntoskrnl.exe」および「win32k.sys」の記述を以下のように編集します。

```
¥WINNT¥system32¥kernel32.dll = "kernel32.dll","6eb98"
¥WINNT¥system32¥ntdll.dll = "ntdll.dll","6adae"
¥WINNT¥system32¥winsrv.dll = "winsrv.dll","46bc3"
¥WINNT¥system32¥win32k.sys = "win32k.sys","14a966"
¥WINNT¥system32¥hal.dll = "halmps.dll","1326b"
¥WINNT¥system32¥ntoskrnl.exe = "ntkrnlmp.exe","f4e85"
```

4 CD-ROM をセットします。
Service Pack の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。
（Windows NT 4.0 Option Pack がある場合は、Service Pack をハードディスクに展開してください。）

5 モジュールを退避します。
コマンドプロンプトを起動し、"c:¥winnt¥system32" ディレクトリ内の、現在使用中の以下のモジュールを別名のモジュールに退避します。

```
C:¥>cd ¥winnt¥system32
C:¥winnt¥system32>ren c:¥winnt¥system32¥hal.dll hal.sav
C:¥winnt¥system32>ren c:¥winnt¥system32¥ntoskrnl.exe ntoskrnl.sav
C:¥winnt¥system32>ren c:¥winnt¥system32¥ntdll.dll ntdll.sav
C:¥winnt¥system32>ren c:¥winnt¥system32¥kernel32.dll kernel32.sav
C:¥winnt¥system32>ren c:¥winnt¥system32¥winsrv.dll winsrv.sav
C:¥winnt¥system32>ren c:¥winnt¥system32¥win32k.sys win32k.sav
```

以下のコマンドを実行して、モジュールが退避できていることを確認します。

```
C:¥winnt¥system32>dir c:¥winnt¥system32¥hal.sav
C:¥winnt¥system32>dir c:¥winnt¥system32¥ntoskrnl.sav
C:¥winnt¥system32>dir c:¥winnt¥system32¥ntdll.sav
C:¥winnt¥system32>dir c:¥winnt¥system32¥kernel32.sav
C:¥winnt¥system32>dir c:¥winnt¥system32¥winsrv.sav
C:¥winnt¥system32>dir c:¥winnt¥system32¥win32k.sav
```

6 **モジュールを展開します。**

CD-ROM のドライブ（d:）から現在のディレクトリ（c:¥winnt¥system32）にモジュールを展開します。

・SP 未適用の場合（Windows NT Server の CD-ROM から複写する場合）

```
C:¥winnt¥system32>copy d:¥i386¥halmps.dll hal.dll
C:¥winnt¥system32>copy d:¥i386¥ntkrnlmp.exe ntoskrnl.exe
C:¥winnt¥system32>copy d:¥i386¥ntdll.dll ntdll.dll
C:¥winnt¥system32>expand d:¥i386¥kernel32.dl_ kernel32.dll
C:¥winnt¥system32>expand d:¥i386¥winsrv.dl_ winsrv.dll
C:¥winnt¥system32>expand d:¥i386¥win32k.sy_ win32k.sys
```

・SP 適用済みの場合（適用しているサービスパックの CD-ROM から複写する場合）

```
C:¥winnt¥system32>copy d:¥i386¥halmps.dll hal.dll
C:¥winnt¥system32>copy d:¥i386¥ntkrnlmp.exe ntoskrnl.exe
C:¥winnt¥system32>copy d:¥i386¥ntdll.dll ntdll.dll
C:¥winnt¥system32>copy d:¥i386¥kernel32.dll kernel32.dll
C:¥winnt¥system32>copy d:¥i386¥winsrv.dll winsrv.dll
C:¥winnt¥system32>copy d:¥i386¥win32k.sys win32k.sys
```

以下のコマンドを実行して、モジュールが展開できていることを確認します。

```
C:¥winnt¥system32>dir c:¥winnt¥system32¥hal.dll
C:¥winnt¥system32>dir c:¥winnt¥system32¥ntoskrnl.exe
C:¥winnt¥system32>dir c:¥winnt¥system32¥ntdll.dll
C:¥winnt¥system32>dir c:¥winnt¥system32¥kernel32.dll
C:¥winnt¥system32>dir c:¥winnt¥system32¥winsrv.dll
C:¥winnt¥system32>dir c:¥winnt¥system32¥win32k.sys
```

7 **Windows NT Server 4.0 をシャットダウンし、電源を切ります。**

8 **CPU 増設オプションを追加します。**

9 **サーバを起動します。**

A.3 IDE RAID 管理ツール

IDE RAID 管理ツールについて説明します。

A.3.1 FastCheck Monitoring Utility

FastCheck Monitoring Utility （以下、FastCheck ）は、OS 上でディスクアレイの管理を行うためのソフトウェアです。FastCheck はディスクアレイ情報やハードディスク情報の表示、一貫性チェックといった機能を持っています。
FastCheck はログオン 時に起動され、通常はタスクバー上にアイコン化されています。
このアイコンをダブルクリックすると、画面が表示されます。

重要

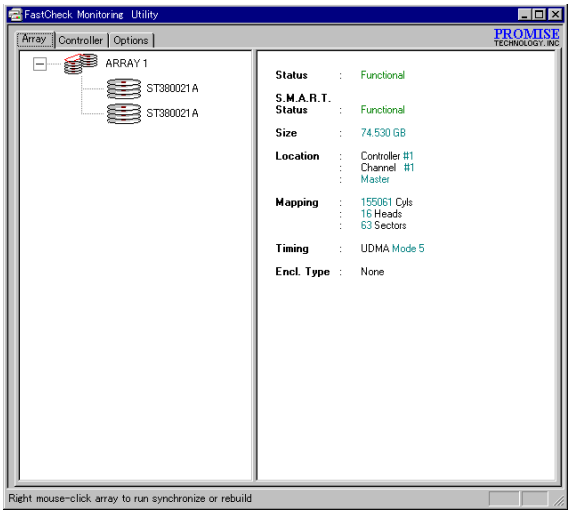
- **本サーバを安全にご使用いただくために、特に必要のない限り、FastCheck は終了しないでください。**

FastCheck に は以下の 3 つの画面があります。

- Array Window
  ディスクアレイの構成、状態を表示します。
- Controller Window
  物理的構成、およびコントローラ、チャネル、ドライブの状態を表示します。
- Options Window
  動作環境を設定します。

■ Array Window

Array Window では、本サーバ上で構成されているディスクアレイの構成、状態が表示されます。画面の左側のフィールドが構成表示、右側のフィールドが詳細表示になります。
また、ディスクアレイに対する一貫性チェック起動などの指示が行えます。



［構成表示フィールド］

ディスクアレイおよびディスクアレイを構成するハードディスクがツリー表示されます。またハードディスクが Offline 状態の場合は、ハードディスクが「?」付きのアイコンで表示されます。

［詳細表示フィールド］

構成表示フィールド上で各ディスクアレイ、ハードディスクのアイコンをクリックすると、詳細表示フィールドに以下の情報が表示されます。

項目		説明
ディスクアレイ		
RAID Mode		ディスクアレイの種類が表示されます。
Mapping		ディスクアレイの論理的な Cylinder 数、Head 数、Sector 数が表示されます。
Size		ディスクアレイの容量 （GB 単位）が表示されます。
Status		ディスクアレイの状態が表示されます。
	Functional	ディスクアレイが正常に稼動しています。
	Critical	RAID レベル 1 のディスクアレイが、初期化、再構築中あるいは 1 台のハードディスクの故障により、冗長性のない状態で稼動しています。
	Offline	ディスクアレイが稼動していないことを示します。RAID レベル 0 のディスクアレイ中の 1 台のハードディスクが故障した場合、または RAID レベル 1 のディスクアレイ中の 2 台のハードディスクが故障した場合に発生します。
ハードディスク		
Status		ハードディスクの状態が表示されます。
	Functional	ハードディスクが正常に稼動しています。
	Functional (Rebuilding)	ハードディスクに対して、初期化、または再構築（Rebuild）が行われています。
	Functional (need Rebuilding)	ハードディスクに異常が発生しましたが、その後認識されました。ハードディスクが故障している可能性がありますので、交換してください。
	Offline	ハードディスクに異常が発生し、稼動していません。
	Free	ハードディスクがアレイ構成に含まれていません。 Assignment にハードディスクの状態が Free と表示されている場合は、新規にディスクアレイを作成するか、リビルド作業を行い、アレイに組み込んだ状態でご使用ください。
	Unknown	ハードディスクの状態が不明です。ハードディスクにアクセスできない場合に表示されます。
S.M.A.R.T status		ハードディスクの故障予測機能による監視状態が表示されます。
	Functional	故障予測機能による情報が検出されていません。正常に稼動しています。
	Predictive Failure	故障予測機能による情報が検出されました。 該当ハードディスクは近い将来故障する可能性があります。ハードディスクの予防交換をお勧めします。
Size		ハードディスクの容量（GB 単位）が表示されます。
Location		ハードディスクの接続されている、コントローラ番号、チャネル番号、ID（Master/Slave）が表示されます。
Mapping		ハードディスクの論理的な Cylinder 数、Head 数、Sector 数が表示されます。
Timing		ハードディスクの転送モードが表示されます。
Encl.Type		常に None が表示されます。

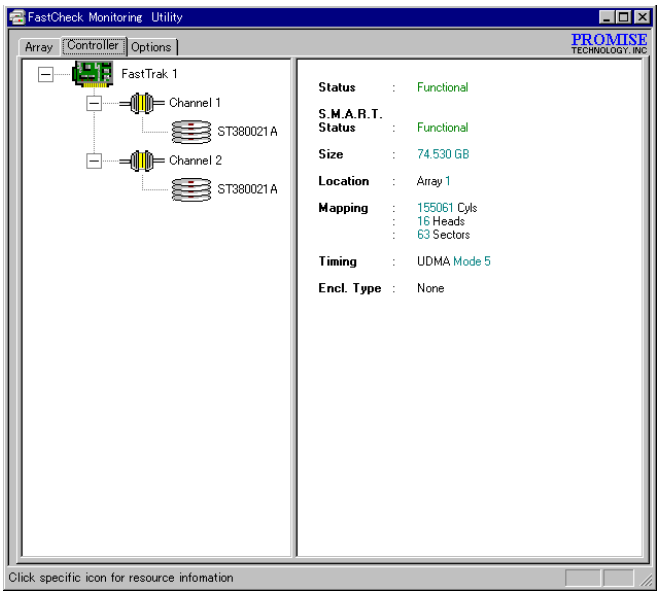
［Pop Up メニュー］

構成表示フィールド上でディスクアレイのアイコンを右クリックすると、Pop Up メニューが表示され、以下の操作を行えます。

項目	説明
Always on top	FastCheck ウィンドウを常に最前面に表示するかどうかを設定します。
Minimize	FastCheck ウィンドウをタスクバーにアイコン化して閉じます。
Synchronize	一貫性チェックを起動します。
Rebuild	リビルドを起動します。 本サーバでは、本機能はサポートしていません。
About	FastCheck の版数などを表示します。

■ Controller Window

Controller Window では、物理的構成、およびコントローラ、チャネル、ドライブの状態が表示されます。画面の左側のフィールドが構成表示、右側のフィールドが詳細表示になります。



［構成表示フィールド］

コントローラ、チャネル、ドライブがツリー上に表示されます。またドライブが Offline 状態の場合は、ドライブが「×」付きのアイコンで表示されます。

［詳細表示フィールド］

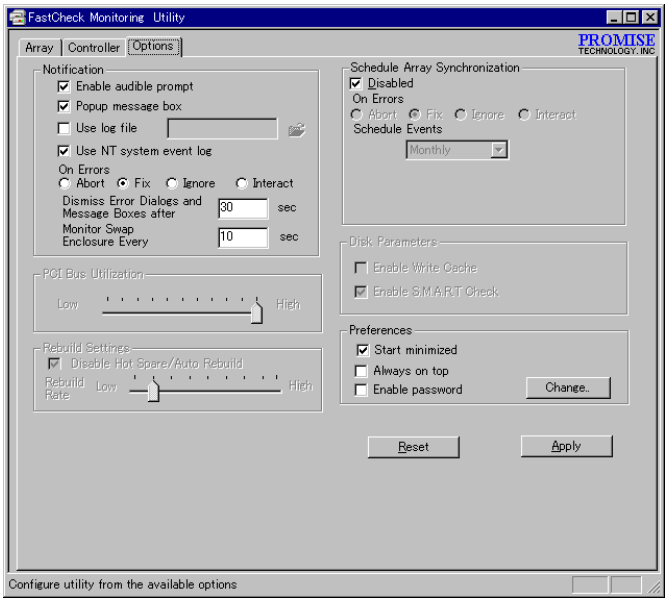
構成表示フィールド上で各コントローラ、チャネル、ハードディスクのアイコンを左クリックすると、詳細表示フィールドに以下の情報が表示されます。

項目	説明
コントローラ	
IRQ	コントローラに割り当てられた IRQ が表示されます。
Bus Master Base	コントローラに割り当てられた Base Address が表示されます。
Driver Version	デバイスドライバのバージョンが表示されます。
Hardware Type	コントローラのモデル名が表示されます。

項目	説明
チャネル	
Base IO Address	チャネルに割り当てられた Base IO Address が表示されます。
ハードディスク	
Status	
Functional	ハードディスクが正常に稼動しています。
Functional (Rebuilding)	ハードディスクに対して、初期化、あるいは再構築（Rebuild ）が行われています。
Offline	ハードディスクに異常が発生し、稼動していません。
Free	ハードディスクがアレイ構成に含まれていません。
Unknown	ハードディスクの状態が不明です。ハードディスクにアクセスできない場合に表示されます。
S.M.A.R.T status	ハードディスクの故障予測機能による監視状態が表示されます。
Functional	故障予測機能による情報が検出されていません。正常に稼動しています。
Predictive Failure	故障予測機能による情報が検出されました。 該当ハードディスクは近い将来故障する可能性があります。ハードディスクの予防交換をお勧めします。
Size	ハードディスクの容量（GB 単位）が表示されます。
Location	ハードディスクの接続されている、コントローラ番号、チャネル番号、ID（Master/Slave）が表示されます。
Mapping	ハードディスクの論理的な Cylinder 数、Head 数、Sector 数が表示されます。
Timing	ハードディスクの転送モードが表示されます。
Encl.Type	常に None が表示されます。

■ Options Window

Options Window では、動作環境を設定します。設定変更後、［Apply ］をクリックすると、設定が有効になります。
また、［Reset ］をクリックすると、変更した設定が元に戻ります。



［Notification］

項目		説明
Enable audible prompt		ディスクアレイが正常な状態でない場合、ブザーを鳴らします。
Popup message box		ディスクアレイの状態に変化があった場合、メッセージボックスを表示して通知します。なお、情報レベルのメッセージについては、表示後 10 秒でメッセージボックスを自動的に閉じます。
Use log file		ディスクアレイの状態に変化があった場合、指定したファイルに記録します。
Use NT system event log		ディスクアレイの状態に変化があった場合、OS のシステムイベントログに記録します。
On Errors		Synchronize/Rebuild 中にエラーを検出した際の処理方法を設定します。
	Abort	エラーが発生した時点で処理を終了します。
	Fix	エラーを自動的に修復します。
	Ignore	エラーを無視して処理を続行します。
	Interact	エラーが発生した時点で処理を中断し、ダイアログボックスを表示します。詳細は、「A.3.2 アレイの一貫性チェック（Synchronize）」（→ P.268）を参照してください。
Dismiss Error Dialogs and Message Boxes after		イベントのメッセージボックスや Synchronize/Rebuild 中にエラーを検出した場合に表示されるダイアログボックスを自動的に閉じる時間を設定します。設定可能な値は 0 ～ 9999 （秒単位）で、9999 に設定した場合は入力を行うまで表示し続けます。 「Dismiss Error Dialogs and Message Boxes after」で設定した時間が経過すると、直前に設定された処理を実行し、ダイアログボックスを閉じます。
Monitor Swap Enclosure Every		最新の情報に更新される時間を設定します。設定可能な値は 10 ～ 3600（秒単位）です。必ず 10 に設定してください。

［Rebuild Settings］

項目	説明
Disable Host Spare / Auto Rebuild	ホットスペア機能、オートリビルド機能を無効にします。 必ず無効に設定してください。
Rebuild Rate	通常の I/O アクセスに対する、初期化処理、リビルド処理に関する I/O アクセスの割合を示します。 必ず 1 に設定してください。

［PCI Bus Utilization］

本製品に関する処理が、PCI バスを占有する比率を示します。

必ず High に設定してください。

［Schedule Array Synchronization］

項目	説明
Disabled	定期的に一貫性チェックを行いません。
On Errors	Synchronize のスケジュール運用中にエラーを検出した際の処理方法を設定します。
Abort	エラーが発生した時点で処理を終了します。
Fix	エラーを自動的に修復します。
Ignore	エラーを無視して処理を続行します。
Interact	エラーが発生した時点で処理を中断し、ダイアログボックスを表示します。詳細は、「A.3.2 アレイの一貫性チェック（Synchronize）」（→ P.268）を参照してください。
Schedule Events	一貫性チェックの実行間隔を設定します。
Monthly	1 か月に 1 回。
Weekly	1 週間に 1 回。
Daily	1 日に 1 回。
By Minutes	x 分ごと。
By hours	x 時間ごと。
Start time	Schedule Events で「Monthly」、「Weekly」、「Daily」を選択した場合に、一貫性チェックを開始する時刻を設定します。
On the	Schedule Events で「Monthly」を選択した場合に、一貫性チェックを行う日を設定します。
On	Schedule Events で「Weekly」を選択した場合に、一貫性チェックを行う曜日を設定します。
Every	Schedule Events で「By minutes」、「By hours」を選択した場合に、一貫性チェックを行う間隔を設定します。

重要

- 「On Errors」については、通常は「Fix」を選択しないでください。

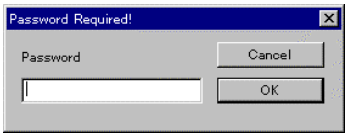
［Disk Parameters］

項目	説明
Enable Write Cache	ハードディスクのライトキャッシュを有効にします。
Enabled S.M.A.R.T Check	ハードディスクの故障予測機能（S.M.A.R.T ）による情報を検出します。 必ず有効に設定してください。

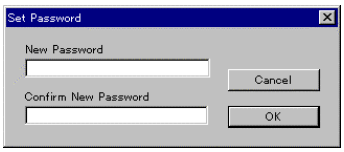
［Preferences］

項目	説明
Start Minimize	FastCheck 起動時、ウィンドウをアイコン化し、タスクバー上に表示します。チェックしていない場合は、FastCheck 起動の際、画面上に表示されます。
Always on top	FastCheck ウィンドウを常に画面の最前面に表示します。
Enable password	パスワードを有効にします。
「Change」ボタン	パスワードを変更します。

パスワードが有効な場合、FastCheck を開く際、およびパスワードに関する設定を変更する際に、以下のウィンドウが表示されます。設定したパスワードを入力後、［OK］をクリックしてください。



また、パスワードを設定／変更する場合は、以下のウィンドウが表示されます。同一のパスワードを入力し、［OK］をクリックしてください。設定したパスワードが有効になります。



A.3.2 アレイの一貫性チェック（Synchronize）

一貫性チェック（Synchronize）は、ミラーリングされたアレイに対して冗長情報の整合性を検査します。ミラーリングされたドライブペアがセクタごとに比較され、両方のハードディスクに含まれるデータが同一であるかどうかを検査します。データに信頼性があるかどうかを検査するための機能です。

POINT

- **一貫性チェックは、一貫性の検査を行うだけでなく、ハードディスクの媒体エラー（一貫性のエラーとは異なります）を自動的に修正する効果もあります。一貫性チェックはできるだけ頻繁に行ってください。**

重要

- **一貫性チェックで不一致が検出された場合、システムに悪影響を及ぼす可能性があります。このような場合には、システムドライブを再度初期化し、信頼性のあるデータを再インストールする必要があります。**

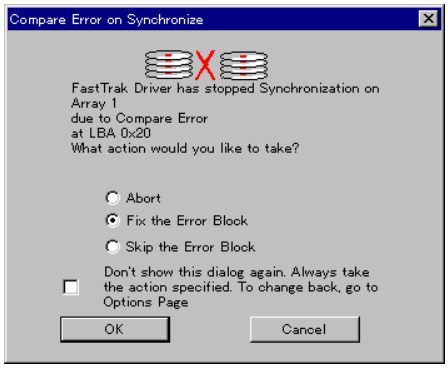
■ 一貫性チェックの起動

一貫性チェックの起動方法には、以下の 2 つの方法があります。該当する記述を参照して実行してください。

- OS 上の IDE RAID 管理ツールから一貫性チェックを起動
  指定したディスクアレイに対する一貫性チェックを、ただちに実行します。Array Windows の「［Pop Up メニュー］」（→ P.264）に関する記述を参照して、実行してください。
- 定期的に一貫性チェックを起動
  設定した間隔で一貫性チェックを定期的に実行します。Options Window の「［Schedule Array Synchronization］」（→ P.267）の項を参照し、一貫性チェックの起動間隔、起動開始時間などを設定してください。
  なお、定期的な一貫性チェックの設定を行った場合、OS が動作中ならば、FastCheck が起動されていなくても一貫性チェックが起動されます。

■ 一貫性チェック中のエラー通知

一貫性チェック中に、データの不一致や読み取り不良が検出された場合、Options Window 上の On Errors で Interact をチェックしていた場合には、一貫性チェックが一時中断し、次のようなウインドウが表示されます（詳細は「■ Options Window」（→ P.265）参照）。適切な処置を選択して［OK］をクリックしてください。
［Cancel］をクリックした場合は、一貫性チェックを中止します。



項目	説明
Abort	一貫性チェックを中止します。
Fix the Error Block	1 台のディスクからもう 1 台のディスクへ不一致だったデータを複写し、内容を一致させたあと、一貫性チェックを継続します。
Skip the Error Block	不一致であったデータをスキップして､次のデータから一貫性チェックを継続します。
Don't show this dialog again •••	以降、一貫性チェック中に異常が検出されても本ウインドウは表示されなくなり、選択した処置が自動的に行われるようになります。

重要

- 通常は「Abort」または､「Skip the Error Block」を選択してください。「Fix the Error Block」を選択した場合、一貫性をとるように強制的にデータが書き換えられますが、信頼性のあるデータになるとは限りませんのでご注意ください。
- 一貫性チェックで不一致が検出された場合、システムに悪影響を及ぼす可能性があります。このような場合には、システムドライブを再度初期化して、信頼性のあるデータを再インストールする必要があります。

A.3.3 FastTrak Service

FastTrak Service は、FastCheck が起動されていない場合、OS 上でディスクアレイの状態が変化した場合に、情報を OS の EventLog に通知するソフトウェアです。
FastTrak Service は OS 起動時に起動され、FastCheck が起動されると停止します。

A.4 ネットワークパターン別設定方法

ここでは、ドメインコントローラ、ドメインメンバサーバおよびスタンドアロンサーバなど、パターン化されたネットワーク構成の設定のポイントについて説明します。

POINT

- それぞれのネットワークパターンを構築する場合の設定について、「付録 A.3 デザインシート」のインストール OS 用の OS ウィザードシートにあらかじめ設定値を記入しておくと、インストール時にスムーズに設定が行えます。
  ・「OS ウィザード（Windows 2003 インストールウィザード）」（→ P.294）
  ・「OS ウィザード（Windows 2000 インストールウィザード）」（→ P.299）
  ・「OS ウィザード（Windows NT 4.0 インストールウィザード）」（→ P.303）
- インストールする OS により設定画面が異なります。Active Directory ドメインの構成については、Windows 2000 Server を例に説明します。

A.4.1 ServerStart で構築できるネットワークパターン

ServerStart では、次のサーバを構築できます。

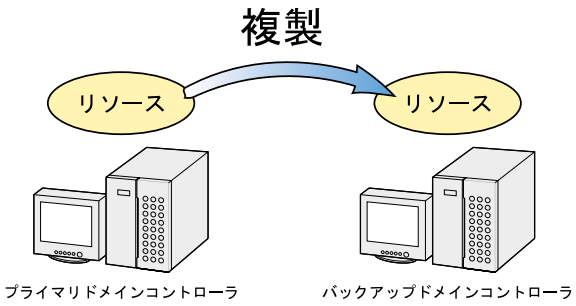
- ドメインコントローラ
  OS の種別により、次の２種類のドメインがあり、それぞれいくつかのパターンが構築できます。
  ・Windows NT ドメイン
  PDC（プライマリドメインコントローラ）／ BDC（バックアップドメインコントローラ）
  ・Active Directory ドメイン
  新しいフォレスト／新しいツリー／追加ドメインコントローラ／子ドメイン
- ドメインメンバサーバ
- スタンドアロンサーバ

■ ドメインコントローラ

● Windows NT ドメイン

Windows NT を使ってドメインを構築する場合、ドメインコントローラには、PDC（プライマリドメインコントローラ）と BDC（バックアップドメインコントローラ）のいずれかを選択できます。

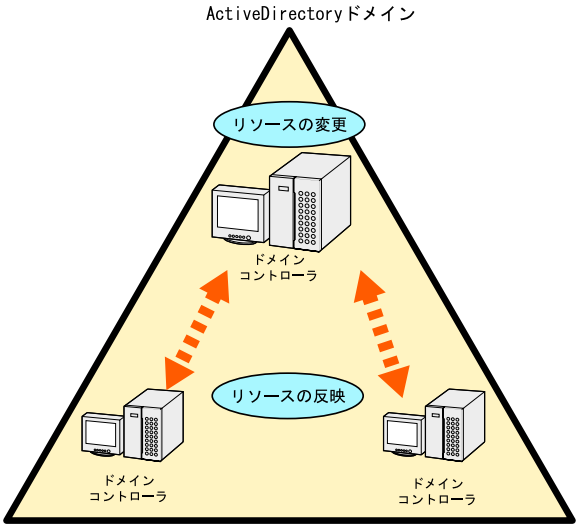
ドメイン内でリソースを変更できるのは PDC のみです。変更された内容が BDC に複製されます。



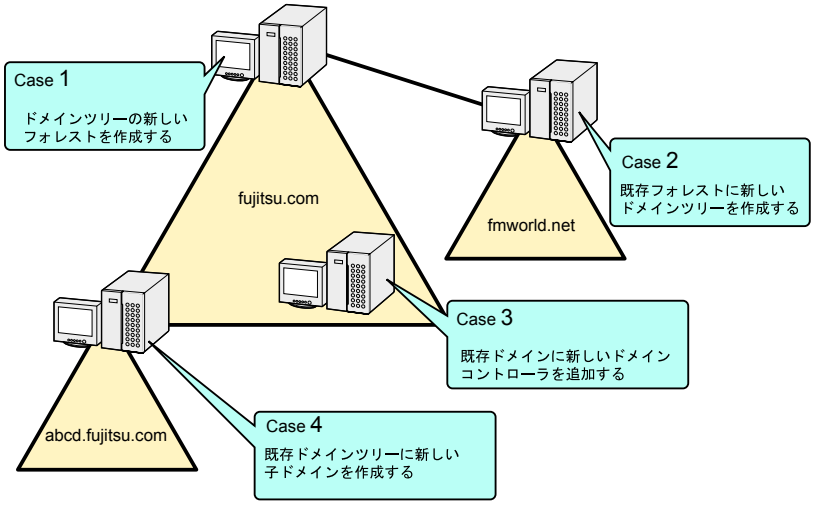
● Active Directory ドメイン

Windows 2003 ／ Windows 2000 ドメインは、Active Directory（LDAP をベースとしたディレクトリサービス）を基本に構築されており、一般的に Active Directory ドメインと呼ばれます。

Active Directory では、PDC（プライマリドメインコントローラ）と BDC（バックアップドメインコントローラ）という概念はなく、Active Directory 内の、あるドメインコントローラ上で変更されたリソースは、同じネットワークにあるすべてのドメインコントローラに反映されます。このため、Windows 2003 ／ Windows 2000 をドメインコントローラとする場合は、Active Directory に関して理解しておく必要があります。



Active Directory を構築するには、次の 4 つのパターンがあります。



1. ドメインツリーの新しいフォレストを作成します（新しいフォレストの構築）。
2. 既存フォレストに新しいドメインツリーを作成します（新しいツリー）。
3. 既存ドメインに新しいドメインコントローラを追加します（追加ドメインコントローラ）。
4. 既存ドメインツリーに新しい子ドメインを作成します（子ドメイン）。

POINT

- Active Directory に関する基礎用語
  - ドメインツリー
    ドメインツリーは、ドメインを構成する最小単位です。既存のドメインツリーに子ドメインを作成する場合、DNS サフィックスが継承されます。
  - フォレスト
    1 つ以上のドメインツリーが、依存関係なく接続されている関係を表します。
    新しいドメインツリーを作成する場合、DNS サフィックスは継承されません。

重要

- ドメインコントローラを構築する際の注意事項
  - ドメイン環境にアドオンされるクライアント OS のレベルにより、ドメインコントローラがサービスすべき WINS などのサービスをインストールする必要があります。
  - インストールするネットワークパターンによっては、事前に上位ドメインコントローラ（DNS サーバ）の設定が必要になる場合があります。

■ ドメインメンバサーバ

ドメインメンバサーバとは、ドメインに参加している多目的サーバを意味します。
権限があるドメイン内のすべてのリソースにアクセスすることができ、またアクセスされます。

■ スタンドアロンサーバ

スタンドアロンサーバとは、一般にワークグループ環境と呼ばれる小規模な環境で利用するサーバを意味します。

A.4.2 Windows NT ドメインの構成

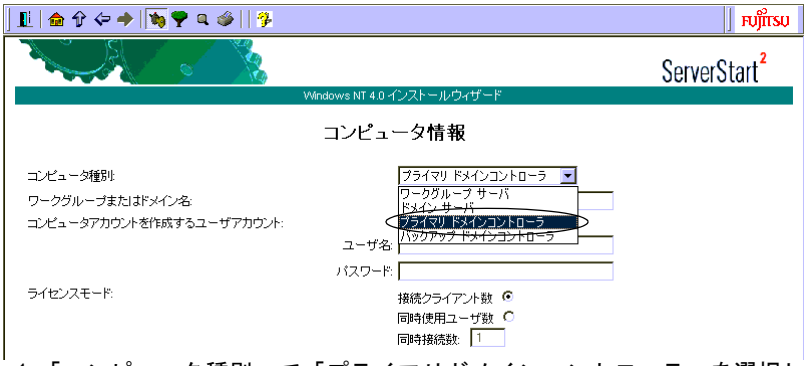
PDC（プライマリドメインコントローラ）または BDC（バックアップドメインコントローラ）の設定を行います。

■ PDC の場合

OS インストールウィザードの「コンピュータ情報」画面で、次の設定を行います。

●「コンピュータ情報」画面

1 各項目を以下のように設定します。



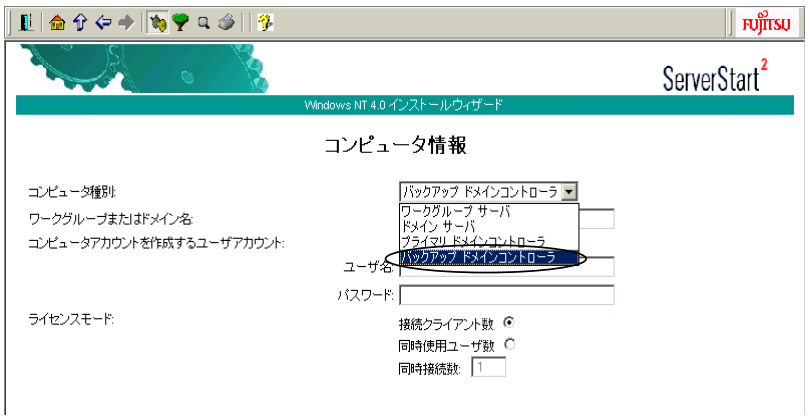
1.「コンピュータ種別」で「プライマリドメインコントローラ」を選択します。
2.「ワークグループまたはドメイン名」に作成するドメイン名を指定します。
3.「コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント」は空白のままです。

■ BDC の場合

OS インストールウィザードの「コンピュータ情報」画面で、次の設定を行います。

●「コンピュータ情報」画面

1 各項目を以下のように設定します。



1.「コンピュータ種別」で「バックアップドメインコントローラ」を選択します。
2.「ワークグループまたはドメイン名」に参加するドメイン名を指定します。

3.「コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント」に、コンピュータアカウントを作成する権限のあるドメインユーザアカウントとパスワードを指定します。

POINT

- ドメインコントローラ上にコンピュータアカウントを作成している場合
  あらかじめドメインコントローラ上にコンピュータアカウントを作成している場合は、手順 3 でコンピュータアカウントを作成する権限のないドメインユーザを指定することができます。

A.4.3 Active Directory の作成（新しいフォレストの構築）

新しいフォレストとして Active Directory を構築する場合、Active Directory は新しいシステム全体のルートドメインとして定義されます。そのため、この Active Directory の作成は、新しいシステムを作成する場合、または既存のシステムを新しいシステムとして作り変える場合に、最初に行う作業となります。
Active Directory を構築する前に、ネットワーク構成を十分検討して設計する必要があります。

重 要

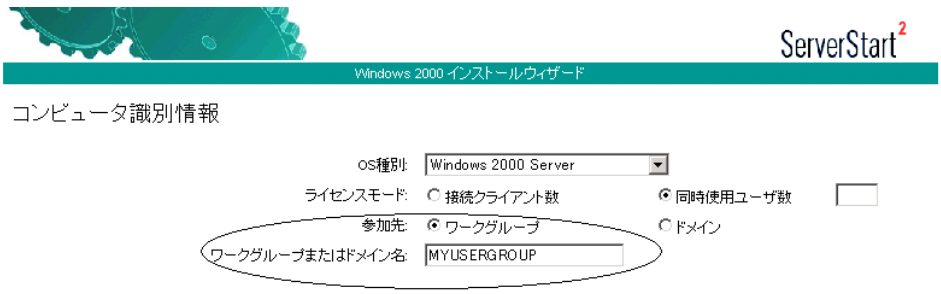
- Active Directory を構築する際の注意点
  - 既存の DNS サーバを利用して Active Directory を構築することはできません。
  - 既存の DNS を利用してドメインを構築する場合は、スタンドアロンサーバとして OS インストール後、手動でドメインの構築を行います。

■ 新しいフォレストのドメインを構築する

新しいフォレストとしてドメインを構築する場合は、OS インストールウィザードで次のように設定してください。

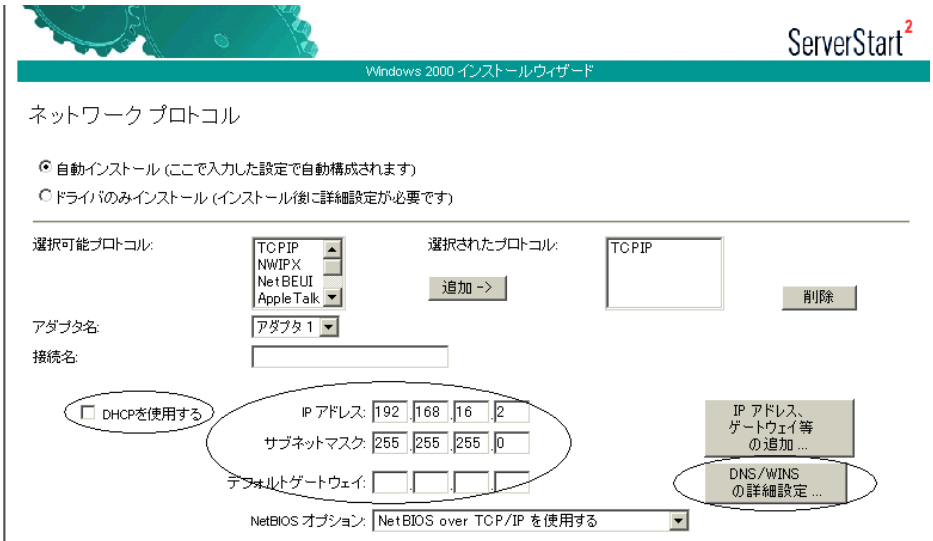
●「コンピュータ識別情報」画面

1 「参加先」を「ワークグループ」にして、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。

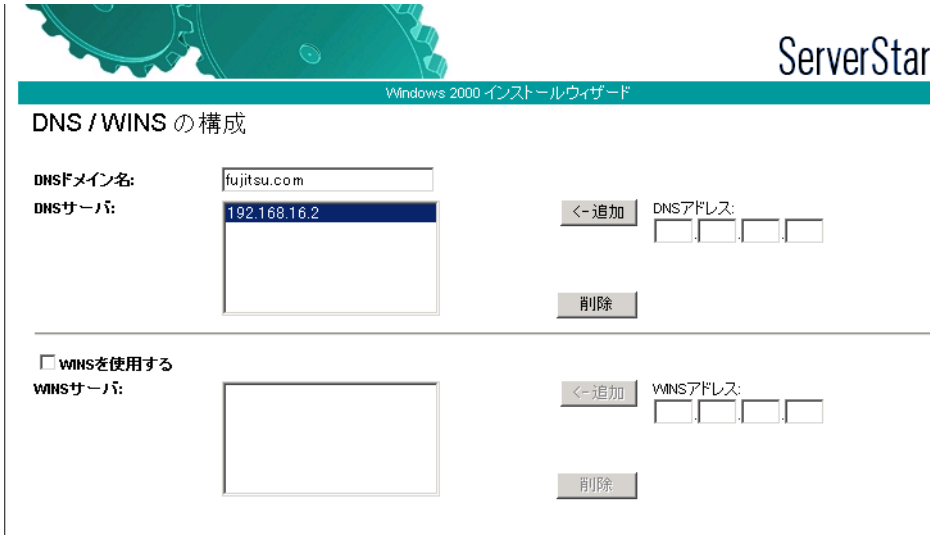


●「ネットワークプロトコル」画面

1 「DHCP を使用する」のチェックを外し、IP アドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイを指定します。



2 ［DNS/WINS の詳細設定］をクリックし、DNS に関する詳細設定を行います。



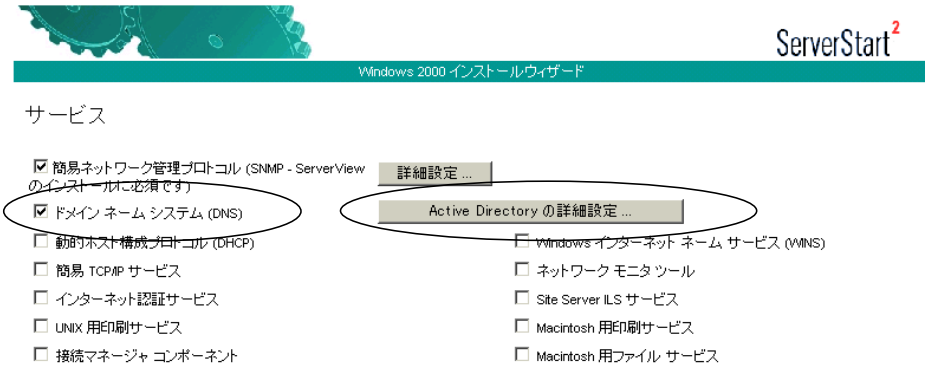
この例では、DNS ドメイン名を fujitsu.com とし、DNS サーバを自分自身（192.168.16.2）に設定しています。DNS ドメイン名は後の設定にも利用するので、必ず覚えておいてください。
必要に応じて WINS の設定も行います。

●「サービス」画面

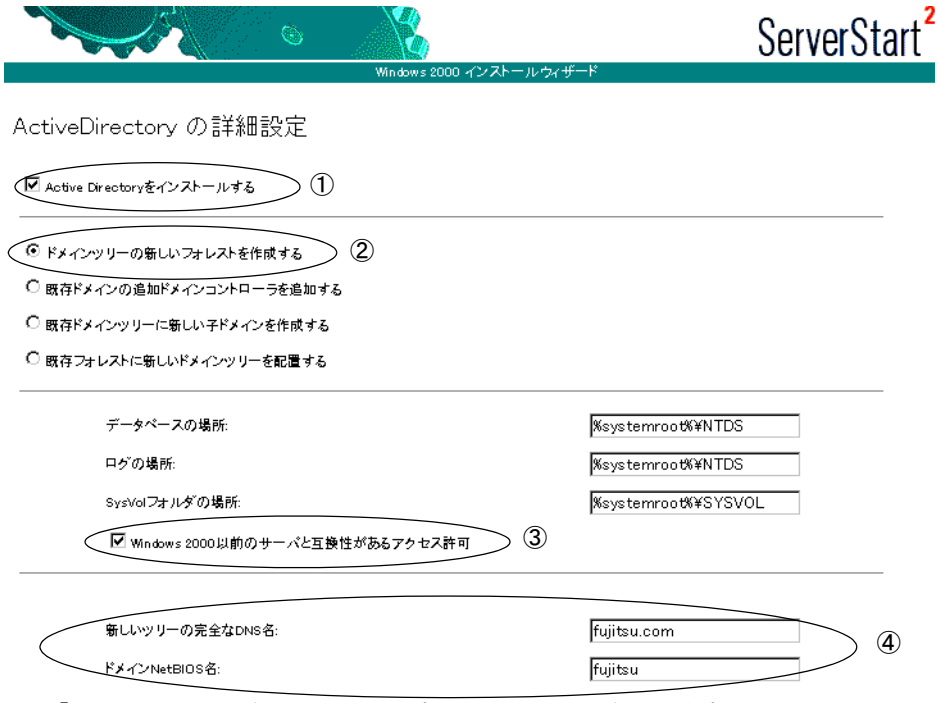
POINT

- OS インストールタイプの開封時は、「サービス」は設定できません。

1 「ドメインネームシステム（DNS）」にチェックを付け、［Active Directory の詳細設定］をクリックします。
WINS を設定した場合、「Windows インターネットネームサービス（WINS）」にチェックを付けます。



2 「Active Directory の詳細設定」画面で、各項目を設定します。



1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「ドメインツリーの新しいフォレストを作成する」が選択されていることを確認します。
3. Windows 2000 以前のマシンも管理する場合は、「Windows 2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。
4. 「新しいツリーの完全な DNS 名」に DNS サーバ名を、「ドメイン NetBIOS 名」に NetBIOS 名を指定します。

A.4.4 Active Directory の構成（新しいツリー）

新しいツリーとして Active Directory を構築する場合、Active Directory は新しい下部組織のルートドメインとして定義されます。そのため、この Active Directory の作成は、新しいシステムを作成する場合、または既存のシステムを新しいシステムとして作り変える場合、一番最初に行う作業となります。
新しいツリーを作成する前に、フォレストとの接続性を考えたネットワーク構成を十分検討して設計する必要があります。あらかじめ次の情報を確認してください。

- 既存ルートドメインのネットワークアドレス
- 既存ルートドメインの管理者情報
- 新規ツリールートのネットワークアドレス
- 新規ツリーのドメイン名

重要

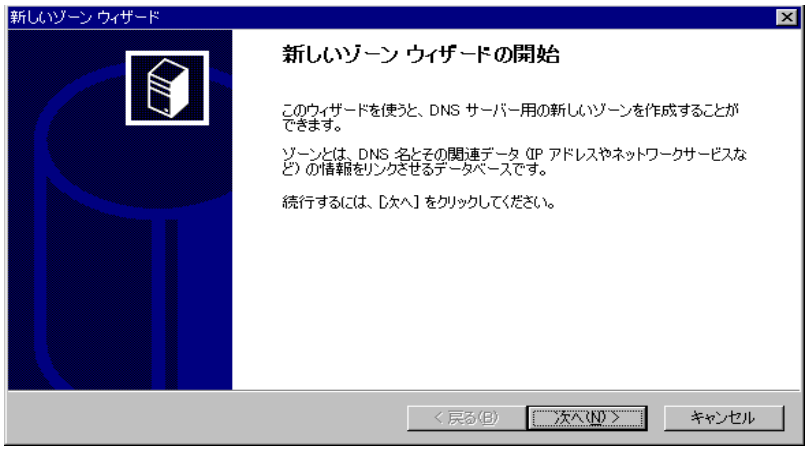
- Active Directory を構築する際の注意点
  ServerStart を使ったこのパターンのインストールでは、あらかじめ新しいツリーが使用する DNS ゾーンを作成しておく必要があります。

■ DNS ゾーンの作成

新しいツリーでは、DNS ゾーンを既存のフォレストに「新しいゾーン」として管理する必要があります。ここでは DNS ゾーンの作成方法について簡単に説明します。
次に、ServerStart を利用するために最低限必要な手順を示します。ただし、実際の運用・管理では、このほかに詳細なパラメータ設定が必要となる場合があります。管理方法なども含めて、Windows 2000 Server の Active Directory に関するマニュアルを参照してください。

1. 既存のフォレストのルートドメインコントローラに、ドメインの管理者権限でログオンします。
2. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「DNS」の順にクリックします。

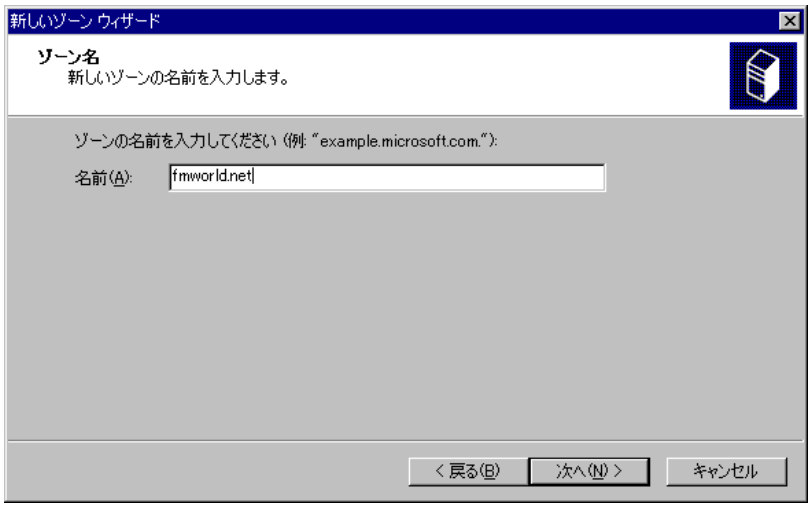
3 コンソールツリーから DNS サーバを選択し、「操作」→「新しいゾーン」の順にクリックします。
新しいゾーンウィザードが起動します。



4 ［次へ］をクリックします。
ゾーンの種類を選択する画面が表示されます。

5 「Active Directory 統合」ゾーンを選択して、［次へ］をクリックします。
ゾーン名を入力する画面が表示されます。

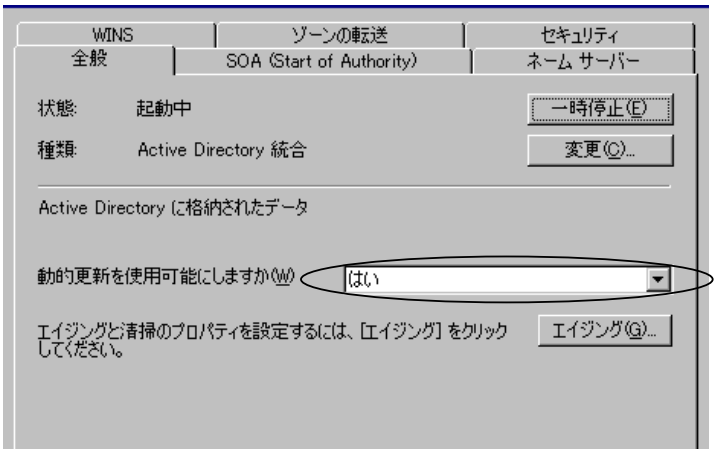
6 ゾーン名を指定します。
このゾーン名が ServerStart の「DNS ドメイン名」に相当します。



7 ［次へ］をクリックします。
完了画面が表示されるので、ゾーンが作成されていることを確認します。

8 DNS ゾーンの設定を行います。作成したゾーンを右クリックし、プロパティをクリックします。

9 「動的更新を使用可能にしますか」で「はい」を選択します。
これ以外のパラメータを選択すると、インストールに失敗します。

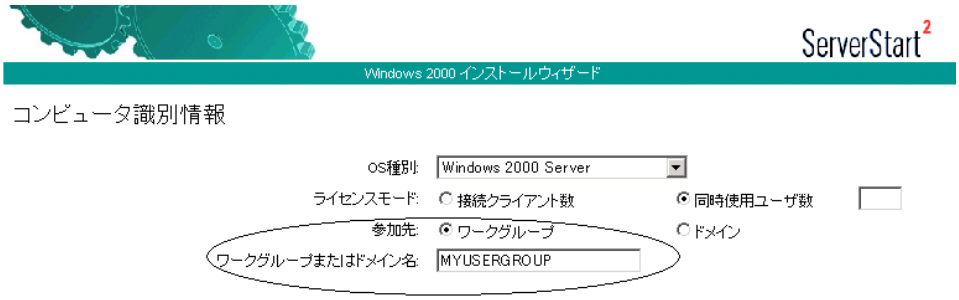


■ 新しいドメインツリーを構築する

新しいツリーとしてドメインを構築する場合は、OS インストールウィザードで、次の設定を行います。

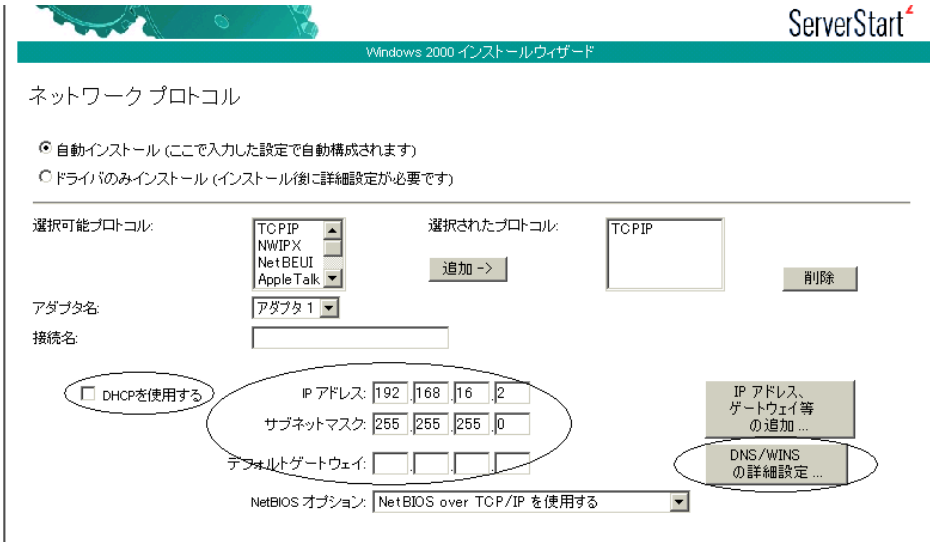
●「コンピュータ識別情報」画面

1 「参加先」を「ワークグループ」にし、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。

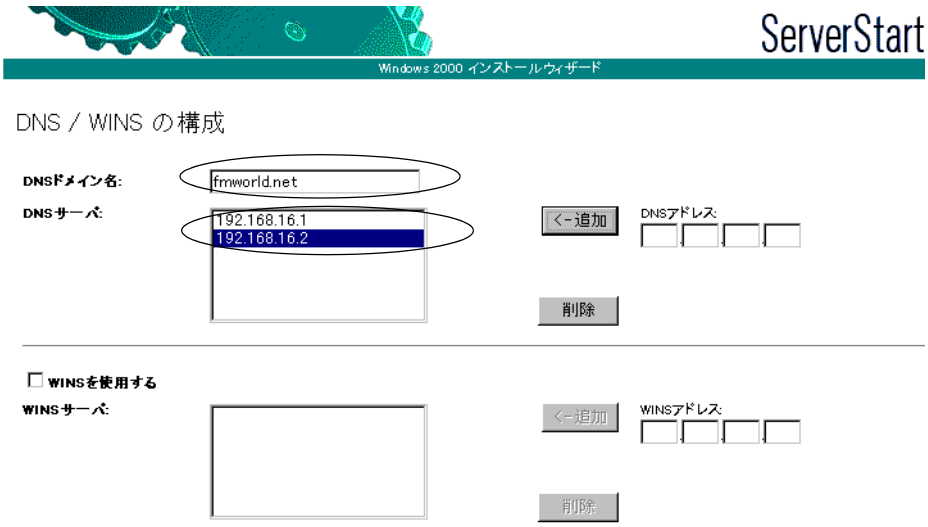


●「ネットワークプロトコル」画面

1 「DHCP を使用する」のチェックを外し、IP アドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイを指定します。



2 ［DNS/WINS の詳細設定］をクリックし、DNS に関して詳細設定を行います。



「DNS ドメイン名」に、作成するツリーのドメイン名（この例では fmworld.net）を指定します。

「DNS サーバ」には、次のアドレスを入力します。

・既存フォレストの DNS サーバ（ドメインサーバ）の IP アドレス

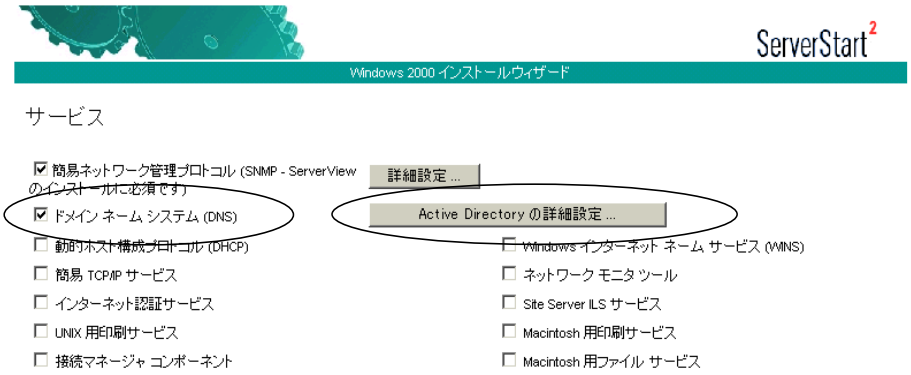
・新規作成ツリーのドメインの IP アドレス

●「サービス」画面

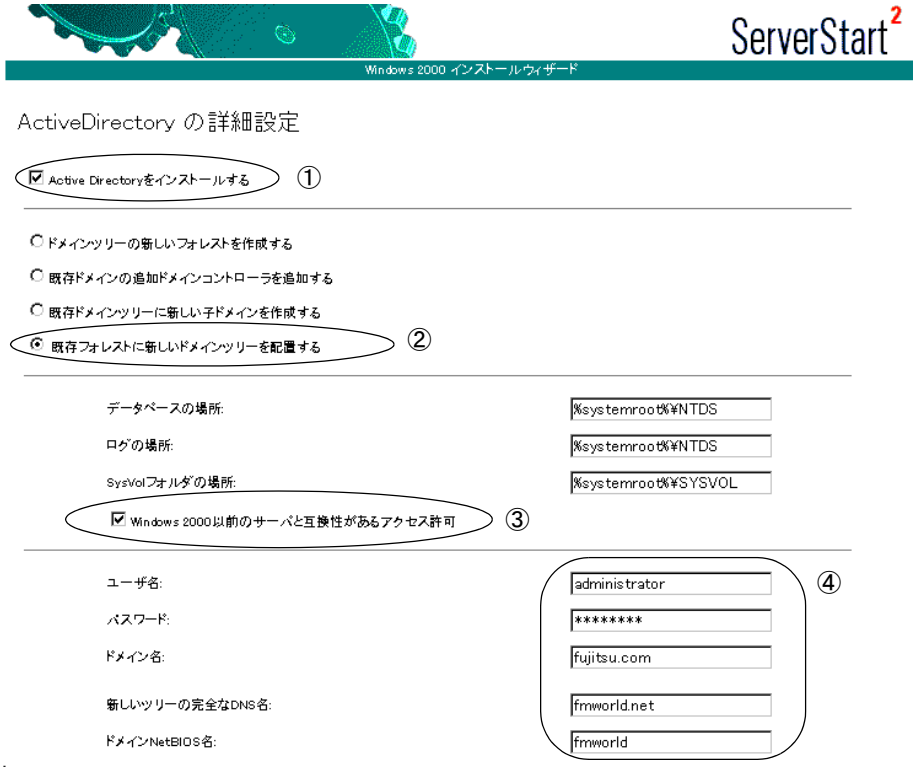
POINT

▶ OS インストールタイプの開封時は、「サービス」は設定できません。

1 「ドメインネームシステム（DNS）」にチェックを付け、[Active Directory の詳細設定] をクリックします。
WINS を設定した場合は、「Windows インターネットネームサービス（WINS）」にチェックを付けます。



2 各項目を以下のように設定します。



1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「既存フォレストに新しいドメインツリーを配置する」を選択します。
3. Windows 2000 以前のマシンも管理する場合は、「Windows 2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。

4. ドメイン登録に使う情報を入力します。

項目	説明
ユーザ名	上位ドメインでコンピュータアカウントを作成できる権限を持つグループに属しているユーザアカウント （例：Domain Admin のユーザ）
パスワード	上位のユーザのパスワード
ドメイン名	上位のユーザが所属しているドメイン
新しいツリーの完全なドメイン名	新規に作成するツリーのドメイン名
ドメイン NetBIOS 名	新規に作成するドメイン NetBIOS 名

A.4.5 Active Directory の構成（追加ドメインコントローラ）

新しいドメインコントローラが追加された場合は、システムの信頼性と冗長性を重要視します。
ここでは、新しいドメインコントローラが追加された場合の設定について説明します。あらかじめ次の情報を確認してください。

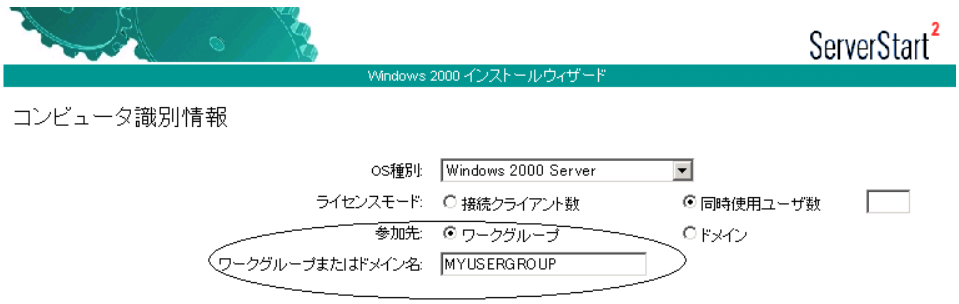
- 既存ルートドメインのネットワークアドレス
- 既存ルートドメインの管理者情報
- 新規ドメインコントローラのネットワークアドレス

■ 追加ドメインコントローラを構築する

追加ドメインコントローラを構築する場合は、OS インストールウィザードで、次の設定を行います。

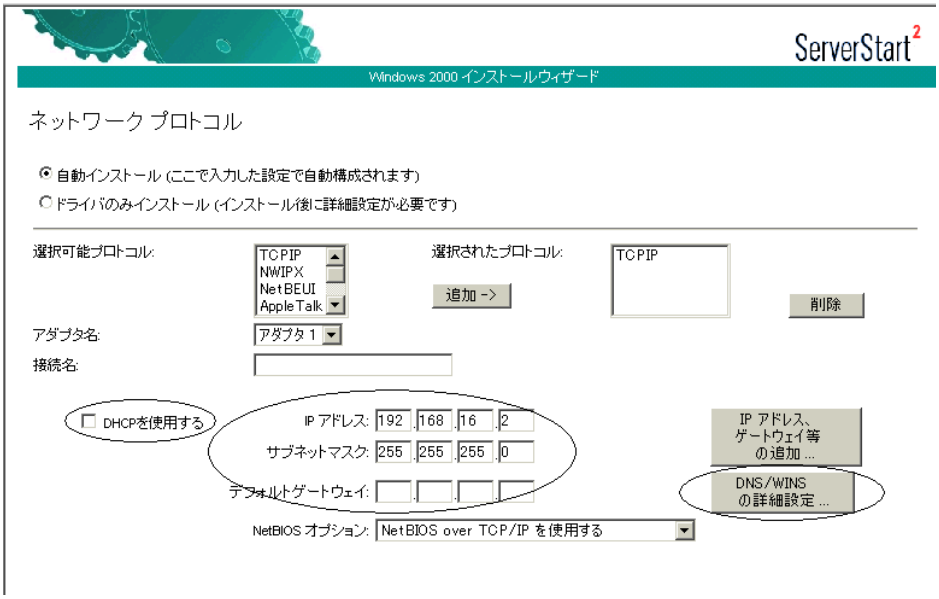
●「コンピュータ識別情報」画面

1 「参加先」を「ワークグループ」にし、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。

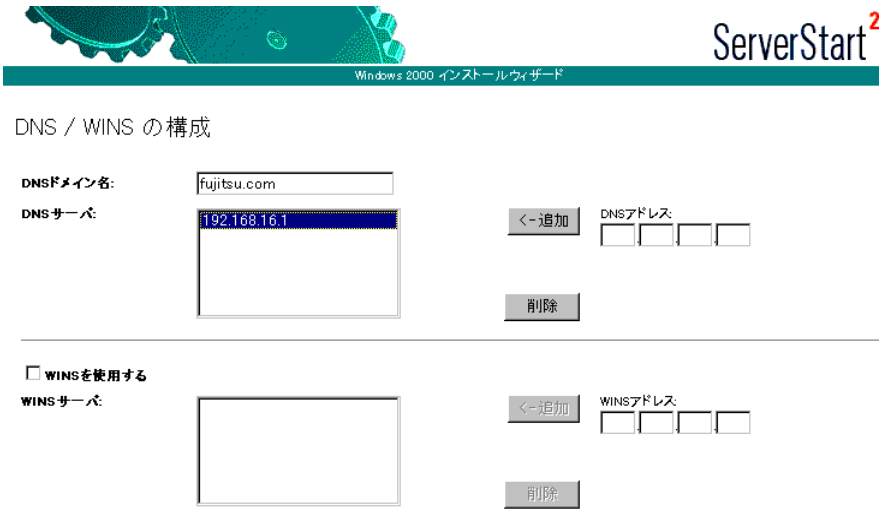


●「ネットワークプロトコル」画面

1 「DHCP を使用する」のチェックを外し、IP アドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイを入力します。



2 ［DNS/WINS の詳細設定］をクリックし、DNS に関する詳細設定を行います。



この例では、「DNS ドメイン名」に既存ドメイン名（この場合は fujitsu.com）を指定します。

「DNS サーバ」に次のアドレスを入力します。

・既存 DNS サーバの IP アドレス

・新規作成ドメインコントローラの IP アドレス

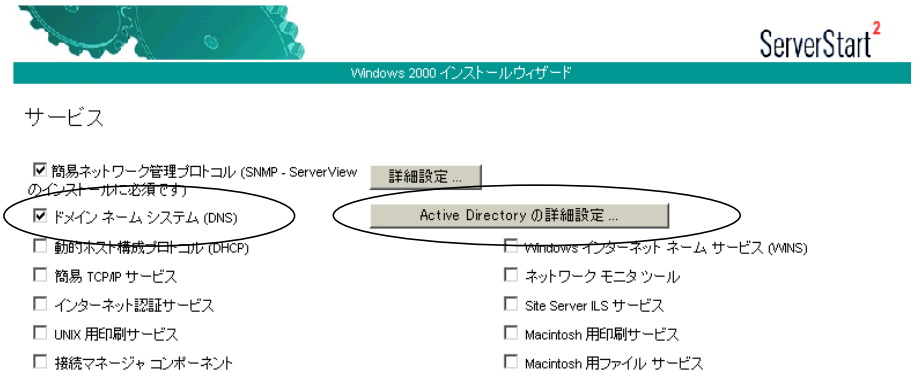
●「サービス」画面

POINT

- OS インストールタイプの開封時は、「サービス」は設定できません。

1 「ドメインネームシステム（DNS）」にチェックを付け、[Active Directory の詳細設定] をクリックします。

WINS を設定した場合は、「Windows インターネットネームサービス（WINS）」のインストールにもチェックを付ける必要があります。



2 各項目を以下のように設定します。

1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「既存ドメインの追加ドメインコントローラを追加する」を選択します。

3. Windows 2000 以前のマシンも管理する場合は、「Windows 2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。
4. ドメイン登録に使う情報を入力します。

項目	説明
ユーザ名	上位ドメインでコンピュータアカウントを作成できる権限を持つグループに属しているユーザアカウント （例：Domain Admin のユーザ）
パスワード	上位のユーザのパスワード
ドメイン名	上位のユーザが所属しているドメイン
ドメイン NetBIOS 名	ドメイン NetBIOS 名

A.4.6 Active Directory の構成（子ドメイン）

子メンバドメインが構成されるのは、新しい下部組織が構成される場合です。
これは、新しいツリーの構成とよく似ていますが、子ドメインが上位のフォレストから DNS サフィックスを継承するのに対し、新ツリーはこれを継承しません。
次のような事例の場合、最初に対応するドメインパターンを選択します。

事例	選択するドメインパターン
ABC カンパニーに新たにコンサルティング部署が設立された。	子ドメイン
ABC カンパニーからコンサルティング部署が独立し、ABC コンサルティングカンパニーが設立された。	新ツリー

重要

- **子ドメインを構築する際の注意事項**
  DNS サーバで、あらかじめ新しいドメインのゾーンを作成しておく必要があります。「■ DNS ゾーンの作成」（→ P.277）を参照してください。

ここでは、子ドメインを構築する場合の設定について説明します。あらかじめ次の情報を確認してください。

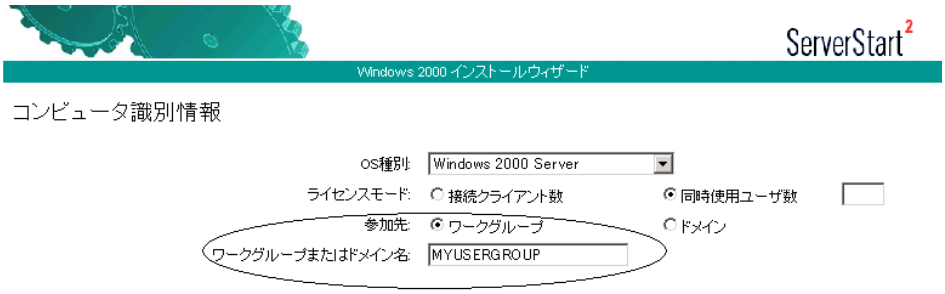
- 既存ルートドメインのネットワークアドレス
- 既存ルートドメインの管理者情報
- 新規ドメインコントローラのネットワークアドレス

■ 子ドメインを構築する

子ドメインを構築する場合は、OS インストールウィザードで、次の設定を行います。

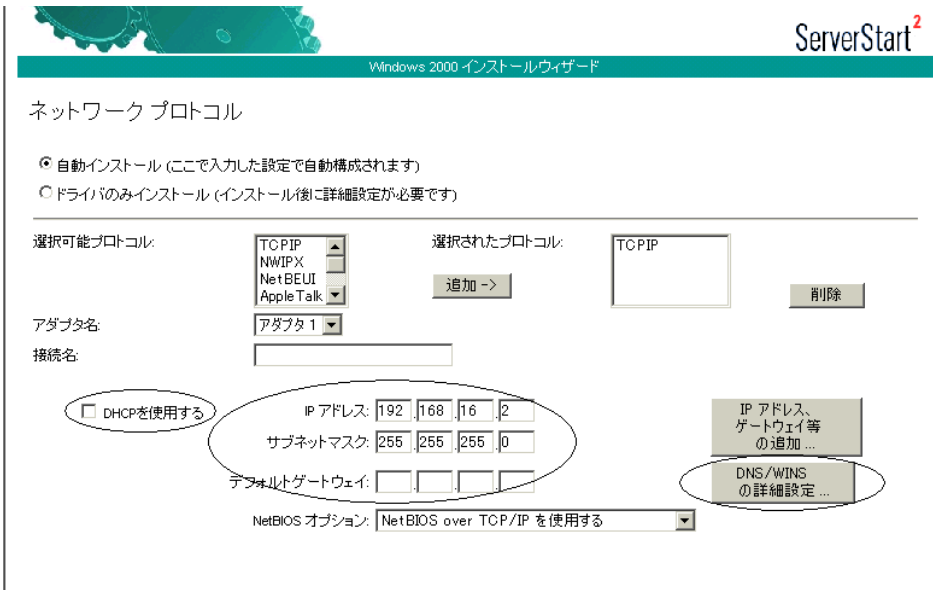
●「コンピュータ識別情報」画面

1 「参加先」を「ワークグループ」にして、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。

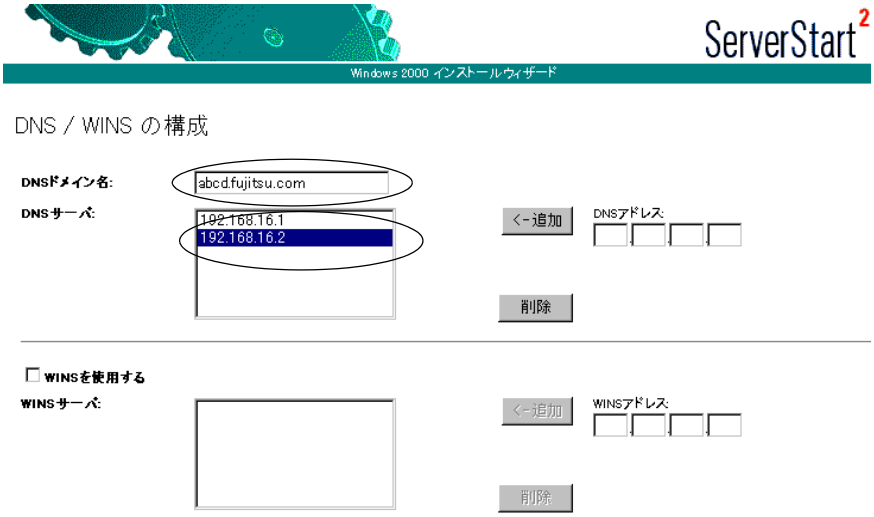


●「ネットワークプロトコル」画面

1 「DHCP を使用する」のチェックを外し、IP アドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイを入力します。



2 ［DNS/WINS の詳細設定］をクリックし、DNS に関する詳細設定を行います。



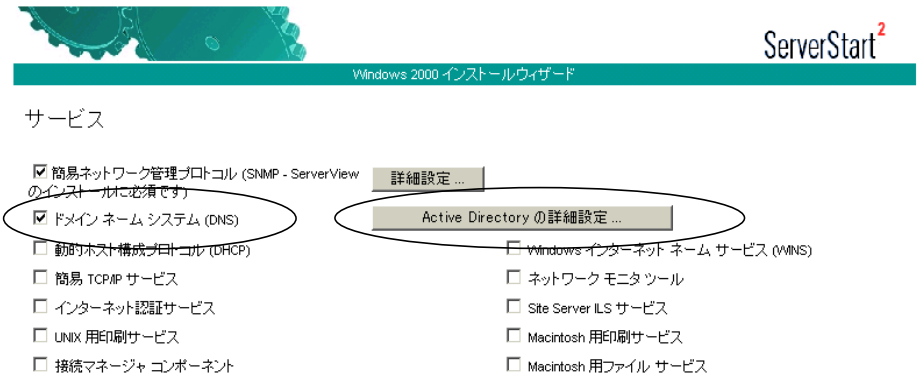
「DNS ドメイン名」に、作成する子ドメイン名（この例では abcd.fujitsu.com）を指定します。
「DNS サーバ」に、次のアドレスを入力します。
・既存 DNS サーバの IP アドレス
・子ドメインのドメインコントローラサーバの IP アドレス

●「サービス」画面

POINT

- OS インストールタイプの開封時は、「サービス」は設定できません。

1 **「ドメインネームシステム（DNS）」にチェックを付け、［Active Directory の詳細設定］をクリックします。**
WINS を設定した場合、「Windows インターネットネームサービス（WINS）」にチェックを付けます。



2 各項目を以下のように設定します。

1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「既存ドメインツリーに新しい子ドメインを作成する」を選択します。
3. Windows 2000 以前のマシンも管理する場合は、「Windows 2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。
4. ドメイン登録に使う情報を入力します。

項目	説明
ユーザ名	上位ドメインで、コンピュータアカウントを作成できる権限を持つグループに属しているユーザアカウント （例：Domain Admin のユーザ）
パスワード	上位のユーザのパスワード
ドメイン名	上位のユーザが所属しているドメイン
親ドメイン名	上位のドメイン名
子ドメイン名	新規に作成するドメイン名
ドメイン NetBIOS 名	新規に作成するドメイン NetBIOS 名

A.4.7 ドメインメンバサーバの構成

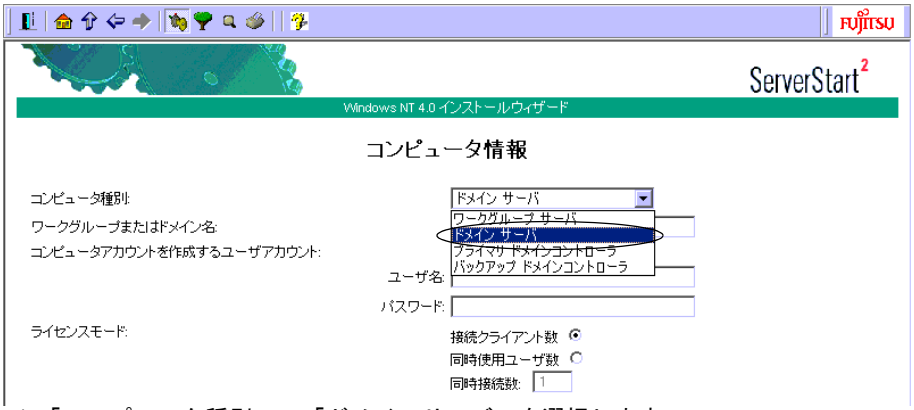
Windows NT ドメインの場合は、PDC（プライマリドメインコントローラ）上で、Windows 2000 ドメインの場合は、ドメインコントローラ上で参加するコンピュータアカウントを作成します。コンピュータアカウントの作成の際には、コンピュータ名をあらかじめ決めておく必要があります。
また、ネットワーク構成にも配慮する必要があります。DHCP を使って IP アドレスをリースする場合は、DHCP サーバのサーバオプションに DNS サーバの情報を設定し、DNS へサーバ登録を行ってください。

■ Windows NT Server 4.0 の場合

OS インストールウィザードのコンピュータ情報画面で、次の設定を行います。

●「コンピュータ情報」画面

1 各項目を以下のように設定します。



1.「コンピュータ種別」で「ドメインサーバ」を選択します。
2.「ワークグループまたはドメイン名」に参加するドメイン名を指定します。
3.「コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント」にコンピュータアカウントを作成する権限のあるドメインユーザアカウントとパスワードを指定します。

POINT

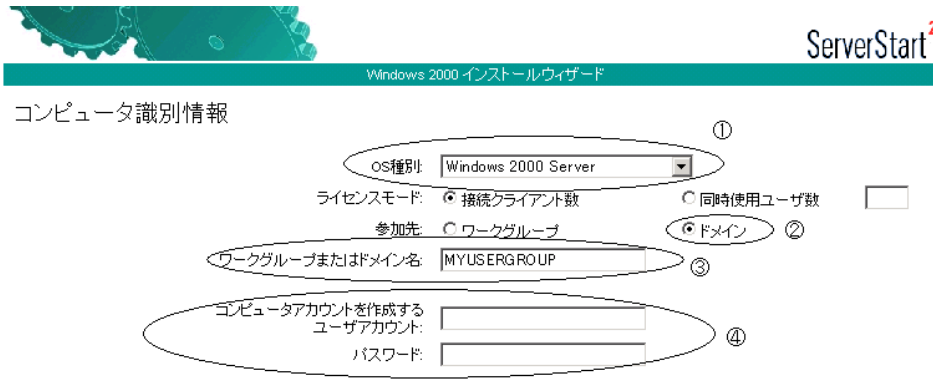
- あらかじめドメインコントローラ上にコンピュータアカウントを作成している場合は、手順 3 でコンピュータアカウントを作成する権限のないドメインユーザを指定することができます。

■ Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server の場合

OS インストールウィザードの「コンピュータ識別情報」画面で、次の設定を行います。

●「コンピュータ識別情報」画面

1 各項目を以下のように設定します。



1. 「OS 種別」でインストールする OS のタイプを選択します。
2. 「参加先」の指定で「ドメイン」を選択します。
3. 「ワークグループまたはドメイン名」に参加するドメインを指定します。
4. 「コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント」にコンピュータアカウントを作成する権限のあるドメインユーザアカウントとパスワードを指定します。

POINT

- あらかじめドメインコントローラ上にコンピュータアカウントを作成している場合は、手順 4 でコンピュータアカウントを作成する権限のないドメインユーザを指定することができます。

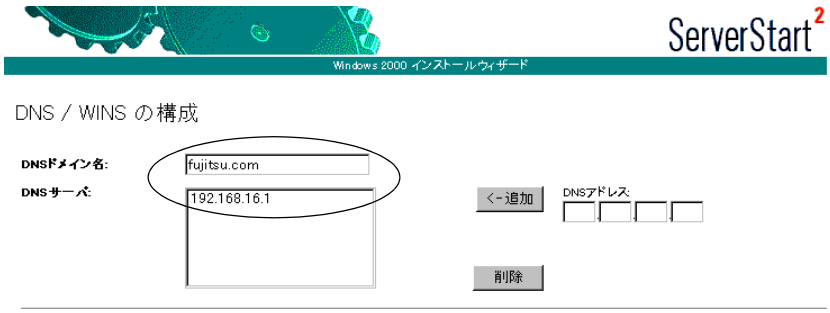
■ DNS ／ WINS の設定について

● ネットワークプロトコル設定で DHCP を指定する場合

参加先ドメインに DHCP が構成されており、DHCP サーバオプションで「DNS サーバ」が正しく設定されていることを確認してください。

● ネットワークプロトコル設定で固定 IP を指定する場合

1 「ネットワーク設定」画面の［DNS/WINS の詳細設定］をクリックし、DNS ドメイン名と DNS サーバの指定を行います。



A.4.8 スタンドアロンサーバの構成

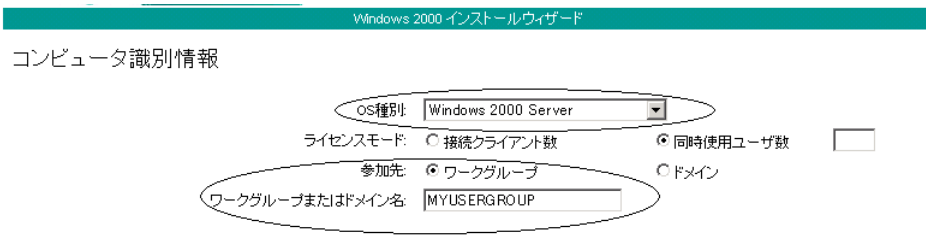
スタンドアロンサーバは、小規模な環境で利用するためのサーバです。このため、リソースにアクセスできる範囲が限定されるなどの制限があります。また、ネットワーク経由でスタンドアロンサーバのリソースにアクセスする場合、スタンドアロンサーバのローカルユーザ情報を参照するので、管理性が低いという特徴があります。インストールするサーバがどのタスクを担うか早期に決定し、ドメインへ移行することをお勧めします。

■ Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server の場合

OS インストールウィザードの「コンピュータ識別情報」画面で、次の設定を行います。

●「コンピュータ識別情報」画面

1 各項目を以下のように設定します。



1. 「OS 種別」でインストールする OS のタイプを選択します。
2. 「参加先」の指定で「ワークグループ」を選択します。
3. 「ワークグループまたはドメイン名」に参加するワークグループ名を指定します。

重要

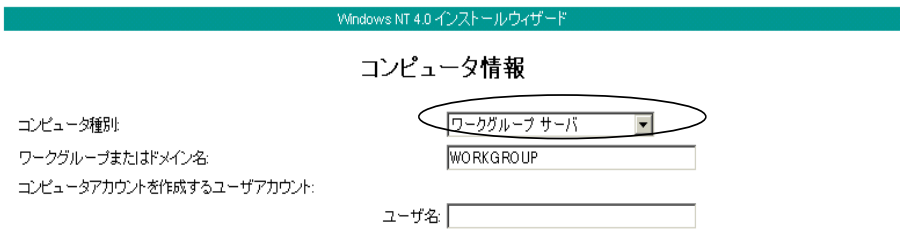
- Active Diretcory の詳細設定画面では、何も設定しないでください。

■ Windows NT Server 4.0 の場合

OS インストールウィザードの「コンピュータ情報」画面で、次の設定を行います。

●「コンピュータ情報」画面

1 各項目を以下のように設定します。



1. 「コンピュータ種別」で「ワークグループサーバ」を選択します。
2. 「ワークグループまたはドメイン名」に構成するワークグループ名を指定します。

A.5 デザインシート

RAID ウィザード

設定項目		選択項目
RAID の構成（RAID 構成時のみ）		
構成モード		☐ 非 RAID　☐ 自動　☐ 手動 ☐ 既存のアレイを使用する
手動、自動設定時のみ	RAID コントローラ	☐ PG-140C　☐ PG-140CL　☐ PG-142B　☐ PG-142C ☐ PG-144B　☐ PG-144C　☐ IDE-RAID
	コントローラ番号	（デフォルト―0）
手動設定時のみ	RAID レベル	☐ RAID0　☐ RAID1　☐ RAID5　☐ RAID0+1
	ディスク数	台 （RAID0 時 2 ～ 16 台、RAID1 時 2 台、RAID5 時 3 ～ 16 台、 RAID0+1 時 PG-144B：3 ～ 16 台、 PG-142B/142C/142D：4 ～ 16 台の偶数台）
	ホットスペア	☐ 使用する　☐ 使用しない
手動、自動設定時のみ	既存の RAID アレイ	☐ 削除する

ディスクウィザード

設定項目	選択項目
ディスクの構成	
コントローラタイプ	☐ RAID　☐ SCSI　☐ IDE
ディスク番号	(デフォルト―0)
ファイルシステム	☐ NTFS　☐ FAT
クイックフォーマット	☐ する　☐ しない
ボリュームラベル	(デフォルト―SYSTEM)
パーティションサイズ	☐ 自動設定　☐　MB
パーティションの利用形態	☐ BOOT　☐ OS　☐ DATA
ファイルシステム	☐ NTFS　☐ FAT
クイックフォーマット	☐ する　☐ しない
ボリュームラベル	(デフォルト―DATA)
パーティションサイズ	☐ 自動設定　☐　MB
パーティションの利用形態	☐ BOOT　☐ OS　☐ DATA
ファイルシステム	☐ NTFS　☐ FAT
クイックフォーマット	☐ する　☐ しない
ボリュームラベル	(デフォルト―DATA)
パーティションサイズ	☐ 自動設定　☐　MB
パーティションの利用形態	☐ BOOT　☐ OS　☐ DATA
ファイルシステム	☐ NTFS　☐ FAT
クイックフォーマット	☐ する　☐ しない
ボリュームラベル	(デフォルト―DATA)
パーティションサイズ	☐ 自動設定　☐　MB
パーティションの利用形態	☐ BOOT　☐ OS　☐ DATA
表示されているディスクの すべてのパーティションを削除する	☐ 削除する
起動ディスクにメンテナンス区画を作成する	☐ 作成する

※ 複数のディスクを搭載する、またはシートが足りない場合は、コピーしてください。

OS ウィザード（Windows 2003 インストールウィザード）

設定項目		選択項目
Windows 2003 のインストール		
Administrator 用のパスワード		
コンピュータ識別情報		
OS 種別		☐ Windows 2003, Standard Edision ☐ Windows 2003, Enterprise Edision
ライセンスモード		☐ 接続デバイス数または接続ユーザ数　☐ 同時使用ユーザ数
同時接続数		（同時使用ユーザ数選択時のみ）
参加先		☐ ワークグループ　　☐ ドメイン
ワークグループまたはドメイン名		（デフォルト―MYUSERGROUP）
コンピュータを作成するユーザアカウント	ユーザアカウント	
	パスワード	
インストール方法		☐ローカル CD からオペレーティングシステムをインストールする ☐リモートサーバからオペレーティングシステムをインストールする
リモートサーバからインストールする場合	リモートソースパス	
	リモートサーバ上のユーザ名	
	リモートサーバ上のパスワード	
タイムゾーンとインストール先ドライブ		
タイムゾーンの選択		（デフォルト―(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京）
インストール先ドライブ		☐ 既定値を使用　　☐ドライブ名
ドライブ名選択時		☐ C: ☐ D: ☐ E: ☐ F: ☐ G: ☐ H: ☐ I: ☐ J: ☐ K: ☐ L: ☐ M: ☐ N: ☐ O: ☐ P: ☐ Q: ☐ R: ☐ S: ☐ T: ☐ U: ☐ V: ☐ W: ☐ X: ☐ Y: ☐ Z:
インストール先ディレクトリ		☐ 既定値を使用する　☐ インストール中に指定する ☐ あらかじめ指定する
	インストール先	（デフォルト―¥winnt）
ユーザ情報		
名前		
組織名		
コンピュータ名		
プロダクトキー		☐　―　―　―　― （OS インストールタイプに添付されている CD を使用する場合は不要）
画面の設定		
画面の領域		☐ 640 * 480　☐ 800 * 600 ☐ 1024 * 768 ☐ 1156 * 864 ☐ 1280 * 1024 ☐ 1600 * 1200
リフレッシュレート		☐ 60 ☐ 70 ☐ 72 ☐ 75 ☐ 80 ☐ 85 ☐ 100
画面の色		☐ 16 色　　☐ 256 色 ☐ High Color（16 ビット）☐ True Color（24 ビット） ☐ True Color（32 ビット）

（続く）

設定項目			選択項目
ネットワークプロトコル			
インストール方法			☐ 自動インストール ☐ ドライバのみインストール
ネットワークプロトコルのプロパティ（自動インストール選択時）			
アダプタ1	接続名		
	このアダプタにバインドするプロトコル		☐ TCP/IP　☐ NWIPX　☐ NetBEUI　☐ Apple Talk　☐ DLC ☐ NetMon　☐ PPTP
	DHCP を使用する（TCP/IP 選択時）		☐ 使用する
	使用する未選択時のみ	IP アドレス	
		サブネットマスク	
		デフォルトゲートウェイ	
		IP アドレス（追加）	（追加する時のみ）
		サブネットマスク（追加）	（追加する時のみ）
		デフォルトゲートウェイ（追加）	（追加する時のみ）
		DNS ドメイン名	（指定する時のみ）
		DNS サーバアドレス	（指定する時のみ）
		WINS を使用する	☐ 使用する
		WINS サーバアドレス	DHCP （使用する選択時のみ）
	NetBIOS オプション		☐ NetBIOS の設定を、DHCP サーバーから取得する ☐ NetBIOS over TCP/IP を使用する ☐ NetBIOS over TCP/IP を使用しない
	NWIPX 選択時のみ	内部ネットワーク番号	0x
		ネットワーク番号	0x
		フレームの種類	
アダプタ2	接続名		
	このアダプタにバインドするプロトコル		☐ TCP/IP　☐ NWIPX　☐ NetBEUI　☐ Apple Talk　☐ DLC ☐ NetMon　☐ PPTP
	DHCP を使用する（TCP/IP 選択時）		☐ 使用する
	使用する未選択時のみ	IP アドレス	
		サブネットマスク	
		デフォルトゲートウェイ	
		IP アドレス（追加）	（追加する時のみ）
		サブネットマスク（追加）	（追加する時のみ）
		デフォルトゲートウェイ（追加）	（追加する時のみ）
		DNS ドメイン名	（指定する時のみ）
		DNS サーバアドレス	（指定する時のみ）
		WINS を使用する	☐ 使用する
		WINS サーバアドレス	DHCP（使用する選択時のみ）
	NetBIOS オプション		☐ NetBIOS の設定を、DHCP サーバから取得する ☐ NetBIOS over TCP/IP を使用する ☐ NetBIOS over TCP/IP を使用しない
	NWIPX 選択時のみ	内部ネットワーク番号	0x
		ネットワーク番号	0x
		フレームの種類	

※ 複数のアダプタをインストールする場合は、コピーしてください。

（続く）

設定項目			選択項目
ソフトウェアコンポーネント			
インストール方法の選択			□ 標準コンポーネントをインストールする □ インストールするコンポーネントを選択する
インストールするコンポーネントを選択する時のみ	アクセサリとユーティリティ	アクセサリ	□ クリップボードビューア □ デスクトップの壁紙 □ ドキュメントテンプレート □ ペイント □ マウスポインタ □ ワードパッド □ 電卓 □ 文字コード表
		ユーザ補助の設定ウィザード	□ インストールする
		通信	□ チャット □ ハイパーターミナル
	アプリケーションサーバー	ASP.NET	□ インストールする
		アプリケーションサーバコンソール	□ インストールする
		インターネットインフォメーションサービス（IIS）	□ FrontPage 2002 Server Extensions □ FTP (File Transfer Protocol) サービス □ NNTP Service - NNTP Service □ SMTP Service - SMTP Service □ WWW (World Wide Web) サービス - Active Server Pages □ WWW (World Wide Web) サービス - WebDAV 発行 □ WWW (World Wide Web) サービス - WWW (World Wide Web) サービス □ WWW (World Wide Web) サービス - インターネット データ コネクタ □ WWW (World Wide Web) サービス - リモート管理 (HTML) □ インターネット インフォメーション サービス マネージャ □ 共通コンポーネント
		ネットワークCOM+ アクセスの有効か	□ インストールする
		ネットワーク DTC アクセスの有効化	□ インストールする
	インデックスサービス		□ インストールする
	ターミナルサーバ		□ インストールする
	ターミナルサーバライセンス		□ インストールする
	リモートインストールサービス		□ インストールする
	証明書サービス		□ インストールする □ 証明書サービス CA　□ 証明書サービス WEB 登録のサポート
	電子メールサービス		□ インストールする □ POP3 サービス　□ POP3 サービス WEB 管理

（続く）

設定項目		選択項目
FTP サービスのプロパティ（FTP サービス選択時のみ）		
FTP サイトのディレクトリ		（デフォルト―\Inetpub\Ftproot）
WWW サービスのプロパティ（WWW サービス選択時のみ）		
WWW サーバのディレクトリ		（デフォルト―\Inetsrv\WWWroot）
ターミナルサーバーのプロパティ（ターミナルサーバー選択時のみ）		
ターミナルサービス		□ 無人セットアップ中のリモートデスクトップを許可する
ターミナルサービスユーザに以下のアクセス許可を与える		□ Windows 2000 の Users と互換性のあるアクセス許可 □ Terminal Server 4.0 の Users と互換性のあるアクセス許可
ライセンスモード		□ 同時使用ユーザ数 □ 接続セッション数
ターミナルサービスの現在のモード		□ アプリケーションサーバモード □ リモート管理モード
サービス		
そのほかのネットワークファイルと印刷サービス		□ Macintosh 用ファイルサービス □ Macintosh 用印刷サービス □ UNIX 用印刷サービス
ネットワークサービス		□ Windows インターネットネームサービス（WINS） □インターネット認証サービス □ドメインネームシステム（DNS） □簡易 TCP/IP サービス □動的ホスト構成プロトコル（DHCP）
管理とモニタツール		□ネットワーク モニタ ツール □簡易ネットワーク管理プロトコル （SNMP － ServerView のインストールに必須です）
SNMP の詳細（SNMP 選択時のみ）		
トラップ	コミュニティ名	
	トラップ送信先	
セキュリティ	認証トラップを送信する	□ 送信する
	受け付けるコミュニティ名 （コミュニティ名：権利）	
	すべてのホストから SNMP パケットを受け付ける	□ 受け付ける
	ホスト名	（指定する場合のみ）
エージェント	連絡先	
	場所	
	サービス	□ 物理　□ データリンクとサブネットワーク □ End-to-End　□ アプリケーション □ インターネット

（続く）

設定項目	選択項目
Active Directory の詳細設定 (DNS 選択時のみ)	
Active Directory をインストールする	□ インストールする
□ 新しいフォレストにドメインを作成する　□ 既存ドメインの追加ドメインコントローラにする □ 既存ドメインツリーに新しい子ドメインを作成する　□ 既存フォレストに新しいドメインツリーを作成する	
データベースのフォルダ	
ログのフォルダ	
SYSVOL フォルダの場所	
Windows 2000 以前のサーバ OS と互換性	□ 許可する
新しいフォレストにドメインを作成する（選択時のみ）	
新しいドメインの完全な DNS 名	
ドメイン NetBIOS 名	
既存ドメインの追加ドメインコントローラにする（選択時のみ）	
ユーザ名	
パスワード	
ドメイン	
既存ドメインの完全な DNS 名	
既存ドメインツリーに新しい子ドメインを作成する（選択時のみ）	
ユーザ名	
パスワード	
ドメイン	
親ドメインの完全な DNS 名	
新しい子ドメイン名	
ドメイン NetBIOS 名	
既存フォレストに新しいドメインツリーを作成する（選択時のみ）	
ユーザ名	
パスワード	
ドメイン	
新しいドメインの完全な DNS 名	
ドメイン NetBIOS 名	

OS ウィザード（Windows 2000 インストールウィザード）

設定項目		選択項目
Windows 2000 のインストール		
Administrator 用のパスワード		
コンピュータ識別情報		
OS 種別		☐ Windows 2000 Server ☐ Windows 2000 Advanced Server
ライセンスモード		☐ 接続クライアント数　☐ 同時使用ユーザ数
同時接続数		（同時使用ユーザ数選択時のみ）
参加先		☐ ワークグループ　　☐ ドメイン
ワークグループまたはドメイン名		（デフォルト―MYUSERGROUP）
コンピュータを作成するユーザアカウント	ユーザ名	（ドメイン選択時のみ）
	パスワード	（ドメイン選択時のみ）
インストール方法		☐ローカル CD からオペレーティングシステムをインストールする ☐リモートサーバからオペレーティングシステムをインストールする
リモートサーバからインストールする場合	リモートソースパス	
	リモートサーバ上のユーザ名	
	リモートサーバ上のパスワード	
タイムゾーンとインストール先ドライブ		
タイムゾーンの選択		（デフォルト―(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京）
インストール先ドライブ		☐ 既定値を使用　　☐ドライブ名
ドライブ名選択時		☐ C: ☐ D: ☐ E: ☐ F: ☐ G: ☐ H: ☐ I: ☐ J: ☐ K: ☐ L: ☐ M: ☐ N: ☐ O: ☐ P: ☐ Q: ☐ R: ☐ S: ☐ T: ☐ U: ☐ V: ☐ W: ☐ X: ☐ Y: ☐ Z:
インストール先ディレクトリ		☐ 既定値を使用する　☐ インストール中に指定する ☐ あらかじめ指定する
	インストール先	（デフォルト―¥winnt）
ユーザ情報		
名前		
組織名		
コンピュータ名		
プロダクトキー		―　―　―　―
画面の設定		
画面の領域		☐ 640 * 480　☐ 800 * 600 ☐ 1024 * 768 ☐ 1156 * 864 ☐ 1280 * 1024 ☐ 1600 * 1200
リフレッシュレート		☐ 60 ☐ 70 ☐ 72 ☐ 75 ☐ 80 ☐ 85 ☐ 100
画面の色		☐ 16 色　　☐ 256 色 ☐ High Color（16 ビット）☐ True Color（24 ビット） ☐ True Color（32 ビット）

（続く）

設定項目			選択項目
ネットワークプロトコル			
インストール方法			☐ 自動インストール ☐ ドライバのみインストール
ネットワークプロトコルのプロパティ（自動インストール選択時）			
アダプタ1	接続名		
	このアダプタにバインドするプロトコル		☐ TCP/IP　☐ NWIPX　☐ NetBEUI　☐ Apple Talk　☐ DLC ☐ NetMon　☐ PPTP
	DHCP を使用する（TCP/IP 選択時）		☐ 使用する
	使用する未選択時のみ	IP アドレス	
		サブネットマスク	
		デフォルトゲートウェイ	
		IP アドレス（追加）	（追加する時のみ）
		サブネットマスク（追加）	（追加する時のみ）
		デフォルトゲートウェイ（追加）	（追加する時のみ）
		DNS ドメイン名	（指定する時のみ）
		DNS サーバアドレス	（指定する時のみ）
		WINS を使用する	☐ 使用する
		WINS サーバアドレス	（WINS を使用する選択時のみ）
	NetBIOS オプション		☐ DHCP サーバーから NetBIOS の設定を使う ☐ NetBIOS over TCP/IP を有効にする ☐ NetBIOS over TCP/IP を無効にする
	NWIPX 選択時のみ	内部ネットワーク番号	0x
		ネットワーク番号	0x
		フレームの種類	☐ Ethernet Ⅱ　☐ Ethernet 802.2　☐ Ethernet 802.3　☐ Ethernet SNAP ☐自動検出
アダプタ2	接続名		
	このアダプタにバインドするプロトコル		☐ TCP/IP　☐ NWIPX　☐ NetBEUI　☐ Apple Talk　☐ DLC ☐ NetMon　☐ PPTP
	DHCP を使用する（TCP/IP 選択時）		☐ 使用する
	使用する未選択時のみ	IP アドレス	
		サブネットマスク	
		デフォルトゲートウェイ	
		IP アドレス（追加）	（追加する時のみ）
		サブネットマスク（追加）	（追加する時のみ）
		デフォルトゲートウェイ（追加）	（追加する時のみ）
		DNS ドメイン名	（指定する時のみ）
		DNS サーバアドレス	（指定する時のみ）
		WINS を使用する	☐ 使用する
		WINS サーバアドレス	（WINS を使用する選択時のみ）
	NetBIOS オプション		☐ DHCP サーバーから NetBIOS の設定を使う ☐ NetBIOS over TCP/IP を有効にする ☐ NetBIOS over TCP/IP を無効にする
	NWIPX 選択時のみ	内部ネットワーク番号	0x
		ネットワーク番号	0x
		フレームの種類	☐ Ethernet Ⅱ　☐ Ethernet 802.2　☐ Ethernet 802.3　☐ Ethernet SNAP ☐自動検出

※ 複数のアダプタをインストールする場合は、コピーしてください。

（続く）

設定項目		選択項目
ソフトウェアコンポーネント		
インストール方法の選択		□ 標準コンポーネントをインストールする □ インストールするコンポーネントを選択する
インストールするコンポーネントを選択する時のみ	サービス	□（IIS の）共通コンポーネント □（IIS の）オンラインヘルプ □ FTP（File Transfer Protocl）サーバ □ インターネット サービス マネージャ（HTML） □ インターネット インフォメーション サービス スナップ イン □ NNTP Service □ SMTP Service □ WWW（World Wide Web）サーバー □ リモート インストール サービス □ リモート記憶域 □ ターミナル サービス □ ターミナル サービス ライセンス □ ターミナル サービス クライアントクリエータファイル □ インデックス サービス □ COM インターネット サービス プロキシ □ FrontPage 2000 Server Extensions □ 証明書サービス □ 証明書サービス WEB 登録のサポート □ 証明書サービス CA
	FTP サイトのディレクトリ （FTP 選択時のみ）	（デフォルト－ ¥Inetpub¥Ftproot）
	WWW サーバーのディレクトリ （WWW 選択時のみ）	（デフォルト―¥Inetsrv¥WWWroot）
	通信	□ ハイパーターミナル　□ ダイヤラ □ チャット　□ メッセージキューサービス □ そのほかのネットワークファイルと印刷サービス
	マルチメディア	□ CD プレーヤー　□ メディアプレーヤー □ ユートピアサウンド設定　□ サウンドレコーダー □ ボリュームコントロール　□ サンプルサウンド
	アクセサリ	□ ユーザ補助の設定ウィザード　□ 文字コード表 □ 電卓　□ ペイント □ ワードパッド　□ ドキュメントテンプレート □ スクリプトデバッガ　□ オブジェクトパッケージャ □ デスクトップの壁紙　□ マウスポインタ
	ゲーム	□ フリーセル □ マインスイーパ □ ピンボール □ ソリティア
サービス		
サービス		□ 簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP） □ ドメインネームシステム（DNS） □ 動的ホスト構成プロトコル（DHCP） □ Windows インターネットネームサービス（WINS） □ 簡易 TCP/IP サービス　□ ネットワーク モニタ ツール □ インターネット認証サービス　□ Site Server ILS サービス □ UNIX 用印刷サービス　□ Macintosh 用印刷サービス □ 接続マネージャコンポーネント　□ Macintosh 用ファイルサービス

（続く）

設定項目		選択項目
SNMP の詳細（SNMP 選択時のみ）		
トラップ	コミュニティ名	
	トラップ送信先	
セキュリティ	認証トラップを送信する	□ 送信する
	受け付けるコミュニティ名 （コミュニティ名：権利）	
	すべてのホストから SNMP パケットを受け付ける	□ 受け付ける
	ホスト名	（指定する場合のみ）
エージェント	連絡先	
	場所	
	サービス	□ 物理　□ データリンクとサブネットワーク □ End-to-End　□ アプリケーション □ インターネット
Active Directory の詳細設定（DNS 選択時のみ）		
Active Directory をインストールする		□ インストールする
□ ドメインツリーの新しいフォレストを作成する　□ 既存ドメインの追加ドメインコントローラを追加する □ 既存ドメインツリーに新しい子ドメインを追加する　□ 既存フォレストに新しいドメインツリーを配置する		
データベースの場所		
ログの場所		
Sysvol フォルダの場所		
Windows 2000 以前のサーバと互換性がある アクセス許可		□ 許可する
ドメインツリーの新しいフォレストを作成する（選択時のみ）		
新しいツリーの完全な DNS 名		
ドメイン NetBIOS 名		
既存ドメインの追加ドメインコントローラを追加する（選択時のみ）		
ユーザ名		
パスワード		
ドメイン名		
ドメインの完全な DNS 名		
既存ドメインツリーに新しい子ドメインを追加する（選択時のみ）		
ユーザ名		
パスワード		
ドメイン名		
親ドメイン名		
子ドメイン名		
ドメイン NetBIOS 名		
既存フォレストに新しいドメインツリーを配置する（選択時のみ）		
ユーザ名		
パスワード		
ドメイン名		
新しいツリーの完全な DNS 名		
ドメイン NetBIOS 名		

OS ウィザード（Windows NT 4.0 インストールウィザード）

設定項目		選択項目
コンピュータ情報		
コンピュータ種別		□ ワークグループサーバ　□ ドメインサーバ □ プライマリドメインコントローラ □ バックアップドメインコントローラ
ワークグループまたはドメイン名		（デフォルト―MYUSERGROUP）
コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント	ユーザ名	
	パスワード	
ライセンスモード		□ 接続クライアント数　□ 同時使用ユーザ数
同時接続数		（同時使用ユーザ数選択時のみ）
インストール先ディレクトリとタイムゾーン		
インストール先ドライブ		□ 既定値を使用する　□ ドライブ名
	ドライブ名	
インストール先ディレクトリ		□ 一意の名前を作成する　□ インストール時に指定する □ インストール先を指定する
	ディレクトリ	
ファイルシステムを NTFS へ変換する		□ する
タイムゾーンの選択		（デフォルト―(GMT+09:00) 東京、大阪、札幌、ソウル、ヤクーツク）
ユーザ情報		
ユーザ名		（英数半角 50 文字まで 全角使用可）
組織名		（英数半角 50 文字まで 全角使用可）
コンピュータ名		（英数半角 50 文字まで）
プロダクト ID ／ CD キー		□　- OEM -　―　□　―
画面の設定		
色数		□ 16 色　□ 256 色 □ High Color（16 ビット）　□ True Color（24 ビット） □ True Color（32 ビット）
デスクトップ領域（ピクセル）		□ 640 * 480　□ 800 * 600　□ 1024 * 768　□ 1156 * 864 □ 1280 * 1024 □ 1600 * 1200
リフレッシュレート（Hz）		□ 60 □ 70 □ 72 □ 75 □ 80 □ 85 □ 100

（続く）

設定項目				選択項目
ネットワークプロトコル				
手動でネットワークの設定を行う				□ 行う
プロトコル				□ NetBEUI プロトコルのインストール □ NWLink IPX/SPX 互換互換トランスポートのインストール □ TCP/IP プロトコルのインストール □ DLC プロトコルのインストール □ RAS Point to Point Tunneling プロトコルのインストール □ Streams 環境のインストール
TCP/IP パラメータ（TCP/IP プロトコルのインストール選択時）				
DHCP を使用する				□ する
ネットワークインタフェース	1		NetBios over TCP/IP 用コンピュータスコープ識別子	
		DHCP を未使用時	IP アドレス	
			サブネットマスク	
			デフォルトゲートウェイ	
			DNS サーバ 1	
			DNS サーバ 2	
			DNS サーバ 3	
			WINS プライマリ	
			WINS セカンダリ	
			DNS ドメイン名	
	2		NetBios over TCP/IP 用コンピュータスコープ識別子	
		DHCP 未使用時	IP アドレス	
			サブネットマスク	
			デフォルトゲートウェイ	
			DNS サーバ 1	
			DNS サーバ 2	
			DNS サーバ 3	
			WINS プライマリ	
			WINS セカンダリ	
			DNS ドメイン名	

※ 3 枚以上のネットワークカードを利用する場合は、コピーしてください。

（続く）

設定項目			選択項目
サービスの設定			
サービス			☐ SNMP サービス　☐リモートアクセスサービス ☐ Microsoft DHCP サーバー　☐ Microsoft DNS サーバー ☐ Windows インターネットネームサービス ☐簡易 TCP/IP サービス　☐ SAP エージェント ☐ネットワークモニタツールとエージェント ☐ Microsoft TCP/IP 印刷 ☐ Gateway（and Client）Services for NetWare
SNMP の設定（選択時のみ）			
トラップ	コミュニティ名		
	トラップ送信先		
セキュリティ	認証トラップを送信する		☐ する
	受け付けるコミュニティ名		（デフォルト―public）
	すべてのホストから SNMP パケットを受け付ける		☐ 受け付ける
	次のホストから SNMP パケットを受け付ける		
エージェント	連絡先		
	場所		
	サービス		☐ 物理層　☐ データリンク / アプリケーション ☐ エンド ツー エンド　☐ アプリケーション ☐ インターネット

（続く）

設定項目		選択項目
リモートアクセスサービスの設定（選択時）		
ポート使用の構成	ポート	☐ COM1　☐ COM2　☐ COM3-COM25
	デバイス	☐ Modem
	ポートの使い方	☐ ダイアルアウトのみ　☐ 着信のみ ☐ ダイアルアウトと着信
RAS パラメータ	ダイアルアウトプロトコル	☐ TCP/IP　☐ IPX ☐ NETBEUI　☐ ALL
RAS サーバの設定	次のリモートクライアントを許可する	☐ TCP/IP　☐ IPX ☐ NETBEUI　☐ ALL
	リモート NetBEUI クライアントにアクセスを許可する	☐ ネットワーク全体　☐ このコンピュータのみ
	リモート TCP/IP クライアントにアクセスを許可する	☐ ネットワーク全体　☐ このコンピュータのみ
リモート TCP/IP クライアントのアドレス割り当てに DHCP を使う		☐ 使う
使う未選択時	静的アドレスプールの開始アドレス StaticAddressBegin	
	静的アドレスプールの終了アドレス StaticAddressEnd	
	割り当て範囲除外	
リモートクライアントに事前で定めた IP アドレスの要求を許可する		☐ 許可する
リモート IPX クライアントにアクセスを許可する		☐ ネットワーク全体　☐ このコンピュータのみ
自動的にネットワーク番号を割り当てる		☐ 割り当てる
ネットワークの開始番号		（割り当てる未選択時）
すべての IPX クライアントに同じネットワーク番号を割り当てる		☐ 割り当てる
リモートクライアントに IPX ノード番号での接続を許可する		☐ 許可する
Microsoft Internet Information Server		
Internet Information Server のインストール		☐ する
ディレクトリ		（デフォルト―C:￥Inetsrv）
FTP サービスのインストール		☐ する
ルートディレクトリ		（ディフォルト―C:￥Inetsrv￥FTPRoot）
Word Wide Web サービスのインストール		☐ する
ルートディレクトリ		（デフォルト―C:￥Inetsrv￥WWWRoot）
Gopher サービスのインストール		☐ する
ルートディレクトリ		（デフォルト―C:￥Inetsrv￥GopherRoot）
WWW サービスサンプルのインストール		☐ する
インターネットサービスマネージャのインストール		☐ する
HTMLA のインストール		☐ する

アプリケーションウィザード

設定項目		選択項目
アプリケーション		☐ WizardConsol ☐ Windows NT 4.0 / Windows 2000 サービスパック ☐ ServerView ☐ FM Advisor ☐ DSNAP ☐ PROBEPRO
追加ソフトウェアのインストールコマンド		（追加ソフトウェア選択時のみ）
インストール方法		☐ローカルアプリケーションをインストールする ☐リモートサーバからアプリケーションをインストールする
リモートサーバからインストールを行う場合	リモートリソースパス	
	リモートサーバ上のユーザ名	
	リモートサーバ上のパスワード	

サーバアプリケーションセットアップウィザード

設定項目	選択項目
サーバアプリケーション	☐ PowerChute plus ☐ ServerProtect ☐ BrightStor ARCserve Backup

クライアント一括導入ウィザード（クライアントシステム設計）

設定項目	選択・指定項目		
OU の指定	☐ OU を作成する		
作成する場合	組織名（OU 名）		
コンピュータアカウントの作成	コンピュータ名	OS	IP アドレス
		☐ Win95　☐ Win98 ☐ WinMe　☐ NT WS ☐ NT BDC　☐ Win2K ☐ WinXP	☐ DHCP ☐手動設定　　．　．　． サブネットマスク　　．　．　． デフォルトゲートウェイ　．　．　．
		☐ Win95　☐ Win98 ☐ WinMe　☐ NT WS ☐ NT BDC　☐ Win2K ☐ WinXP	☐ DHCP ☐手動設定　　．　．　． サブネットマスク　　．　．　． デフォルトゲートウェイ　．　．　．
		☐ Win95　☐ Win98 ☐ WinMe　☐ NT WS ☐ NT BDC　☐ Win2K ☐ WinXP	☐ DHCP ☐手動設定　　．　．　． サブネットマスク　　．　．　． デフォルトゲートウェイ　．　．　．
		☐ Win95　☐ Win98 ☐ WinMe　☐ NT WS ☐ NT BDC　☐ Win2K ☐ WinXP	☐ DHCP ☐手動設定　　．　．　． サブネットマスク　　．　．　． デフォルトゲートウェイ　．　．　．
		☐ Win95　☐ Win98 ☐ WinMe　☐ NT WS ☐ NT BDC　☐ Win2K ☐ WinXP	☐ DHCP ☐手動設定　　．　．　． サブネットマスク　　．　．　． デフォルトゲートウェイ　．　．　．
		☐ Win95　☐ Win98 ☐ WinMe　☐ NT WS ☐ NT BDC　☐ Win2K ☐ WinXP	☐ DHCP ☐手動設定　　．　．　． サブネットマスク　　．　．　． デフォルトゲートウェイ　．　．　．
グループの作成	グループ名	説明	

※上記では次のように表記しています。　（続く）

Windows 95　→ Win95
Windows 98　→ Win98
Windows Me　→ WinMe
Windows NT WS → NTWS
Windows NT Server（バックアップドメインコントローラの場合）
　→ NT BDC
Windows 2000 → Win2K
Windows XP　→ WinXP

設定項目	選択・指定項目		
ユーザアカウントの作成	ユーザ名	フルネーム	説明
共有資源の設定	共有名	ディレクトリ名	説明

＊グループの作成、ユーザアカウントの作成、共有資源の設定における「説明」は省略できます。
＊ユーザアカウントの作成における「フルネーム」は省略できます。
＊共有資源の設定における「ディレクトリ」は必ず設定してください。

クライアント一括導入ウィザード（クライアントセットアップ）

設定項目				選択・指定項目
動作環境設定				
共有ディレクトリ				（デフォルト－［SwAplDrv］¥Swrsinst）
共有名				（デフォルト－ SWRSINST）
セットアップ資源の登録				□システム導入時に ServerStart から資源を登録
				□システム導入後に WizardConsole から資源を登録
セットアップ情報の設定				
セットアップ資源の追加				□アプリケーション　□ファイル　□実行コマンド
アプリケーション	一覧から選択			□する　□しない
	する選択時	資源識別名		
		説明		
		サーバドライブ指定		□する　□しない
		する選択時	資源格納元フォルダ名	
			ボリュームラベルチェック	□する　□しない
			する選択時	ボリュームラベル名
			特定ファイルチェック	□する　□しない
			する選択時	ファイル名
			複数媒体の使用	□する　□しない
			する選択時	媒体枚数
				媒体ごとにサブフォルダを作成
		UNC パス指定		□する　□しない
		する選択時	資源格納元 UNC パス名	
			ユーザ名	
			パスワード	
	アプリケーション固有情報			
	しない選択時	説明		
		サーバドライブ指定		□する　□しない
		する選択時	資源格納元フォルダ名	（デフォルト－［CD-ROM］）
			ボリュームラベルチェック	□する　□しない
			する選択時	ボリュームラベル名
			特定ファイルチェック	□する　□しない
			する選択時	ファイル名
			複数媒体の使用	□する　□しない
			する選択時	媒体枚数
				媒体ごとにサブフォルダを作成

（続く）

設定項目					選択・指定項目
アプリケーション	しない選択時	UNC パス指定			□する　□しない
		する選択時	資源格納元 UNC パス名		
			ユーザ名		
			パスワード		
		インストーラタイプ			□従来インストーラ製品　□ Windows インストーラ製品
		従来インストーラ製品選択時	インストーラ起動コマンド		
			インストーラ起動パラメタ		
			インストーラ起動コマンドフォルダを作業フォルダとして実行		□する　□しない
			セットアップ時にスクリプトを使用する		□する　□しない
			する選択時	スクリプトファイル名	
				起動方法	（デフォルト－ mtrun [SW_COMMAND]）
		インストーラ製品選択時	Windows インストーラパッケージ		
			インストール ユーザインタフェース		□進行状況とエラーだけを表示
					□対話インストール
ファイル	ファイル資源識別名				
	説明				
	資源格納元情報				□ファイル　□フォルダ配下のすべてのファイル
	ファイル格納元パス				（デフォルト－ [CD-ROM]）
	セットアップ先パス名				
	同一ファイルが存在している場合				□置換する　□置換しない　□ファイルの後ろに追加する
実行コマンド	実行コマンド資源識別名				
	説明				
	実行コマンド格納元パス名				（デフォルト－ [CD-ROM]）
	起動方法				（デフォルト－ mtrun [SW_COMMAND]）

《留意事項》

クライアントセットアップ機能の使用を「しない」と選択した場合はその時点で終了です。
ここでクライアント機能の使用を「する」と選択しないと、クライアントセットアップ機能は使用できません。
クライアントセットアップ機能を使用する場合は必ずセットアップ資源を追加しなくてはなりません。
追加できるセットアップ資源は 64 個までです。

クライアント一括導入ウィザード（デスクトップ設計）

設定項目			選択項目
デスクトップ名			
説明			
グループ一覧から有効とするグループ名			
初期メニュー			
Windows 標準			□する　□しない
Web メニュー			□する　□しない
する選択時のみ	Web メニューファイル名		
	Active Desktop の Web ページを追加する（IE4.0 以降有効）		□する　□しない
	Internet Explorer を起動する		□する　□しない
	する選択時のみ	起動オプション	
		ホームページに設定する	□する　□しない
カスタムメニュー			□する　□しない
する選択時のみ	メニューコマンド		
デスクトップ操作性			
デスクトップ上のすべてのオブジェクトアイコン			□デスクトップ上のすべてのオブジェクトアイコンを隠す □ Active Desktop の Web ページを隠さずにオブジェクトアイコンを隠す（Internet Explorer 4.0 以降有効）
タスクバーを隠す			□する　□しない
ログオン時に起動するアプリケーション			□する　□しない
する選択時のみ	起動するアプリケーション		
［アプリケーションの追加と削除］を無効にする			□する　□しない
マイドキュメントフォルダの設定			□する　□しない
する選択時のみ	フォルダの場所		
設定制限			
スタートメニュー			□［設定］からフォルダを削除 □［設定］から［タスクバー］を削除
コントロールパネル			□［画面］を使用不可にする　□ ネットワーク］を使用不可にする □［パスワード］を使用不可にする □［プリンタ］を使用不可にする □［システム］を使用不可にする
その他			□ レジストリ編集ツールを使用不可にする □ 終了時に設定を保存しない

（続く）

設定項目	選択項目			
操作制限				
スタートメニュー	□［ファイル名を指定して削除］を削除 □［検索］コマンドを削除 □ 共通プログラムグループを削除			
ファイルアクセス操作	□［マイコンピュータ］からドライブを隠す □［ネットワークコンピュータ］を隠す □［ネットワークドライブの割り当て］と［ネットワークドライブの切断］を削除			
実行操作	□［MS-DOS プロンプト］を使用不可にする □ タスクマネージャを使用不可にする □ 許可されたプログラムだけ実行			
プログラム	（許可されたプログラムだけ実行選択時のみ）			
不要キー抑止				
抑止設定キー一覧				

≪留意事項≫

デスクトップ環境を設定後、グループ一覧から有効とするグループを選択してください。

付録 B

OS の手動インストール

この章では、ServerStart を使用せずに、OS インストールタイプの開封、または OS をインストールする方法について説明しています。

B.1 OS インストールタイプの手動開封 316
B.2 手動インストール前の確認 321
B.3 〔BX300〕手動インストールの開始 328
B.4 〔H450 ／ R450〕手動インストールの開始 336
B.5 〔RX300〕手動インストールの開始 347
B.6 〔TX200〕手動インストールの開始 354
B.7 〔RX200〕手動インストールの開始 365
B.8 〔TX150〕手動インストールの開始 373
B.9 〔RX100〕手動インストールの開始 384
B.10 手動インストール後の処理 391

B.1 OS インストールタイプの手動開封

OS インストールタイプを手動で開封する場合は、以下の手順で行ってください。

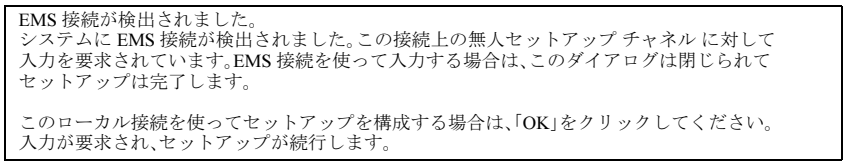
B.1.1 Windows Server 2003 の手動開封

以下の手順に従って、Windows Server 2003 のセットアップを行ってください。開封時の設定の詳細については『ファーストステップガイド』を参照してください。

1 サーバの電源を入れ、「Please insert a ServerStart CD-ROM.Press [Ctrl] + [Alt] + [Del] to restart.」のメッセージが表示されたら【Enter】キーを押します。

●BX300 の場合

EMS が検出されます。以下のメッセージが表示されたら［OK］をクリックします。



Windows Server 2003 セットアップが起動し、「Windows セットアップウィザードの開始」画面が表示されます。

2 ［次へ］をクリックします。

ライセンス契約の画面が表示されます。

3 表示された使用許諾契約の内容をよく読んだ上で、［同意します］を選択して［次へ］をクリックします。

ソフトウェアの個人用設定の画面が表示されます。

4 名前と組織名を入力し［次へ］をクリックします。

組織名は省略できます。

ライセンスモードが表示されます。

5 設定を変更せずに［次へ］をクリックします。

6 コンピュータ名と Administrator のパスワードを入力し、［次へ］をクリックします。

コンピュータ名は自動的に作成されて表示されますが、変更できます。

7 ネットワークの設定を行い、［次へ］をクリックします。

「カスタム設定」を選択した場合は、「ネットワーク コンポーネントの設定」画面が表示されます。

8 ワークグループ、またはドメイン名の設定を行い、［次へ］をクリックします。

9 **自動的に再起動が行われ、Windows Server 2003 が起動します。**
これで Windows Server 2003 の開封作業は終了です。
初回起動時は、必ず Administrator でログオンしてコンピュータを再起動してから運用を開始してください。

サーバの運用を開始する前に、「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。また、「第 5 章 高信頼ツール」（→ P.145）を参照し、高信頼ツールの導入を行ってください。

B.1.2 Windows 2000 Server の手動開封

以下の手順に従って、Windows 2000 Server のセットアップを行ってください。開封時の設定の詳細については『ファーストステップガイド』を参照してください。

1 **サーバの電源を入れ、「Please insert a ServerStart CD-ROM.Press [Ctrl] + [Alt] + [Del] to restart.」のメッセージが表示されたら【Enter】キーを押します。**
Windows 2000 Server セットアップが起動します。

2 **［次へ］をクリックして、セットアップを続行します。**
ライセンス契約の画面が表示されます。

3 **表示された使用許諾契約の内容をよく読んだ上で、［同意します］を選択して［次へ］をクリックします。**

4 **名前と組織名を入力し、［次へ］をクリックします。**
組織名は省略できます。

5 **プロダクト ID を入力します。**
本体側面（BX300 の場合はシャーシ上部またはサーバブレードの添付品）に貼付されている「Certificate of Authenticity」のバーコード上に印刷されている番号（プロダクト ID）を入力し、［次へ］をクリックします。
ライセンスモードが表示されます。

6 **設定を変更せずに［次へ］をクリックします。**

7 **コンピュータ名と、Administrator のパスワードを設定し、［次へ］をクリックします。**
コンピュータ名は自動的に作成され表示されますが、変更できます。

8 **ネットワークの設定を行います。**
「カスタム設定」を選択した場合は、「ネットワークコンポーネントの設定」画面が表示されます。設定を行って［次へ］をクリックします。

9 **ワークグループ、またはドメイン名の設定を行い、［次へ］をクリックします。**
セットアップが開始されます。

10 **完了画面が表示されたら、[完了] をクリックします。**
システムが再起動します。これで Windows 2000 Server の開封作業は終了です。

サーバの運用を開始する前に、「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。また、「第 5 章 高信頼ツール」（→ P.145）を参照し、高信頼ツールの導入を行ってください。

B.1.3 Windows NT Server 4.0 の手動開封

以下の手順に従って、Windows NT Server 4.0 のセットアップを行ってください。開封時の操作の詳細については、『ファーストステップガイド』を参照してください。

重要

- **開封作業中は、特に指示がない限りフロッピーディスクおよび CD-ROM をセットしないでください。**
- **ハードウェア構成を変更する場合は、開封作業完了後に行ってください。**
- **ネットワークアダプタの組み込み画面で、オンボード LAN のドライバを手動で組み込む必要があります。オンボード LAN に対応したドライバを「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照して、事前に作成しておいてください。このときに、ネットワークアダプタの自動検出を行うとシステム異常が発生し、開封できなくなる場合があります。**

1 **サーバの電源を入れます。**
Windows NT Server 4.0 セットアップが自動的に始まります。

2 **ソフトウェア使用許諾契約に同意します。**
表示された使用許諾契約の内容をよく読んだ上で、[同意します] をクリックします。

3 **名前と組織名を入力します。**
名前と組織名を入力し、[次へ] をクリックします。組織名は省略できます。

4 **プロダクト ID を入力します。**
「Microsoft Windows NT Certificate of Authenticity」のバーコード上に印刷されている番号（プロダクト ID）を入力し、[次へ] をクリックします。

5 **コンピュータ名を入力します。**
コンピュータ名を入力し、[次へ] をクリックします。

6 **サーバの種類を選択します。**
以下のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

> システム管理者またはコンピュータの製造元によって指定されたセットアップパラメータが、存在しないかまたは無効です。この情報を入力するよう求められます。
>
> 必要な情報を入力すると、無人セットアップは続行します。
>
> システム管理者またはコンピュータの製造元に 'advservertype' の値が存在しないかまたは無効であることを報告してください。

サーバの種類を選択する画面が表示されます。
インストールするサーバの種類を選択し、[次へ] をクリックします。

7 **管理者アカウントのパスワードを入力します。**
管理者（Administrator）のパスワードを入力し、［次へ］をクリックします。

8 **Windows NT ネットワークをインストールします。**
ネットワークインストールの開始を確認する画面が表示されます。［次へ］をクリックします。

9 **ネットワークへの参加方法を選択します。**
●「サーバーの種類」で「プライマリ ドメインコントローラ」または「バックアップ ドメインコントローラ」を選択した場合
「ネットワークに接続」を選択し、［次へ］をクリックします。
●「サーバーの種類」で「スタンドアロンサーバー」を選択した場合
「ネットワークに参加する」をクリックし、「ネットワークに接続」を選択して、［次へ］をクリックします。

10 **Microsoft Internet Information Server をインストールします。**
Microsoft Internet Information Server をインストールする場合は、「Microsoft Internet Information Server をインストールする」を選択し、［次へ］をクリックします。

11 **ネットワークアダプタを組み込みます。**
事前に作成したドライバディスクを使用して、LAN ドライバを組み込みます。

重 要

- **［検索開始］は絶対にクリックしないでください。［検索開始］をクリックすると、致命的なエラーが発生する場合があります。致命的なエラーが発生した場合は再インストールが必要です。**

12 **ネットワークプロトコルを組み込みます。**
インストールするプロトコルを選択し、［次へ］をクリックします。
Microsoft Internet Information Server をインストールした場合は「TCP/IP プロトコル」は必須です。

13 **ネットワークサービスを選択します。**
Microsoft Internet Information Server をインストールした場合は、「Microsoft Internet Information Server 2.0」が表示されます。
インストールするプロトコルを選択し、［次へ］をクリックします。

14 **ネットワークコンポーネントをインストールします。**
［次へ］をクリックします。
ネットワークプロトコルに TCP/IP をインストールした場合は「TCP/IP セットアップ」のメッセージ画面が表示されます。DHCP サーバを使用する場合は［はい］をクリックします。
「TCP/IP のプロパティ」画面が表示されます。IP アドレス／サブネットマスクなどを設定して、［OK］をクリックします。複数の LAN カードを搭載している場合は、各 LAN カードごとに設定が必要です。

15 ネットワークのバインドを行います。

［次へ］をクリックし、ネットワークのバインドを行います。

16 ネットワークを起動します。

［次へ］をクリックし、ネットワークを起動します。

17 ドメインとサーバを指定します。

サーバの種類によって、操作が異なります。

●「サーバーの種類」で「プライマリ ドメインコントローラ」を選択した場合

ドメインコントローラが管理するドメイン名を指定します。ここで指定するドメイン名は、ネットワーク上で一意である必要があります。

ドメイン名を指定後、［次へ］をクリックします。

●「サーバーの種類」で「バックアップ ドメインコントローラ」を選択した場合

ネットワーク上で動作中のプライマリ ドメインコントローラのドメイン名を指定します。

ドメイン名を指定後、［次へ］をクリックします。

●「サーバーの種類」で「スタンドアロン サーバー」を選択した場合

ドメインに所属するか、ワークグループに所属するかを選択し、ドメイン名かワークグループ名を入力します。ドメイン名は、ネットワーク上に存在するプライマリドメインコントローラのドメイン名を入力してください。また、ワークグループ名は、すでに存在するワークグループ名（そのワークグループに所属します）か、ネットワーク上で一意のワークグループ名を入力します。

ドメイン名またはワークグループ名を入力後、［次へ］をクリックします。

18 コンピュータを再起動します。

再起動を促す画面が表示されたら、コンピュータを再起動します。

19 管理者権限でログオンします。

管理者権限でログオンすると、Internet Explorer のセットアップが行われます。

セットアップが終了すると自動的に再起動されます。

20 管理者権限でログオンします。

これで Windows NT Server 4.0 のセットアップは終了です。

サーバの運用を開始する前に、「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。また、「第 5 章 高信頼ツール」（→ P.145）を参照し、高信頼ツールの導入を行ってください。

B.2 手動インストール前の確認

OS を手動でインストールする場合は、事前に以下の事項をよくお読みください。

POINT

- お使いの機種ではサポートされていないカード情報、OS 情報も記載されています。お使いの機種の環境をご確認の上、必要な注意事項について確認してください。

B.2.1 OS 共通注意事項

■ オンボード IDE アレイコントローラ使用時の注意

● オンボード IDE アレイコントローラの接続確認

OS をインストールする前にオンボード IDE アレイコントローラ配下にアレイ構成が作成されていることが必要です。ハードディスクユニットを 1 台だけ搭載している場合は、RAID 0 のアレイを構成してください。RAID 1 のアレイを構成する場合は、アレイを構成したあと、必ずハードディスクの初期化を行ってください。
ハードディスクの初期化はバックグラウンド処理で行うこともできます。アレイ構成の作成方法およびハードディスクの初期化については、『ハードウェアガイド 第 5 章 ハードウェアの設定について』を参照してください。

■ IDE アレイコントローラカード／オンボード IDE アレイコントローラ使用時の注意

● IDE アレイコントローラカードの設定確認

OS をインストールする前に、IDE アレイコントローラのコンフィグレーションが終了しており、IDE アレイコントローラ配下のシステムドライブの初期化が終了している必要があります。

■ SCSI アレイコントローラカード使用時の注意

● SCSI アレイコントローラカードの接続確認

OS をインストールする前に、SCSI アレイコントローラカードのコンフィグレーションが終了しており、SCSI アレイコントローラカード配下のシステムドライブの初期化が終了している必要があります。

● SCSI アレイコントローラカードの設定（Advanced Functions）確認

SCSI アレイコントローラカード配下のシステムドライブの初期化や、各カードのユーティリティの起動方法および設定の確認方法については、拡張カードに添付の取扱説明書を参照してください。

・PG-140C ／ PG-140CL ／ PG-142B ／ PG-142C の場合
Storage Manager on ROM（SMOR）を起動して確認します。

POINT

- RX300 ／ TX200 ／ RX200 をお使いの場合は、【Alt】＋【D】キーを押して Storage Manager on ROM(SMOR) を起動します。

・PG-144C の場合
EzAssist ユーティリティを起動して確認します。

■ ハードウェアの設定

『ハードウェアガイド 第 5 章 ハードウェアの設定について』を参照し、BIOS セットアップユーティリティなど、ハードウェアの設定、および確認を行ってください。

重 要

- Windows NT Server 4.0 では、ハイパー・スレッディング機能はサポートしていません。Windows NT Server 4.0 をご使用になる場合は、インストールの前に BIOS セットアップユーティリティを起動し、「Hyper-Threading」項目（機種によっては「HyperThreading」、「Hyper-Threading Technology」）を、必ず「Disabled」に設定してください。
  BIOS セットアップユーティリティの設定方法など、詳細については『ハードウェアガイド 第 5 章 ハードウェアの設定』を参照してください。

● CD-ROM ブートの確認

Windows 2003 ／ Windows 2000 の場合は、BIOS 設定で、CD-ROM ブートが可能であることを確認してください。

■ ブート OS のインストール先

ブート OS は、必ず内蔵ハードディスクユニットにインストールしてください。

● SBS 2000 の場合

SBS 2000 をインストールする場合は、ハードディスクに 4GB 以上の空き容量が必要です。

■ インストールに必要な容量

OS をインストールするパーティションサイズには、メモリダンプの取得に必要な空き容量を考慮する必要があります。詳細は、「4.1 メモリダンプ／ページングファイルの 設定」（→ P.116）を参照してください。

■ 拡張カード搭載時の注意

拡張カードを使用する場合は、各種拡張カードの留意事項を必ずお読みください。

■ 外部 SCSI オプション装置搭載時の注意

SCSI カードまたは SCSI アレイコントローラカードを搭載して、SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニット、DAT など）を増設する場合は、OS のインストールが終了してから接続してください。OS のインストールが終了する前に接続すると、ドライブ文字が正しく割り当てられない場合があります。詳細は、『トラブルシューティング』を参照してください。

■ 再起動時の注意

- インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するようにメッセージが表示されます。
  Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server の場合、自動的に再起動するのを待ってください。Windows NT Server 4.0 の場合は、1 分ほど待ってから、再起動してください。
- アレイコントローラカードの機能であるバックグラウンド初期化処理中は、ハードディスクのアクセスランプが点灯していますが、再起動は可能です。バックグラウンド初期化処理については、各アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照してください。なお、電源は切らないでください。バックグラウンド初期化中に電源を切る必要がある場合は、アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照してください。

■ メモリ搭載時の注意

使用する OS によって搭載可能容量が異なります。また、サーバは、一部のメモリ領域を PCI リソースに使用するため、使用可能容量に制限があります。
以下にメモリの搭載可能容量と使用可能容量を示します。
なお、お使いの機種の最大搭載メモリ容量については、『ハードウェアガイド 第 7 章 技術情報』を参照してください。

● H450 ／ R450 の場合

OS	搭載メモリ容量	使用可能メモリ容量
Windows NT Server 4.0 （*1） Windows 2000 Server（*1） Windows Server 2003（*1）	～ 3.0GB	搭載メモリ容量と同じ
	3.5 ～ 4.0GB	搭載メモリ容量－（0.1 ～ 0.75GB）（*2）
Windows 2000 Advanced Server	～ 3.0GB	搭載メモリ容量と同じ
	3.5 ～ 8.0GB	搭載メモリ容量－（0.1 ～ 0.75GB）（*2）
Windows Server 2003, Enterprise Edition	～ 3.0GB	搭載メモリ容量と同じ
	3.5 ～ 16.0GB	搭載メモリ容量－（0.1 ～ 0.75GB）（*2）

*1 Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server ／ Windows NT Server 4.0 は、最大 4GB までサポートします。

*2 PCI リソースとして 0.1 ～ 0.75GB 使用するので、搭載するカードの種類によって使用可能メモリは変動します。

● RX300 の場合

OS	搭載メモリ容量	使用可能メモリ容量
Windows 2000 Server（*1） Windows Server 2003（*1）	～ 3.1GB	搭載メモリ容量と同じ
	3.1 ～ 4.0GB	3.1 ～ 3.9GB（*2）
Windows 2000 Advanced Server Windows Server 2003, Enterprise Edition	～ 3.1GB	搭載メモリ容量と同じ
	3.1 ～ 4.0GB	3.1 ～ 3.9GB（*2）
	4.0 ～ 6.0GB	搭載メモリ容量－（0.1 ～ 0.9GB）（*2）

*1Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server は、最大 4GB までサポートします。
*2 PCI リソースとして 0.1 ～ 0.9GB 使用するので、搭載するカードの種類によって使用可能メモリは変動します。

● TX200 の場合

OS	搭載メモリ容量	使用可能メモリ容量
Windows NT Server 4.0 （*1） Windows 2000 Server（*1） Windows Server 2003（*1）	～ 3.4GB	搭載メモリ容量と同じ
	3.4 ～ 4.0GB	3.4 ～ 3.9GB（*2）
Windows 2000 Advanced Server Windows Server 2003, Enterprise Edition	～ 3.4GB	搭載メモリ容量と同じ
	3.4 ～ 4.0GB	3.4 ～ 3.9GB（*2）
	4.0 ～ 6.0GB	搭載メモリ容量－（0.1 ～ 0.6GB）（*2）

*1 Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server ／ Windows NT Server 4.0 は、最大 4GB までサポートします。
*2 PCI リソースとして 0.1 ～ 0.6GB 使用するので、搭載するカードの種類によって使用可能メモリは変動します。

● RX200 の場合

OS	搭載メモリ容量	使用可能メモリ容量
Windows 2000 Server（*1） Windows Server 2003（*1）	～ 3.5GB	搭載メモリ容量と同じ
	3.5 ～ 4.0GB	搭載メモリ容量－（～ 0.5GB）（*2）
Windows 2000 Advanced Server Windows Server 2003, Enterprise Edition	～ 3.5GB	搭載メモリ容量と同じ
	3.5 ～ 6.0GB	搭載メモリ容量－（～ 0.5GB）（*2）

*1Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server は、最大 4GB までサポートします。
*2 PCI リソースとして 0.1 ～ 0.9GB 使用するので、搭載するカードの種類によって使用可能メモリは変動します。

● BX300 ／ TX150 ／ RX100 の場合

OS	搭載メモリ容量	使用可能メモリ容量
Windows NT Server 4.0 （*1） Windows 2000 Server（*1） Windows Server 2003（*1）	～ 3.25GB	搭載メモリ容量と同じ
	3.25 ～ 4.0GB	3.25 ～ 3.9GB（*2）
Windows 2000 Advanced Server Windows Server 2003, Enterprise Edition	～ 3.25GB	搭載メモリ容量と同じ
	3.25 ～ 4.0GB	3.25 ～ 3.9GB（*2）
	4.0GB ～ 8.0GB	搭載メモリ容量－（0.1 ～ 0.75GB）（*2）

*1 Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server ／ Windows NT Server 4.0 は、最大 4GB までサポートします。

*2 PCI リソースとして 0.1 ～ 0.75GB 使用するので、搭載するカードの種類によって使用可能メモリは変動します。

● OS が Windows Server 2003, Enterpri se Edition ／ Windows 2000 Advanced Server の場合の注意

OS が Windows 2000 Advanced Server ／ Windows Server 2003, Enterprise Edition でメモリを 4GB 以上搭載する場合は、"Boot.ini" ファイルへの /PAE オプションの記述が必要です。以下に "Boot.ini" ファイルの記述例を示します。"Boot.ini" ファイルの編集方法については、OS に添付のマニュアルを参照してください。

```
[operating systems]
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)?WINNT="Microsoft
Windows 2000 Advanced Server" /PAE /fastdetect
```

重 要

- “Boot.ini” ファイルはシステムの重要なファイルです。ファイルの編集を誤ると、システムが起動しなくなるおそれがあります。慎重に編集を行ってください。

■〔H450 ／ R450〕手動インストール時の留意事項

H450 および R450 では、Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server のインストール中に、以下の画面を表示したままインストールが継続できなくなる場合があります。

（Windows 2000 Server の場合）

```
Windows 2000 Server セットアップ

セットアップへようこそ
セットアッププログラムのこの部分は、Microsoft(R) Windows 2000(R) のインストールと
設定を準備します。
  ・Windows 2000 のセットアップを開始するには、Enter キーを押してください。
  ・インストール済みの Windows 2000 を修復するには、R キーを押してください。
  ・Windows 2000 をインストールしないでセットアップを終了するには、F3 キーを
    押してください。
```

この場合は、いったん電源を切って再度インストールを開始してください。

この現象は ServerStart を使用してインストールした場合は発生しません。ServerStart を使用してインストールを行うことを推奨します。

■〔H450〕光磁気ディスクユニットの搭載時の注意

光磁気ディスクユニットを搭載する場合は、Windows 2000 Server をインストールしてから搭載してください。光磁気ディスクユニットを搭載した状態でWindows 2000 Serverをインストールすると、正常にインストールできない場合があります。

B.2.2 Windows NT Server 4.0 の場合

■ メモリ容量について

Windows NT Server 4.0 をインストールする場合のメモリ容量は最大 2GB です。2GB 以上のメモリ容量の場合は、OS のインストールができません。2GB を超えるメモリを増設する場合は、OS をインストールして Service Pack を適用後に増設してください。

■ インストール時の注意

インストール時には、最初から CD-ROM をセットせずに、インストール画面で CD-ROM を要求されたあとにセットしてください。

■ 複数のハードディスクユニットを接続している場合（Windows NT Server 4.0 の場合）

本サーバに複数のハードディスクユニットを接続している場合、Windows NT Server 4.0 のインストール時に、ハードディスクユニットの容量が正しく表示されず、希望するパーティションを作成できない場合があります。この場合は、以下の手順に従って、インストール前にあらかじめパーティションを作成します。その後 Windows NT Server 4.0 のインストール時に、あらかじめ作成したパーティションを削除し、新たにパーティションを作成し直してください。
以下の手順に従ってパーティションを作成します。

1. **「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」を作成します。**
   ServerStart CD-ROM から作成します。詳細は、「4.3 保守ツールの作成」（→ P.131）を参照してください。
2. **作成したフロッピーディスクをセットし、サーバを起動します。**
   「MS-DOS 6.2 Startup Menu」画面が表示されます。
3. **「4.Basic (Japanese Environment)」を選択し、【Enter】キーを押します。**
4. **DOS プロンプトが表示されたら、以下のコマンドを入力し、【Enter】キーを押します。**
   ```
   A:¥>fdisk
   ```
5. **基本 MS-DOS 領域を作成します。**
   「1.MS-DOS 領域または、論理 MS-DOS ドライブを作成」を選択して、「1. 基本 MS-DOS 領域を作成」を選択します。以降、画面の指示に従って、8MB の基本 MS-DOS 領域を確保します。

6 【Esc】キーを押し、FDISK を終了します。

7 Windows NT Server 4.0 のインストールを行います。

B.2.3〔BX300〕Windows Server 2003 インストールタイプを手動で再インストールする場合

BX300 の Windows Server 2003 インストールタイプをご購入の場合、サーバに添付のインストール CD-ROM を使用して再インストールする場合は、インストール前およびインストール後に以下の設定が必要です。
BIOS のセットアップユーティリティの設定方法については、『ハードウェアガイド サーバブレード編 第 4 章 ハードウェアの設定』を参照してください。

● インストール前

BIOS セットアップユーティリティを起動し、Advanced メニューから Console Redirection サブメニューを選択します。
「Com Port Address」の値を「Disabled」に設定してください。

● インストール後

BIOS セットアップユーティリティを起動し、Advanced メニューから Console Redirection サブメニューを選択します。
「Com Port Address」の値を「On-Board COM A」に戻してください。
その後以下の手順を実行します。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。

2 以下のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
BOOTCFG /EMS ON /PORT BIOSSET /ID 1
```

3 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「システム」の順にクリックします。

4 ［ハードウェア］タブをクリックし、［デバイスマネージャ］をクリックします。
デバイスマネージャが起動します。

5 ［ポート（COM と LPT)］デバイスの「!」マークが表示されている［通信ポート（COM 1)］を削除します。

6 サーバを再起動します。

B.3 〔BX300〕手動インストールの開始

手動での OS インストール方法について説明します。
インストールを開始する前に「付録 B.2 手動インストール前の確認」（→ P.321）をお読みになり、留意事項を確認してください。

重要

- 手動でインストールを行う場合は、サーバブレードに、ディスプレイ／USB 拡張ケーブルを使用して USB フロッピーディスクドライブおよび USB CD-ROM ドライブを接続してください。

B.3.1 USB CD-ROM ドライブの使用について

手動インストールに使用可能な USB CD-ROM ドライブは、弊社製 FMV-NRW52S、FMV-NRW53S です。ご使用になるドライブにより手動インストール方法が若干異なります。

重要

- Windows 2000 Server を手動インストールする場合に、FMV-NRW53S をご使用になる場合は、Service Pack 3 以降が適用された Windows 2000 Server の CD-ROM からのみ手動インストールが可能です。Service Pack 3 以降が適用されていない場合は、USB デバイスからの起動ができません。この場合は、ServerStart を使用してインストールを行ってください。

POINT

- 2002 年 10 月以降に出荷されているマイクロソフト社のパッケージ製品、およびボリュームライセンスの Windows 2000 Server CD-ROM は Service Pack 3 適用済みです。ただし、ボリュームライセンスでは、Service Pack 3 未適用の Windows 2000 Server CD-ROM も提供されています。
  Service Pack 3 以降が適用されているかどうかは、ご使用になる Windows 2000 Server CD-ROM のレーベル等で確認できます。
  なお、OS インストールタイプに添付されている Windows 2000 Server CD-ROM は、Service Pack 3 未適用です。

B.3.2 Windows Server 2003 のインストール

1 ドライバディスクを作成します。

Windows Server 2003 をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。ドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものもあります。ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に必要なドライバディスク

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックコントローラ	OS 標準提供のドライバ
オンボード LAN	* PRIMERGY BX300 Onboard LAN Driver for Windows 2003 V6.34
オンボード IDE アレイコントローラ	* IDE RAID FastTrak100 Drivers Windows 2003 用 V2.05L10
USB CD-ROM ドライブコントローラ（FMV-NRW52S）	* USB CD-ROM(FMV-NRW52S) driver for Windows 2000/2003 V1.0L10

* ServerStart CD-ROM から作成します。
USB CD-ROM ドライバは、FMV-NRW52S を使用する場合のみ作成してください。

2 Windows Server 2003 の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows Server 2003 の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

```
Press any key to boot from CD....
```

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

3 Windows Server 2003 セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

```
Press F6 if you need to install a third party SCSI or
RAID driver ...
```

重要

- **このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。**

4 CD-ROM ドライバを組み込みます。

使用する USB CD-ROM が FMV-NRW52S の場合のみ、以下の操作を行ってください。FMV-NRW53S をお使いの場合は、手順 5 へ進みます。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives,
or special disk controllers for use with Windows,
including those for which you have a device
support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成した「USB CD-ROM(FMV-NRW52S) driver for Windows 2000/2003 V1.0L10」のドライバディスクをセットし、【Enter】キーを押します。
   次のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use
with Windows, using a device support diskprovided
by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following
list,or press ESC to return to the previous screen.
```

3. 以下を選択します。

```
USB driver
```

5 IDE アレイコントローラのドライバを組み込みます。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives,
or special disk controllers for use with Windows,
including those for which you have a device support
disk from a mass storage device manufacturer,
press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成した「IDE RAID FastTrak100 Drivers Windows 2003 用 V2.05L10」のドライバディスクをセットして、【Enter】キーを押します。
   次のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use
with Windows, using a device support disk provided
by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following
list,or press ESC to return to the previous screen.
```

3. 以下を選択します。

```
Win.NET Promise FastTrak100(tm) LP Controller
 (TX150/BX300/RX100)
```

4. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。
   インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、ServerStart CD-ROM から作成した「IDE RAID FastTrak100 Drivers Windows 2003 用 V2.05L10」のドライバディスクをセットして【Enter】キーを押してください。

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。

重 要

- 再起動時の注意
  インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するメッセージを表示します。この場合、自動的に再起動するのを待ってください。
- インストール途中に、「手動のインストールを続行する場合は、C キーを押してください。」と表示された場合は、【C】キーを押して「カスタムセットアップ」を選択してください。
- インストール途中、EMS 接続が検出された旨のメッセージが表示された場合に、EMS 接続ではなく、ローカル接続でインストールを続行する場合は、［OK］をクリックしてください。
- インストール途中、ドライバが Windows との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していない旨のメッセージが表示された場合は、［はい］をクリックしてインストールを続行してください。

7 LAN ドライバをインストールします。

Windows Server 2003 のインストール終了後、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクを使用して LAN ドライバをインストールします。詳細は「7.2.1 LAN ドライバのインストール（Windows Server 2003）」（→ P.236）を参照してください。

8 IDE RAID 管理ツールをインストールします。

インストール方法については、「B.3.5 IDE RAID 管理ツールのインストール」（→ P.335）を参照してください。

POINT

- BIOS セットアップユーティリティの設定でコンソールリダイレクションが有効（デフォルトは有効）の場合は、上記手順にて手動インストールを行うと、Windows Server 2003 上で COM A ポートを使用した緊急管理サービス（EMS）が有効になります。

これで Windows Server 2003 のインストールは終了です。
サーバの運用を開始する前に、「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。また、「第 5 章 高信頼ツール」（→ P.145）を参照し、高信頼ツールの導入を行ってください。

B.3.3 Windows 2000 Server のインストール

1 ドライバディスクを作成します。

Windows 2000 Server をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。Windows 2000 Server で使用するドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものもあります。Windows 2000 Server で使用するドライバの種類とドライバディスクの作成方法の詳細については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に必要なドライバディスク

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックコントローラ	OnBoard VGA Driver (RAGE XL)
オンボード LAN	* PRIMERGY BX300 Onboard LAN Driver for Windows 2000 V2.67
オンボード IDE アレイコントローラ	* IDE RAID FastTrak100 Drivers Windows 2000 用 V2.04L30
USB CD-ROM ドライブコントローラ（FMV-NRW52S）	* USB CD-ROM(FMV-NRW52S) driver for Windows 2000/2003 V1.0L10

* ServerStart CD-ROM から作成します。
USB CD-ROM ドライバは、FMV-NRW52S を使用する場合のみ作成してください。

2 Windows 2000 Server の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows 2000 Server の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

```
Press any key to boot from CD....
```

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

3 Windows 2000 Server セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

```
Press F6 if you need to install a third party SCSI or
RAID driver ...
```

重要

- **このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。**

4 CD-ROM ドライバを組み込みます。

使用する USB CD-ROM が FMV-NRW52S の場合のみ、以下の操作を行ってください。
FMV-NRW53S をお使いの場合は、手順 5 へ進みます。

1. **以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。**

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives,
or special disk controllers for use with Windows
2000,including those for which you have a device
support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成した「USB CD-ROM(FMV-NRW52S) driver for Windows 2000/2003 V1.0L10」のドライバディスクをセットし、【Enter】キーを押します。
   次のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use
with Windows 2000, using a device support disk
provided by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following
list,or press ESC to return to the previous screen.
```

3. 以下を選択します。

```
USB driver
```

5 IDE アレイコントローラのドライバを組み込みます。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives,
or special disk controllers for use with Windows
2000,including those for which you have a device
support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成した「IDE RAID FastTrak100 Drivers Windows 2000 用 V2.04L30」のドライバディスクをセットして、【Enter】キーを押します。
   次のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use
with Windows 2000, using a device support disk
provided by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following
list,or press ESC to return to the previous screen.
```

3. 以下を選択します。

```
Win2000 Promise FastTrak100(tm) LP Controller (RX100 C150E
TX150 BX300)
```

4. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。
   インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、ServerStart CD-ROM から作成した「IDE RAID FastTrak100 Drivers Windows 2000 用 V2.04L30」のドライバディスクをセットして【Enter】キーを押してください。

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。

重要

- 再起動時の注意
  インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するメッセージを表示します。この場合、自動的に再起動するのを待ってください。

7 Windows 2000 Server のインストール後、Windows 2000 Service Pack を適用します。

Windows 2000 Service Pack の CD-ROM から Service Pack を適用します。詳細については、画面の説明を参照してください。

Service Pack 適用時に、ドライバが Service Pack 内のドライバに置換される場合があります。詳細については、各ハードウェアに添付のマニュアルを参照してください。

ServerStart には CD-ROM のラベルに記載されている Service Pack が搭載されています。この Service Pack を適用するには、CD-ROM 内の以下の EXE を起動してください。

［CD-ROMドライブ］:¥w2ksp3.exe

8 ディスプレイドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
2. 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「管理」を選択します。
3. 表示された画面内の一覧から「デバイスマネージャ」をクリックします。
4. 「ディスプレイアダプタ」配下の「RAGE XL PCI」をダブルクリックします。
5. 「プロパティ」画面が表示されたら、「ドライバ」タブを選択し、「ドライバの更新」をクリックします。
6. 「デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの開始」画面で［次へ］をクリックします。
7. 「ハードウェア デバイス ドライバのインストール」画面で「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、［次へ］をクリックします。
8. 「ドライバ ファイルの特定」画面で「場所の指定」のみを選択し、［次へ］をクリックします。
9. 「製造元のファイルのコピー元」に以下を指定し、［OK］をクリックします。
   ［CD-ROM ドライブ］:¥DRIVERS¥VIDEO¥ATI¥RageXL¥W2K
10. 「ドライバ ファイルの検索」画面で以下のメッセージが表示されるのを確認し、［次へ］をクリックします。

    ```
    次のドライバが検索されました。
    RAGE XL PCI
    現在のドライバよりさらに適切なドライバが検出されました。このドライバをインストールするには、［次へ］をクリックしてください。
    [CD-ROMドライブ]¥drivers¥video¥ati¥ragexl¥w2k¥atii2kad.inf
    ```

11. 「デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの完了」画面で以下のメッセージが表示されるので、［完了］をクリックします。

    ```
    RAGE XL PCI
    このデバイスに対するソフトウェアのインストールが終了しました。
    ```

12. ServerStart CD-ROM を取り出し、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

9 LAN ドライバをインストールします。

Windows 2000 Server のインストール終了後、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクを使用して LAN ドライバをインストールします。詳細は「7.2.2 LAN ドライバのインストール（Windows 2000 Server)」（→ P.237）を参照してください。

10 IDE RAID 管理ツールをインストールします。
インストール方法については、「B.3.5 IDE RAID 管理ツールのインストール」（→ P.335）を参照してください。

これで Windows 2000 Server のインストールは終了です。「B.10 手動インストール後の処理」（→ P.391）を行ったあと、サーバの運用を開始する前に、必ず「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照して必要な操作を行ってください。

B.3.4 Linux のインストール

Linux サービスバンドルタイプをご購入の場合は、本体に添付の Linux 関連マニュアルを参照してください。
また、HD タイプ／ディスクレスタイプにて Linux ディストリビューションをご使用の場合は、以下を参照してください。

富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ（http://www.fmworld.net/biz/primergy/）内の『ソフトウェア』から『Linux 関連情報』

B.3.5 IDE RAID 管理ツールのインストール

IDE RAID 管理ツールは、ServerStart を使用して OS をインストールした場合は自動的にインストールされます。手動で OS をインストールした場合は、以下の手順に従って IDE RAID 管理ツールをインストールしてください。
インストールの前に、ServerStart CD-ROM から以下の FastCheckMonitoringUtility ドライバディスクを作成してください。

・Windows 2003 の場合「IDE RAID FastTrack100 Utilities Windows 2003 用 V1.31L90」
・Windows 2000 の場合「IDE RAID FastTrack100 Utilities Windows 2000 用 V1.31L71」

作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。
IDE RAID 管理ツールの使用方法については、「付録 A.3 IDE RAID 管理ツール」（→ P.262）を参照してください。

1 管理者権限でサーバにログオンします。

2 インストールを行う前に、すべてのプログラムを終了します。

3 ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットします。

4 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

5 「名前」に以下を入力し、［OK］をクリックします。

●Windows 2003 の場合
```
A:¥setup.exe
```
●Windows 2000 の場合
```
A:¥install.bat
```
IDE RAID 管理ツールのセットアップが開始されます。
以降は、画面の指示に従ってインストールしてください。

B.4 〔H450 ／ R450〕手動インストールの開始

手動での OS インストール方法について説明します。
インストールを開始する前に「付録 B.2 手動インストール前の確認」（→ P.321）をお読みになり、留意事項を確認してください。

B.4.1 Windows Server 2003 のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載のオンボード SCSI、またはアレイコントローラカード配下に Windows Server 2003 をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows Server 2003 をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。ドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものもあります。ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に使用するドライバ

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックカード	OS 標準提供のドライバ
オンボード LAN	* PG-185x/186x/187x LAN Driver for Windows 2003 Ver6.6
LAN カード（PG-1851 ／ PG-1861 ／ PG-1871）	
LAN カード（PG-1851 ／ PG-1861 ／ PG-1871）	* PG-188x/189x LAN Driver for Windows 2003 Ver6.6
オンボード SCSI	OS 標準提供のドライバ
SCSI カード（PG-123 ／ PG-128）	
SCSI アレイコントローラカード（PG-142B ／ PG-142C）	* PG-140x/141B/142x Windows 2003 Driver and Storage Manager V3.23L40 Disk1, Disk2
SCSI アレイコントローラカード（PG-144C）	* PG-144C Windows 2003 Drivers Disk V5.20L10
上記以外の拡張カード	各拡張カードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画はエキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）および「3.4.3 ディスクマネージャ」（→ P.79）を参照してください。なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了して、サーバ本体の電源を切ってください。

重 要

- メンテナンス区画のサイズについて
  サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。

3 Windows Server 2003 の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows Server 2003 の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

```
Press any key to boot from CD....
```

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

4 Windows Server 2003 セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

```
Press F6 if you need to install a third party SCSI or
RAID driver ...
```

重 要

- このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。

5 手動でドライバを組み込みます。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives,
or special disk controllers for use with Windows
,including those for which you have a device
support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットし、【Enter】キーを押します。
   以下のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use
with Windows, using a device support disk
provided by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following
list,or press ESC to return to the previous screen.
```

3. お使いのカードにより、以下を選択します。
   ・SCSI アレイコントローラカード（PG-144C）の場合

```
Mylex EXR2000/3000 & AR160/170/352 Disk Array Controller
```

・SCSI アレイコントローラカード（PG-142B/142C）の場合

```
Adaptec I2O RAID Adapters for Windows 2000 & XP 32bit
```

4. 以下のメッセージが表示された場合は、【S】キーを押します。

```
The driver you provided seems to be newer than the
Windows default dirver.
```

5. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。
インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、それぞれ ServerStart CD-ROM から作成した以下のドライバディスクをセットして【Enter】キーを押してください。
・SCSI アレイコントローラカード（PG-144C）の場合
「PG-144C Windows 2003 Drivers Disk V5.20L10」
・SCSI アレイコントローラカード（PG-142B/PG-142C）の場合
「PG-140x/141B/142x Windows 2003 Driver and Storage Manager V3.23L40 Disk1」

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。
インストール途中、ドライバが Windows との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していない旨のメッセージが表示された場合は、［はい］を選択してインストールを続行してください。

7 LAN ドライバをインストールします。
ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクを使用して、LAN ドライバをインストールします。詳細は、「7.2.1 LAN ドライバのインストール（Windows Server 2003）」（→ P.236）を参照してください。

これで Windows Server 2003 のインストールは終了です。
サーバの運用を開始する前に、「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。また、「第 5 章 高信頼ツール」（→ P.145）を参照し、高信頼ツールの導入を行ってください。

2.4.2 Windows 2000 Server のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載のオンボード SCSI、またはアレイコントローラカード配下に Windows 2000 Server をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。
Windows 2000 Server をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。ドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものもあります。ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に使用するドライバ

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックコントローラ	H450/R450 OnBoard VGA Driver(RAGE XL)
オンボード LAN	*PG-185x/186x/187x/188x/189x LAN Driver for Windows 2000 Ver6.2
LAN カード（PG-1851 ／ PG-1861 ／ PG-1871）	
LAN カード（PG-1881 ／ PG-1891）	
オンボード SCSI	OS 標準提供のドライバ
SCSI カード（PG-123 ／ PG-128）	
SCSI アレイコントローラカード（PG-142B ／ PG-142C）	*PG-140x/141B/142x Winodws 2000 Driver and Storage Manager V3.23L40 Disk1, Disk2
SCSI アレイコントローラカード（PG-144B）	* PG-143B/144B Windows 2000 Drivers Disk V4.0L10
SCSI アレイコントローラカード（PG-144C）	* PG-144C Windows 2000 Drivers Disk V5.20L10
FAX モデムカード（FMV-FX533）	FMV-FX533 モデムカード用ドライバ
ファイバーチャネルカード（PG-FC102 ／ PG-FC103）	* PG-FC102/103 Windows 2000 Drivers Disk V1.4L10
ファイバーチャネルカード（PG-FC105）	* PG-FC105 Windows 2000 Drivers Disk V2.13A4
上記以外の拡張カード	各拡張カードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画はエキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）および「3.4.3 ディスクマネージャ」（→ P.79）を参照してください。なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了して、サーバ本体の電源を切ってください。

重 要

- **メンテナンス区画のサイズについて**
  サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。

3 Windows 2000 Server の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows 2000 Server の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

```
Press any key to boot from CD....
```

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

4 Windows 2000 Server セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

```
Press F6 if you need to install a third party SCSI or
RAID driver ...
```

重要

- このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。

5 SCSI アレイコントローラをご使用の場合、SCSI アレイコントローラのドライバをインストールします。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives,
or special disk controllers for use with Windows
2000,including those for which you have a device
support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、【Enter】キーを押します。

   次のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use
with Windows 2000, using a device support disk
provided by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following
list,or press ESC to return to the previous screen.
```

3. お使いのカードにより、以下を選択します。

   ・PG-142B ／ PG-142C の場合

```
Adaptec I20 RAID Adapters for Windows 2000 & XP 32bit
```

   ・PG-144B/PG-144C の場合

```
Mylex eXtremeRAID 2000 Disk Array Controller
```

   ドライバがインストールされます。

4. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。

   インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットして【Enter】キーを押してください。

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。

重 要

- 再起動時の注意
  インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するメッセージを表示します。この場合、自動的に再起動するのを待ってください。

7 インストール終了後、Windows 2000 Service Pack を適用します。

Windows 2000 Service Pack の CD-ROM から Service Pack を適用します。詳細については、画面の説明を参照してください。
Service Pack 適用時に、ドライバが Service Pack 内のドライバに置換される場合があります。詳細については、各ハードウェアに添付のマニュアルを参照してください。

8 LAN ドライバをインストールします。

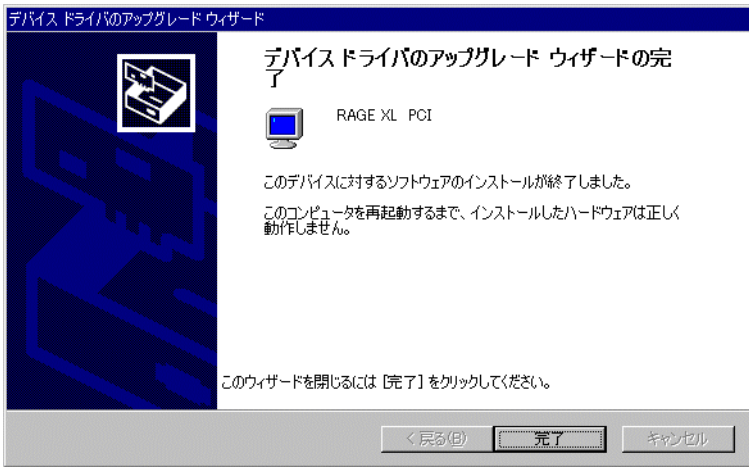
ServerStart CD-ROM を使用して、LAN ドライバをインストールします。詳細は、「7.2.2 LAN ドライバのインストール（Windows 2000 Server）」（→ P.237）を参照してください。

9 ディスプレイドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
2. 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「管理」を選択します。
3. 表示された画面内の一覧から「デバイスマネージャ」をクリックします。
4. 「ディスプレイアダプタ」配下の「ATI Technologies Inc. RAGE XL PCI」をダブルクリックします。
   「ATI Technologies Inc. RAGE XL PCI」のプロパティ画面が表示されます。
5. 「ドライバ」タブを選択し、「ドライバの更新」をクリックします。
6. 「デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの開始」画面で［次へ］をクリックします。
7. 「ハードウェア デバイス ドライバのインストール」画面で「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、［次へ］をクリックします。
8. 「ドライバ ファイルの特定」画面で「場所の指定」のみを選択し、［次へ］をクリックします。
9. 「製造元のファイルのコピー元」に以下を指定し、［OK］をクリックします。
   ［CD-ROM ドライブ］:¥DRIVERS¥VIDEO¥ATI¥RageXL¥W2K

10. 「ドライバ ファイルの検索」画面で以下のメッセージが表示されるのを確認し、[次へ] をクリックします。

11. 「デバイス　ドライバのアップグレード　ウィザードの完了」画面が表示されます。[完了] をクリックしてください。



12. ServerStart CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出し、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

10 4GB を超えるメモリを搭載して Windows 2000 Advanced Server をインストールした場合は、ServerStart CD-ROM 内の QFE モジュールを適用します。

QFE モジュールを適用すると、メモリダンプが正常に取得できないといった不具合を修正します。

重要

- QFE モジュールを適用する前に、必ず Service Pack 3 を適用しておいてください。

ServerStart CD-ROM 内の以下の EXE を起動してください。

[CD-ROM ドライブ] :¥DRIVERS¥Utils¥QFE¥w2k¥Q326333_W2K_SP4_X86_JA.exe

これで Windows 2000 Server のインストールは終了です。

「B.10 手動インストール後の処理」（→ P.391）を行ったあと、サーバの運用を開始する前に、必ず「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照して必要な操作を行ってください。

2.4.3 Windows NT Server 4.0 のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載のオンボード SCSI、またはアレイコントローラカード配下に Windows NT Server 4.0 をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows NT Server 4.0 をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。Windows NT Server 4.0 で使用するドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものがあります。ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に使用するドライバ

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックコントローラ	H450/R450 OnBoard VGA Driver(RAGE XL)
オンボード LAN	*PG-185x/186x/187x/188x/189x LAN Driver for Windows NT Ver6.2 Disk1, Disk2
LAN カード（PG-1851 ／ PG-1861 ／ PG-1871）	
LAN カード（PG-1881 ／ PG-1891）	
オンボード SCSI	PG-128/130L Windows NT Drivers Disk V1.11L10
SCSI カード（PG-128）	
SCSI カード（PG-123）	PG-123/126 Windows NT Drivers Disk V3.03L10
SCSI アレイコントローラカード（PG-142B ／ PG-142C）	*PG-140x/141B/142x Winodws NT Driver and Storage Manager V3.23L40 Disk1, Disk2
SCSI アレイコントローラカード（PG-144B）	* PG-143B/144B Windows NT Drivers Disk V4.0L10
SCSI アレイコントローラカード（PG-144C）	* PG-144C Windows NT Drivers Disk V5.20L10
FAX モデムカード（FMV-FX533）	FMV-FX533 モデム用ドライバ
ファイバーチャネルカード（PG-FC102 ／ PG-FC103）	* PG-FC102/103 Windows NT Drivers Disk V1.4L10
ファイバーチャネルカード（PG-FC105）	* PG-FC105 Windows NT Drivers Disk V2.13A4
上記以外の拡張カード	各拡張カードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画はエキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）および「3.4.3 ディスクマネージャ」（→ P.79）を参照してください。なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了して、サーバ本体の電源を切ってください。

重要

- メンテナンス区画のサイズについて
  サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。

3 Windows NT Server 4.0 のセットアップディスク 1 をフロッピーディスクドライブにセットし、サーバの電源を入れます。
このとき、CD-ROM ドライブに CD-ROM が入っていないことを確認してください。

4 Windows NT Server セットアップ初期画面が表示されます。
セットアップ初期画面の指示に従って、セットアップディスクの交換を行います。
Windows NT Server セットアップ画面が表示されます。

5 CD-ROM ドライブコントローラのドライバをインストールします。

1. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

```
大容量記憶装置の検出を省略するには、S キーを押してください。
SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、および特殊なディスク コント
ローラを手動で選択してインストールできます。
```

2. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

```
Windows NT で使用する SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、
または特殊なディスク コントローラを追加して指定する場合は、
S キーを押してください。大容量記憶装置のメーカーのデバイス
サポート ディスクで指定する場合も、S キーを押してください。
```

3. 以下を選択します。

```
IDE CD-ROM(ATAPI 1.2)/PCI IDE Controller
```

4. 画面の指示に従って、「Widnows NT Server Sertup Disk #3」をフロッピーディスクドライブにセットし、【Enter】キーを押します。
ドライバがインストールされます。

6 SCSI アレイコントローラカードをご使用の場合、SCSI アレイコントローラのドライバをインストールします。

1. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

```
Windows NT で使用する SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、
または特殊なディスク コントローラを追加して指定する場合は、
S キーを押してください。大容量記憶装置のメーカーのデバイス
サポート ディスクで指定する場合も、S キーを押してください。
```

2. 以下を選択します。

```
その他（ハードウェアメーカー提供のディスクが必要）
```

3. ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクを、フロッピーディスクドライブにセットし、【Enter】キーを押します。
4. お使いのカードにより、以下を選択します。
   ・PG-142B ／ PG-142C の場合

```
Adaptec I20 RAID Host Adapters for NT4.0
```

   ・PG-144B の場合

```
Mylex EXR2000/3000 AR160/170/352 Disk Array Controller
```

・PG-144C の場合

```
Mylex eXtremeRAID 2000 Disk Array Controller
```

ドライバがインストールされます。

7 オンボード SCSI をご使用の場合､SCSI コントローラのドライバをインストールします。

1. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

```
Windows NT で使用する SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、
または特殊なディスク コントローラを追加して指定する場合は、
S キーを押してください。大容量記憶装置のメーカーのデバイス
サポート ディスクで指定する場合も、S キーを押してください。
```

2. 以下を選択します。

```
その他（ハードウェアメーカー提供のディスクが必要）
```

3.「PG-128/130L Windows NT Drivers Disk V1.11L10」をフロッピーディスクドライブにセットして【Enter】キーを押します。
4. 以下を選択します。

```
Adaptec Ultra 160 Family PCI SCSI Controller(NT4.0)
```

8 選択したコントローラが表示されます。
確認後、【Enter】キーを押します。

9 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。
Windows NT Server の CD-ROM を入れるようメッセージが表示されたら、Windows NT Server の CD-ROM をセットします。

10 Windows NT Server 4.0 をインストールするハードディスクユニットのパーティションを選択する画面が表示されます。画面の指示に従って、パーティションを作成し、インストールを続行してください。

11 SCSI アレイコントローラカードをご使用の場合、SCSI アレイコントローラカードドライバのフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、【Enter】キーを押します。

12 オンボード SCSI をご使用の場合、SCSI コントローラドライバのフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
「PG-128/130L Windows NT Drivers Disk V1.11L10」をフロッピーディスクドライブにセットして、【Enter】キーを押します。

13 以降、セットアッププログラムおよび『Windows NT Server ファーストステップガイド』の指示に従って、Windows NT Server 4.0 のインストールを続行します。

重要

- 再起動時の注意
  インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するようにメッセージを表示します。この場合、1 分ほど待ってから、再起動してください。
  SCSI アレイコントローラカードをご使用の場合で、バックグラウンドで初期化処理中はハードディスクのアクセスランプが点灯していますが、再起動は可能です。

14 LAN ドライバをインストールします。

「ネットワークアダプタカードの検出」画面が表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成した LAN ドライバディスクを使って、LAN ドライバをインストールします。インストール方法について、詳細は「7.2.3 LAN ドライバのインストール（Windows NT Server 4.0）」（→ P.241）を参照してください。

15 インストール終了後、Windows NT 4.0 Service Pack を適用します。

最新の Service Pack を適用します。詳細については、画面の説明を参照してください。

重要

- ドライバは置換しないでください。
  Service Pack 適用中に、ドライバを置換するかどうかのメッセージが表示される場合がありますが、置換しないでください。

16 再起動後、ディスプレイドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
2. エクスプローラを起動します。
3. 以下のファイルをダブルクリックします。
   [CD-ROM ドライブ]:¥DRIVERS¥VIDEO¥ATI¥RageXL¥NT4¥Setup.exe
4. 以降は、画面の指示に従って続行してください。
5. ServerStart CD-ROM を取り出し、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

これで Windows NT Server 4.0 のインストールは終了です。
「B.10 手動インストール後の処理」（→ P.391）を行ったあと、サーバの運用を開始する前に、必ず「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照して必要な操作を行ってください。

B.4.4 Linux のインストール

Linux サービスバンドルタイプをご購入の場合は、本体に添付の Linux 関連マニュアルを参照してください。
また、HD タイプ／ディスクレスタイプにて Linux ディストリビューションをご使用の場合は、以下を参照してください。

富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ（http://www.fmworld.net/biz/primergy/）内の『ソフトウェア』から『Linux 関連情報』

B.5〔RX300〕手動インストールの開始

手動での OS インストール方法について説明します。
インストールを開始する前に「付録 B.2 手動インストール前の確認」（→ P.321）をお読みになり、留意事項を確認してください。

B.5.1 Windows Server 2003 のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載のオンボード SCSI、またはアレイコントローラカード配下に Windows Server 2003 をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows Server 2003 をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。ドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものもあります。ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に使用するドライバ

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックカード	OS 標準提供のドライバ
オンボード LAN	* PRIMERGY TX200/RX300 Onboard LAN Driver for Windows NT/2000/2003 Ver6.6.7
LAN カード（PG-1881 ／ PG-1881L ／ PG-1891 ／ PG-1891L）	* PG-1852/188x/189x LAN Driver for Windows 2003 Ver6.6
LAN カード（PG-1861 ／ PG-1871 ／ PG-1871L）	* PG-1851/186x/187x LAN Driver for Windows 2003 Ver6.6
オンボード SCSI	* PRIMERGY TX200/RX300 Onboard SCSI Driver Windows 2003 Drivers Disk V1.30.1
SCSI アレイコントローラカード（PG-140CL ／ PG-142C）	* PG-140x/141B/142x Windows 2003 Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1, Disk2
SCSI カード（PG-128 ／ PG-130L）	OS 標準提供のドライバ
上記以外の拡張カード	各拡張カードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画はエキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）および「3.4.3 ディスクマネージャ」（→ P.79）を参照してください。なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了して、サーバ本体の電源を切ってください。

重要

- メンテナンス区画のサイズについて
  サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。

3 Windows Server 2003 の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows Server 2003 の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

```
Press any key to boot from CD....
```

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

4 Windows Server 2003 セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

```
Press F6 if you need to install a third party SCSI or
RAID driver ...
```

重要

- このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。

5 手動でドライバを組み込みます。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives,
or special disk controllers for use with Windows
,including those for which you have a device
support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットし、【Enter】キーを押します。
   以下のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use
with Windows, using a device support disk
provided by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following
list,or press ESC to return to the previous screen.
```

3. お使いのカードにより、以下を選択します。
   ・SCSI アレイコントローラカードの場合

   ```
   Adaptec I2O RAID Adapters for Windows 2000 & XP 32bit
   ```

   ・オンボードの SCSI コントローラの場合

   ```
   Adaptec Ultra320 SCSI Cards (Win XP/Server 2003 IA32)
   ```

4. 以下のメッセージが表示された場合は、【S】キーを押します。

   ```
   The driver you provided seems to be newer than the
   Windows default dirver.
   ```

5. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。
   インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、それぞれ ServerStart CD-ROM から作成した以下のドライバディスクをセットして【Enter】キーを押してください。
   ・SCSI アレイコントローラカードの場合
   「PG-140x/141B/142x Windows 2003 Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1」
   ・オンボードの SCSI コントローラの場合
   「PRIMERGY TX200/RX300 Onboard SCSI Driver Windows 2003 Drivers Disk V1.30.1」

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。
インストール途中、ドライバが Windows との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していない旨のメッセージが表示された場合は、［はい］を選択してインストールを続行してください。

7 LAN ドライバをインストールします。
ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクを使用して、LAN ドライバをインストールします。詳細は、「7.2.1 LAN ドライバのインストール（Windows Server 2003）」（→ P.236）を参照してください。

これで Windows Server 2003 のインストールは終了です。
サーバの運用を開始する前に、「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。また、「第 5 章 高信頼ツール」（→ P.145）を参照し、高信頼ツールの導入を行ってください。

B.5.2 Windows 2000 Server のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載のオンボード SCSI、またはアレイコントローラカード配下に Windows 2000 Server をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。
Windows 2000 Server をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。ドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものもあります。ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に使用するドライバ

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックカード	TX200/RX100/RX300 OnBoard VGA Driver (RAGE XL)
オンボード LAN	* PRIMERGY TX200/RX300 Onboard LAN Driver for Windows NT/2000/2003 Ver6.6.7
LAN カード（PG-1881 ／ PG-1881L ／ PG-1891 ／ PG-1891L）	* PG-185x/186x/187x/188x/189x LAN Driver for Windows 2000 Ver6.2
LAN カード（PG-1861 ／ PG-1871 ／ PG-1871L）	
オンボード SCSI	* PRIMERGY TX200/RX300 Onboard SCSI Driver Windows NT/2000 Drivers Disk V1.10
SCSI アレイコントローラカード（PG-140CL ／ PG-142C）	* PG-140x/141B/142x Windows 2000 Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1, Disk2
SCSI カード（PG-128 ／ PG-130L）	OS 標準提供のドライバ
FAX モデムカード（FMV-FX533）	FMV-FX533 モデムカード用ドライバ
ファイバーチャネルカード（PG-FC105）	* PG-FC105 Windows 2000 Drivers Disk V2.13A4
上記以外の拡張カード	各拡張カードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画はエキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）および「3.4.3 ディスクマネージャ」（→ P.79）を参照してください。なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了して、サーバ本体の電源を切ってください。

重要

- メンテナンス区画のサイズについて
  サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。

3 Windows 2000 Server の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows 2000 Server の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

```
Press any key to boot from CD....
```

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

4 Windows 2000 Server セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

```
Press F6 if you need to install a third party SCSI or
RAID driver ...
```

重要

- このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。

5 手動でドライバを組み込みます。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives,
or special disk controllers for use with Windows
2000,including those for which you have a device
support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットし、【Enter】キーを押します。

   以下のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use
with Windows 2000, using a device support disk
provided by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following
list,or press ESC to return to the previous screen.
```

3. お使いのカードにより、以下を選択します。

   ・SCSI アレイコントローラカードの場合

```
Adaptec I20 RAID Adapters for Windows 2000 & XP 32bit
```

   ・オンボードの SCSI コントローラの場合

```
Adaptec Ultra320 SCSI Cards (Win2000)
```

4. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。

   インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、それぞれ ServerStart CD-ROM から作成した以下のドライバディスクをセットして【Enter】キーを押してください。

   ・SCSI アレイコントローラカードの場合

   「PG-140x/141B/142x Windows 2000 Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1」

   ・オンボードの SCSI コントローラの場合

   「PRIMERGY TX200/RX300 Onboard SCSI Driver Windows NT/2000 Drivers Disk V1.10」

POINT

- 他のカードのドライバをインストールする場合は、手順４、５を繰り返して、ドライバをインストールしてください。

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。

重要

- 再起動時の注意
  インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するメッセージを表示します。
  この場合、自動的に再起動するのを待ってください。

7 LAN ドライバをインストールします。

ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクを使用して、LAN ドライバをインストールします。詳細は、「7.2.2 LAN ドライバのインストール（Windows 2000 Server）」（→ P.237）を参照してください。

8 ディスプレイドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
2. デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから［管理］をクリックします。
3. 「デバイスマネージャ」をクリックします。
   「ディスプレイアダプタ」配下に「RAGE XL PCI」が表示されます。
4. 「RAGE XL PCI」をダブルクリックします。
   「プロパティ」画面が表示されます。
5. ［ドライバ］タブをクリックし、［ドライバの更新］をクリックします。
   「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面が表示されます。
6. ［次へ］をクリックします。
   「ハードウェアデバイスドライバのインストール」画面が表示されます。
7. 「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、［次へ］をクリックします。
   「ドライバファイルの特定」画面が表示されます。
8. 「検索場所のオプション」に「CD-ROM ドライブ」を選択し、［次へ］をクリックします。
9. 「次のデバイスドライバが検索されました」と表示されたら、［次へ］をクリックします。
   ドライバのインストールが開始されます。
10. インストールが終了したら、［完了］をクリックします。
11. ［閉じる］をクリックして「プロパティ」画面を終了します。
12. ServerStart CD-ROM を取り出し、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

9 **各ドライバのインストール終了後、Windows 2000 Service Pack を適用します。**

Windows 2000 Service Pack の CD-ROM から Service Pack を適用します。詳細については、画面の説明を参照してください。

Service Pack 適用時に、ドライバが Service Pack 内のドライバに置換される場合があります。詳細については、各ハードウェアに添付のマニュアルを参照してください。

ServerStart には CD-ROM のラベルに記載されている Service Pack が搭載されています。この Service Pack を適用するには、CD-ROM 内の以下の EXE を起動してください。

［CD-ROMドライブ］:¥w2ksp3.exe

10 **4GB を超えるメモリを搭載して Windows 2000 Advanced Server をインストールした場合は、ServerStart CD-ROM 内の QFE モジュールを適用します。**

QFE モジュールを適用すると、メモリダンプが正常に取得できないといった不具合を修正します。

重 要

- QFE モジュールを適用する前に、必ず Service Pack 3 を適用しておいてください。

ServerStart CD-ROM 内の以下の EXE を起動してください。

［CD-ROMドライブ］:¥DRIVERS¥Utils¥QFE¥w2k¥Q326333_W2K_SP4_X86_JA.exe

これで Windows 2000 Server のインストールは終了です。

「B.10 手動インストール後の処理」（→ P.391）を行ったあと、サーバの運用を開始する前に、必ず「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照して必要な操作を行ってください。

B.5.3 Linux のインストール

Linux サービスバンドルタイプをご購入の場合は、本体に添付の Linux 関連マニュアルを参照してください。

また、HD タイプ／ディスクレスタイプにて Linux ディストリビューションをご使用の場合は、以下を参照してください。

富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ（http://www.fmworld.net/biz/primergy/）内の『ソフトウェア』から『Linux 関連情報』

B.6〔TX200〕手動インストールの開始

手動での OS インストール方法について説明します。
インストールを開始する前に「付録 B.2 手動インストール前の確認」（→ P.321）をお読みになり、留意事項を確認してください。

B.6.1 Windows Server 2003 のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載のオンボード SCSI、またはアレイコントローラカード配下に Windows Server 2003 をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows Server 2003 をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。ドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものもあります。ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に使用するドライバ

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックカード	OS 標準提供のドライバ
オンボード LAN	* PRIMERGY TX200/RX300 Onboard LAN Driver for Windows NT/2000/2003 Ver6.6.7
LAN カード（PG-1881 ／ PG-1891）	* PG-1852/188x/189x LAN Driver for Windows 2003 Ver6.6
LAN カード （PG-1851 ／ PG-1861 ／ PG-1871）	* PG-1851/186x/187x LAN Driver for Windows 2003 Ver6.6
オンボード SCSI	* PRIMERGY TX200/RX300 Onboard SCSI Driver Windows 2003 Drivers Disk V1.30.1
SCSI アレイコントローラカード （PG-140C ／ PG-142C）	* PG-140x/141B/142x Windows 2003 Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1, Disk2
SCSI カード（PG-128）	OS 標準提供のドライバ
上記以外の拡張カード	各拡張カードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画はエキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）および「3.4.3 ディスクマネージャ」（→ P.79）を参照してください。なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了して、サーバ本体の電源を切ってください。

重 要

- メンテナンス区画のサイズについて
  サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。

3 Windows Server 2003 の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows Server 2003 の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

```
Press any key to boot from CD....
```

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

4 Windows Server 2003 セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

```
Press F6 if you need to install a third party SCSI or
RAID driver ...
```

重 要

- このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。

5 手動でドライバを組み込みます。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives,
or special disk controllers for use with Windows
,including those for which you have a device
support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットし、【Enter】キーを押します。
   以下のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use
with Windows, using a device support disk
provided by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following
list,or press ESC to return to the previous screen.
```

3. お使いのカードにより、以下を選択します。
   ・SCSI アレイコントローラカード（PG-144C）の場合

   ```
   Mylex EXR2000/3000 & AR160/170/352 Disk Array Controller
   ```

   ・SCSI アレイコントローラカード（PG-140C ／ PG-142C）の場合

   ```
   Adaptec I2O RAID Adapters for Windows 2000 & XP 32bit
   ```

   ・オンボードの SCSI コントローラの場合

   ```
   Adaptec Ultra320 SCSI Cards (Win XP/Server 2003 IA32)
   ```

4. 以下のメッセージが表示された場合は、【S】キーを押します。

   ```
   The driver you provided seems to be newer than the
   Windows default dirver.
   ```

5. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。
   インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、それぞれ ServerStart CD-ROM から作成した以下のドライバディスクをセットして【Enter】キーを押してください。
   ・SCSI アレイコントローラカード（PG-140C/PG-142C）の場合
   「PG-140x/141B/142x Windows 2003 Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1」
   ・オンボードの SCSI コントローラの場合
   「PRIMERGY TX200/RX300 Onboard SCSI Driver Windows 2003 Drivers Disk V1.30.1」

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。
インストール途中、ドライバが Windows との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していない旨のメッセージが表示された場合は、［はい］を選択してインストールを続行してください。

7 LAN ドライバをインストールします。
ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクを使用して、LAN ドライバをインストールします。詳細は、「7.2.1 LAN ドライバのインストール（Windows Server 2003）」（→ P.236）を参照してください。

これで Windows Server 2003 のインストールは終了です。
サーバの運用を開始する前に、「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。また、「第 5 章 高信頼ツール」（→ P.145）を参照し、高信頼ツールの導入を行ってください。

B.6.2 Windows 2000 Server のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載のオンボード SCSI、またはアレイコントローラカード配下に Windows 2000 Server をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows Server 2000 をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。ドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものもあります。ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に使用するドライバ

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックカード	TX200/RX100/RX300 OnBoard VGA Driver (RAGE XL)
オンボード LAN	* PRIMERGY TX200/RX300 Onboard LAN Driver for Windows NT/2000/2003 Ver6.6.7
LAN カード（PG-1851 ／ PG-1861 ／ PG-1871 ／ PG-1881 ／ PG-1891）	* PG-185x/186x/187x/188x/189x LAN Driver for Windows 2000 Ver6.2
オンボード SCSI	* PRIMERGY TX200/RX300 Onboard SCSI Driver Windows NT/2000 Drivers Disk V1.10
SCSI アレイコントローラカード（PG-140C ／ 142C）	* PG-140x/141B/142x Windows 2000 Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1, Disk2
SCSI カード（PG-128）	OS 標準提供のドライバ
FAX モデムカード（FMV-FX533）	FMV-FX533 モデムカード用ドライバ
ファイバーチャネルカード（PG-FC105）	* PG-FC105 Windows 2000 Drivers Disk V2.13A4
上記以外の拡張カード	各拡張カードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画はエキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）および「3.4.3 ディスクマネージャ」（→ P.79）を参照してください。なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了して、サーバ本体の電源を切ってください。

重要

- メンテナンス区画のサイズについて
  サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。

3 Windows 2000 Server の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows 2000 Server の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

```
Press any key to boot from CD....
```

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

4 Windows 2000 Server セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

```
Press F6 if you need to install a third party SCSI or
RAID driver ...
```

重要

- このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。

5 手動でドライバを組み込みます。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives,
or special disk controllers for use with Windows
2000,including those for which you have a device
support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットし、【Enter】キーを押します。
   以下のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use
with Windows 2000, using a device support disk
provided by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following
list,or press ESC to return to the previous screen.
```

3. お使いのカードにより、以下を選択します。
   - SCSI アレイコントローラカード（PG-140C ／ PG-142C）の場合

```
Adaptec I20 RAID Adapters for Windows 2000 & XP 32bit
```

   - オンボードの SCSI コントローラの場合

```
Adaptec Ultra320 SCSI Cards (Win2000)
```

4. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。
   インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、それぞれ ServerStart CD-ROM から作成した以下のドライバディスクをセットして【Enter】キーを押してください。
   ・SCSI アレイコントローラカード（PG-140C ／ PG-142C）の場合
   「PG-140x/141B/142x Windows 2000 Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1」
   ・オンボードの SCSI コントローラの場合
   「PRIMERGY TX200/RX300 Onboard SCSI Driver Windows NT/2000 Drivers Disk V1.10 」

POINT

- 他のカードのドライバをインストールする場合は、手順４、５を繰り返して、ドライバをインストールしてください。

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。

●SBS 2000 をインストールの場合

インストールするハードディスクユニットのパーティションを選択するようメッセージが表示されます。

1. 画面の指示に従って、4GB 以上のパーティションを作成します。必ず NTFS ファイルシステムでフォーマット後、インストールを続けてください。
2. フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットして【Enter】キーを押してください。
3. インストール終了後、画面の指示に従って再起動してください。
   ログオン後、「Small Business Server 2000 セットアップ」画面が表示されます。
4. ［Small Business Server 2000 セットアップ］をクリックし、画面の指示に従って SBS 2000 のインストールを行ってください。

POINT

- インストールの要件を満たしていないシステムにインストールを行った場合、インストール中に「Suite 要件」画面が表示され、説明が表示されます。説明を参考に、要件を満たすように変更後、インストールを継続してください。

重 要

- 再起動時の注意
  インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するメッセージを表示します。この場合、自動的に再起動するのを待ってください。

7 LAN ドライバをインストールします。

ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクを使用して、LAN ドライバをインストールします。詳細は、「7.2.2 LAN ドライバのインストール（Windows 2000 Server）」（→ P.237）を参照してください。

8 ディスプレイドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
2. デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから［管理］をクリックします。
3. 「デバイスマネージャ」をクリックします。
   「ディスプレイアダプタ」配下に「RAGE XL PCI」が表示されます。
4. 「RAGE XL PCI」をダブルクリックします。
   「プロパティ」画面が表示されます。
5. ［ドライバ］タブをクリックし、［ドライバの更新］をクリックします。
   「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面が表示されます。
6. ［次へ］をクリックします。
   「ハードウェアデバイスドライバのインストール」画面が表示されます。
7. 「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、［次へ］をクリックします。
   「ドライバファイルの特定」画面が表示されます。
8. 「検索場所のオプション」に「CD-ROM ドライブ」を選択し、［次へ］をクリックします。
9. 「次のデバイスドライバが検索されました」と表示されたら、［次へ］をクリックします。
   ドライバのインストールが開始されます。
10. インストールが終了したら、［完了］をクリックします。
11. ［閉じる］をクリックして「プロパティ」画面を終了します。
12. ServerStart CD-ROM を取り出し、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

9 各ドライバのインストール終了後、Windows 2000 Service Pack を適用します。

Windows 2000 Service Pack の CD-ROM から Service Pack を適用します。詳細については、画面の説明を参照してください。
Service Pack 適用時に、ドライバが Service Pack 内のドライバに置換される場合があります。詳細については、各ハードウェアに添付のマニュアルを参照してください。
ServerStart には CD-ROM のラベルに記載されている Service Pack が搭載されています。この Service Pack を適用するには、CD-ROM 内の以下の EXE を起動してください。

［CD-ROM ドライブ］:¥w2ksp3.exe

10 4GB を超えるメモリを搭載して Windows 2000 Advanced Server をインストールした場合は、ServerStart CD-ROM 内の QFE モジュールを適用します。

QFE モジュールを適用すると、メモリダンプが正常に取得できないといった不具合を修正します。

重要

- QFE モジュールを適用する前に、必ず Service Pack 3 を適用しておいてください。

ServerStart CD-ROM 内の以下の EXE を起動してください。

［CD-ROM ドライブ］:¥DRIVERS¥Utils¥QFE¥w2k¥Q326333_W2K_SP4_X86_JA.exe

これで Windows 2000 Server のインストールは終了です。
「B.10 手動インストール後の処理」（→ P.391）を行ったあと、サーバの運用を開始する前に、必ず「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照して必要な操作を行ってください。

B.6.3 Windows NT Server 4.0 のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載のオンボード SCSI、またはアレイコントローラカード配下に Windows NT Server 4.0 をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows NT Server 4.0 をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。Windows NT Server 4.0 で使用するドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものがあります。ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に使用するドライバ

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックカード	TX200/RX100/RX300 OnBoard VGA Driver (RAGE XL)
オンボード LAN	* PRIMERGY TX200/RX300 Onboard LAN Driver for Windows NT/2000/2003 Ver6.6.7
LAN カード（PG-1851 ／ PG-1861 ／ PG-1871 ／ PG-1881 ／ PG-1891）	* PG-185x/186x/187x/188x/189x LAN Driver for Windows NT Ver6.2 Disk1, Disk2
オンボード SCSI	* PRIMERGY TX200/RX300 Onboard SCSI Driver Windows NT/2000 Drivers Disk V1.10
SCSI アレイコントローラカード（PG-140C ／ PG-142C）	* PG-140x/141B/142x Windows NT Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1, Disk2
SCSI カード（PG-128）	* PG-128/130L Windows NT Drivers Disk V1.11L10
FAX モデムカード（FMV-FX533）	FMV-FX533 モデムカード用ドライバ
ファイバーチャネルカード（PG-FC105）	* PG-FC105 Windows NT 4.0 Drivers Disk 2.13A4
上記以外の拡張カード	各拡張カードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画はエキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）および「3.4.3 ディスクマネージャ」（→ P.79）を参照してください。
なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了してサーバ本体の電源を切ってください。

重要

- メンテナンス区画のサイズについて
  サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。

3 Windows NT Server 4.0 のセットアップディスク 1 をフロッピーディスクドライブにセットし、サーバの電源を入れます。
このとき、CD-ROM ドライブに CD-ROM が入っていないことを確認してください。

4 Windows NT Server セットアップ初期画面が表示されます。
セットアップ初期画面の指示に従って、セットアップディスクの交換を行います。
Windows NT Server セットアップ画面が表示されます。

5 CD-ROM ドライブコントローラのドライバをインストールします。

1. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

```
大容量記憶装置の検出を省略するには、S キーを押してください。
SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、および特殊なディスク コント
ローラを手動で選択してインストールできます。
```

2. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

```
Windows NT で使用する SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、
または特殊なディスク コントローラを追加して指定する場合は、
S キーを押してください。大容量記憶装置のメーカーのデバイス
サポート ディスクで指定する場合も、S キーを押してください。
```

3. 以下を選択します。

```
IDE CD-ROM(ATAPI 1.2)/PCI IDE Controller
```

4. 画面の指示に従って、「Windows NT Server Setup Disk #3」をセットし、【Enter】キーを押します。
ドライバがインストールされます。

6 手動でドライバを組み込みます。

1. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

```
Windows NT で使用する SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、
または特殊なディスク コントローラを追加して指定する場合は、
S キーを押してください。大容量記憶装置のメーカーのデバイス
サポート ディスクで指定する場合も、S キーを押してください。
```

2. 以下を選択します。

```
その他（ハードウェアメーカー提供のディスクが必要）
```

3. ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットし、【Enter】キーを押します。
4. お使いのカードにより、以下を選択します。
   ・SCSI アレイコントローラカード（PG-140C ／ PG-142C）の場合

```
Adaptec I20 RAID Host Adapters for NT4.0
```

   ・オンボードの SCSI コントローラの場合

```
Adaptec Ultra320 SCSI Cards (WinNT 4.0)
```

   ドライバがインストールされます。

7 選択したコントローラが表示されます。確認後、【Enter】キーを押します。

8 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。
Windows NT Server の CD-ROM を入れるようメッセージが表示されたら、Windows NT Server の CD-ROM をセットします。

9 Windows NT Server 4.0 をインストールするハードディスクユニットのパーティションを選択する画面が表示されます。画面の指示に従って、パーティションを作成し、インストールを続行してください。

10 ドライバのフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
ServerStart CD-ROM から作成した以下のドライバディスクをセットして、【Enter】キーを押します。
・SCSI アレイコントローラカード（PG-140C ／ PG-142C）の場合
「PG-140x/141B/142x Windows NT Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1」
・オンボードの SCSI コントローラの場合
「PRIMERGY TX200/RX300 Onboard SCSI Driver Windows NT/2000 Drivers Disk V1.10 」

11 以降、セットアッププログラムおよび『Windows NT Server ファーストステップガイド』の指示に従って、Windows NT Server 4.0 のインストールを続行します。

重 要

- 再起動時の注意
  インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するようにメッセージを表示します。この場合、1 分ほど待ってから、再起動してください。
  SCSI アレイコントローラカードをご使用の場合で、バックグラウンドで初期化処理中はハードディスクのアクセスランプが点灯していますが、再起動は可能です。

12 LAN ドライバをインストールします（「ネットワークに参加する」を選択した場合）。
「ネットワークアダプタカードの検出」画面が表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成した LAN ドライバディスクを使って、LAN ドライバをインストールします。インストール方法について、詳細は「7.2.3 LAN ドライバのインストール（Windows NT Server 4.0）」（→ P.241）を参照してください。

13 インストール終了後、Windows NT 4.0 Service Pack を適用します。
本サーバに添付されている Service Pack のうち、最新の Service Pack を適用します。詳細については、画面の説明を参照してください。

重 要

- ドライバは置換しないでください。
  Service Pack 適用中に、ドライバを置換するかどうかのメッセージが表示される場合がありますが、置換しないでください。

14 再起動後、ディスプレイドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
2. ServerStart CD-ROM 内の以下の EXE を起動します。
   [CD-ROMドライブ]:¥DRIVERS¥VIDEO¥ATI¥RAGEXL¥NT4¥SETUP.EXE
   画面の指示に従い、インストールを行います。
3. インストール終了後、ServerStart CD-ROM を取り出し、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

これで Windows NT Server 4.0 のインストールは終了です。
「B.10 手動インストール後の処理」（→ P.391）を行ったあと、サーバの運用を開始する前に、必ず「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照して必要な操作を行ってください。

B.6.4 Linux のインストール

Linux サービスバンドルタイプをご購入の場合は、本体に添付の Linux 関連マニュアルを参照してください。
また、HD タイプ／ディスクレスタイプにて Linux ディストリビューションをご使用の場合は、以下を参照してください。

富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ
（http://www.fmworld.net/biz/primergy/）内の『ソフトウェア』から『Linux 関連情報』

B.7〔RX200〕手動インストールの開始

手動での OS インストール方法について説明します。
インストールを開始する前に「付録 B.2 手動インストール前の確認」（→ P.321）をお読みになり、留意事項を確認してください。

B.7.1 Windows Server 2003 のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載のオンボード SCSI、またはアレイコントローラカード配下に Windows Server 2003 をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows Server 2003 をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。ドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものもあります。ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に使用するドライバ

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックカード	OS 標準提供のドライバ
オンボード LAN	* PG-188x/189x/Onboard LAN Driver for Windows 2003 Ver6.6
LAN カード（PG-1881 ／ PG-1891）	
LAN カード（PG-1861）	* PG-1851/186x/187x LAN Driver for Windows 2003 Ver6.6
オンボード SCSI	* PRIMERGY RX200 Onboard SCSI Driver Windows 2003 Drivers Disk V1.30.1
SCSI アレイコントローラカード（PG-140CL ／ PG-142B）	* PG-140CL/142B Windows 2003 Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1, Disk2
SCSI カード（PG-128）	OS 標準提供のドライバ
チップセット	RX200 Chipset Driver
上記以外の拡張カード	各拡張カードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画はエキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）および「3.4.3 ディスクマネージャ」（→ P.79）を参照してください。なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了して、サーバ本体の電源を切ってください。

重要

- メンテナンス区画のサイズについて
  サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。

3 Windows Server 2003 の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows Server 2003 の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

```
Press any key to boot from CD....
```

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

4 Windows Server 2003 セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

```
Press F6 if you need to install a third party SCSI or
RAID driver ...
```

重要

- このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。

5 手動でドライバを組み込みます。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives,
or special disk controllers for use with Windows
,including those for which you have a device
support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットし、【Enter】キーを押します。
   以下のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use
with Windows, using a device support disk
provided by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following
list,or press ESC to return to the previous screen.
```

3. お使いのカードにより、以下を選択します。
   ・SCSI アレイコントローラカードの場合

   ```
   Adaptec I2O RAID Adapters for Windows 2000 & XP 32bit
   ```

   ・オンボードの SCSI コントローラの場合

   ```
   Adaptec Ultra320 SCSI Cards (Win XP/Server 2003 IA32)
   ```

4. 以下のメッセージが表示された場合は、【S】キーを押します。

   ```
   The driver you provided seems to be newer than the
   Windows default dirver.
   ```

5. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。
   インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、それぞれ ServerStart CD-ROM から作成した以下のドライバディスクをセットして【Enter】キーを押してください。
   ・SCSI アレイコントローラカードの場合
   「PG-140CL/142B Windows 2003 Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1」
   ・オンボードの SCSI コントローラの場合
   「PRIMERGY RX200 Onboard SCSI Driver Windows 2003 Drivers Disk V1.30.1」

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。

インストール途中、ドライバが Windows との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していない旨のメッセージが表示された場合は、［はい］を選択してインストールを続行してください。

7 LAN ドライバをインストールします。

ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクを使用して、LAN ドライバをインストールします。詳細は、「7.2.1 LAN ドライバのインストール（Windows Server 2003）」（→ P.236）を参照してください。

8 チップセットドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
2. ServerStart CD-ROM 内の以下の EXE を起動します。
   [CD-ROM ドライブ]:¥DRIVERS¥ChipSet¥Intel¥Inch3-s¥install.exe
3. 以降、画面の指示に従ってインストールを行ってください。
4. 「InstallShield(R) ウィザードが完了しました。」と画面に表示されたら、ServerStart CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出し、［完了］をクリックしてシステムを再起動します。

これで Windows Server 2003 のインストールは終了です。
サーバの運用を開始する前に、「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。また、「第 5 章 高信頼ツール」（→ P.145）を参照し、高信頼ツールの導入を行ってください。

B.7.2 Windows 2000 Server のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載のオンボード SCSI、またはアレイコントローラカード配下に Windows 2000 Server をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows 2000 Server をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。ドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものもあります。ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に使用するドライバ

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックカード	RX200 OnBoard VGA Driver for Windows 2000
オンボード LAN	* PG-185x/186x/187x/188x/189x/Onboard LAN Driver for Windows 2000 Ver6.2
LAN カード （PG-1861 ／ PG-1881 ／ PG-1891）	
オンボード SCSI	* PRIMERGY RX200 Onboard SCSI Driver Windows 2000 Drivers Disk V1.10
SCSI アレイコントローラカード （PG-140CL ／ PG-142B）	* PG-140CL/142B Windows 2000 Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1, Disk2
SCSI カード（PG-128）	OS 標準提供のドライバ
ファイバーチャネルカード（PG-FC105）	* PG-FC105 Windows 2000 Drivers Disk V2.13A4
チップセット	RX200 Chipset Driver
上記以外の拡張カード	各拡張カードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画はエキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）および「3.4.3 ディスクマネージャ」（→ P.79）を参照してください。なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了して、サーバ本体の電源を切ってください。

重要

- メンテナンス区画のサイズについて
  サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。

3 Windows 2000 Server の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows 2000 Server の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

```
Press any key to boot from CD....
```

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

4 Windows 2000 Server セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

```
Press F6 if you need to install a third party SCSI or
RAID driver ...
```

重要

- このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。

5 SCSI アレイコントローラをご使用の場合、SCSI アレイコントローラのドライバをインストールします。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives,
or special disk controllers for use with Windows
2000,including those for which you have a device
support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、【Enter】キーを押します。

   次のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use
with Windows 2000, using a device support disk
provided by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following
list,or press ESC to return to the previous screen.
```

3. お使いのカードにより、以下を選択します。

   ・SCSI アレイコントローラカードの場合

```
Adaptec I2O RAID Adapters for Windows 2000 & XP 32bit
```

   ・オンボードの SCSI コントローラの場合

```
Adaptec Ultra320 SCSI Cards (Win 2000)
```

4. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。
   インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットして【Enter】キーを押してください。
   ・SCSI アレイコントローラカードの場合
   「PG-140CL/142B Windows 2000 Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1」
   ・オンボードの SCSI コントローラの場合
   「PRIMERGY RX200 Onboard SCSI Driver Windows 2000 Drivers Disk V1.10 」

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。

重要

- 再起動時の注意
  インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するメッセージを表示します。この場合、自動的に再起動するのを待ってください。

7 Windows 2000 Service Pack を適用します。

Windows 2000 Service Pack の CD-ROM から Service Pack を適用します。詳細については、画面の説明を参照してください。
Service Pack 適用時に、ドライバが Service Pack 内のドライバに置換される場合があります。詳細については、各ハードウェアに添付のマニュアルを参照してください。
ServerStart には CD-ROM のラベルに記載されている Service Pack が搭載されています。この Service Pack を適用するには、CD-ROM 内の以下の EXE を起動してください。

［CD-ROM ドライブ］:¥w2ksp3.exe

8 LAN ドライバをインストールします。

ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクを使用して、LAN ドライバをインストールします。詳細は、「7.2.2 LAN ドライバのインストール（Windows 2000 Server）」（→ P.237）を参照してください。

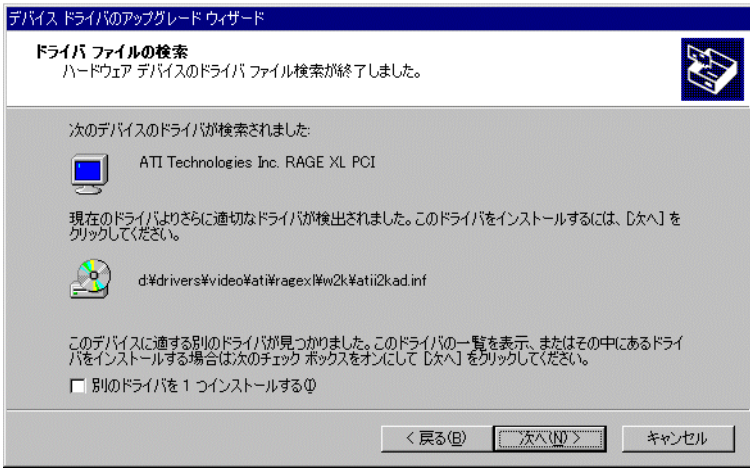
9 チップセットドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
2. ServerStart CD-ROM 内の以下の EXE を起動します。
   ［CD-ROM ドライブ］:¥DRIVERS¥ChipSet¥Intel¥Inch3-s¥install.exe
3. 以降、画面の指示に従ってインストールを行ってください。
4. 「InstallShield(R) ウィザードが完了しました。」と画面に表示されたら、ServerStart CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出し、［完了］をクリックしてシステムを再起動します。

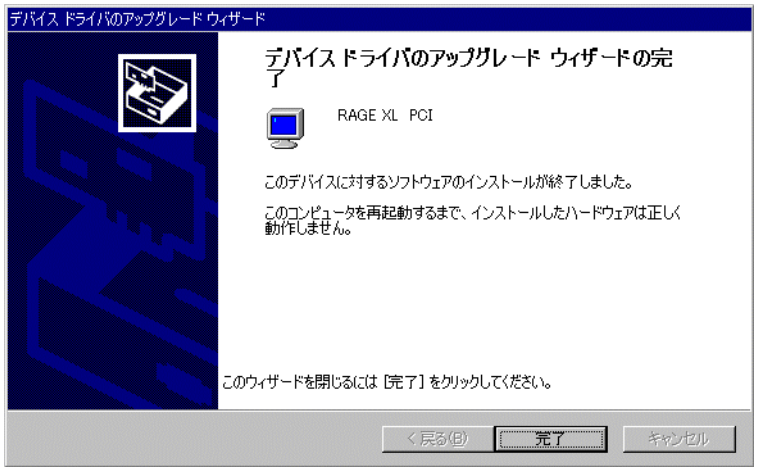
10 ディスプレイドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
2. 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「管理」を選択します。
3. 表示された画面内の一覧から「デバイスマネージャ」をクリックします。

4. 「ディスプレイアダプタ」配下の「ATI Technologies Inc. RAGE XL PCI」をダブルクリックします。
   「ATI Technologies Inc. RAGE XL PCI」のプロパティ画面が表示されます。
5. 「ドライバ」タブを選択し、「ドライバの更新」をクリックします。
6. 「デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの開始」画面で［次へ］をクリックします。
7. 「ハードウェア デバイス ドライバのインストール」画面で「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、［次へ］をクリックします。
8. 「ドライバ ファイルの特定」画面で「場所の指定」のみを選択し、［次へ］をクリックします。
9. 「製造元のファイルのコピー元」に以下を指定し、［OK］をクリックします。
   ［CD-ROM ドライブ］:¥DRIVERS¥VIDEO¥ATI¥RageXL¥W2K
10. 「ドライバ ファイルの検索」画面で以下のメッセージが表示されるのを確認し、［次へ］をクリックします。



11. 「デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの完了」画面が表示されます。［完了］をクリックしてください。



12. ServerStart CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出し、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

11 ServerStart CD-ROM 内の QFE モジュールを適用します。

●4GB を超えるメモリを搭載して Windows 2000 Advanced Server をインストールした場合

QFE モジュールを適用すると、メモリダンプが正常に取得できないといった不具合を修正します。

ServerStart CD-ROM 内の以下の EXE を起動してください。

［CD-ROM ドライブ］:¥DRIVERS¥Utils¥QFE¥w2k¥Q326333_W2K_SP4_X86_JA.exe

●IIS 5.0 をインストールした場合

QFE モジュールを適用すると、IIS の FTP サービスを利用してデータの送信と受信を繰り返すと、正常にデータ送信できない場合があるといった不具合を修正します。

ServerStart CD-ROM 内の以下の EXE を起動してください。

［CD-ROM ドライブ］:¥DRIVERS¥Utils¥QFE¥w2k¥Windows2000-KB823271-x86-JPN.EXE

重要

- QFE モジュールを適用する前に、必ず Service Pack 3 を適用しておいてください。

これで Windows 2000 Server のインストールは終了です。

「B.10 手動インストール後の処理」（→ P.391）を行ったあと、サーバの運用を開始する前に、必ず「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照して必要な操作を行ってください。

B.7.3 Linux のインストール

Linux サービスバンドルタイプをご購入の場合は、本体に添付の Linux 関連マニュアルを参照してください。

また、HD タイプにて Linux ディストリビューションをご使用の場合は、以下を参照してください。

富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ（http://www.fmworld.net/biz/primergy/）内の『ソフトウェア』から『Linux 関連情報』

B.8〔TX150〕手動インストールの開始

手動での OS インストール方法について説明します。
インストールを開始する前に「付録 B.2 手動インストール前の確認」（→ P.321）をお読みになり、留意事項を確認してください。

B.8.1 Windows Server 2003 のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載の SCSI、または IDE アレイコントローラカード配下に Windows Server 2003 をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows Server 2003 をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。ドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものもあります。ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に使用するドライバ

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックカード	OS 標準提供のドライバ
オンボード LAN	* PG-188x/189x LAN Driver for Windows 2003 Ver6.6
LAN カード（PG-1891）	
LAN カード（PG-1851）	* PG-185x/186x/187x LAN Driver for Windows 2003 Ver6.6
IDE アレイコントローラカード	* IDE RAID FastTrak100 Drivers Windows 2003 用 V2.05L10
オンボード SCSI	* PRIMERGY TX150 Onboard SCSI Driver Windows 2003 Drivers Disk V1.30.1
SCSI アレイコントローラカード（PG-140C）	* PG-140x/141B/142x Windows 2003 Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1, Disk2
SCSI カード（PG-128）	OS 標準提供のドライバ
SCSI カード（PG-129）	
上記以外の拡張カード	各拡張カードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画はエキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）および「3.4.3 ディスクマネージャ」（→ P.79）を参照してください。なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了して、サーバ本体の電源を切ってください。

重要

- メンテナンス区画のサイズについて
  サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。

3 Windows Server 2003 の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows Server 2003 の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

```
Press any key to boot from CD....
```

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

4 Windows Server 2003 セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

```
Press F6 if you need to install a third party SCSI or
RAID driver ...
```

重要

- このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。

5 手動でドライバを組み込みます。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives,
or special disk controllers for use with Windows
,including those for which you have a device
support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットし、【Enter】キーを押します。
   以下のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use
with Windows, using a device support disk
provided by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following
list,or press ESC to return to the previous screen.
```

3. お使いのカードにより、以下を選択します。
   ・IDE アレイコントローラカードの場合

```
Win.NET Promise FastTrak100 (tm) LP Controller (TX150/
BX300/RX100)
```

・SCSI アレイコントローラカードの場合

```
Adaptec I2O RAID Adapters for Windows 2000 & XP 32bit
```

・オンボードの SCSI コントローラの場合

```
Adaptec Ultra320 SCSI Cards (Win XP/Server 2003 IA32)
```

4. 以下のメッセージが表示された場合は、【S】キーを押します。

```
The driver you provided seems to be newer than the
Windows default dirver.
```

5. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。
   インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、それぞれ ServerStart CD-ROM から作成した以下のドライバディスクをセットして【Enter】キーを押してください。
   ・IDE アレイコントローラカードの場合
   「IDE RAID FastTrak100 Drivers Windows 2003 用 V2.05L10」
   ・SCSI アレイコントローラカードの場合
   「PG-140x/141B/142x Windows 2003 Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1」
   ・オンボード SCSI カードの場合
   「PRIMERGY TX150 Onboard SCSI Driver Windows 2003 Drivers Disk V1.30.1」

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。
インストール途中、ドライバが Windows との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していない旨のメッセージが表示された場合は、［はい］を選択してインストールを続行してください。

7 LAN ドライバをインストールします。
ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクを使用して、LAN ドライバをインストールします。詳細は、「7.2.1 LAN ドライバのインストール（Windows Server 2003）」（→ P.236）を参照してください。

これで Windows Server 2003 のインストールは終了です。
サーバの運用を開始する前に、「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。また、「第 5 章 高信頼ツール」（→ P.145）を参照し、高信頼ツールの導入を行ってください。

B.8.2 Windows 2000 Server のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載の SCSI または IDE アレイコントローラカード配下に Windows 2000 Server をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。
Windows 2000 Server をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。
Windows 2000 Server で使用するドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものもあります。ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に使用するドライバ

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックカード	TX150 OnBoard VGA Driver (RAGE XL)
オンボード LAN	* PG-185x/186x/187x/188x/189x LAN Driver for Windows 2000 Ver6.2
LAN カード（PG-1851 ／ PG-1891）	
IDE アレイコントローラカード	* IDE RAID FastTrak100 Drivers Windows NT4.0/2000 用 V2.04L30
オンボード SCSI	* PRIMERGY TX150 Onboard SCSI Driver Windows NT/2000 Drivers Disk V1.10
SCSI アレイコントローラカード（PG-140C）	* PG-140x/141B/142x Windows 2000 Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1, Disk2
SCSI カード（PG-128）	OS 標準提供のドライバ
SCSI カード（PG-129）	* PG-129 Windows 2000 Driver V5.09L40
FAX モデムカード（FMV-FX533）	FMV-FX533 モデムカード用ドライバ
上記以外の拡張カード	各拡張カードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2　メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画はエキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）および「3.4.3 ディスクマネージャ」（→ P.79）を参照してください。なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了して、サーバ本体の電源を切ってください。

重要

- **メンテナンス区画のサイズについて**
  サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。

3　Windows 2000 Server の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows 2000 Server の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

```
Press any key to boot from CD....
```

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

4　Windows 2000 Server セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

```
Press F6 if you need to install a third party SCSI or
RAID driver ...
```

重 要

- このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。

5 手動でドライバを組み込みます。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives,
or special disk controllers for use with Windows
2000,including those for which you have a device
support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットし、【Enter】キーを押します。
   以下のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use
with Windows 2000, using a device support disk
provided by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following
list,or press ESC to return to the previous screen.
```

3. お使いのカードにより、以下を選択します。
   ・IDE アレイコントローラカードの場合

```
Win2000 Promise FastTrak100 (tm) LP Controller (RX100
C150E TX150 BX300)
```

   ・SCSI アレイコントローラカードの場合

```
Adaptec I2O RAID Adapters for Windows 2000 & XP 32bit
```

   ・オンボードの SCSI カードの場合

```
Adaptec Ultra320 SCSI Cards (Win2000)
```

4. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。
   インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、それぞれ ServerStart CD-ROM から作成した以下のドライバディスクをセットして【Enter】キーを押してください。
   ・IDE アレイコントローラカードの場合
   「IDE RAID FastTrak100 Drivers Windows NT4.0/2000 用 V2.04L30」
   ・SCSI アレイコントローラカードの場合
   「PG-140x/141B/142x Windows 2000 Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1」
   ・オンボードの SCSI コントローラの場合
   「PRIMERGY TX150 Onboard SCSI Driver Windows NT/2000 Drivers Disk V1.10」

POINT

- 他のカードのドライバをインストールする場合は、手順４、５を繰り返して、ドライバをインストールしてください。

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。

●SBS 2000 をインストールの場合

インストールするハードディスクユニットのパーティションを選択するようメッセージが表示されます。

1. 画面の指示に従って、4GB 以上のパーティションを作成します。必ず NTFS ファイルシステムでフォーマット後、インストールを続けてください。
2. フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットして【Enter】キーを押してください。
3. インストール終了後、画面の指示に従って再起動してください。
   ログオン後、「Small Business Server 2000 セットアップ」画面が表示されます。
4. ［Small Business Server 2000 セットアップ］をクリックし、画面の指示に従って SBS 2000 のインストールを行ってください。

POINT

- インストールの要件を満たしていないシステムにインストールを行った場合、インストール中に「Suite 要件」画面が表示され、説明が表示されます。説明を参考に、要件を満たすように変更後、インストールを継続してください。

重要

- 再起動時の注意
  インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するメッセージを表示します。
  この場合、自動的に再起動するのを待ってください。

7 LAN ドライバをインストールします。

ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクを使用して、LAN ドライバをインストールします。詳細は、「7.2.2 LAN ドライバのインストール（Windows 2000 Server）」（→ P.237）を参照してください。

8 ディスプレイドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
2. デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから［管理］をクリックします。
3. 「デバイスマネージャ」をクリックします。
   「ディスプレイアダプタ」配下に「RAGEXL」が表示されます。
4. 「RAGEXL」をダブルクリックします。
   「プロパティ」画面が表示されます。
5. ［ドライバ］タブをクリックし、［ドライバの更新］をクリックします。
   「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面が表示されます。
6. ［次へ］をクリックします。
   「ハードウェアデバイスドライバのインストール」画面が表示されます。
7. 「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、［次へ］をクリックします。
   「ドライバファイルの特定」画面が表示されます。
8. 「検索場所のオプション」に「CD-ROM ドライブ」を選択し、［次へ］をクリックします。
9. 「次のデバイスドライバが検索されました」と表示されたら、［次へ］をクリックします。
   ドライバのインストールが開始されます。
10. インストールが終了したら、［完了］をクリックします。
11. ［閉じる］をクリックして「プロパティ」画面を終了します。
12. ServerStart CD-ROM を取り出し、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

9 各ドライバのインストール終了後、Windows 2000 Service Pack を適用します。

Windows 2000 Service Pack の CD-ROM から Service Pack を適用します。詳細については、画面の説明を参照してください。

Service Pack 適用時に、ドライバが Service Pack 内のドライバに置換される場合があります。詳細については、各ハードウェアに添付のマニュアルを参照してください。

ServerStart には CD-ROM のラベルに記載されている Service Pack が搭載されています。この Service Pack を適用するには、CD-ROM 内の以下の EXE を起動してください。

［CD-ROMドライブ］:¥w2ksp3.exe

これで Windows 2000 Server のインストールは終了です。

「B.10 手動インストール後の処理」（→ P.391）を行ったあと、サーバの運用を開始する前に、必ず「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照して必要な操作を行ってください。

B.8.3 Windows NT Server 4.0 のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載の SCSI または RAID アレイコントローラカード配下に Windows NT Server 4.0 をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows NT Server 4.0 をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。Windows NT Server 4.0 で使用するドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものがあります。ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に使用するドライバ

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックカード	TX150 OnBoard VGA Driver (RAGE XL)
オンボード LAN	* PG-185x/186x/187x/188x/189x LAN Driver for Windows NT Ver6.2 Disk1, Disk2
LAN カード（PG-1851 ／ PG-1891）	
IDE アレイコントローラカード	* IDE RAID FastTrak100 Drivers Windows NT4.0/2000 用 V2.04L30
オンボード SCSI	* PRIMERGY TX150 Onboard SCSI Driver Windows NT/2000 Drivers Disk V1.10
SCSI アレイコントローラカード（PG-140C）	* PG-140x/141B/142x Windows NT Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1, Disk2
SCSI カード（PG-128）	* PG-128/130L Windows NT Drivers Disk V1.11L10
SCSI カード（PG-129）	* PG-129 Windows NT4.0 Driver V5.05
FAX モデムカード（FMV-FX533）	FMV-FX533 モデムカード用ドライバ
上記以外の拡張カード	各拡張カードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画はエキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）および「3.4.3 ディスクマネージャ」（→ P.79）を参照してください。

なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了してサーバ本体の電源を切ってください。

重要

- メンテナンス区画のサイズについて
  サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。

3 Windows NT Server 4.0 のセットアップディスク 1 をフロッピーディスクドライブにセットし、サーバの電源を入れます。
このとき、CD-ROM ドライブに CD-ROM が入っていないことを確認してください。

4 Windows NT Server セットアップ初期画面が表示されます。
セットアップ初期画面の指示に従って、セットアップディスクの交換を行います。
Windows NT Server セットアップ画面が表示されます。

5 CD-ROM ドライブコントローラのドライバをインストールします。

1. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

```
大容量記憶装置の検出を省略するには、S キーを押してください。
SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、および特殊なディスク コント
ローラを手動で選択してインストールできます。
```

2. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

```
Windows NT で使用する SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、
または特殊なディスク コントローラを追加して指定する場合は、
S キーを押してください。大容量記憶装置のメーカーのデバイス
サポート ディスクで指定する場合も、S キーを押してください。
```

3. 以下を選択します。

```
IDE CD-ROM(ATAPI 1.2)/PCI IDE Controller
```

4. 画面の指示に従って、「Windows NT Server Setup Disk #3」をセットし、【Enter】キーを押します。
ドライバがインストールされます。

6 手動でドライバを組み込みます。

1. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

```
Windows NT で使用する SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、
または特殊なディスク コントローラを追加して指定する場合は、
S キーを押してください。大容量記憶装置のメーカーのデバイス
サポート ディスクで指定する場合も、S キーを押してください。
```

2. 以下を選択します。

```
その他（ハードウェアメーカー提供のディスクが必要）
```

3. ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットし、【Enter】キーを押します。
4. お使いのカードにより、以下を選択します。
・IDE アレイコントローラカードの場合

```
WinNT Promise FastTrak100 (tm) LP Controller (RX100
C150E TX150 BX300)
```

・SCSI アレイコントローラカードの場合

```
Adaptec I2O RAID Host Adapters for NT4.0
```

・オンボードの SCSI コントローラの場合

```
Adaptec Ultra320 SCSI Cards (WinNT 4.0)
```

ドライバがインストールされます。

7 選択したコントローラが表示されます。確認後、【Enter】キーを押します。

8 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。
Windows NT Server の CD-ROM を入れるようメッセージが表示されたら、Windows NT Server の CD-ROM をセットします。

9 Windows NT Server 4.0 をインストールするハードディスクユニットのパーティションを選択する画面が表示されます。画面の指示に従って、パーティションを作成し、インストールを続行してください。

10 ドライバのフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
ServerStart CD-ROM から作成した以下のドライバディスクをセットして、【Enter】キーを押します。
・IDE アレイコントローラカードの場合
「IDE RAID FastTrak100 Drivers Windows NT4.0/2000 用 V2.04L30」
・SCSI アレイコントローラカードの場合
「PG-140x/141B/142x Windows NT Driver and Storage Manager V3.23L30 Disk1」
・オンボード SCSI カードの場合
「PRIMERGY TX150 Onboard SCSI Driver Windows NT/2000 Drivers Disk V1.10」

11 以降、セットアッププログラムおよび『Windows NT Server ファーストステップガイド』の指示に従って、Windows NT Server 4.0 のインストールを続行します。

重要

- 再起動時の注意
  インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するようにメッセージが表示されます。この場合、1 分ほど待ってから、再起動してください。
  SCSI アレイコントローラカードをご使用の場合で、バックグラウンドで初期化処理中はハードディスクのアクセスランプが点灯していますが、再起動は可能です。

12 LAN ドライバをインストールします（「ネットワークに参加する」を選択した場合）。
「ネットワークアダプタカードの検出」画面が表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成した LAN ドライバディスクを使って、LAN ドライバをインストールします。インストール方法について、詳細は「7.2.3 LAN ドライバのインストール（Windows NT Server 4.0）」（→ P.241）を参照してください。

13 インストール終了後、Windows NT 4.0 Service Pack を適用します。
本サーバに添付されている Service Pack のうち、最新の Service Pack を適用します。詳細については、画面の説明を参照してください。

重要

- ドライバは置換しないでください。
  Service Pack 適用中に、ドライバを置換するかどうかのメッセージが表示される場合がありますが、置換しないでください。

14 再起動後、ディスプレイドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
2. ServerStart CD-ROM 内の以下の EXE を起動します。
   ［CD-ROMドライブ］:¥DRIVERS¥VIDEO¥ATI¥RAGEXL¥NT4¥SETUP.EXE
   画面の指示に従い、インストールを行います。
3. インストール終了後、ServerStart CD-ROM を取り出し、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

これで Windows NT Server 4.0 のインストールは終了です。
「B.10 手動インストール後の処理」（→ P.391）を行ったあと、サーバの運用を開始する前に、必ず「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照して必要な操作を行ってください。

B.8.4 Linux のインストール

Linux サービスバンドルタイプをご購入の場合は、本体に添付の Linux 関連マニュアルを参照してください。
また、HD タイプ／ディスクレスタイプにて Linux ディストリビューションをご使用の場合は、以下を参照してください。

富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ（http://www.fmworld.net/biz/primergy/）内の『ソフトウェア』から『Linux 関連情報』

B.9〔RX100〕手動インストールの開始

手動での OS インストール方法について説明します。
インストールを開始する前に「付録 B.2 手動インストール前の確認」（→ P.321）をお読みになり、留意事項を確認してください。

B.9.1 Windows Server 2003 のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載のオンボード IDE アレイコントローラ配下に Windows Server 2003 をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows Server 2003 をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。ドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものもあります。ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に使用するドライバ

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックカード	OS 標準提供のドライバ
オンボード LAN（100Base-TX）	* PG-1851/186x/187x LAN Driver for Windows 2003 Ver6.6
LAN カード（PG-1861 ／ PG-1871L）	
オンボード LAN （1000Base-T）	* PG-1852/188x/189x LAN Driver for Windows 2003 Ver6.6
LAN カード（PG-1881L ／ PG-1891L）	
オンボード IDE アレイコントローラ	* IDE RAID FastTrak100 Drivers Windows 2003 用 V2.05L10
SCSI カード（PG-130L）	OS 標準提供のドライバ
上記以外の拡張カード	各拡張カードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画はエキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）および「3.4.3 ディスクマネージャ」（→ P.79）を参照してください。なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了して、サーバ本体の電源を切ってください。

重 要

- メンテナンス区画のサイズについて
  サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。

3 Windows Server 2003 の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows Server 2003 の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

```
Press any key to boot from CD....
```

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

4 Windows Server 2003 セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

```
Press F6 if you need to install a third party SCSI or
RAID driver ...
```

重 要

- このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。

5 手動でドライバを組み込みます。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives,
or special disk controllers for use with Windows
,including those for which you have a device
support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットし、【Enter】キーを押します。
   以下のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use
with Windows, using a device support disk
provided by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following
list,or press ESC to return to the previous screen.
```

3. 以下を選択します。

```
Win.NET Promise FastTrak100 (tm) LP Controller (TX150/
BX300/RX100)
```

4. 以下のメッセージが表示された場合は、【S】キーを押します。

```
The driver you provided seems to be newer than the
Windows default dirver.
```

5. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。
インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、ServerStart CD-ROM から作成した以下のドライバディスクをセットして【Enter】キーを押してください。
「IDE RAID FastTrak100 Drivers Windows 2003 用 V2.05L10」

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。
インストール途中、ドライバが Windows との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していない旨のメッセージが表示された場合は、［はい］を選択してインストールを続行してください。

7 LAN ドライバをインストールします。
ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクを使用して、LAN ドライバをインストールします。詳細は、「7.2.1 LAN ドライバのインストール（Windows Server 2003）」（→ P.236）を参照してください。

8 IDE RAID 管理ツールをインストールします。
インストール方法については、「B.9.4 IDE RAID 管理ツールのインストール」（→ P.390）を参照してください。

これで Windows Server 2003 のインストールは終了です。
サーバの運用を開始する前に、「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、必要な操作を行ってください。また、「第 5 章 高信頼ツール」（→ P.145）を参照し、高信頼ツールの導入を行ってください。

B.9.2 Windows 2000 Server のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載のオンボードIDEアレイコントローラ配下にWindows 2000 Server をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。
Windows 2000 Server をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。ドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものもあります。ドライバディスクの作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。

●インストール時に必要なドライバディスク

拡張カード／オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックコントローラ	OnBoard VGA Driver（RAGE XL）
オンボード LAN	* PG-185x/186x/187x/188x/189x LAN Driver for Windows 2000 Ver6.2
LAN カード （PG-1861 ／ PG-1871L ／ PG-1881L ／ PG-1891L）	
オンボード IDE アレイコントローラ	*IDE RAID FastTrak100 Drivers Windows NT4.0/ 2000 用 V2.04L30
SCSI カード（PG-130L）	OS 標準提供のドライバ
上記以外の拡張カード	各拡張カードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画はエキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」（→ P.76）および「3.4.3 ディスクマネージャ」（→ P.79）を参照してください。
なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了して、サーバ本体の電源を切ってください。

重 要

- **メンテナンス区画のサイズについて**
  サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。

3 Windows 2000 Server の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows 2000 Server の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

```
Press any key to boot from CD....
```

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

4 Windows 2000 Server セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

```
Press F6 if you need to install a third party SCSI or
RAID driver ...
```

重 要

- このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。

5 手動でドライバを組み込みます。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives,
or special disk controllers for use with Windows
2000,including those for which you have a device
support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットし、【Enter】キーを押します。
   次のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use
with Windows 2000, using a device support disk
provided by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following
list,or press ESC to return to the previous screen.
```

3. 以下を選択します。

```
Win2000 Promise FastTrak100 (tm) LP Controller (RX100
C150E TX150 BX300)
```

4. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。
   インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、ServerStart CD-ROM から作成した以下のドライバディスクをセットして【Enter】キーを押してください。
   「IDE RAID FastTrak100 Drivers Windows NT4.0/2000 用 V2.04L30」

POINT

- 他のカードのドライバをインストールする場合は、手順４、５を繰り返して、ドライバをインストールしてください。

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。

重 要

- 再起動時の注意
  インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するメッセージを表示します。
  この場合、自動的に再起動するのを待ってください。

7 LAN ドライバをインストールします。

ServerStart CD-ROM を使用して、LAN ドライバをインストールします。詳細は、「7.2.2 LAN ドライバのインストール（Windows 2000 Server）」（→ P.237）を参照してください。

8 ディスプレイドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
2. 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「管理」を選択します。
3. 表示された画面内の一覧から「デバイスマネージャ」をクリックします。
4. 「ディスプレイアダプタ」配下の「RAGE XL PCI」をダブルクリックします。
5. 「プロパティ」画面が表示されたら、「ドライバ」タブを選択し、「ドライバの更新」をクリックします。
6. 「デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの開始」画面で［次へ］をクリックします。
7. 「ハードウェア デバイス ドライバのインストール」画面で「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、［次へ］をクリックします。
8. 「ドライバ ファイルの特定」画面で「場所の指定」のみを選択し、［次へ］をクリックします。
9. 「製造元のファイルのコピー元」に以下を指定し、［OK］をクリックします。
   ［CD-ROM ドライブ］:¥DRIVERS¥VIDEO¥ATI¥RageXL¥W2K
10. 「ドライバ ファイルの検索」画面で以下のメッセージが表示されるのを確認し、［次へ］をクリックします。

    ```
    次のドライバが検索されました。
    RAGE XL PCI
    現在のドライバよりさらに適切なドライバが検出されました。このドライバをインストールするには、［次へ］をクリックしてください。
    [CD-ROMドライブ]¥drivers¥video¥ati¥ragexl¥w2k¥atii2kad.inf
    ```

11. 「デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの完了」画面で以下のメッセージが表示されるので、［完了］をクリックします。

    ```
    RAGE XL PCI
    このデバイスに対するソフトウェアのインストールが終了しました。
    ```

12. ServerStart CD-ROM を取り出し、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

9 各ドライバのインストール終了後、Windows 2000 Service Pack を適用します。

Windows 2000 Service Pack の CD-ROM から Service Pack を適用します。詳細については、画面の説明を参照してください。

Service Pack 適用時に、ドライバが Service Pack 内のドライバに置換される場合があります。詳細については、各ハードウェアに添付のマニュアルを参照してください。

ServerStart には CD-ROM のラベルに記載されいる Service Pack が搭載されています。この Service Pack を適用するには、CD-ROM 内の以下の EXE を起動してください。

［CD-ROM ドライブ］:¥w2ksp3.exe

10 IDE RAID 管理ツールをインストールします。

インストール方法については、「B.9.4 IDE RAID 管理ツールのインストール」（→ P.390）を参照してください。

これで Windows 2000 Server のインストールは終了です。「B.10 手動インストール後の処理」（→ P.391）を行ったあと、サーバの運用を開始する前に、必ず「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照して必要な操作を行ってください。

B.9.3 Linux のインストール

Linux サービスバンドルタイプをご購入の場合は、本体に添付の Linux 関連マニュアルを参照してください。
また、HD タイプ／ディスクレスタイプにて Linux ディストリビューションをご使用の場合は、以下を参照してください。

富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ
（http://www.fmworld.net/biz/primergy/）内の『ソフトウェア』から『Linux 関連情報』

B.9.4 IDE RAID 管理ツールのインストール

IDE RAID 管理ツールは、ServerStart を使用して OS をインストールした場合は自動的にインストールされます。OS インストールタイプをご購入の場合、および手動で OS をインストールした場合は、以下の手順に従って IDE RAID 管理ツールをインストールしてください。
インストールの前に、ServerStart CD-ROM から FastCheckMonitoringUtility のドライバディスクを作成しておいてください。

・Windows 2003 の場合「IDE RAID FastTrak100 Utility Windows 2003 用 V1.31L90」
・Windows 2000 の場合「IDE RAID FastTrak100 Utilities Windows NT4.0/2000 用 V1.31L80」

作成方法については、「7.1 ドライバディスクの作成方法」（→ P.230）を参照してください。
IDE RAID 管理ツールの使用方法については、「付録 A.3 IDE RAID 管理ツール」（→ P.262）を参照してください。

1 管理者権限でサーバにログオンします。

2 インストールを行う前に、すべてのプログラムを終了します。

3 ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットします。

4 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

5 「名前」に以下を入力し、［OK］をクリックします。

```
A:¥setup.exe
```

IDE RAID 管理ツールのセットアップが開始されます。
以降は、画面の指示に従ってインストールしてください。

B.10手動インストール後の処理

手動で OS インストールタイプの開封を行った場合、または手動で OS のインストールを行った場合は、インストール後に以下の操作を行ってください。以下の操作後、必ず「第 4 章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照してください。

B.10.1高信頼ツールのインストール

高信頼ツールのインストールを行います。「第 5 章 高信頼ツール」（→ P.145）を参照し、各ツールの標準インストーラでインストールしてください。

B.10.2不明デバイス用 Class driver のインストール

お使いに機種により異なります。

■ BX300 ／ RX300 ／ TX200 ／ RX200 ／ TX150 ／ RX100

BX300 ／ RX300 ／ TX200 ／ RX200 ／ TX150 ／ RX100 の場合、Windows 2000 Server インストール後、GEM318（SAF-TE コントローラ）は不明デバイスとして認識されます。Class driver をインストールすることで、「FSC SCSI Termination Module GEM318」として認識させることができます。
以下の方法でインストールを行います（C: は OS のインストールされているドライブ、D: は CD-ROM ドライブとして説明します）。

1. 管理者権限でサーバにログオンします。
2. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
   ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
3. ServerStart CD-ROM の "D:¥FSC¥W2k-inf" フォルダ内の以下のファイルを "C:¥winnt¥inf" へコピーします。
   "stmscsi.cat"
   "stmscsi.inf"
4. デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「管理」をクリックします。
5. 「デバイスマネージャ」をクリックします。
6. 「その他のデバイス」の「SDR GEM318 SCSI Prosessor Device」をダブルクリックします。
   「プロパティ」画面が表示されます。

7 ［ドライバ］タブをクリックし、［ドライバの更新］をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。

8 「ハードウェアデバイスドライバのインストール」画面で、「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、［次へ］をクリックします。

9 「ドライバファイルの検索」画面で、「場所の指定」のみにチェックを付け、他のチェックを外して［次へ］をクリックします。

10 製造元のファイルのコピー元を「C:¥winnt¥inf」と入力し、［OK］をクリックします。

11 「ドライバファイルの検索」画面で、以下のメッセージが表示されるので、［次へ］をクリックします。

```
次のデバイスのドライバが検出されました。
SDR GEM318 SCSI Processor Device

現在のドライバよりさらに適切なドライバが検出されました。
このドライバをインストールするには、「次へ」をクリックしてください。
C:¥Winnt¥inf¥stmscsi.inf
```

12 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」画面で、以下のメッセージが表示されるので、［完了］をクリックします。

```
FSC SCSI Termination Module
このデバイスに対するソフトウェアのインストールが終了しました。
```

13 ウィンドウを閉じます。
デバイスマネージャの一覧に「FSC SCSI Termination Module GEM318」が追加されます。

■ H450 ／ R450

H450／R450 では、Windows Server 2003 または Windows 2000 Server のインストール後、GEM318（SAF-TE コントローラ）および CopernicsA（ベースボード上で温度や電圧のセンサなどを管理しているマイクロコントローラ）は不明デバイスとして認識されます。このデバイス専用 Class driver をインストールすることで、「FSC Termination Module GEM318」および「FSC Remote Service Controller」として認識させることができます。

● Windows Server 2003 の場合

1 管理者権限でサーバにログオンします。

2 ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。

3 「スタート」ボタン→「管理ツール」→「コンピュータの管理」の順にクリックします。

4 「デバイスマネージャ」をクリックします。

5 「システムデバイス」に「HP SAF-TE SCSI Processor Device」、「その他のデバス」に「PCI Device」が表示されます。
それぞれのデバイスに対して、以下の手順 6 ～ 9 を行います。

6 設定するデバイスをダブルクリックします。
「プロパティ」画面が表示されます。

7 ［ドライバ］タブをクリックし、［ドライバの更新］をクリックします。
「ハードウェアの更新ウィザードの開始」画面が表示されます。

8 「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選択し、［次へ］をクリックします。
ドライバのインストールが開始されます。

POINT

- 「下の一覧からハードウェアに最適なソフトを選んでください」の画面が表示された場合は、ドライバの収録場所が Serverstart CD-ROM の "D:¥FSC¥win2003-inf¥" のものを選択してください。

9 ［完了］をクリックします。

10 ［閉じる］をクリックします。
デバイスマネージャの一覧に、以下が追加されます。

●「HP SAF-TE SCSI Processor Device」を選択した場合
- FSC SCSI Termination Module GEM318

●「PCI Device」を選択した場合
- FSC Remote Service Controller, mailbox device
- FSC Remote Service Controller, shared memory device
- FSC Remote Service Controller, SMIC device

● Windows 2000 Server の場合

以下の方法でインストールを行います（C: は OS のインストールされているドライブ、D: は CD-ROM ドライブとして説明します）。

1 管理者権限でサーバにログオンします。

2 ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。

3 ServerStart　CD-ROM の "D:¥FSC¥W2k-inf" フォルダ内の以下のファイルを "C:¥winnt¥inf" へコピーします。

"stmscsi.cat"
"stmscsi.inf"
"copernicus.cat"
"copernicus.inf"

4 デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「管理」をクリックします。

5 「デバイスマネージャ」をクリックします。

6 「その他のデバイス」に以下のデバイスが表示されます。

SDR GEM318 SCSI Processor Device
PCI Device

それぞれのデバイスに対して、以下の手順 7 ～ 11 を行います。

7 上記のデバイスをダブルクリックします。
「プロパティ」画面が表示されます。

8 ［ドライバ］タブをクリックし、［ドライバの更新］をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。

9 「ハードウェアデバイスドライバのインストール」画面で、「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、［次へ］をクリックします。

10 「ドライバファイルの検索」画面で、「場所の指定」のみにチェックを付け、他のチェックを外して［次へ］をクリックします。

11 製造元のファイルのコピー元を「C:¥winnt¥inf」と入力し、［OK］をクリックします。

●「SDR GEM318 SCSI Processor Device」を選択した場合

1. 「ドライバファイルの検索」画面で、以下のメッセージが表示されるので、［次へ］をクリックします。

> 次のデバイスのドライバが検出されました。
> SDR GEM318 SCSI Processor Device
>
> 現在のドライバよりさらに適切なドライバが検出されました。
> このドライバをインストールするには、「次へ」をクリックしてください。
> C:¥Winnt¥inf¥stmscsi.inf

2. 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」画面で、以下のメッセージが表示されるので、［完了］をクリックします。

> FSC SCSI Termination Module GEM318
> このデバイスに対するソフトウェアのインストールが終了しました。

●「PCI Device」を選択した場合

1.「ドライバファイルの検索」画面で、以下のメッセージが表示されるので、[次へ]をクリックします。

```
次のデバイスのドライバが検出されました。
FSC Remote Service Controller, mailbox device
FSC Remote Service Controller, shared memory device
FSC Remote Service Controller, SMIC device

現在のドライバよりさらに適切なドライバが検出されました。
このドライバをインストールするには、「次へ」をクリックしてください。
C:¥Winnt¥inf¥copernicus.inf
```

2.「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」画面で、以下のメッセージが表示されるので、[完了]をクリックします。

```
FSC Remote Service Controller, mailbox device
FSC Remote Service Controller, shared memory device
FSC Remote Service Controller, SMIC device
このデバイスに対するソフトウェアのインストールが終了しました。
```

12 ウィンドウを閉じます。

デバイスマネージャの一覧に、以下が追加されます。

●「SDR GEM318 SCSI Processor Device」を選択した場合

・FSC SCSI Termination Model GEM318

●「PCI Device」を選択した場合

・FSC Remote Service Controller, mailbox device
・FSC Remote Service Controller, shared memory device
・FSC Remote Service Controller, SMIC device

B.10.3QFE モジュールの適用について（Windows 2000 Advanced Server）

4GB を超えるメモリを搭載して、Windows 2000 Advanced Server を手動でインストールした場合は、ServerStart CD-ROM 内の QFE モジュールを適用してください。
QFE モジュールを適用すると、メモリダンプが正常に取得できないといった不具合を修正します。なお、ServerStart を使用した自動インストールでは、QFE モジュールは自動的に適用されます。

重要

- QFE モジュールの適用は、必ず Service Pack 3 を適用してから行ってください。

1 ServerStart CD-ROM をセットし、CD-ROM 内の以下の EXE を起動します。

[CD-ROM ドライブ]:¥DRIVERS¥Utils¥QFE¥w2k¥Q326333_W2K_SP4_X86_JA.exe

B.10.4ファイルシステムについて（Windows NT Server 4.0）

セットアップ完了後、ファイルシステムが NTFS に変換されていない場合は、以下の操作を行って NTFS に変換してください。

1 管理者権限でサーバにログオンします。

2 コマンドプロンプトを起動し、コマンドライン上で次のコマンドを入力します。

```
CONVERT C:/FS:NTFS /V
```

コマンドラインに、次のメッセージが表示されます。

```
ファイルシステムの種類は FAT です。
CONVERT で C: ドライブへの排他的アクセスを実行できないため、現時点では
変換できません。次回のシステム再起動時にドライブの変換をスケジュールしま
すか (Y/N) ?
```

3 【Y】キーを押します。

再起動時に自動的に変換が行われる旨のメッセージが表示されます。メッセージを確認後、再起動してください。

索引

あ

アカウントの関連付け 179
アプリケーションウィザード
　エキスパートモード 83
　ガイドモード 55
アレイの一貫性チェック（Synchronize）. 268
アンインストール
　Chronoworker/S 162
　PROBEPRO 158
　ServerStart 33
　WizardConsole 226

い

インストール
　Chronoworker/S 160
　PROBEPRO 156
　RAS 支援サービス 146
　ServerView 152
　DSNAP 159
　FM Advisor 154
　Tape Maintenance Checker. 153
インストール先パーティションサイズ. . . . 29
インストール（複数台の場合）. 108
　ガイドモード 109
　事前設定モード. 110
インストール方法の選択 24

う

ウィルス対策プログラム 139
運用管理支援ツール 20

え

エキスパートモード 76
遠隔保守支援ツール 21

お

オンボード LAN ドライバの注意事項. . . . 246

か

ガイドモード 44

き

共有資源の追加／変更 178

く

クライアント一括導入ウィザード 57
クライアントコンピュータ
　追加／変更 171
　追加／変更時の留意事項 218
クライアントセットアップ 188
　アプリケーションの削除 219
　留意事項. 218
クライアントのデスクトップ環境設定 . . .198
クライアントブート設定 203
クライアントへのインストール. 209
グループの追加／変更 177

こ

高信頼ツール 19
　導入方法. 22
コンピュータ
　一括導入. 175
　情報の削除 175
　情報の取得 174
　情報の変更／追加. 174
コンフィグレーションファイル
　閉じる／保存する. 60
　開く／作成する 47

さ

サーバアプリケーションセットアップウィザード 56
サーバ運用前に行う設定 138
サーバ監視ツール. 19, 152
サーバセットアップに必要なシステム 25
サーバ導入時に搭載するメモリ容量について 28
サーバ導入前の準備. 27
再インストール 112
　エキスパートモード. 114
　ガイドモード / 事前設定モード 113
　注意事項. 112
　OS インストールタイプ. 113
サポートサービス. 21

し

時刻合わせツール. 160
システムイベントログ
　異常時に表示されるメッセージ 151
　通知メッセージ 151
システム環境の診断機能 154

システム管理ポート用 IP アドレスの設定について 33
システム修復ディスクの作成
Windows NT Server 4.0 の場合 129
Windows Server 2003 の場合 128
Windows 2000 Server の場合 129
システム診断支援ツール 20
システムの修復方法
Windows NT Server 4.0 の場合 256
Windows 2000 Server の場合 255
Windows Server 2003 の場合 254
事前設定モード 64
自動システム回復（ASR）セットの作成 . 128
手動インストール後の操作
Windows NT Server 4.0 の場合 396
Windows 2000 Server の場合 391
手動インストール時の注意事項
OS 共通注意事項 321
Windows NT Server 4.0 のみ 326
手動インストール（BX300）
IDE RAID 管理ツール 335
Linux 335
Windows Server 2003 329
Windows 2000 Server 331
手動インストール（H450/R450）
Linux 346
Windows NT Server 4.0 343
Windows Server 2003 336
Windows 2000 Server 338
手動インストール（RX100）
IDE RAID 管理ツール 390
Linux 390
Windows 2000 Server 386
Windows Server 2003 384
手動インストール（RX200）
Linux 372
Windows Server 2003 365
Windows 2000 Server 368
手動インストール（RX300）
Linux 353
Windows Server 2003 347
Windows 2000 Server 349
手動インストール（TX150）
Linux 383
Windows NT Server 4.0 380
Windows Server 2003 373
Windows 2000 Server 375
手動インストール（TX200）
Linux 364
Windows NT Server 4.0 361
Windows Server 2003 354
Windows 2000 Server 357
障害の通知方法の設定 150
シンボルファイルの準備 158

す

スタンドアロンサーバ 272
スタンドアロンサーバの構成 291

せ

セットアップ資源
クライアントへインストールされるタイミング 213
サーバへの登録 195
登録の解除 197
セットアップ情報
登録（アプリケーション） 191
登録（実行コマンド） 194
登録（ファイル） 194
内容確認／設定変更 195
セットアップの流れ
クライアント 166
サーバ 14

そ

その他のデバイス 140

て

定期交換部品交換時期のメッセージ 151
定義ファイルの入手方法 155
ディスクウィザード 49
ディスク構成情報の削除 81
ディスクの全セクタの消去 81
ディスクマネージャ 79
テープ装置のメンテナンス 153
デスクトップ環境設定 198, 201
デスクトップメニュー 222

と

ドメインコントローラ 271
Active Directory ドメイン 271
Windows NT 4.0 ドメイン 271
ドメインツリーの構築 279
ドメインメンバサーバ 272
ドメインメンバサーバの構成 289
ドライバ 243
ドライバ自動インストールに対応する拡張カード 35
ドライバの作成方法 230
ドライブ文字の割り当て 141
トラブル原因の早期発見 156, 159
トラブルシューティング
WizardConsole 使用時 215

な

内蔵オプション取り付け時の注意 27

ね

ネットワークの構築 17
ネットワークパターン別設定方法 270

は

パーティションの削除 81
パーティションの作成／フォーマット. . . . 80
ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成 134
ハードウェア構成ツールの作成 137
ハードウェアの設定 27
バックアップ 144

ふ

ファイルシステムについて 396
複数 LAN アダプタ搭載時の留意事項. 31
　アダプタ番号 31
　DHCP 32
　OS インストールタイプの場合. . . 32, 143
部品寿命情報 148
不明デバイス用 Class driver のインストール 391

へ

ページングファイルの設定
　Windows NT Server 4.0 の場合. 125
　Windows Server 2003 の場合 118
　Windows 2000 Server の場合 122

ほ

保守ツールの作成. 131

め

メモリダンプの設定
　Windows NT Server 4.0 の場合. 124
　Windows Server 2003 の場合 116
　Windows 2000 Server の場合 120
メモリダンプファイルの設定
　Windows NT Server 4.0 の場合. 127
　Windows Server 2003 の場合 117
　Windows 2000 Server の場合 . . . 117, 121
メンテナンス区画の作成 80
メンテナンス区画を作成してインストール103

ゆ

ユーザの追加／変更 177

り

リモートインストール 18, 87
　インストールの開始（リモートリソースサーバの場合）. 100
　インストールの開始（PXE サーバの場合）. 97
　リモートフロッピーの設定. 100
　リモートリソースサーバの条件 89
　リモートリソースの準備 96
　PXE サーバの準備 90
　PXE サーバの条件 89
リモート OS セットアップ 183

ろ

ローカルアドレスの設定 249

A

Active Directory の構成
　新しいツリー 277
　新しいフォレストの構築 274
　子ドメイン 285
　追加ドメインコントローラ. 282

B

BACS 250
　インストール 250
　機能 244
　ロードバランス機能について 251
　VLAN 機能について 251
BIOS セットアップユーティリティ 27

C

CD-ROM イメージの削除. 187
CD-ROM からの自動実行機能 141
Chronoworker/S 20, 160
ClientWizard 用ブート設定. 207
Code Red ワーム 139
CSV ファイルフォーマット 221

D

DNS ゾーンの作成 277
DSNAP. 21, 159

F

FastCheck Monitoring Utility 262
　Array Window 262
　Controller Window. 264
　Options Window 265
FastCheckMonitoringUtility 137
FastTrak Service. 269
FM Advisor 20, 154

G

Global Array Manager の作成 137

I

IDE RAID 管理ツール 262
Intel® PROSet II
　インストール 245
　機能 244
　その他の注意事項 250
　ヘルプ参照時の注意事項 245
　ローカルアドレスの設定 249
　Jumbo フレーム 249
　Teaming 247
　VLAN 248

J

Jumbo フレーム 249

L

LAN ドライバのインストール
　Windows 2000 Server の場合 237
　Windows Server 2003 の場合 236
　Windows NT Server 4.0 の場合 241
LAN ドライバの詳細設定 244
　Intel® PROSet Ⅱ 245
　BACS 250

M

MS-DOS イメージの削除 204
MS-DOS イメージの作成 203
MS-DOS LAN マネージャ 169

O

OS インストールウィザード
　エキスパートモード 82
　ガイドモード 51
OS インストールタイプの開封
　ServerStart を使用して開封 38
OS インストールタイプの手動開封
　Windows NT Server 4.0 318
　Windows Server 2003 316
　Windows 2000 Server 317
OS インストールタイプの注意事項 143
OS セットアップ情報
　確認／変更 187
　登録名の変更 187
　Windows NT Workstation 4.0 の設定 . . 186
　Windows 2000 Professional の設定 . . . 185
OS セットアップ用ブート設定 205
OS の変更手順
　Windows NT Server 4.0 260
　Windows Server 2003 257
　Windows 2000 Server 257

P

PROBEPRO 20, 156

Q

QFE モジュールの適用（Windows 2000 Advanced Server） 395

R

RAID ウィザード 48
RAID 管理ツール 19
RAID 構築
　アレイ構成 30
　事前設定モード 70
　ディスク台数 31
　ハード構成 30
　留意事項 30
RAID システム構成ツール 78
RAID の自動構成 18
RAS 支援サービス 19, 146
　使用方法 147
REMCS エージェント 21

S

ServerStart 15
　アンインストール 33
　サポートする拡張カード 35
　使用時の注意事項 32
ServerView 19, 152
　インストールについて 22
Service Pack 32
Service Pack の適用 138
Storage Manager の作成 137

T

Tape Maintenance Checker 20, 153
TCP/IP プロトコル 170
Teaming 設定手順 247
Teaming 機能 247

V

VLAN
　設定手順 248

W

Windows NT 4.0 ドメインの構成
　BDC の場合 273
　PDC の場合 273

Windows Update. 138
WizardConsole 166
アンインストール 226
各 OS で利用可能な機能. 168
起動 167
機能概要 167
使用時の留意事項 215
変更した情報の登録 214
利用のための準備 169
WizardMenu
作成 223
デスクトップメニューの作成 222

PRIMERGY BX300 ／ H450 ／ R450 ／ RX300
／ TX200 ／ RX200 ／ TX150 ／ RX100

ソフトウェアガイド
B7FH-1741-05-00

発 行 日　2003 年 8 月
発行責任　富士通株式会社

●本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。